

吉原向遺跡  
牛頭座遺跡  
赤太郎遺跡2

阿見吉原土地区画整理事業地内  
埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

平成30年3月

茨城県竜ヶ崎工事事務所  
公益財団法人茨城県教育財団

赤牛吉  
太頭頭  
郎  
鹿向  
道  
踏踏  
2 踏踏

大城區教育財團  
公 告

よし  
吉  
ご  
牛  
う  
あか  
原  
わら  
と  
とう  
た  
頭  
ね  
ろう  
むかい  
向  
こう  
ざ  
さ  
座  
ざ  
遺  
い  
跡  
跡  
跡  
跡  
2

阿見吉原土地区画整理事業地内  
埋藏文化財調査報告書Ⅳ

平成30年3月

茨城県竜ヶ崎工事事務所  
公益財団法人茨城県教育財団

## 序

公益財團法人茨城県教育財團は、国や県などの各事業者から委託を受けて、埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県竜ヶ崎工事事務所による阿見吉原土地区画整理事業に伴って実施した、茨城県稲敷郡阿見町吉原向遺跡、牛頭座遺跡、赤太郎遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、吉原向遺跡ほか2遺跡で古墳時代の竪穴建物跡を中心とした集落跡、吉原向遺跡・牛頭座遺跡では江戸時代の塚などが確認できました。また、吉原向遺跡では茨城県で初めての鉄斧形土製品が出土し、重要な発見となりました。これらの成果は、当地域の社会の成り立ちや歴史を知る上で、欠くことのできない貴重な資料となります。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県竜ヶ崎工事事務所に対して厚く御礼申し上げるとともに、茨城県教育委員会、阿見町教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成30年3月

公益財團法人茨城県教育財團  
理 事 長 野 口 通

## 例　　言

1 本書は、茨城県竜ヶ崎工事事務所の委託により、公益財團法人茨城県教育財團（平成 23 年度以前は財團法人茨城県教育財團）が平成 23・25・27 年度に発掘調査を実施した、茨城県稲敷郡阿見町大字吉原字牛頭座 2850 番地はかに所在する吉原向遺跡、茨城県稲敷郡阿見町大字吉原字牛頭座 3532 番地はかに所在する牛頭座遺跡、茨城県稲敷郡阿見町大字吉原字山中 1279 番地はかに所在する赤太郎遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

### 調査

吉原向遺跡 平成 23 年 9 月 1 日～9 月 30 日  
平成 25 年 11 月 1 日～平成 26 年 1 月 31 日  
平成 27 年 5 月 1 日～10 月 31 日

牛頭座遺跡 平成 25 年 11 月 1 日～平成 26 年 1 月 31 日

赤太郎遺跡 平成 28 年 1 月 1 日～3 月 31 日

### 整理

吉原向遺跡・牛頭座遺跡・赤太郎遺跡 平成 29 年 5 月 1 日～平成 30 年 1 月 31 日

3 発掘調査は、平成 23 年度が調査課長樋村宣行のもと、平成 25 年度が調査課長白田正子のもと、平成 27 年度が副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

### 平成 23 年度（吉原向遺跡）

首席調査員兼班長 稲田 義弘  
主任調査員 兼子 博史  
調査員 近江屋成陽

### 平成 25 年度（吉原向遺跡・牛頭座遺跡）

首席調査員兼班長 織引 英樹  
次席調査員 斎藤 和浩  
調査員 内田 勇樹

### 平成 27 年度（吉原向遺跡）

首席調査員兼班長 駒澤 悅郎  
首席調査員 兼子 博史 平成 27 年 9 月 1 日～10 月 31 日  
調査員 江原美奈子 平成 27 年 5 月 1 日～8 月 31 日  
調査員 大久保芳紀 平成 27 年 5 月 1 日～8 月 31 日  
調査員 天野 早苗 平成 27 年 9 月 1 日～10 月 31 日

### 平成 27 年度（赤太郎遺跡）

首席調査員兼班長 寺内 久永  
次席調査員 舟橋 理  
調査員 緑川 正實

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長皆川修のもと、以下の者が担当した。

次席調査員 盛野 浩一 平成29年8月1日～8月31日

調査員 皆川 貴之 平成29年5月1日～平成30年1月31日

5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。

盛野 浩一 第4章第3節3

皆川 貴之 第1章～第4章第3節2、第4節、第5章

6 吉原向遺跡・牛頭座遺跡・赤太郎遺跡から出土した人骨は、調査終了後、稲敷郡阿見町吉原2289の西光寺にて供養した。

7 第9・12・15・19号竪穴建物跡から出土した金属製品のX線写真撮影は、(株)日立製作所土浦診療健診センターのご協力をいただいた。

8 各遺跡の実測図・写真等の資料は茨城県埋蔵文化財センターにて、出土遺物は阿見町教育委員会にて保管している。

## 凡 例

1 各遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、吉原向遺跡はX = - 1800 m, Y = + 35.600 mの交点を、牛頭座遺跡はX = - 2,040 m, Y = + 35.560 mの交点を、赤太郎遺跡はX = - 520 m, Y = + 35.800 mの交点をそれぞれ基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j、西から東へ1, 2, 3, …0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 FP - 炉跡 P - ピット PG - ピット群 SA - 土器 SB - 挖立柱建物跡 SD - 溝跡

SE - 井戸跡 SI - 壑穴建物跡 SK - 土坑 SY - 炭焼窯跡 TM - 塚 TP - 陥し穴

HG - 遺物包含層

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器・石製品 W - 木製品 N - 自然遺物

土層 K - 扰乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

■ 燃土・赤彩

■ 炉・火床面・繊維土器

■ 窑部材・粘土範囲

■ 柱痕跡・柱あたり

● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 ■ 自然遺物 △ 金属製品 ▲ 木製品

--- 硬化面

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm, cm, gで示した。なお、現存値は（ ）を、推定値は〔 〕を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 壑穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

7 今回の報告分で、整理の段階で遺構名を変更及び欠番にしたものは以下のとおりである。

吉原向遺跡 変更 SI 6 P 3 ~ P 12 → PG 1 P 13 ~ P 22, SK 7 → 第1号墓坑, SK16 → 第2号墓坑,

SK24 → 第3号墓坑, SK79 → 第4号墓坑, SK84 → 第5号墓坑, SK88 → 第6号墓坑,

変更 SK100→第7号墓坑, SK142→第1号陷し穴

欠番 SK46・47・48・76・82・172, SD12

赤太郎遺跡 変更 SK247→第1号墓坑

欠番 SK236, SD 3

# 目 次

序  
例 言  
凡 例  
目 次

吉原向遺跡・牛頭座遺跡・赤太郎遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 位置と地形	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 吉原向遺跡	12
第1節 調査の概要	12
第2節 基本層序	12
第3節 遺構と遺物	13
1 縄文時代の遺構と遺物	13
(1) 壺穴建物跡	13
(2) 陥し穴	14
(3) 遺物包含層	15
2 古墳時代の遺構と遺物	18
(1) 壺穴建物跡	18
(2) 土 坑	78
3 平安時代の遺構と遺物	79
(1) 壺穴建物跡	79
(2) 炉 跡	85
4 江戸時代の遺構と遺物	86
(1) 掘立柱建物跡	86
(2) 塚	88
(3) 井戸跡	91
(4) 墓 坑	94
(5) 土 坑	107
(6) 溝 跡	118
5 その他の遺構と遺物	120
(1) 炭焼窯跡	120

(2) 土 墓	122
(3) 土 坑	126
(4) 溝 跡	131
(5) ピット群	132
(6) 遺構外出土遺物	134
第4節 まとめ	138
第4章 牛頭座遺跡	144
第1節 調査の概要	144
第2節 基本層序	144
第3節 遺構と遺物	146
1 古墳時代の遺構と遺物	146
豎穴建物跡	146
2 江戸時代の遺構と遺物	151
塚	151
3 その他の遺構と遺物	161
(1) 土 坑	161
(2) 遺構外出土遺物	161
第4節 まとめ	162
第5章 赤太郎遺跡	164
第1節 調査の概要	164
第2節 基本層序	164
第3節 遺構と遺物	166
1 古墳時代の遺構と遺物	166
(1) 豊穴建物跡	166
(2) 土 坑	194
2 江戸時代の遺構と遺物	195
墓 坑	195
3 その他の遺構と遺物	196
(1) 井戸跡	196
(2) 土 坑	198
(3) 溝 跡	199
第4節 まとめ	200
付 章	204
写真図版	PL 1 ~ PL38
抄 錄	
付 図	

# よしわらむかい ごとうざ あかたろう 吉原向遺跡・牛頭座遺跡・赤太郎遺跡の概要

## 遺跡の位置と調査の目的

吉原向遺跡・牛頭座遺跡・赤太郎遺跡は、阿見町の南部に位置し、桂川を望む台地上に立地しています。阿見吉原土地区画整理事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、公益財団法人茨城県教育財団が平成23・25・27年度の3回に分けて吉原向遺跡の8,657m<sup>2</sup>について、平成25年度に牛頭座遺跡の1,525m<sup>2</sup>について、平成27年度に赤太郎遺跡の3,565m<sup>2</sup>について発掘調査を行いました。



## 吉原向遺跡の調査の内容と成果

縄文時代の竪穴建物跡1棟、古墳時代の竪穴建物跡16棟、平安時代の竪穴建物跡3棟、江戸時代の塹1基、墓坑7基などが確認できました。中心となるのは古墳時代中期の集落跡で、5世紀前葉から中葉にかけて集落が営まれ、多数の土器や土製・石製の模造品が出土しています。特に注目されるのは「鉄斧形土製品」で、鉄の合わせ目や柄を差し込む袋部が忠実に表現されていることから、実物と見比べて作られたと考えられます。このような遺物は、県内には類例のない資料で、集落における祭祀の一端が垣間見えます。



出土した古墳時代中期の土器群



鉄斧形土製品

## 牛頭座遺跡の調査の内容と成果

古墳時代の堅穴建物跡2棟、江戸時代の塚5基などが確認できました。塚は、調査を行うまでは古墳と考えられていましたが、調査の結果、いずれも江戸時代の塚であることが明らかになりました。このうち1基は埋葬施設が確認でき、人骨とともに輪宝が出土しています。輪宝は、地鎮などのほか、真言宗派が製造金具として用いるものです。塚の上部から出土している石塔には、「法印権大僧都照海」という僧侶の名前がみられることから、埋葬されたのは、真言宗派の僧侶と考えられます。



塚の構築状況（断面）

## 赤太郎遺跡の調査の内容と成果

古墳時代の堅穴建物跡9棟や、江戸時代の墓坑1基などが確認できました。前回の調査結果と合わせると、古墳時代の集落は、5世紀前葉に出現し、中葉に拡大したことが明らかになりました。吉原向遺跡と同様に多数の土器や石製模造品などが出土しており、石製模造品には、剣形・勾玉・有孔円板・斧形があります。また、出土した土器には、漆を貯蔵した土師器椀があります。当遺跡からは、漆関連の製品は出土していないため、用途など不明な点はあります

が、古墳時代の漆について考えるうえで貴重な資料です。



調査区遠景（北から）



漆を貯蔵した土師器椀（真上から）

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

平成5年12月17日、茨城県知事、平成11年1月21日、茨城県土木部長は、茨城県教育委員会教育長あてに阿見吉原土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けた茨城県教育委員会は、平成5年度に現地踏査を実施し、吉原向遺跡については平成24年10月18日、平成26年6月20日、7月23日、8月12日、9月9日、10月10日、12月9日、12月24日、平成27年2月12日、3月4日に、牛頭座遺跡については平成19年10月17・23日、平成22年3月10日、4月22日に、赤太郎遺跡については平成27年11月25日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。

茨城県教育委員会教育長は、吉原向遺跡については平成24年10月29日、平成27年2月6日、3月30日に、牛頭座遺跡については平成22年12月27日に、赤太郎遺跡については平成27年11月27日に、茨城県土木部長あてに事業地内に遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

茨城県竜ヶ崎工事事務所長は、吉原向遺跡については平成23年3月8日、平成25年1月24日、平成27年2月10日に、牛頭座遺跡については平成23年3月8日、平成25年1月24日に、赤太郎遺跡については平成27年11月30日に、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づく土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、吉原向遺跡については平成23年3月11日、平成25年2月1日、平成27年2月13日に、牛頭座遺跡については平成23年3月11日、平成25年2月1日に、赤太郎遺跡については平成27年12月1日に、茨城県竜ヶ崎工事事務所長あてに工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

茨城県竜ヶ崎工事事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに、吉原向遺跡については平成23年3月14日、平成25年3月13日、平成27年2月18日に、牛頭座遺跡については平成23年3月14日、平成25年3月13日に、赤太郎遺跡については平成27年12月3日に、阿見吉原土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。茨城県教育委員会教育長は茨城県竜ヶ崎工事事務所長あてに、吉原向遺跡については平成23年3月18日、平成27年2月20日に、牛頭座遺跡については平成23年3月18日に、赤太郎遺跡については平成27年12月4日に、各遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査期間として公益財團法人茨城県教育財團（平成23年度以前は財團法人茨城県教育財團、以下同様）を紹介した。

公益財團法人茨城県教育財團は、茨城県竜ヶ崎工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、吉原向遺跡については平成23年9月1日から9月30日、平成25年11月1日から平成26年1月31日、平成27年5月1日から10月31日まで、牛頭座遺跡については平成25年11月1日から平成26年1月31日まで、赤太郎遺跡については平成28年1月1日から3月31日まで発掘調査を実施した。

## 第2節 調査経過

吉原向遺跡の調査は、平成23年9月1日から9月30日まで、平成25年11月1日から平成26年1月31日まで、平成27年5月1日から10月31日までの合わせて10か月間にわたって実施した。牛頭座遺跡の調査は、平成25年11月1日から平成26年1月31日までの3か月間にわたって実施した。赤太郎遺跡の調査は、平成28年1月1日から3月31日までの3か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成23年度（吉原向遺跡）

工程	期間	9月
調査準備 表土除去 遺構確認		
遺構調査		
遺物洗浄 注写 整理		
撤収		

平成25年度（吉原向遺跡・牛頭座遺跡）

工程	期間	11月	12月	1月
調査準備 表土除去 遺構確認				
遺構調査				
遺物洗浄 注写 整理				
撤収				

平成27年度（吉原向遺跡・赤太郎遺跡）

工程	期間	5月	6月	7月	8月	9月	10月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認										
遺構調査										
遺物洗浄 注写 整理										
撤収										

■ 吉原向遺跡 ■ 牛頭座遺跡 ■ 赤太郎遺跡

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地形

吉原向遺跡は茨城県稲敷郡阿見町大字吉原字牛頭座 2850 番地ほか、牛頭座遺跡は茨城県稲敷郡阿見町大字吉原字牛頭座 3532 番地ほか、赤太郎遺跡は茨城県稲敷郡阿見町大字吉原字山中 1279 番地ほかに所在している。

阿見町は茨城県南部に位置している。関東平野の北東部、利根川沿岸から霞ヶ浦沿岸にかけて広がる常総台地の一部である筑波・稲敷台地の北東部にあたり、町の北東部は霞ヶ浦に面している。町域の地形は、筑波・稲敷台地の北東部をしめる洪積台地と、清明川・桂川・乙戸川及び霞ヶ浦沿岸の沖積低地に大別される。洪積台地の標高は 24 ~ 30m 前後であり、東部から西部にかけて緩やかに低くなる傾向がみられる。また、この台地は、各河川やその支流によって開析され、樹枝状の谷津が入り込む複雑な地形となっている。

地質は、洪積世の古東京湾期に堆積した成田層を基盤とし、その上に細粒砂層からなる龍ヶ崎砂礫層、さらに泥質粘土層である常総粘土層、褐色の関東ローム層が順に堆積し、最上部の表土に至る<sup>1)</sup>。

吉原向遺跡・牛頭座遺跡・赤太郎遺跡は、阿見町の南部、桂川を望む台地上に所在している。吉原向遺跡と牛頭座遺跡は桂川右岸の標高 18 ~ 26m の台地上に立地し、西側には幅の狭い谷が北から入り込んでいる。赤太郎遺跡は桂川左岸の標高 25m の台地上に立地し、台地の東西に支谷が入り込んでいる。遺跡の周辺は、桂川のほか乙戸川や清明川が流れ、浅い開析谷が複雑に入り込む地形となっている。

### 第2節 歴史的環境

霞ヶ浦沿岸地域に位置する吉原向遺跡・牛頭座遺跡・赤太郎遺跡周辺の台地上には、旧石器時代から近世に至るまで、各時代の遺跡が多数分布している。近年、土地区画整理事業や道路建設事業などの開発に伴う発掘調査が増加したことで、周辺地域の遺跡の様相が徐々に明らかになってきている。こうした調査成果を踏まえ、周辺の環境について時代ごとに記述する。

旧石器時代の遺跡は、桂川、乙戸川、清明川などの河川の流域に点在している。桂川左岸では、石器集中地点が確認された篠崎遺跡<sup>2)</sup>（4）や、薬師入遺跡<sup>3)</sup>（6）、乙戸川左岸では、剥片が出土した源臺遺跡<sup>4)</sup>（77）や、石器集中地点が確認された谷ノ沢遺跡<sup>5)</sup>。石器集中地点からナイフ形石器などが出土した実穀寺子遺跡<sup>6)</sup>などがある。清明川右岸では、3か所の石器集中地点が確認された星合遺跡<sup>7)</sup>（34）などがある。

縄文時代になると遺跡数が増加している。桂川流域では、前期の竪穴建物跡などが確認された薬師入遺跡や、陥し穴などが確認された下原遺跡<sup>8)</sup>（26）、中期の大規模な集落跡である赤塚遺跡<sup>9)</sup>（48）などが知られている。乙戸川流域では、陥し穴や早期から後期にかけての土器片が確認された於山遺跡<sup>10)</sup>。清明川流域では、竪穴建物跡などが確認された米根井向遺跡<sup>11)</sup>（33）、星合遺跡、中ノ台遺跡<sup>12)</sup>（40）などがある。

弥生時代の遺跡は前後の時代と比べ確認数が少ない。桂川流域では、後期の集落跡などが発見された薬師入遺跡や花房遺跡<sup>13)</sup>（15）、乙戸川流域では、道記遺跡<sup>14)</sup>から弥生土器が出土している。清明川流域では、阿見東遺跡<sup>15)</sup>などが知られている。

古墳時代は、阿見町域を含む霞ヶ浦沿岸地域に集落などが急増する時期である。前期の遺跡は、桂川流域の薬師入遺跡、篠崎遺跡、下原遺跡、桜立遺跡<sup>16)</sup>（42）、乙戸川流域の源臺遺跡、清明川流域の小作遺跡<sup>17)</sup>が知

られている。薬師入遺跡は各期にわたる遺構が確認されているなかで、前期には在地系に加え南関東系などの外来的な要素をもつ土器が出土している。また、薬師入遺跡と近接している篠崎遺跡でも、出土土器から上総地域や南武藏地域、東海地域など複数の地域の影響をうけたことが指摘されている<sup>18)</sup>。4kmほど北に位置する小作遺跡も同様に東京湾東岸地域、とくに上総地域の要素をもつ土器が多く出土している。墓域としては、源臺遺跡で方形周溝墓5基と円形周溝墓1基が確認されている。中期の遺跡は、桂川流域の薬師入遺跡、赤太郎遺跡<sup>19)</sup>〈3〉、ナギ山遺跡<sup>20)</sup>〈7〉、乙戸川流域の実穀寺子遺跡、実穀寺子西遺跡<sup>21)</sup>、実穀古墳群<sup>22)</sup>、清明川流域の阿見東遺跡、米根井向遺跡、宮脇遺跡<sup>23)</sup>などがある。いずれの遺跡からも石製模造品が出土しており、なかでも、薬師入遺跡、ナギ山遺跡、実穀寺子遺跡、阿見東遺跡、米根井向遺跡では、規模は小さいながらも石製模造品の製作に関わる遺構・遺物が発見され、特筆される。また、当期の集落跡では、焼失した竪穴建物跡が高い割合で検出されている点も特徴の一つである。後期の遺跡は、桂川流域のナギ山遺跡、手接遺跡<sup>24)</sup>〈14〉、乙戸川流域の実穀古墳群、清明川流域の星合遺跡、道心台遺跡<sup>25)</sup>、竹米遺跡<sup>26)</sup>などがある。手接遺跡や道心台遺跡では竈と炉の両方を有する竪穴建物跡が、星合遺跡では竈をもつものと、炉をもつものが併存している状況が確認され、竈導入期の様相がうかがえる。実穀古墳群では中期で集落が途絶え、後期になってから古墳が築かれている。調査された古墳は、径10~16mの円墳4基で、埋葬施設からは直刀や鐵鎌、ガラス小玉などの副葬品が出土した。また、本報告の吉原向遺跡と牛頭座遺跡の周辺は、吉原向古墳として径9mの円墳1基、牛頭座古墳群として径5mの円墳1基、湮滅した古墳1基が紹介されていたが<sup>27)</sup>、今回の調査では古墳は確認されず、近世の塚が複数検出されている。

奈良・平安時代になると、国・郡などといった行政区画が明確になっていく。町域は常陸國信太郡子方郷に属していた。信太郡の中心的な遺跡として、未調査ではあるが、諏訪寺院跡で多くの布目瓦や基壇状の高まりが確認され、奈良時代前期の寺院跡と考えられている<sup>28)</sup>。諏訪寺院跡に接する根方遺跡<sup>29)</sup>では、竪穴建物跡から軒丸瓦が出土しており、諏訪寺院跡と関連する可能性が指摘され、同じく隣接する小作遺跡では、仮名文字の書かれた墨書き土器や多数の施釉陶器、三面に庇のついた掘立柱建物跡などが確認され、有力豪族の居宅と推測されている。郡家の所在については未だ明らかでないが、宮脇遺跡では、直線的な堀跡2条や多数の掘立柱建物跡、円面鏡の破片などが出土したことから、官衙的な性格が推定されている。生産遺跡としては、梶内台遺跡<sup>30)</sup>で鍛冶房跡が確認され、同一台地の南斜面に所在する烏瓜台遺跡<sup>31)</sup>は9世紀前半の須恵器窯跡と考えられている。吉原地区の遺跡では、篠崎A遺跡<sup>32)</sup>〈5〉で平安時代の集落が発見され、灯明具や水瓶といった仏教関連遺物が出土している。また、手接遺跡、花房遺跡、大日遺跡<sup>33)</sup>〈12〉では須恵器や灰釉陶器などを骨蔵器とした火葬墓が検出され、集落に仏教が浸透した状況が考えられる。

中世の町域には、信太莊と呼ばれる莊園がつくられる。信太莊は、仁平元年（1151）に信太郡西条が平頼盛の母藤原宗子の名で皇室に寄進されて成立した莊園である。鎌倉時代末期まで皇室領であった信太莊は、文保2年（1318）に東寺に寄進され管理されるが、南北朝時代の混乱のなか、周辺は小田氏の拠点となり信太莊もその影響下で争奪の地となつた。その後、佐竹氏の常陸統一が間近となる16世紀後半には土岐氏が信太莊一円を支配するようになる<sup>34)</sup>。中世の遺跡では城館跡や堀跡、土塁などがあり、桂川流域の若槻寄居館跡〈27〉や新堀遺跡〈21〉、乙戸川流域の久野城跡〈75〉、上小池城跡、下小池城跡<sup>35)</sup>、清明川流域の上条城跡〈30〉、島津城跡、掛馬館跡などがある。桂川と清明川に挟まれた台地上に位置する二重堀遺跡<sup>36)</sup>〈38〉では、二重の堀と土塁が二つの谷頭を結ぶ堀切状に造られていることから、台地上の交通を遮断するものと考えられている。

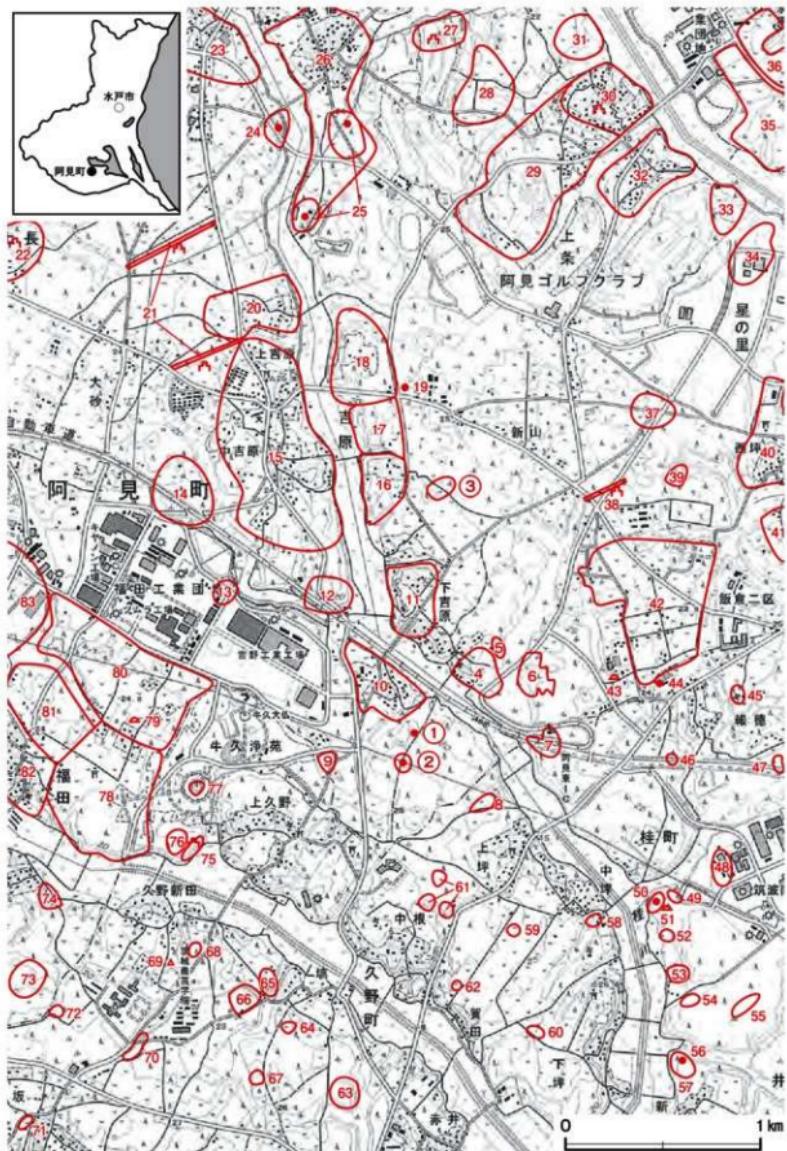
近世へと社会が変容していく時期の町域周辺では、天正18年（1590）、豊臣秀吉の小田原征討の際、北条氏に味方した勢力として土岐氏が滅び、旧土岐氏の領土は芦名氏が支配することとなった。これ以降の地域支配

は、多数の領地が散在し、一村内でも各種の領地が入り組む複雑な支配形態であった。また、民間社会の信仰については、近世の石造遺物や大日塚などが町域の各地にあり、現在も当時の信仰の一端が垣間見える。

※ 文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の番号と同じである。

#### 註

- 1) 日本の地質「関東地方」編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 寺内久永・間畠美「猿崎道路 阿見吉原東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財团文化財調査報告』第347集 2011年3月
- 3) a)駒澤悦郎「薬師入道路 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』『茨城県教育財团文化財調査報告』第239集 2005年3月  
b)補引英樹・小林悟「薬師入道路2 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』『茨城県教育財团文化財調査報告』第296集 2008年3月
- 4) 谷島三郎・外山泰久「常陸源流道路」牛久市教育委員会 源流道路発掘調査会 1989年10月
- 5) 細川美樹・後藤孝行「谷ノ沢遺跡 手接遺跡 花房遺跡 大日遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』『茨城県教育財团文化財調査報告』第212集 2004年3月
- 6) a)浅野和久「荒川本郷地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書I 実穀古墳群 実穀寺子道路1』『茨城県教育財团文化財調査報告』第144集 1999年3月  
b)宮崎修士・榮田博行「荒川本郷地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 実穀寺子道路2』『茨城県教育財团文化財調査報告』第151集 1999年3月
- 7) 矢ノ倉正男・寺門千勝「阿見東部工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書 星合遺跡 中ノ台遺跡」『茨城県教育財团文化財調査報告』第137集 1997年9月
- 8) 小川和博・大庭淳志「下原道路 茨城県稲敷郡阿見町所在の古代集落址の調査」阿見町教育委員会 1998年3月
- 9) 河野辰男ほか「赤塚道路発掘調査報告書」茨城県牛久町赤塚道路発掘調査会 1984年9月
- 10) 矢ノ倉正男「主要地方道浦江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 於山遺跡」『茨城県教育財团文化財調査報告』第96集 1995年3月
- 11) 鹿島直樹「米根井向遺跡 主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』『茨城県教育財团文化財調査報告』第333集 2010年3月
- 12) 註7) に同じ
- 13) 註5) に同じ
- 14) 阿見町史編さん委員会「阿見町史」阿見町 1983年3月
- 15) 藤原均「茨城県稲敷郡阿見町阿見東遺跡第1地点調査報告書」阿見町阿見東遺跡調査会 1992年5月
- 16) a)河野辰男・大竹房雄・高木國男「桜立遺跡発掘調査報告書」桜立遺跡発掘調査会 1982年12月  
b)高木国男・小泉美明「桜立遺跡(第三期)」茨城県阿見町教育委員会 桜立遺跡(第三期)発掘調査会 1988年9月
- 17) 清水哲・舟橋理「小作遺跡 主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』『茨城県教育財团文化財調査報告』第346集 2011年3月
- 18) 註2) に同じ
- 19) 櫻井宏介「赤太郎遺跡 阿見吉原東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財团文化財調査報告』第377集 2013年3月
- 20) a)石川義信・後藤孝行「ナギ山道路 柏峰B遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財团文化財調査報告』第233集 2005年3月  
b)栗田功「ナギ山遺跡2 (仮称) 阿見東IC ランプB区間整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財团文化財調査報告』第277集 2007年3月

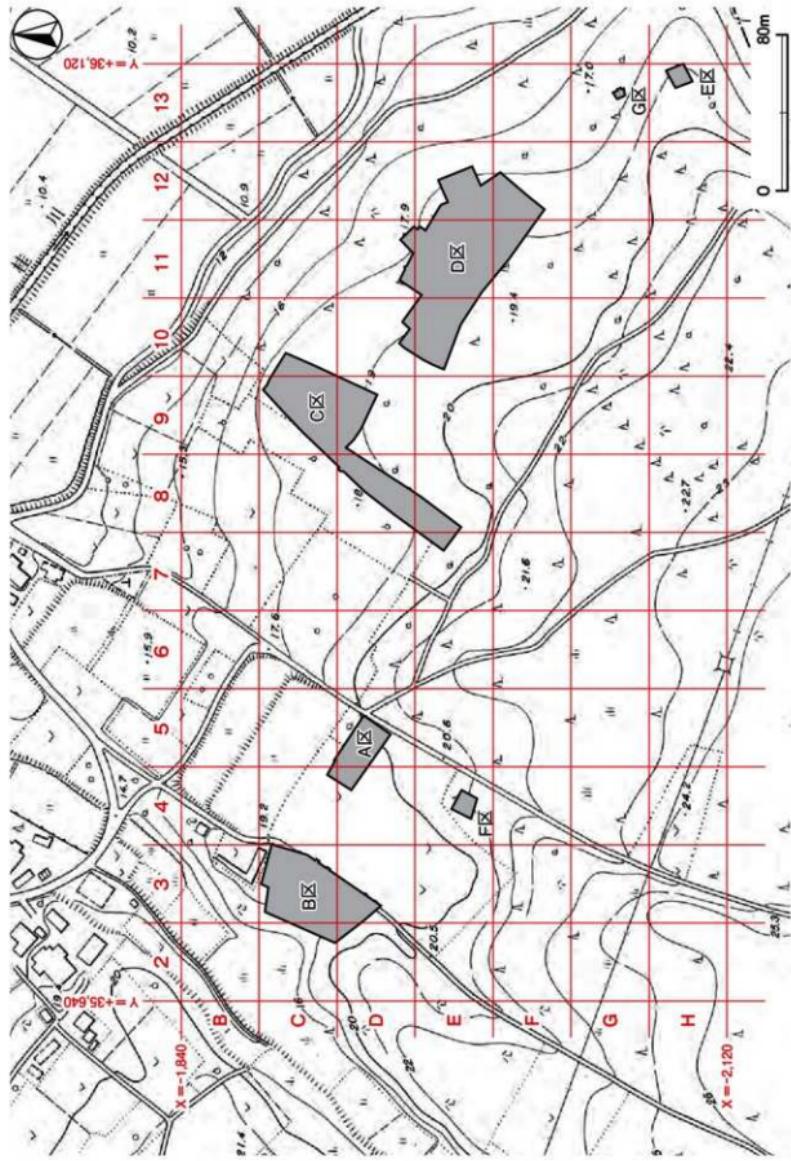


第1図 吉原向・牛頭座・赤太郎遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1「牛久・江戸崎・土浦・木原」）

表1 吉原向遺跡・牛頭座遺跡・赤太郎遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	吉原向遺跡	○		○	○	○	○	○	43	中山台塚						○
②	牛頭座遺跡			○				○	44	びったら塚古墳					○	
③	赤太郎遺跡	○		○				○	45	山ノ神遺跡	○					
4	篠崎A遺跡	○	○	○	○	○	○	○	46	原山遺跡	○					
5	篠崎A遺跡								47	米ノ内遺跡	○					
6	葉師入遺跡	○	○	○	○	○	○	○	48	赤塚遺跡	○					
7	ナギ山遺跡	○		○			○	○	49	御山台遺跡	○					
8	長久保道添遺跡	○							50	御山台古墳群	○					
9	水堀遺跡				○				51	大日塚及び大日如来石仏						
10	前原遺跡				○				52	聖天久保遺跡	○					○
11	高根遺跡	○		○	○				53	二本松遺跡	○		○			
12	大日遺跡	○		○	○				54	中道通り遺跡	○					
13	吉原遺跡	○		○	○				55	藤ヶ谷道添遺跡	○					
14	手接遺跡			○	○	○			56	鍬金古墳	○					
15	花房遺跡	○		○					57	鍬金遺跡	○					
16	山中遺跡			○					58	屋敷前遺跡		○	○			
17	神田遺跡				○				59	台畑遺跡	○		○			
18	堂山遺跡				○				60	前野遺跡	○		○			
19	北原古墳群				○				61	中根後遺跡	○		○			
20	根崎遺跡			○					62	台遺跡	○	○	○			
21	新堀遺跡					○			63	まぐろ山遺跡						
22	上長館跡					○			64	小申台遺跡	○		○			
23	南根遺跡			○					65	大塚山遺跡	○		○			
24	橋向古墳群			○					66	大塚山古墳群	○		○			
25	若栗古墳群			○					67	小申台遺跡	○		○			
26	下原遺跡	○	○	○					68	黒引遺跡	○		○			
27	若栗寄井館跡					○			69	久野貝塚						
28	畦市遺跡				○				70	向原A遺跡			○			
29	上条南遺跡			○					71	涌井台遺跡	○	○	○			
30	上条城跡					○			72	向原B遺跡	○					
31	内ノ山遺跡					○			73	下山遺跡			○			
32	新荒地遺跡				○				74	弥次郎次遺跡			○			
33	米根井向遺跡	○	○	○	○				75	久野城跡				○		
34	星合遺跡	○	○		○	○			76	延命寺山遺跡	○		○			
35	追原西遺跡	○		○		○			77	源臺遺跡	○	○	○	○		
36	西ノ入遺跡				○				78	宮台遺跡				○		
37	後原遺跡				○				79	石塚庚申塚				○		
38	二重堀遺跡	○				○			80	石塚遺跡			○			
39	茅場遺跡	○				○			81	吉子遺跡			○			
40	中ノ台遺跡	○	○		○	○			82	十郎山遺跡			○			
41	天神遺跡				○				83	福田遺跡	○	○	○			
42	桜立遺跡			○	○											

- 21) 宮崎修士・柴田博行「(仮称) 荒川本郷土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 実穀寺子西遺跡」『茨城県教育財团文化財調査報告』第156集 2000年3月
- 22) 註6) 同じ
- 23) a 高木國男・小泉美明『宮脇道路発掘調査報告書』阿見町教育委員会 1985年3月  
b 高木國男・殿内秀子・大石道子『宮脇道路(第Ⅱ期) 発掘調査報告書』阿見町教育委員会 宮脇道路(第Ⅱ期) 発掘調査会 1990年3月  
c 藤原均『茨城県稻敷郡阿見町宮脇道路第3次調査報告書』阿見町教育委員会 宮脇道路第3次調査会 1993年9月
- 24) 註5) 同じ
- 25) 河野辰男ほか『造心台道路発掘調査報告書』茨城県稻敷郡阿見町教育委員会 造心台道路発掘調査会 1978年3月
- 26) 小川和博・大河淳史・巖治文博『茨城県稻敷郡竹来遺跡 茨城県稻敷郡阿見町所在の埋蔵文化財第二次調査』阿見町教育委員会 阿見町竹来遺跡第二次発掘調査会 1999年3月
- 27) 註14) 同じ
- 28) 註14) 同じ
- 29) 寺内久永・開絵美「根方遺跡 主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財团文化財調査報告』第345集 2011年3月
- 30) 高木國男・小泉美明『幌内台道路』阿見町教育委員会 幌内台道路発掘調査会 1987年12月
- 31) 茨城県史編集会『茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代』茨城県 1996年3月
- 32) 小林健太郎「猿崎A遺跡 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1』『茨城県教育財团文化財調査報告』第217集 2004年3月
- 33) 註5) 同じ
- 34) 註14) 同じ
- 35) 河野辰男ほか『下小池城跡保存調査報告書』阿見町教育委員会 1981年11月
- 36) 大間武「二重堀遺跡 主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査』『茨城県教育財团文化財調査報告』第297集 2008年3月



第2図 吉原向遺跡調査区設定図（阿見町都市計画図 2,500 分の 1）

# 第3章 吉原向遺跡

## 第1節 調査の概要

吉原向遺跡は、阿見町の南部に位置し、桂川右岸の標高約20mの台地上に立地している。遺跡の所在する台地は、北側を流れる桂川と南側を流れる乙戸川に挟まれている。調査面積は8,657m<sup>2</sup>で、調査前の現況は宅地及び山林である。

調査の結果、堅穴建物跡20棟（縄文時代1・古墳時代16・平安時代3）、掘立柱建物跡1棟（江戸時代）、陥し穴1基（縄文時代）、炉跡1基（平安時代）、塚1基（江戸時代）、井戸跡2基（江戸時代）、墓坑7基（江戸時代）、炭焼窯跡2基（時期不明）、土壙1条（時期不明）、土坑168基（古墳時代1・江戸時代31・時期不明136）、溝跡16条（江戸時代2・時期不明14）、遺物包含層1か所（縄文時代）、ピット群6か所（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に89箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・壺）、土師器（壺・楕・壺・炉器台・高壺・壺・壺・瓶・ミニチュア土器）、須恵器（壺・蓋・高壺）、陶器（碗・皿・鉢・擂鉢・壺・利・香炉）、磁器（碗）、土師質土器（小皿・培培・火鉢）、土製品（球状土錘・管玉・鉄斧形土製品・支脚）、石器・石製品（ナイフ形石器・尖頭器・砥石・滑石製模造品・板碑・石仏・石塔）、剥片、金属製品（刀子・鎌カ・釘・煙管・袈裟金具・錢貨）、木製品（櫛・板材）、自然遺物（貝殻・人骨）などである。

## 第2節 基本層序

A区の南部（D5E3区）にテストピットを設定し、基本土層（第3図）の観察を行った。

第1層は、暗褐色を呈する表土層である。粘性は普通で締まりは弱く、層厚は26～31cmである。

第2層は、黄褐色を呈するソフトローム層である。黒色粒子を微量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は57～64cmである。

第3層は、褐色を呈するハードローム層である。赤色スコリア粒子・黒色粒子・炭化粒子を微量含み、粘性は普通で締まりは極めて強く、層厚は45～56cmである。姶良Tn火山灰（AT）を含む層に対比される。

20.20m A  
19.20m ——— A' 第4層は、褐色を呈するハードローム層である。橙色スコリア・黒色粒子・を微量含み、粘性・締まりとも極めて強く、層厚は35～39cmである。姶良Tn火山灰（AT）を含む層の下の黒色帶であることから第2黒色帶上部に対比される。

第5層は、褐色を呈するハードローム層である。橙色スコリアを微量含み、粘性・締まりとも極めて強く、層厚は10～16cmである。第2黒色帶下部に対比される。

第6層は、褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量含み、粘性・締まりとも極めて強い。下層まで掘り下げていなかったため、層厚は不明である。

遺構は、第2層の上面で確認した。

第3図 基本土層図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡1棟、陥し穴1基、遺物包含層1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

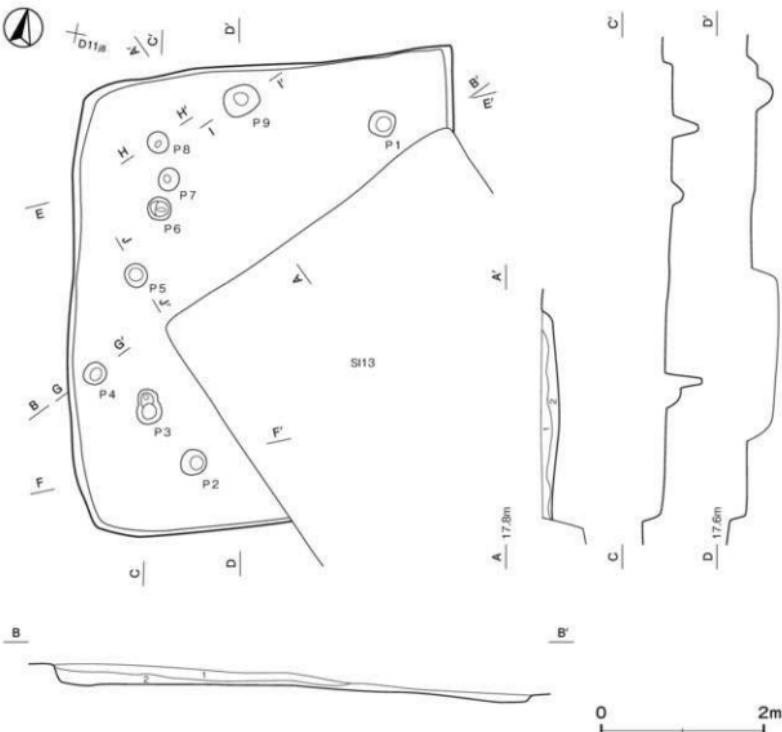
##### (1) 竪穴建物跡

###### 第16号竪穴建物跡（第4・5図 PL 3）

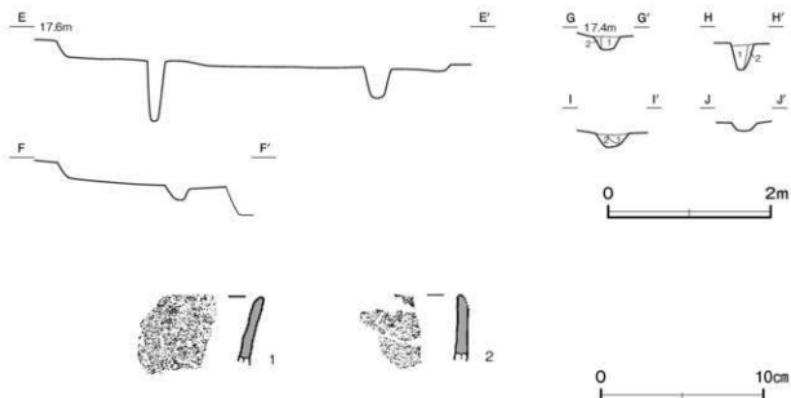
位置 D区北部のD11j8区、標高17mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 南東隅部を第13号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第13号竪穴建物に掘り込まれているため全容は不明だが、長軸5.63m、短軸4.59mの長方形で、主軸方向はN-14°-Wと推定できる。壁は高さ10~22cmで、ほぼ直立している。



第4図 第16号竪穴建物跡実測図



第5図 第16号竪穴建物跡・出土遺物実測図

**床** 北東に向かってわずかに傾斜し、全体的に軟質である。

**ピット** 9か所。P 1・P 3・P 7は径20~41cm、深さ39~72cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。P 2・P 4・P 6・P 8・P 9は径22~38cm、深さ16~31cmで、補助柱穴と考えられる。P 5は径30cm、深さ10cmで、性格は不明である。

**ピット土層解説 (P 4・P 8・P 9共通)**

1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

**覆土** 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 繩文土器片22点(深鉢)のほか、土師器片51点(甕類)が出土している。1は覆土上層、2は覆土中から出土している。出土土器の多くは細片である。土師器片や1の繩文土器片は混入と思われる。

**所見** 平面形が長方形を呈することや出土土器から、前期前半と考えられるが詳細は不明である。

第16号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第5図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	繩文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色	内外面に貝殻条痕文	覆土上層	
2	繩文土器	深鉢	長石・石英・繊維	に赤い橙	無筋繩文L	覆土中	

(2) 陥し穴

**第1号陥し穴 (SK-142) (第6図)**

**位置** G区のG 13g6区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第143号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径2.04m、短径1.16mの楕円形で、長径方向はN-18°-Eである。深さは64cmで、底面は

幅20cmほどである。短径方向の断面形はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

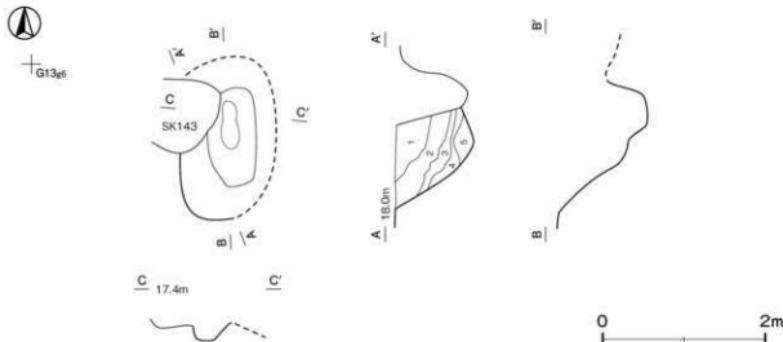
**覆土** 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |           |
|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色  | ロームブロック中量 |

- |      |                  |
|------|------------------|
| 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子中量 |

**所見** 遺物が出土していないため明確ではないが、規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



第6図 第1号陥し穴実測図

(3) 遺物包含層

**第1号遺物包含層（第7・8図）**

**位置** D区東部のE 11e0区からF 12c4区にかけての標高18mほどの緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第18号竪穴建物、第120・121・127・136・144・145・173・174・175号土坑、第6号溝、第6号ビット群に掘り込まれている。

**規模** 北東部が調査区域外に延びているため、南北幅約37m、東西幅約29mのみ確認した。標高差は約2mである。

**堆積状況** 5層に分層でき、上層は暗褐色土、下層は褐色土が主体である。斜面上部から堆積した様相を呈する自然堆積である。

**土層解説**

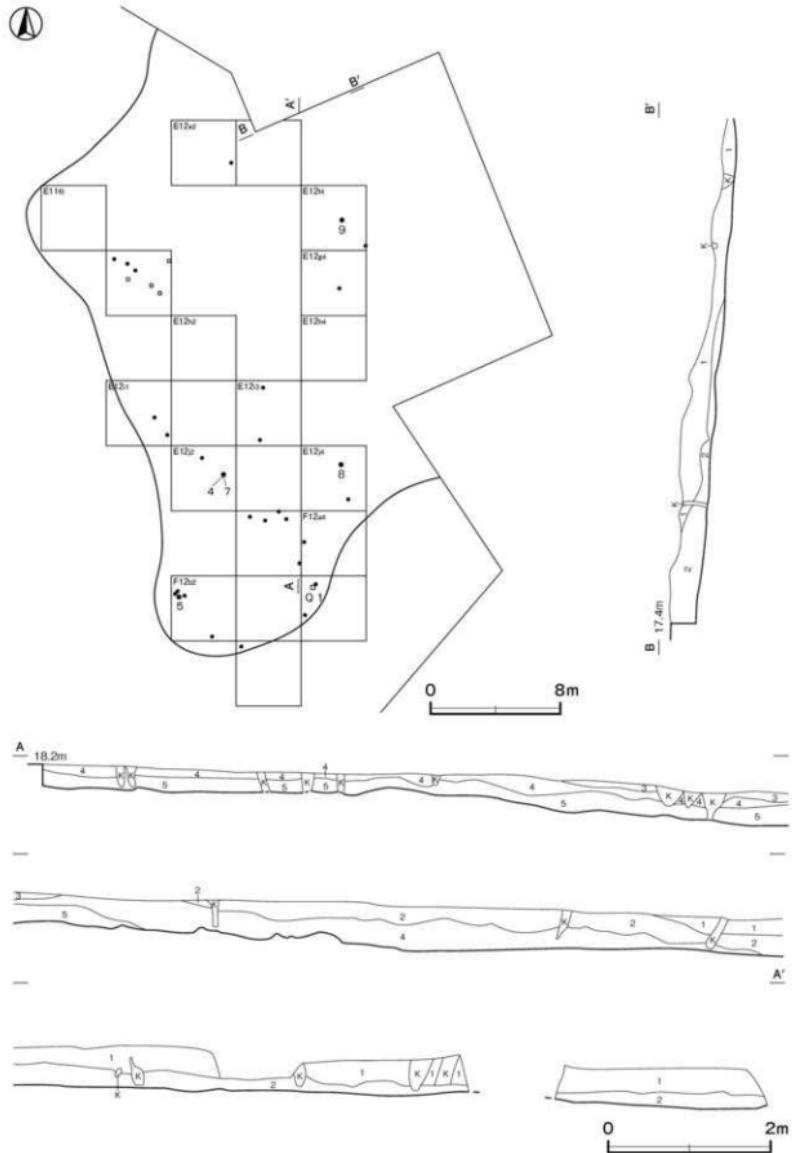
- |       |                |
|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック、炭化粒子微量 |
| 3 褐色  | ローム粒子、炭化粒子微量   |

- |         |                |
|---------|----------------|
| 4 褐色    | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 に赤い褐色 | ローム粒子微量        |

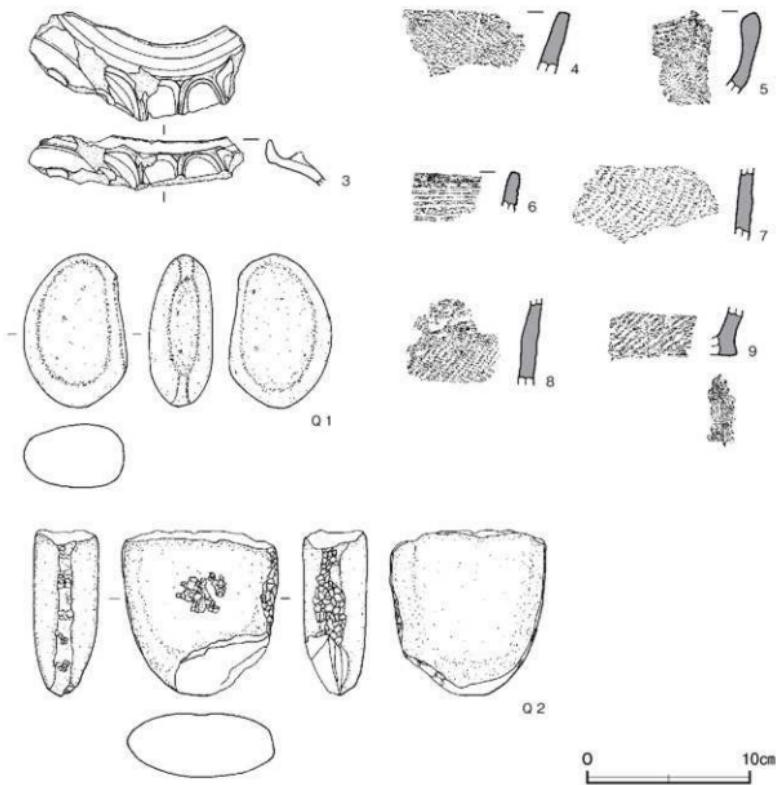
**遺物出土状況** 縄文土器片111点（深鉢110、壺1）のほか土師器片5点（壺1、壺4）、石器2点（磨石1、敲石1）、剥片2点が出土している。縄文土器片は器面・破損面とともに摩耗し、大きさが5cm以下の細片が多い。

出土位置は南部から多く、次いで西部にかけてが多く出土している。層位的な出土状況は確認できなかった。

**所見** 前期前半の土器が81%と主体であり、その他に前期後半や中期などの土器が少量含まれている。最も遺物の多い前期前半から、斜面上部に散在していた土器類が、斜面部への土の堆積に伴って流入したと考えられる。遺物量が少ないため、当期における周辺での活動は小規模であったことが想定される。



第7図 第1号遺物包含層実測図



第8図 第1号遺物包含層出土遺物実測図

第1号遺物包含層出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	胎土			色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
3	縄文土器	壺	長石・石英・赤色粒子	褐色		口縁無文、腹部縦帶貼付	E11f4		
4	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色		横位の單施縄文 RQ.	E12j2		
5	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐色		斜方向に交差する沈綱文	F12b2		
6	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐色		単施縄文施文後、横方向の沈綱文	覆土中		
7	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐色		横位の單施縄文 LR	E12j2		
8	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	褐色		横位の單施縄文 LR	E12j4		
9	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色		横位の單施縄文 LR	E12f4		

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨石	9.4	6.3	3.9	304.3	安山岩	全面を磨面として使用 一部被熱	F12b4	
Q 2	敲石	(10.2)	9.6	4.0	(565.0)	砂岩	片面と側面に敲打痕	覆土中	

表2 第1号遺物包含層グリッド別縄文土器出土数

グリッド	E11f4	E11f0	E11h9	E12e2	E12e3	E12f1	E12f4	E12g1	E12g4	E12h2	E12h4	E12i1	E12i2
点数	1	6	1	2	1	1	3	7	2	2	2	2	2
グリッド	E12i3	E12j2	E12j4	F11c0	F11d0	F11e0	F12a3	F12a4	F12b2	F12b3	F12b4	F12c3	F12d1
点数	5	2	27	1	1	1	5	2	5	2	4	22	3

## 2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴建物跡16棟、土坑1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

### (1) 堅穴建物跡

#### 第1号堅穴建物跡（第9・10図）

位置 A区のD5a1区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 振乱によって大半が床面まで壊されているが、長軸8.50m、短軸7.33mの長方形で、当遺跡で最大の規模であり、主軸方向はN-11°-Eである。壁は高さ19~30cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。少量の焼土と炭化材が確認されている。

炉 中央に3か所。炉1は長径100cm、短径83cmの不整楕円形で、深さ10cmの地床炉と考えられる。炉2は遺存状態が悪いが、径52cmの円形で、深さ14cmの地床炉と考えられる。炉3は振乱のため長径不明、短径80cmの不整楕円形もしくは隅丸長方形で、深さ7cmの地床炉と考えられる。それぞれの新旧関係は不明である。

#### 炉土層解説（炉1～炉3共通）

1 線赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック多量、炭化粒子微量 2 線褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子微量

ピット 7か所。P2・P3・P4は径38~41cm、深さ19~40cmで、配置から主柱穴と考えられる。P1・P5・P7は径33~41cm、深さ19~65cmで、配置から補助柱穴と考えられる。P6は径22cm、深さ49cmで、出入り口施設に関わるピットの可能性がある。

覆土 2層に分層できる。確認できる範囲では、レンズ状に堆積していることから自然堆積と推測される。

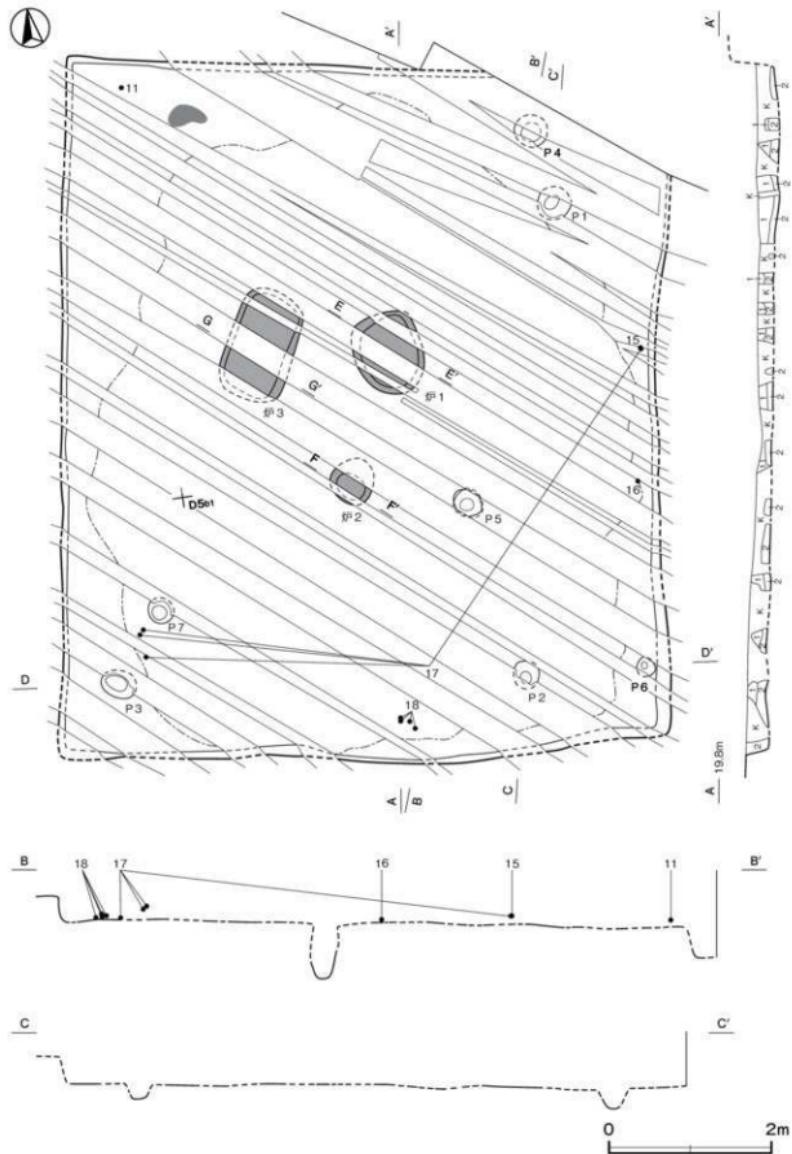
#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

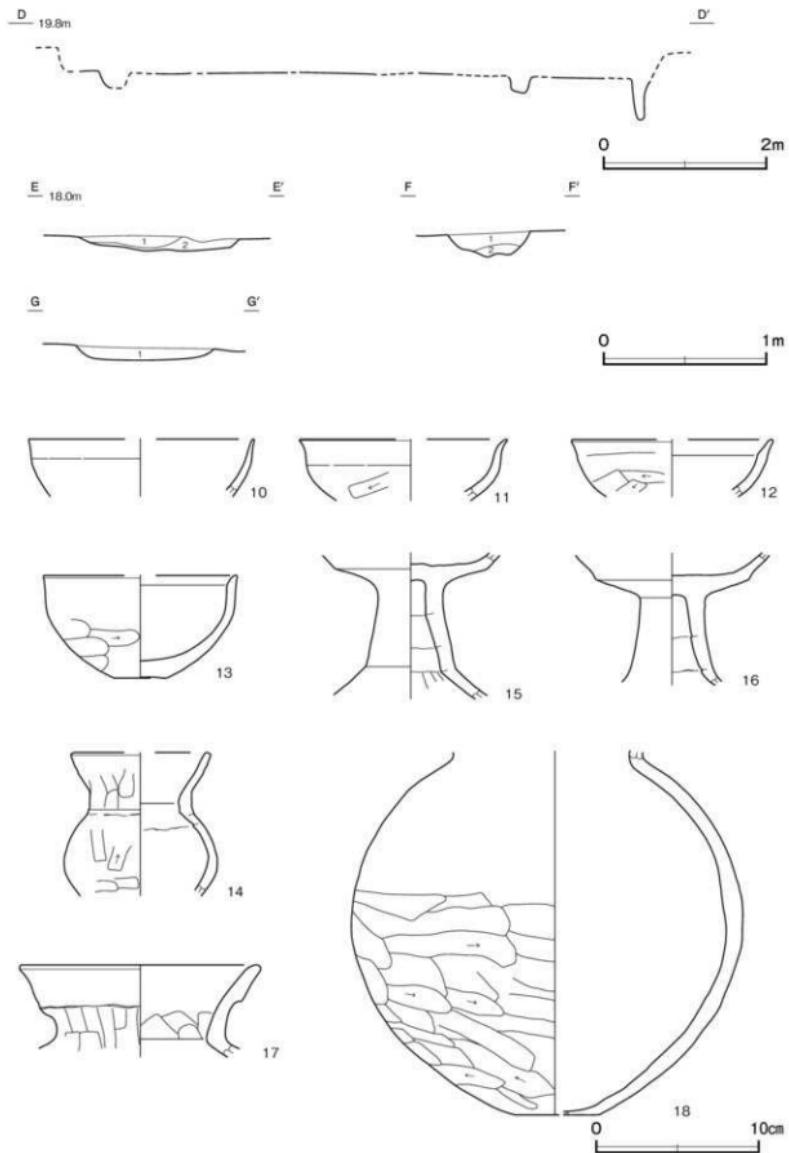
2 線褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片464点（环碗類197、壺3、高环3、甕261）のほか、須恵器片1点（壺）、陶器片15点（碗13、鉢2）、金属製品3点（不明銅製品1、不明鉄製品2）が出土している。須恵器片、陶器片、金属製品は、振乱によって混入したものである。18は南壁際の床面から、11は北西隅部、15・16は東壁際の床面から覆土下層にかけて、それぞれ出土している。17は南西コーナー部と東壁際から出土した破片が接合している。完形に復元できるものがないことや、破損面まで火熱を受けた土器が出土していることから、建物焼失以前に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。床面で焼土と炭化材が確認され、破損面まで火熱を受けた土器が出土していることから、焼失建物である。



第9図 第1号堅穴建物跡実測図



第10図 第1号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表（第10図）

番号	種 別	器種	口径	高 底	底 壁	粘 土	色 調	焼 成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
10	土師器	环	[138]	(3.5)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	全体的に摩滅	覆土中	10%
11	土師器	环	[126]	(3.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外表面斜位のヘラ削り 内面摩滅	覆土下層	20%
12	土師器	环	[122]	(3.3)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	体部外表面斜・横位のヘラ削り 内面摩滅	覆土中	10%
13	土師器	輪	[118]	6.3	32	長石・石英・繊維	明赤褐色	普通	体部外表面横位のヘラ削り 内面摩滅	覆土中	30%
14	土師器	壇	[8.1]	(8.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外表面縦・横位のヘラ削り	覆土中	30%
15	土師器	高环	-	(9.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	全体的に摩滅	覆土下層	40% 火熱強
16	土師器	高环	-	(8.1)	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	全体的に摩滅	床面	40%
17	土師器	甕	146	(57)	-	長石・石英・白色粒子	明赤褐色	普通	頭部外表面縦位のヘラ削り 内面斜位のナダ	覆土下層～床面	20%
18	土師器	甕	-	(224)	53	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面上半摩滅 下半横位のヘラ削り	床面	50%

## 第2号竪穴建物跡（第11・12図）

位置 A区のE 5e6 区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号土坑、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が調査区域外に延びているため、北東・南西軸は 6.00 m で、北西・南東軸は 4.80 m しか確認できなかった。方形と推測され、推定主軸方向は N - 47° - E である。壁は高さ 32 ~ 52cm で、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた壁下には幅 22 ~ 30cm、深さ 10 ~ 17cm の豊溝が北東壁中央、西隅部、南隅部を除いて巡っている。北西壁から P 10 に向かって、長さ 57cm、幅 25cm の溝が延びており、間仕切り溝の可能性がある。炭化材が南西壁際から散在した状態で出土しているが、規模や方向に規則性は認められない。

炉 北西壁寄りに 2か所。壁寄りに位置する炉 1 が炉 2 を掘り込んでいる。炉 1 は、長径 90cm、短径 40cm の楕円形で、深さ 12cm の地床炉である。炉 2 は、北西部を炉 1 に掘り込まれているため、長径 61cm、短径 40cm しか確認できなかった。深さ 13cm の地床炉である。いずれも炉床面は火熱を受け赤変硬化工している。

## 炉土層解説（炉 1・炉 2 共通）

- |         |                       |           |                      |
|---------|-----------------------|-----------|----------------------|
| 1 黒 極 色 | 燒土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 3 暗 暗 極 色 | 焼七ブロック多量、ロームブロック少量   |
| 2 赤 極 色 | 燒土ブロック多量              | 4 暗赤褐色    | ロームブロック・燒土ブロック・炭化物多量 |

ピット 10か所。P 1 ~ P 4 は径 21 ~ 34cm、深さ 41 ~ 44cm で、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 6・P 7 は径 22 ~ 28cm、深さ 18cm で、配置から出入り口施設に関わるピットと考えられる。P 5・P 8 ~ 10 は径 24 ~ 52cm で、性格は不明である。

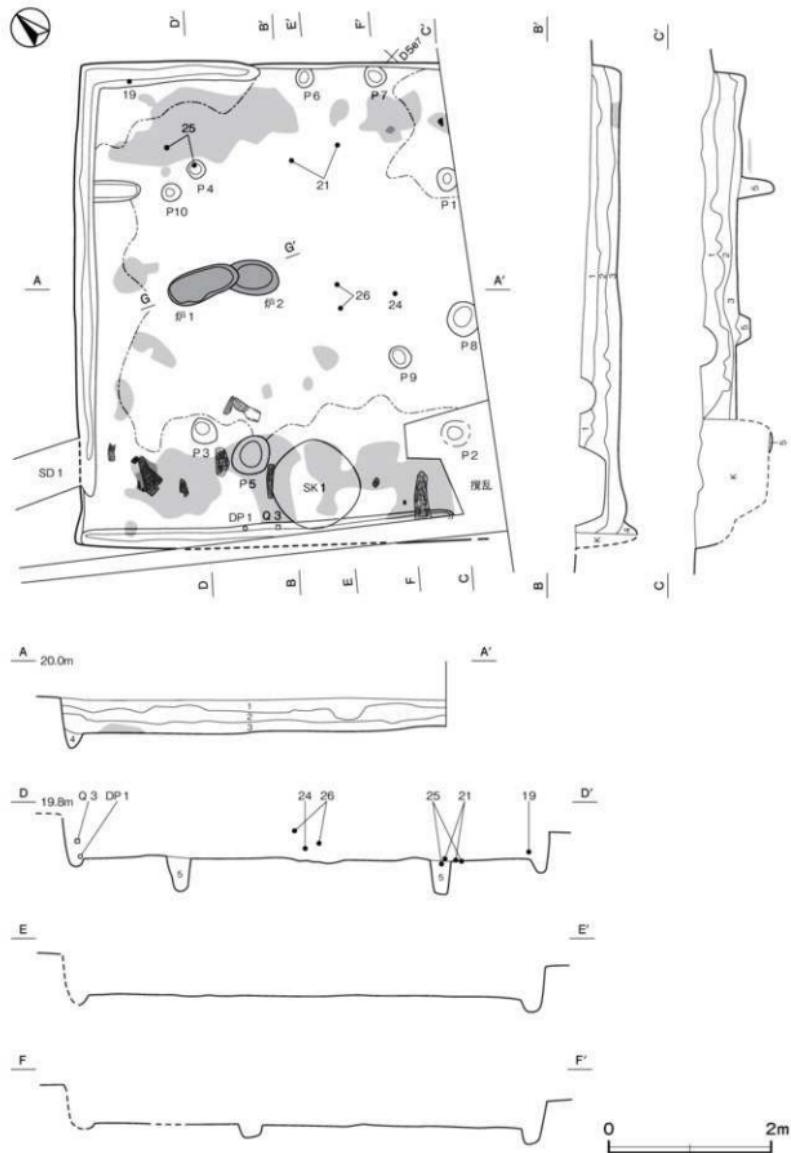
覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

## 土層解説（覆土・ピット共通）

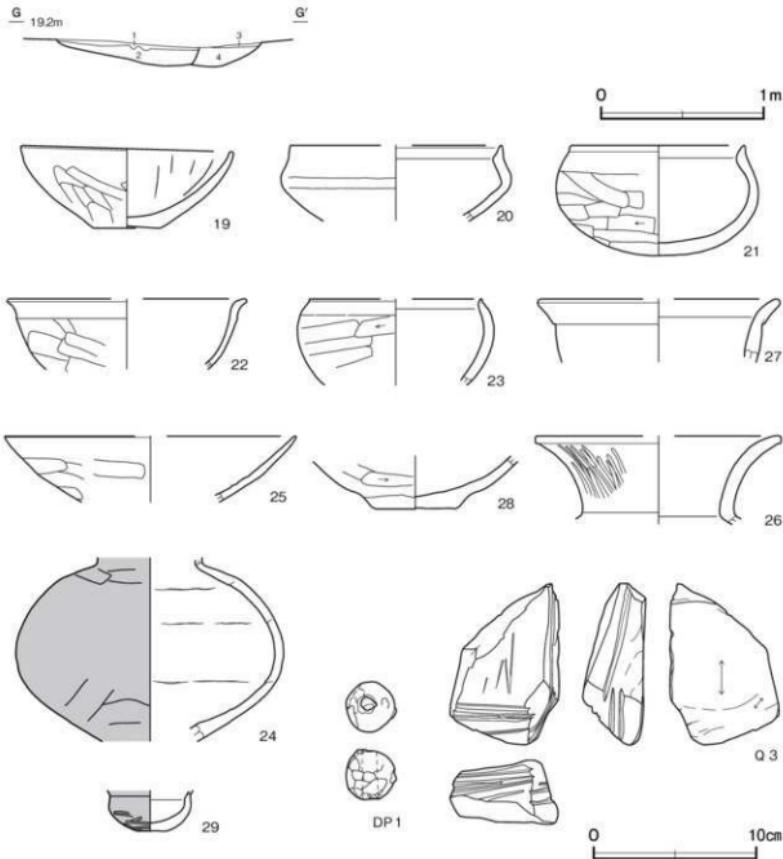
- |           |                       |           |           |
|-----------|-----------------------|-----------|-----------|
| 1 黒 色     | ローム粒子少量               | 4 暗 暗 極 色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗 暗 極 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 5 暗 極 色   | ロームブロック少量 |
| 3 暗 極 色   | ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |           |           |

遺物出土状況 土師器片 220 点（环 9、輪 4、壇 2、高环 23、甕 181、ミニチュア土器 1）、土製品 1 点（球状土錐）、石器 1 点（砥石）のほか、須恵器片 1 点（甕）が出土している。21 は床面から、25 は P 4 の上層から出土している。火熱を受けた土器が多くみられる。20 は覆土中からの出土で、混入品と思われる。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀中葉と考えられる。床面から炭化材や火熱を受けた土器が出土していることから、焼失建物である。



第11図 第2号堅穴建物跡実測図



第12図 第2号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第2号堅穴建物跡出土遺物観察表（第12図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
19	土器部	環	128	5.1	4.0	長石・石英・雲母 にぶい相	普通	体部外表面ヘラナデ 内面工具痕	覆土下層	100%	
20	土器部	環	[130]	(4.7)	-	長石・石英・ 白色粒子	灰褐色	普通	体部外表面横位のヘラナデ	覆土中	10% 内面被熱
21	土器部	輪	106	6.8	-	長石・石英・ 白色粒子	輕	普通	体部外表面横位のヘラ削り	床面	95% PL15 内・或根部被熱
22	土器部	輪	[146]	(4.3)	-	長石・石英	にぶい相	普通	体部外表面斜位のヘラ削り	覆土中	10%
23	土器部	輪	[105]	(5.3)	-	長石・石英	にぶい相	普通	体部外表面横位のヘラ削り	覆土中	10% 内・或根部被熱
24	土器部	埋	-	(114)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外表面一部横・斜位のナデ 外表面赤彩	覆土下層	20% 内・内面被熱
25	土器部	高环	[17.7]	(4.1)	-	長石・石英	にぶい相	普通	体部外表面横位のヘラナデ	F4層上層 床面	20% 内面被熱

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
26	土師器	甕	[151]	(5.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	頭部外縁部位のヘラ削き	覆土中層下層	10%
27	土師器	甕	[144]	(3.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横位のナデ 折り返し口縁	覆土中	10%
28	土師器	甕	-	(3.3)	[5.0]	長石・石英	にぶい橙	普通	外縁横位のヘラ削り	覆土中	10% 内面被熱
29	土師器	甕	-	(2.5)	1.6	長石・石英	赤	普通	外縁横位のヘラ削き、赤彩	覆土中	37% 内面被熱

番号	器種	径	長さ	孔隙	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	珪代土器	3.1	3.1	0.9	(25.39)	長石・石英	にぶい橙	一方向から穿孔 一部ヘラ削り	覆土下層	

番号	器種	径S	幅	厚S	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 3	砾石	(9.9)	(6.7)	3.9	[235.04]	砂岩	研磨全面 複数面は黒炭、上面・下面是仕上げ紙として使用	覆土中層	PL22

### 第3号竪穴建物跡（第13・14図）

位置 A区のD5c4区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4・5・6号土坑、第1・2・3号溝に掘り込まれ、その上部に第1号塚が構築されている。

規模と形状 北側と西側が溝に掘り込まれているため、北西・南東軸は7.66m、北東・南西軸は6.16mしか確認できなかった。主軸方向はN-58°Wと推定される。壁は高さ8~14cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。西半部は床面が露出した状態で検出した。

ピット 9か所。P 2・P 4は径85・31cm、深さ15・43cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 2は径が広く浅い掘り込みがあり、柱が抜き取られたと考えられる。P 7・P 8は径20・27cm、深さ22・28cmで、配置から出入り口施設に関わるピットと考えられる。P 1・P 3・P 5・P 6・P 9は径29~58cm、深さ14~43cmで、性格は不明である。

#### ピット土層解説（P 1・P 2・P 5共通）

1 埋 深 色 ロームブロック中量

2 埋 深 色 ロームブロック多量

覆土 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 埋 深 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

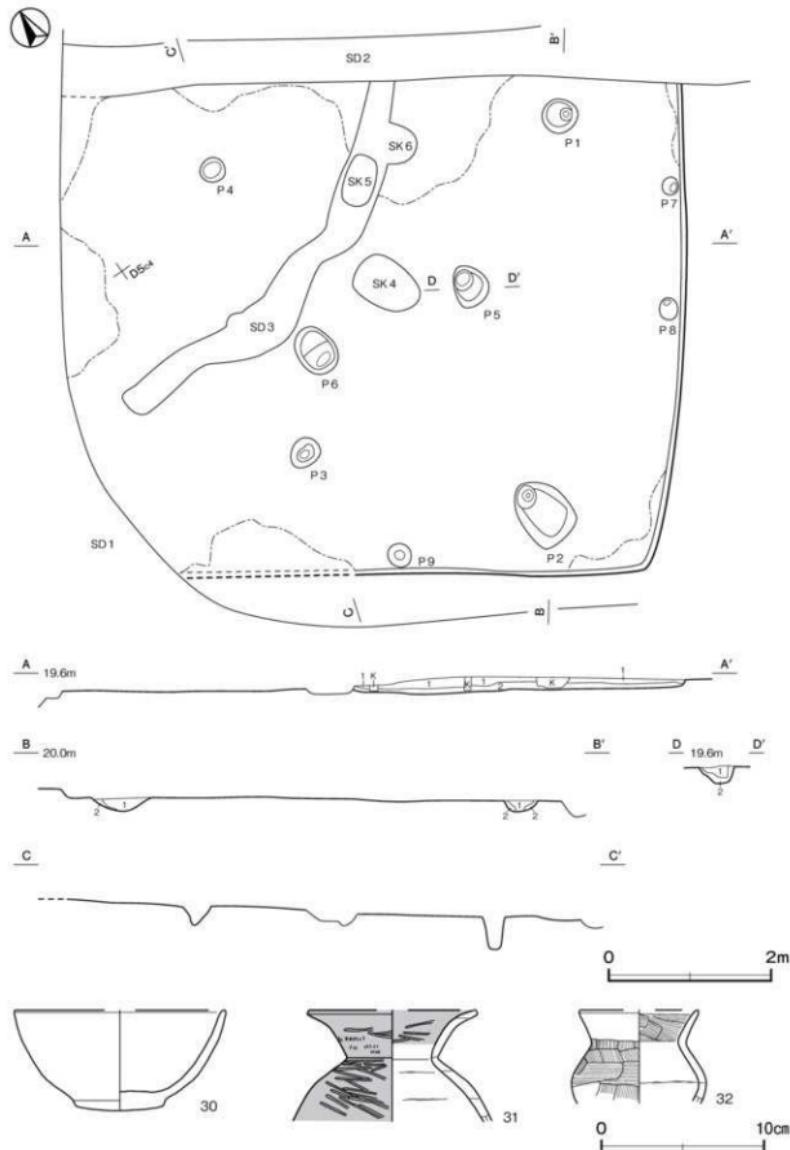
2 埋 深 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 覆土中から出土した土師器片28点（甕）のほか、上部に構築された第1号塚の封土下層から、土師器片491点（壺36、椀2、堆64、高壺7、壺3、甕375、ミニチュア土器4）、石製品2点（有孔円板）が出土している。覆土中からの出土量が極端に少ないため、第1号塚封土下層から出土した古墳時代の遺物は、本跡に帰属するものと考えられる。37・39は胎土・色調が共通し、同一個体の可能性がある。図示した遺物は、全て第1号塚の下層から出土したものである。

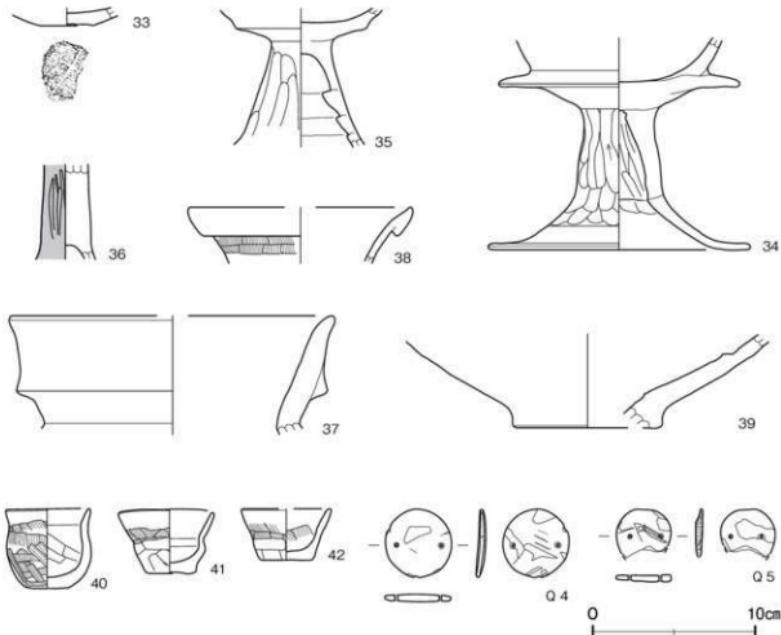
所見 時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。

### 第3号竪穴建物跡出土遺物観察表（第13・14図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
30	土師器	甕	[128]	6.2	5.4	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面被熱により調査不明	TM 1 封土下層	70%
31	土師器	壺	[102]	(6.9)	-	長石・石英・墨	赤	普通	外縁部内面赤色、横位のヘラ削き	TM 1 封土下層	30% 外・内面被熱
32	土師器	壺	[72]	(5.7)	-	長石・石英・繊維	明赤	普通	体部・頭部外縁・口縁部・頭部内面ハケ目調整	TM 1 封土下層	20%
33	土師器	壺	-	(1.1)	3.2	長石・石英	にぶい橙	普通	底部十字状のヘラ削記号	TM 1 封土下層	10%
34	土師器	高壺	-	(13.0)	[16.1]	長石・石英	にぶい橙	普通	頭部外縁部位のヘラ削り 内面観位のナデ	TM 1 封土下層	50% PL16



第13図 第3号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第14図 第3号堅穴建物跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
35	土脚器	高環	-	(8.5)	-	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	普通	外表面位のへら削り後ヘラナデ	TM 1 封土 下層	30%
36	土脚器	高環	-	(5.8)	-	長石・石英	明赤褐	普通	外表面位のへら削き 上部中央の柱状脚 外面赤彩	TM 1 封土 下層	10%
37	土脚器	壺	[19.8]	(7.3)	-	長石・石英・青色・赤色粒子	橙	普通	内面とも摩滅により調整不明	TM 1 封土 下層	10%
38	土脚器	壺	[13.6]	(3.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	上端部外・内面摩ナデ 扉引返し口縁 剥離外表面位のハケ日調整	TM 1 封土 下層	10%
39	土脚器	壺	-	(5.7)	(9.2)	長石・石英・青母・赤色粒子	橙	普通	内面とも摩滅により調整不明	TM 1 封土 下層	10%
40	土脚器	[14.7] 壺	5.1	4.9	2.6	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ハケ日調整 内面ナデ	TM 1 封土 下層	96% PL.20 体部下から底部に黒斑
41	土脚器	[14.7] 壺	5.8	4.0	3.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ハケ日調整後ナデ	TM 1 封土 下層	100% PL.20
42	土脚器	[14.7] 壺	[5.4]	3.2	3.2	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面ハケ日調整後ナデ	TM 1 封土 下層	50% PL.20

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4	有孔円板	4.2	4.1	0.5	11.95	滑石	全面研磨 孔2ヶ所 孔径0.16cm	TM 1 封土 下層	PL.22
Q 5	有孔円板	(2.5)	3.4	0.4	(5.86)	滑石	全面研磨 孔2ヶ所 孔径0.19cm	TM 1 封土 下層	PL.22

#### 第4号堅穴建物跡（第15～17図 PL.3）

位置 B区のC3g7区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第81号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.78m、短軸4.74mの方形で、主軸方向はN-58°-Wである。壁は高さ34～50cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁下には幅17~28cm、深さ9~17cmの壁溝が全周している。貼床は、ロームブロックを多量に含む暗褐色土によって構築されている。

**竈** 西壁の中央部に付設されている。焚口から煙道部まで112cmで、燃焼部幅は50cmである。燃焼部は、床面から10cmほど掘り込み、第13~15層を埋土し、袖部は砂質粘土を含む第10~12層を積み上げて構築されている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ21cm掘り込まれ、ほぼ直立している。

#### 竈土層解説

1 暗褐 色 ロームブロック・燒土粒子微量	9 間 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 灰褐 色 ロームブロック少量	10 稜 色 ローム粒子多量、砂質粘土ブロック・燒土粒子微量
3 暗褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	11 浅黄褐 色 ローム粒子中量、砂質粘土ブロック少量
4 稜 色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子少量	12 にぶい褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
5 暗褐 色 燃土ブロック多量	13 暗褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子微量
6 暗褐 色 燃土ブロック少量、炭化粒子微量	14 稜 色 ローム粒子少量
7 浅黄褐 色 燃土ブロック多量、炭化粒子中量	15 暗赤褐色 ローム粒子微量
8 稜 色 燃土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	

**ピット** 6か所。P1~P4は径44~52cm、深さ60~70cmで、規模と配置から主柱穴である。P2~P4は土層から柱痕で、P1は抜き取り痕と考えられる。P5は径40cm、深さ34cmで、位置から出入り口施設に関わるピットである。P6は径26cm、深さ53cmで、補助柱穴と考えられる。

#### ピット土層解説(P1~P5共通)

1 黒褐 色 ローム粒子微量	4 暗褐 色 ロームブロック少量
2 暗褐 色 ローム粒子中量	5 黒褐 色 ロームブロック少量
3 間 色 ローム粒子微量	6 間 色 ロームブロック中量

**貯藏穴** 北コーナー部に位置している。長径76cm、短径56cmの梢円形で、深さ22cmである。壁は外傾し、底面は皿状を呈している。

#### 貯藏穴土層解説

1 暗褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子微量	3 暗褐 色 ロームブロック中量
2 黒褐 色 ロームブロック少量	

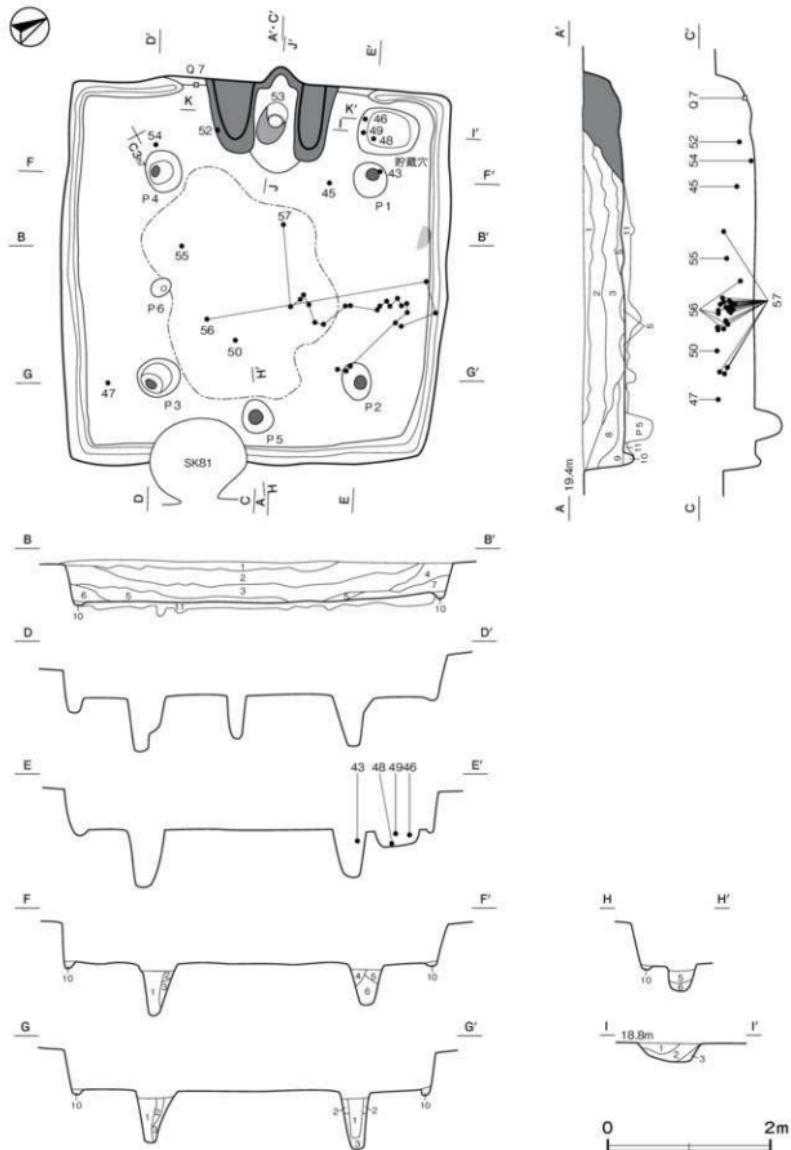
**覆土** 10層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第11層は貼床の構築土である。

#### 土層解説

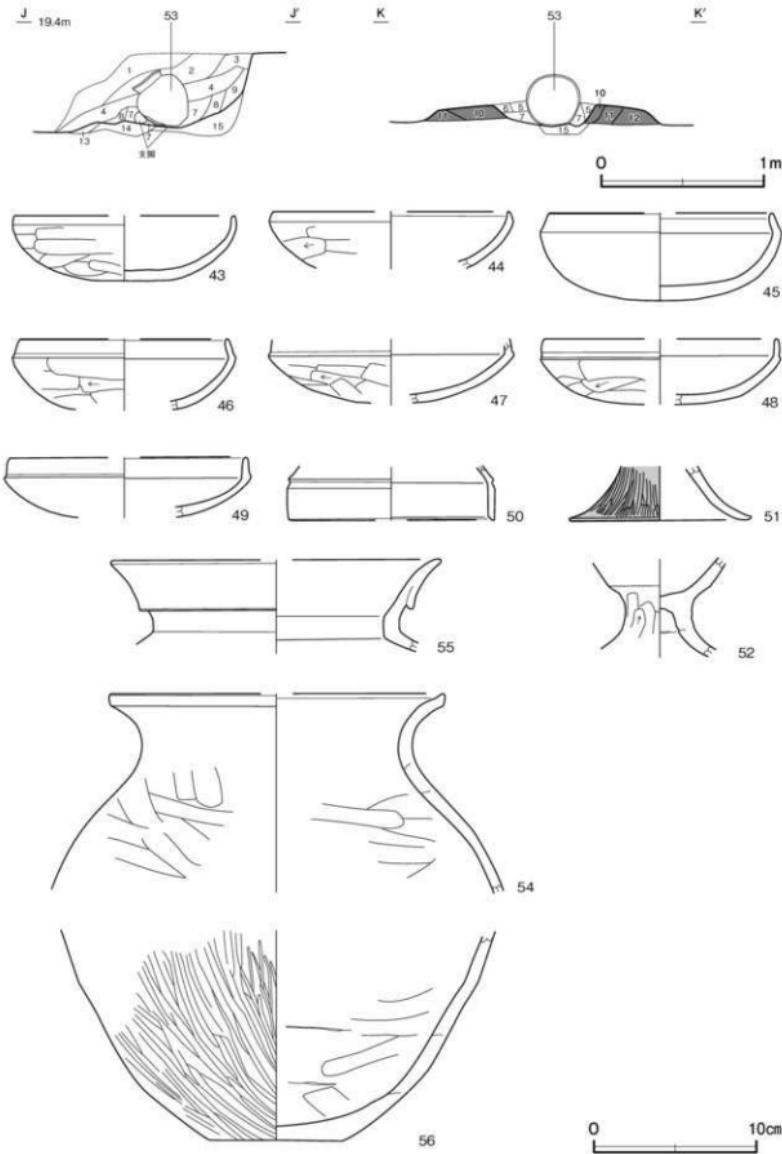
1 黒褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量	7 黄褐 色 ロームブロック中量
2 暗褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量	8 暗褐 色 ローム粒子少量、燒土粒子微量
3 暗褐 色 燃土粒子中量、ロームブロック少量	9 暗褐 色 ローム粒子少量
4 稜 色 ロームブロック少量	10 稜 色 ローム粒子少量
5 灰褐 色 ロームブロック中量	11 暗褐 色 ロームブロック多量
6 明褐 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量	

**遺物出土状況** 土師器片469点(环40、高杯14、壺414、瓶1)、須恵器片1点(环蓋)、土製品5点(支脚1、粘土塊4)、石製品2点(有孔円板、劍形品)が出土している。その他、遺構に伴わない繩文土器片37点(深鉢)、須恵器片1点(甕)。陶器片5点(碗3、鉢1、猪口1)、剥片2点が覆土中から出土している。覆土中層から上層にかけての自然堆積土中からの出土量が多い。53は竈から倒れた状態で出土し、その下から、土製支脚が上方から押しつぶされたように折れた状態で出土している。土製支脚は劣化が著しく、図示できなかった。54はP4付近、Q7は竈左脇の床面から、43はP1覆土上層、46・48・49は貯藏穴の底面から上層にかけて出土している。57は覆土中層から上層にかけて破片が散在した状態で出土している。竈から出土している53を除いて、ほとんどが破片で、覆土中層から上層にかけて出土量が多いことから埋没が進んでから投棄されたものと考えられる。

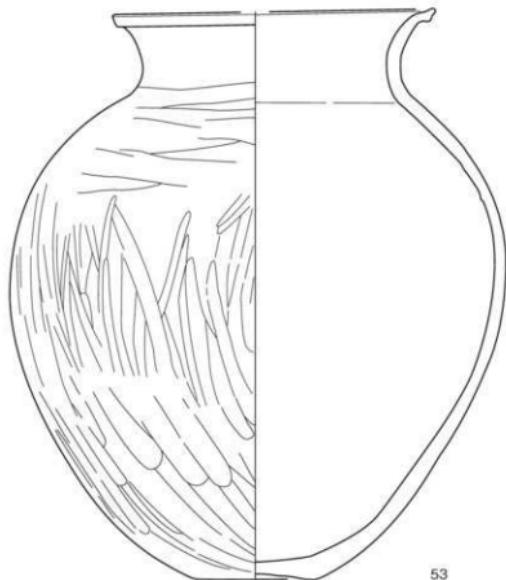
**所見** 時期は、竈から出土した口縁部つまみあげの甕や貯藏穴出土の土器から、6世紀後葉と考えられる。今回の調査で確認した古墳時代の遺構の中で、後期に属するものは本跡のみである。



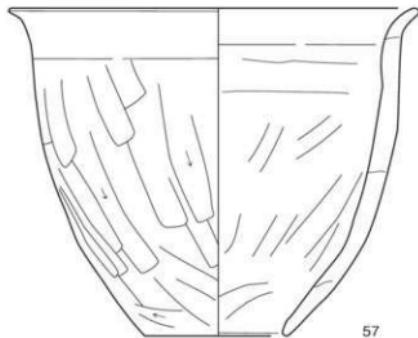
第15図 第4号竖穴建物跡実測図



第16図 第4号竪穴建物跡・出土遺物実測図



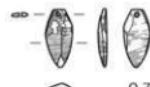
53



57



0 10cm



第17図 第4号堅穴建物跡出土遺物実測図

第4号堅穴建物跡出土遺物観察表（第16・17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
43	土師器	壺	[136]	4.0	—	長石・石英・雲母 にぶい粉	普通	体部外面へき削り後横位のナデ	P 1 上層	40%	
44	土師器	壺	[144]	(3.5)	—	長石・石英 にぶい粉	普通	体部外面横位のヘラ削り	覆土中	10%	媒付着
45	土師器	壺	[136]	5.4	—	長石・石英・赤色粒子 にぶい粉	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外・内面とも摩滅のため調査不明	覆土中層	30%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
46	土師器	环	[126]	(4.3)	-	長石・石英・雲母 黒褐色	普通	口縁部外・内面ナデ	体芯外面横位のヘラ削り	貯藏穴上層	20%	
47	土師器	环	-	(3.9)	-	長石・石英 にぶい褐色	普通	体芯外面斜・横位ヘラ削り	-	覆土上層	20%	
48	土師器	环	[144]	(4.1)	-	長石・石英・ 雲母・白色粒子	にぶい青白	普通	口縁部外・内面ナデ	体芯外面横位のヘラ削り	貯藏穴上面	30%
49	土師器	环	[140]	(3.7)	-	長石・石英・ 雲母	褐色	普通	口縁部外・内面ナデ	貯藏穴上層	10%	
50	須恵器	环	[126]	(3.3)	-	長石・石英・ 白色粒子	灰	良好	外・内面ロクロナデ	覆土上層	10% 西南端	
51	土師器	高环	-	(3.3)	[112]	長石・石英 赤褐色	普通	外表面横位のヘラ磨き	赤彩	覆土中	20%	
52	土師器	高环	-	(6.1)	-	長石・石英・細纖 維	褐色	普通	胎芯外面横位のヘラ削り	龜左地部付近	20%	
53	土師器	甕	[19.5]	352	7.5	長石・石英・ 雲母・細纖	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面ナデ 胎芯外面横位のヘラ削り	底面	95% PL.19	
54	土師器	甕	[20.4]	(122)	-	長石・石英 赤色粒子	褐色	普通	口縁部外・内面ナデ	体芯外・内面ナデ	床面	20%
55	土師器	甕	[20.2]	(5.7)	-	長石・石英・ 赤色粒子	褐色	普通	口縁部外・内面ナデ	折り返し口縁	覆土上層	10%
56	土師器	甕	-	(129)	8.2	長石・石英・ 雲母	褐色	普通	胎芯外面横位ヘラ磨き	内面ナデ	覆土下層～ 上層	20%
57	土師器	甕	24.8	20.2	8.7	長石・石英・ 赤色粒子	褐色	普通	胎芯外面横位ヘラの削り	内面ヘラナデ	覆土上層	70% PL.20

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	有孔円板	22	2.5	0.4	(282)	滑石	全面研磨 孔2か所 孔径0.19cm	覆土中	PL.22
Q 7	側面品	3.6	1.7	0.6	4.08	滑石	全面研磨 孔1か所 孔径0.13cm	床面	PL.22

### 第8号竪穴建物跡 (第18・19図 PL.4)

位置 C区のD 8b9区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.68m、短軸5.62mの方形で、主軸方向はN-13°-Eである。壁は高さ20~34cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。焼土が散在し、南壁際とP4付近からは炭化材が出土している。

炉 西壁寄りに位置している。長径45cm、短径43cmの精円形で、深さ6cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量 2 灰褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 7か所。P1~P4は径30~41cm、深さ45~61cmで、規模と配置から主柱穴である。土層から柱は抜き取られたと考えられる。P5は径31cm、深さ21cmで、位置から出入り口施設に関わるピットである。

P6・P7は径34~38cm、深さ19~22cmで、性格は不明である。

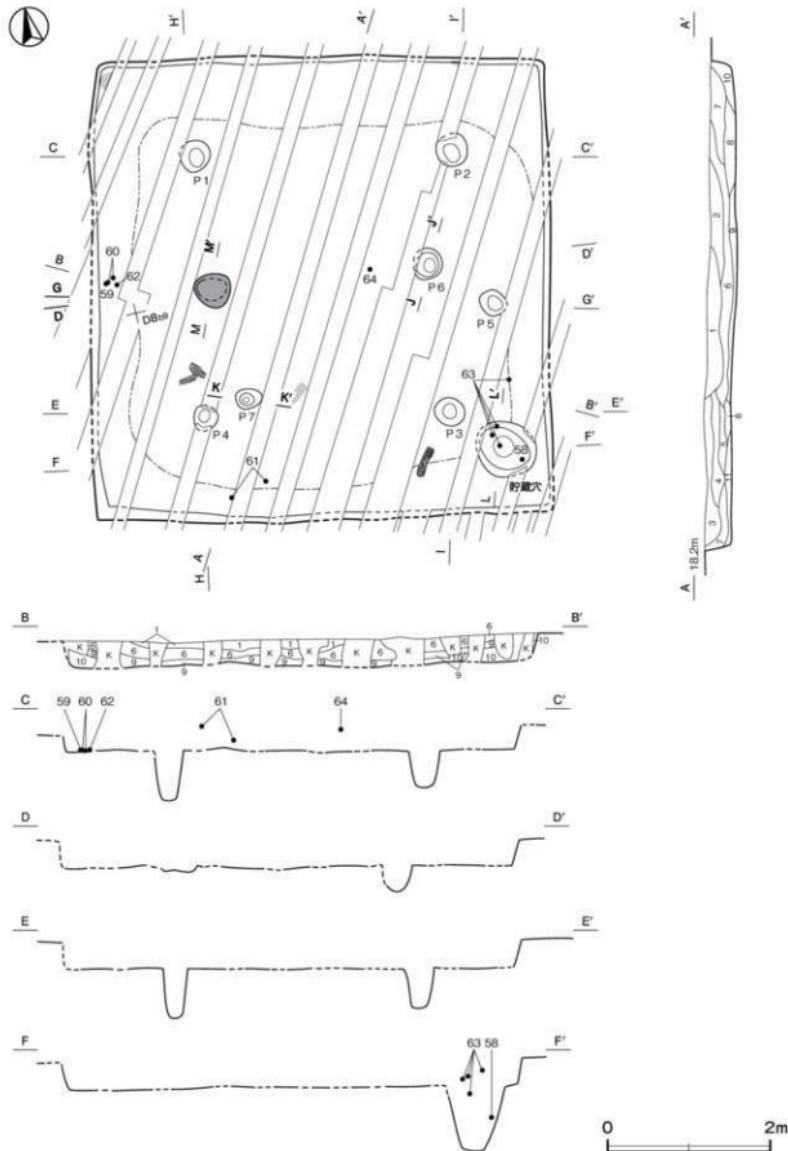
#### ピット土層解説 (P1~P5共通)

1	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック少量
2	にぶい褐色	ロームブロック少量	6	褐色	ロームブロック中量
3	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	7	灰褐色	ロームブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック中量	8	褐色	ロームブロック少量

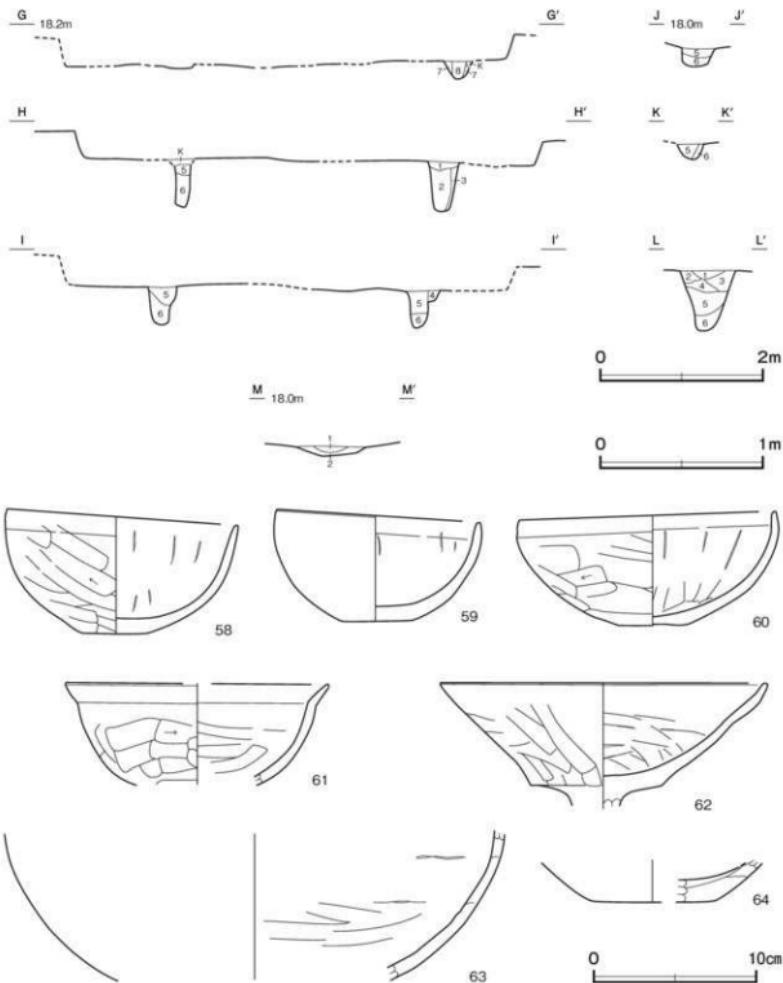
貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径は擾乱のため不明で、短径は68cmで精円形と推測される。深さ74cmで、壁は外傾し、底面は平坦である。

#### 貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量	4	暗褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5	褐色	ローム粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック少量	6	黒褐色	ロームブロック中量



第18図 第8号堅穴建物跡実測図



第19図 第8号竪穴建物跡・出土遺物実測図

覆土 11層に分層できる。ロームブロックを多く含み、不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 矮 褐 色 ローム粒子少量          | 7 灰 褐 色 ロームブロック中量         |
| 2 黒 褐 色 ロームブロック少量        | 8 黒 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子少量  |
| 3 褐 灰 色 ロームブロック中量        | 9 矮 褐 色 ロームブロック中量         |
| 4 黄 褐 色 ロームブロック少量        | 10 褐 色 ロームブロック中量          |
| 5 矮 褐 色 ロームブロック多量        | 11 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 6 黒 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |                           |

**遺物出土状況** 土師器片 191 点（坏 60、楕 5、高坏 2、壺 124）のほか、縄文土器片 4 点（深鉢）が出土している。59・60・62は西壁際の床面からまとめて出土しており、遺棄されたものと考えられる。58は貯蔵穴の覆土中層から出土している。63は貯蔵穴内と覆土下層から出土した破片が、61は覆土下層と上層から出土した破片がそれぞれ接合している。貯蔵穴や覆土下層から上層にかけて出土した土器片が接合関係にあり、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。出土している炭化材の樹種同定の結果、広葉樹のコナラ属コナラ亜属クヌギ節に同定された。

**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀中葉と考えられる。火熱を受けた土器片が多く、炭化材が床面から出土していることから、焼失建物と考えられる。

第 8 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 19 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
58	土師器	楕	14.1	7.2	4.0	長石・石英	にぶい橙	普通 体部外・内面ナデ 体部外面へ4割り後横位のナデ 内面工具痕	貯蔵穴中層 内面強く被熱	100%	PL15
59	土師器	楕	12.4	6.9	4.0	長石・石英	にぶい青黄	普通 口縁部外・内面ナデ 体部外・内面ナデ 体部内面工具痕	床面 90% 95・内面被熱	90%	
60	土師器	楕	15.6	7.0	4.1	長石・石英	にぶい橙	普通 口縁部外・内面ナデ 体部外へ4割り後ナデ 内面ヘラナデ	床面 60%		
61	土師器	楕	[16.0]	(6.2)	-	長石・石英	橙	普通 口縁部外・内面ナデ 体部外へ4割り後ナデ 内面ヘラナデ	覆土上層 下層 30%		
62	土師器	高坏	20.0	(7.7)	-	長石・石英 赤土粒子	にぶい橙	普通 高坏部外・内面ナデ	床面 50%		
63	土師器	壺	-	(9.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通 体部内面横位のヘラナデ	貯蔵穴上層 下層 95・内面被熱	10%	
64	土師器	壺	-	(2.6)	[7.4]	長石・石英 白色粒子	にぶい橙	普通 外・内面とも厚度のため調整不明	覆土上層 10%		

### 第 9 号竪穴建物跡（第 20 ~ 23 図 PL 4）

**位置** C 区の C 9-2 区、標高 18 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 一辺 4.52 m の方形で、主軸方向は N - 25° - E である。壁は高さ 26 ~ 46 cm で、ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で、中央北東寄りが踏み固められている。壁下には、幅 11 ~ 19 cm、深さ 7 ~ 10 cm の壁溝が全周している。床面や覆土中からは少量の炭化材が出土している。掘方は一部に窓があるものの全体的に平坦で、ロームブロックを多量に含む土で床を構築している。

**炉** 北東壁寄りに位置している。長径 98 cm、短径 59 cm の楕円形で、深さ 4 cm の地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。炉構築時に床面を 12 cm ほど掘り下げ、ローム粒子を多く含む土を埋土している。

#### 炉土層解説

- |   |        |                         |   |     |                |
|---|--------|-------------------------|---|-----|----------------|
| 1 | 暗赤褐色   | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量   | 3 | 明褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 |
| 2 | にぶい赤褐色 | ローム粒子多量、焼土ブロック中量、炭化粒子微量 |   |     |                |

**ピット** 4 か所。P 1・P 2 は径 30・44 cm、深さ 42・55 cm で、規模と配置から主柱穴である。P 3・P 4 は径 25・44 cm、深さ 20・23 cm で、性格は不明である。

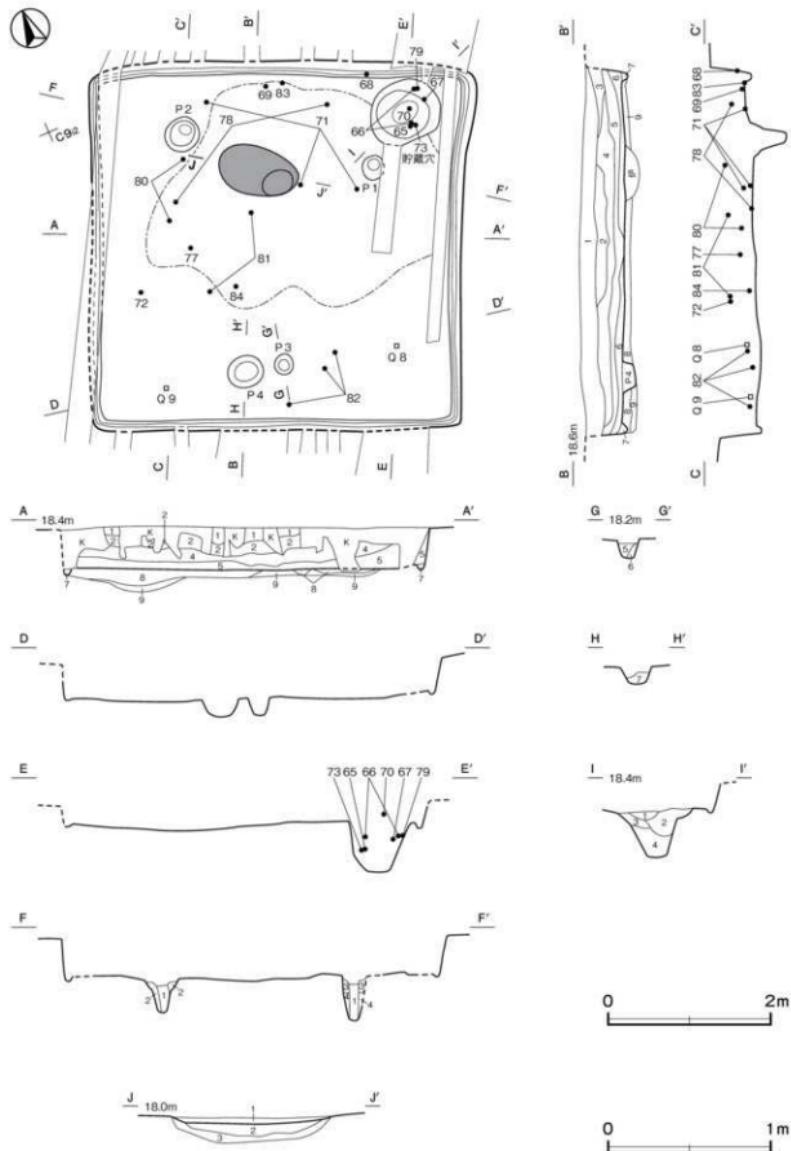
#### ピット土層解説（P 1 ~ P 4 共通）

- |   |     |                  |   |       |              |
|---|-----|------------------|---|-------|--------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量          | 5 | 黒褐色   | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 | 褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 6 | 褐色    | ロームブロック中量    |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 | にぶい褐色 | ロームブロック少量    |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量        |   |       |              |

**貯蔵穴** 東コーナー部に位置している。長径 89 cm、短径 73 cm の楕円形で、深さは 62 cm である。壁は外傾し、底面は平坦である。

#### 貯蔵穴土層解説

- |   |     |                  |   |     |                  |
|---|-----|------------------|---|-----|------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量          | 3 | 褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量   |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 | 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |



第20図 第9号竪穴建物跡実測図

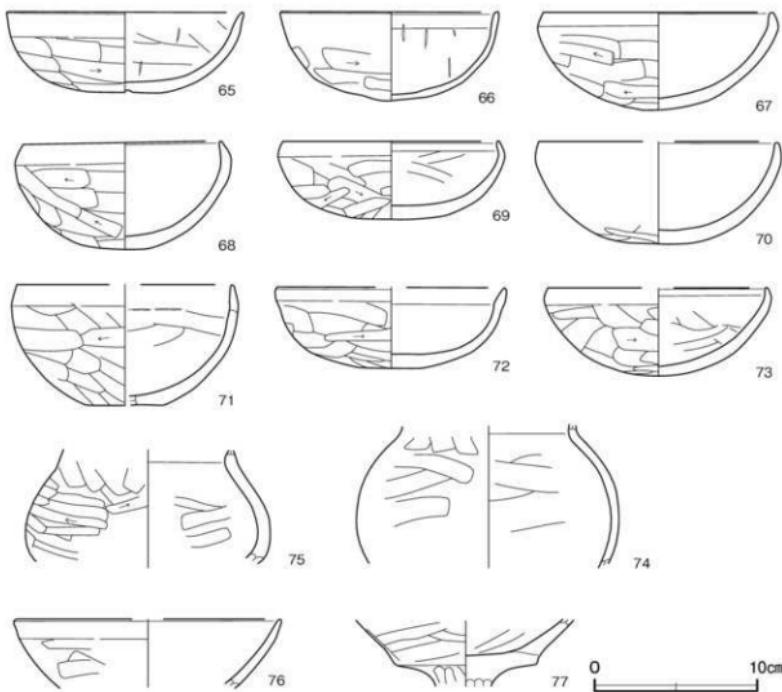
**覆土** 7層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第8・9層は貼床の構築土である。

**土層解説**

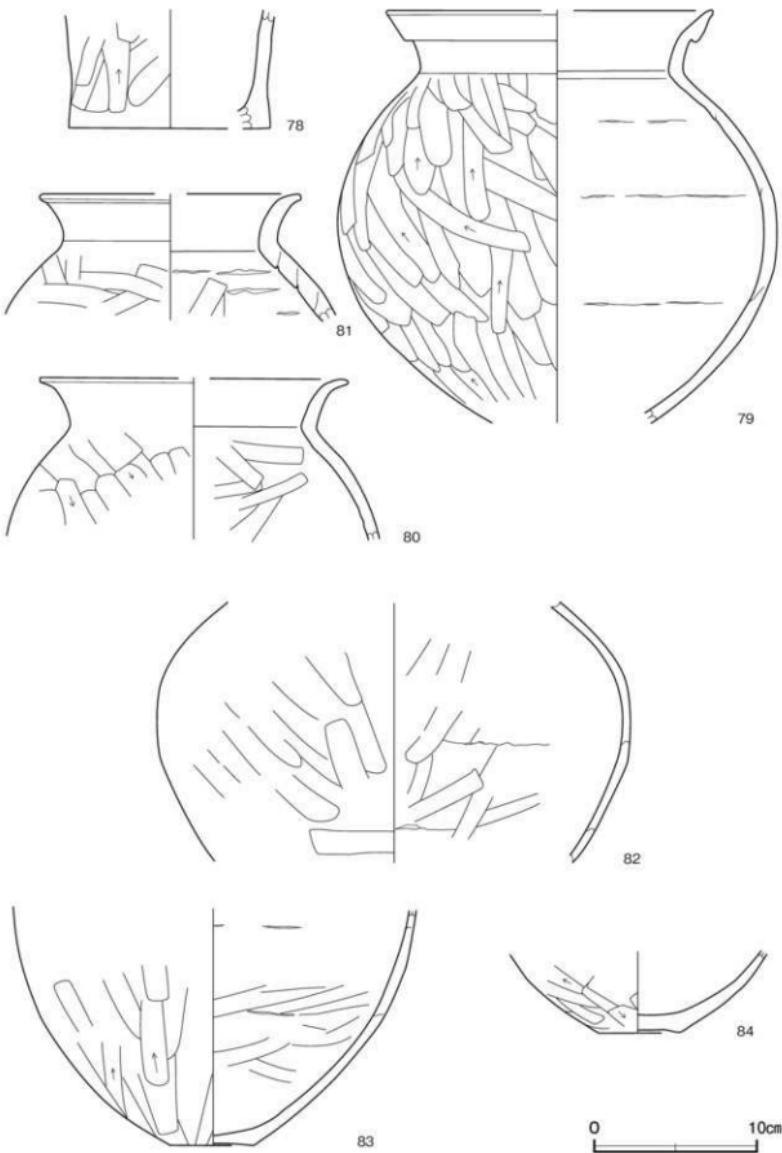
1 短 褐 色 ローム粒子少量	6 にぶい褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
2 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	7 短 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子少量
3 短 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量	8 短 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子微量
4 黑 褐 色 ロームブロック・炭化物少量	9 明 褐 色 ロームブロック多量
5 褐 色 ロームブロック中量、炭化物少量	

**遺物出土状況** 土師器片 1,282点(环65, 梗10, 塵17, 高环4, 鉢1, 壺1,85), 石器・石製品5点(磨石1, 砥石1, 有孔円板1, 涸片2), 鉄製品1点(刀子)のほか、攪乱から土師器片 198点(环12, 壺186), 須恵器片1点(壺), 陶器片1点(碗), 繩文土器片1点(深鉢), 瓦片1点(平瓦)が出土している。遺物は、北東、北西壁寄りの覆土中層から下層にまとまって出土しており、多くは北西から流入したと考えられる。69・71・78・83は床面から出土している。貯蔵穴からは土師器壺や环・梗がまとまって出土し、65・66・73が中層で重なった状態で出土しており、遺棄されたものと考えられる。

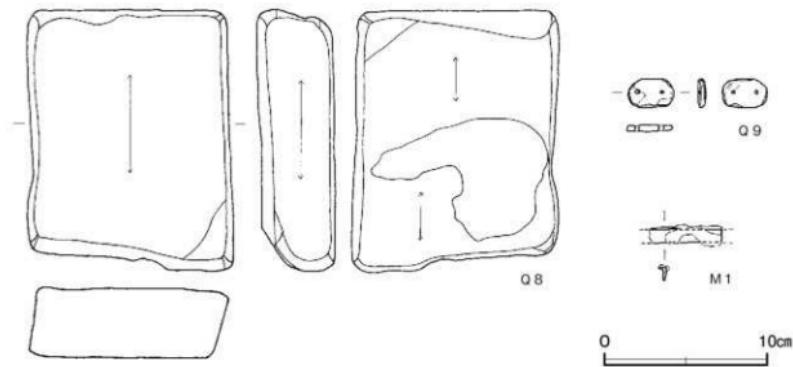
**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。火熱を受けた土器片が多く、炭化材が出土していることから、焼失遺物である。



第21図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第22図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）



第23図 第9号堅穴建物跡出土遺物実測図（3）

第9号堅穴建物跡出土遺物観察表（第21～23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
65	土師器	杯	145	5.0	-	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側横位のヘラ削り 内面横位のヘラ削り	野戦空中層 外・内面被熱	70% PL15
66	土師器	坪	134	5.5	-	長石・石英、 赤色粒子	棕	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側横位のヘラ削り 内面摩減、工具痕	野戦空中層 外・内面被熱	70%
67	土師器	桶	142	6.0	-	長石・石英、 赤色粒子	棕	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側横位のヘラ削り	野戦空中層 内面被熱	55% PL15
68	土師器	桶	122	6.6	-	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側横・斜位のヘラ削り	北東壁際 内面被熱	50% PL15
69	土師器	桶	132	4.8	-	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側ヘラ削り 内面ナデ	床面	80% 外・内面被熱
70	土師器	桶	[148]	6.2	-	長石・石英、 白色粒子	明赤褐	普通	体部下端指ナデ	覆土下層	30% 保付着
71	土師器	桶	[132]	7.4	[4.6]	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側ヘラ削り 内面ナデ	床面	40%
72	土師器	桶	[140]	5.0	-	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側ヘラ削り	覆土上層	40% 内面被熱
73	土師器	桶	[134]	5.4	-	長石・石英、雲母	浅黄褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側ヘラ削り 内面ナデ	野戦空中層	50%
74	土師器	坪	-	(8.7)	-	長石・石英	棕	普通	体部外・内面ナデ	覆土中	30% 外・内面被熱
75	土師器	坪	-	(7.0)	-	長石・石英、雲母	棕	普通	外周部位を除くヘラ削り 内面ナデ	覆土中	30%
76	土師器	高坪	[162]	(4.2)	-	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側ヘラ削り後ナデ	覆土中	10%
77	土師器	高坪	-	(4.1)	-	長石・石英	棕	普通	体部外・内面ナデ	覆土中層	30% 内面被熱
78	土師器	鉢	-	(7.3)	[124]	長石・石英	棕	普通	体部外側面ヘラ削り 底部ヘラ削り	床面、 覆土中層	10%
79	土師器	甕	[198]	(25.4)	-	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側ヘラ削り	野戦空中層 倒伏被熱強	60% PL15
80	土師器	甕	[190]	(9.9)	-	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側ヘラ削り 内面ナデ	覆土上層 中層	30%
81	土師器	甕	[158]	(7.8)	-	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外・内面ナデ	覆土上層	10%
82	土師器	甕	-	(16.0)	-	長石・石英	棕	普通	体部外側面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	覆土下層	20%
83	土師器	甕	-	(14.5)	5.2	長石・石英、 雲母	棕	普通	体部外側面ヘラ削り 内面ナデ 底部ヘラ削り	床面	30%
84	土師器	甕	-	(5.1)	5.0	長石・石英、 白色粒子	棕	普通	体部外側・底部ヘラ削り	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	砥石	162	127	4.4	18160	砂岩	3面使用	覆土下層	PL22
Q 9	有孔板	18	28	0.4	4.26	滑石	全面研磨 孔2分所 孔径0.15cm	覆土下層	PL22

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	刀子	(4.4)	0.8	0.2	(5.07)	鐵	上部折り返し	覆土中	PL21

### 第10号竪穴建物跡（第24～28図 PL 5）

位置 D区のE 110m区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.18m、短軸5.17mの方形で、主軸方向はN-39°-Wである。壁は高さ79～93cmで、直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。硬化面中央部の南北軸252m、東西2.18mの範囲は、火熱を受けて赤変硬化している。壁下には、幅9～15cm、深さ9～16cmの壁溝が全周している。間仕切り溝が4条確認でき、3条は壁溝からP1・P2・P4に向かって延び、残りの1条はP4とP6の中間に位置し、壁溝とは接していない。この1条のみ他3条とは形態が異なり、根太を置いた可能性も考えられる。長さ92～114cm、幅12～23cm、深さ5～7cmである。貼床はロームブロックを少量含む灰褐色土によって構築され、掘方は平坦である。床面からは炭化した割材が散在した状態で出土している。

#### 間仕切り溝土層解説（4条共通）

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

炉 北西壁寄りに位置している。長径50cm、短径48cmの不整円形で、深さ4cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量	3 にい赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量	4 黄褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 6か所。P1～P4は径26～42cm、深さ32～52cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は径26cm、深さ30cmで、規模と形状から、出入り口施設に関わるピットである。P6は径17cmで柱痕状の土層が確認された。貯蔵穴の周堤部に位置し、柱を立てた後に周堤を設けており、貯蔵穴に関わるピットと考えられる。

#### ピット土層解説（P1～P5共通）

1 黒褐色 ローム粒子少量 2 黄褐色 ロームブロック中量

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長軸81cm、短軸60cmの長方形で、深さは49cmである。壁は外傾しながら立ち上がり、底面から30cmほどの上位に平坦な段を有している。底面は平坦で、貯蔵穴の周囲には粘土によって幅30～56cm、高さ5cmの周堤が設けられている。

#### 貯蔵穴土層解説

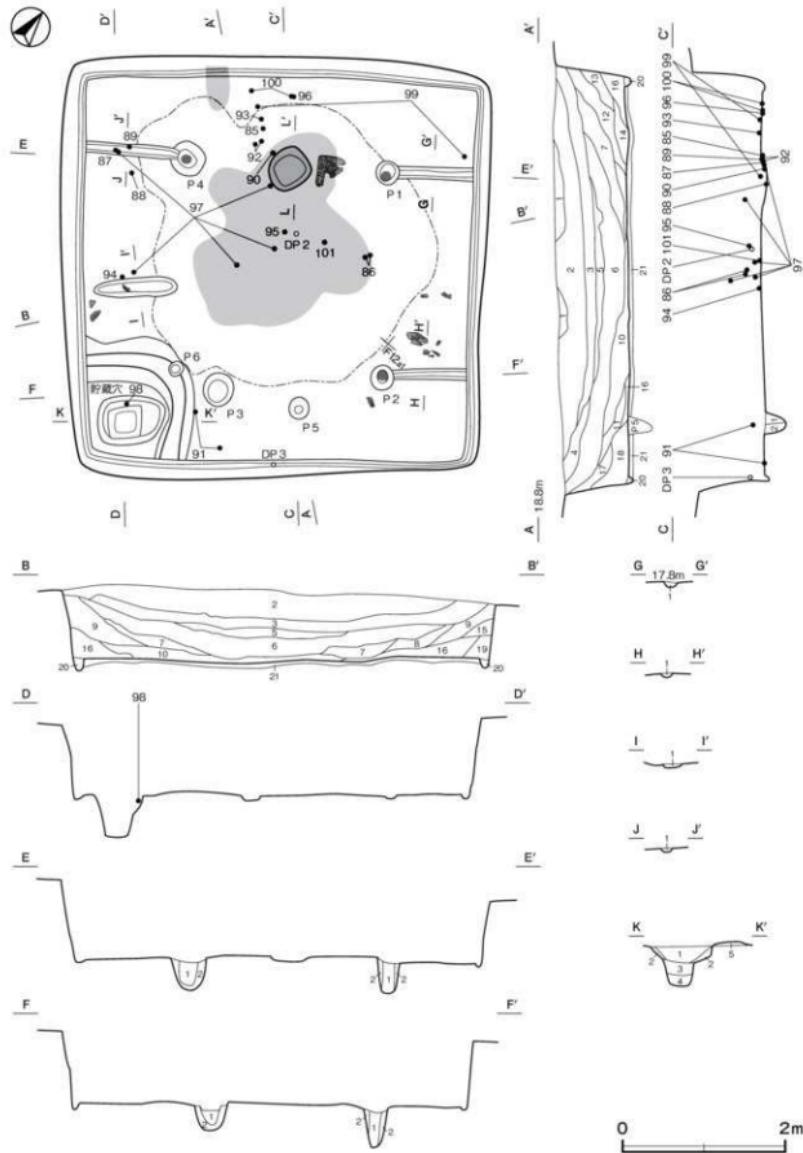
1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 明褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色 粘土ブロック多量
3 黑褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	

覆土 20層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第21層は貼床の構築土である。

#### 土層解説

1 黒暗褐色 ローム粒子微量	12 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子少量	13 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	14 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	15 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 黑褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	16 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
6 黑褐色 ローム粒子微量	17 黑褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
7 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	18 黄褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色 ローム粒子微量	19 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
9 暗褐色 ロームブロック微量	20 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10 暗暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	21 黑褐色 ロームブロック少量
11 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量	

遺物出土状況 土師器221点（罐19、高杯53、壺148、手捏土器1）、土製品2点（球状土錐、鉄斧形土製品）のほか、繩文土器74点（深鉢）が出土している。床面に近い位置から出土している土器片の多くは火熱を受けており、少量の炭化物も出土している。床面から覆土下層にかけてからの出土が多く、大部分は建物



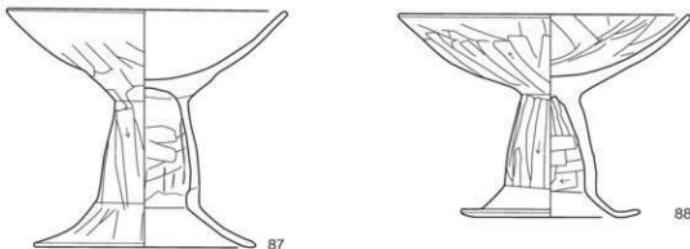
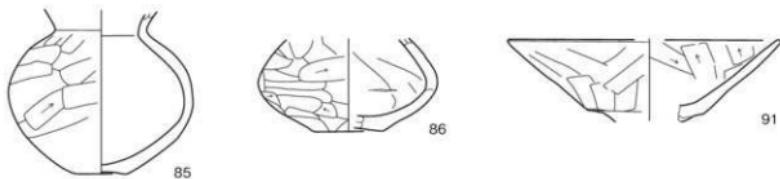
第24図 第10号堅穴建物跡実測図（1）



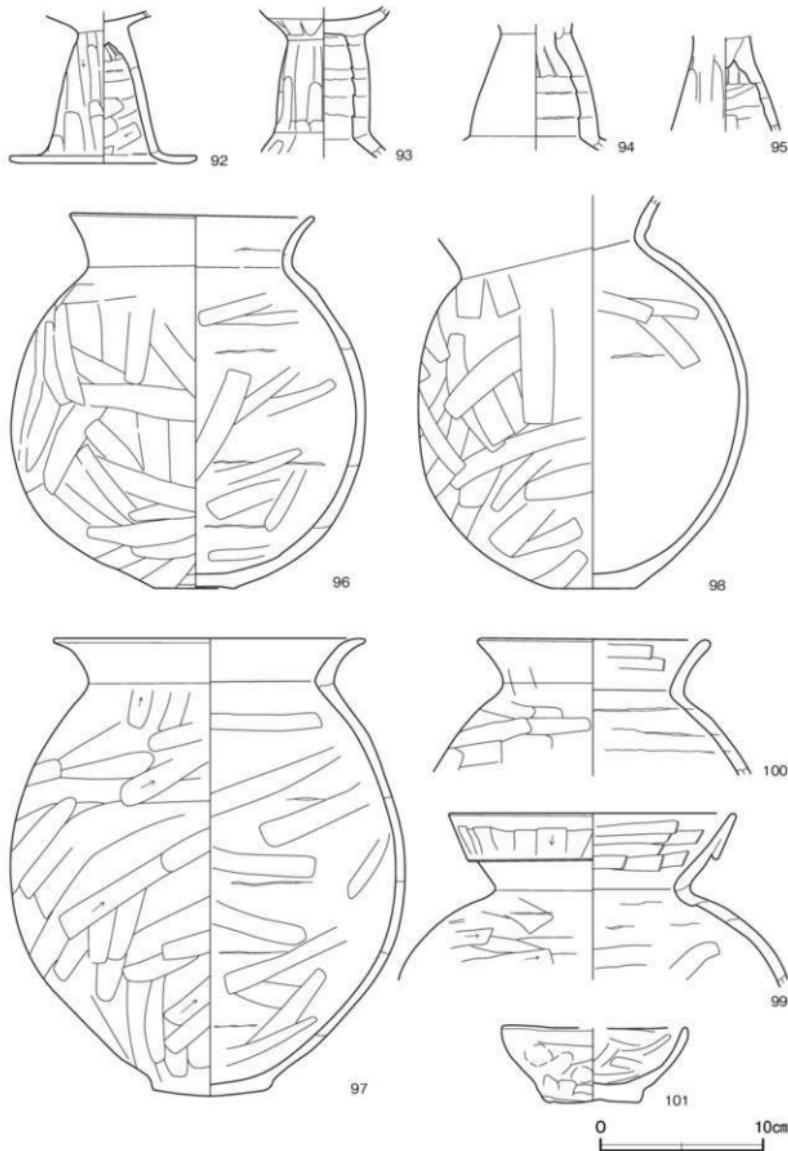
第25図 第10号竪穴建物跡実測図（2）

の発掘に伴って遺棄されたものと考えられる。D P 3は南東壁際の覆土下層から刃部が下の状態で出土している。出土した炭化材の樹種同定の結果、コナラ属コナラ亜属クヌギ節と同定された。

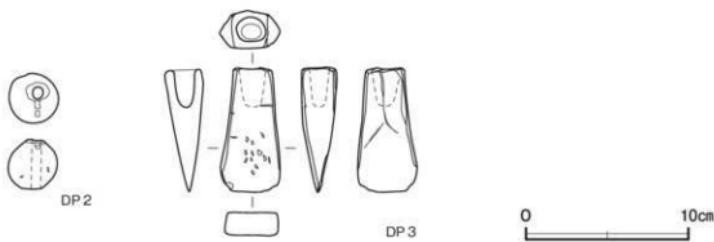
**所見** 時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。火熱を受けた土器片が多く、覆土下層から床面にかけて炭化材が出土していることから、焼失建物である。床面中央部が火熱を受けて赤変硬化した状況から、人為的に建物を焼却したと考えられる。D P 3の鉄斧形土製品は、鍛造有袋無肩鉄斧を模倣した土製模造品で、全体的にヘラ削りで平坦面を作った後、丁寧にナデられている。表面は工具による刺突で鉄表面の質感を表現し、裏面は鉄の合わせ目がY字状の刻みによって表現されている。



第26図 第10号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第27図 第10号堅穴建物跡出土遺物実測図（2）



第28図 第10号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第10号竪穴建物跡出土遺物観察表(第26~28回)

番号	種別	器種	口径	覆高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
85	土師器	壇	-	(9.9)	3.0	長石・石英	にい赤褐	普通	体部外側へラブリ後ヘナダ	床面	90% 外・内面被熱
86	土師器	壇	-	(5.7)	[4.0]	長石・石英	橙	普通	体部外側位のヘラブリ 内面ナダ	覆土中層	20% 内面被熱
87	土師器	高环	16.9	14.5	[13.4]	長石・石英	にい・橙	普通	体部外側位のヘラブリ 脚部外側位のヘラブリ 内面横位のナダ	床面	90% PL17 外・内面被熱
88	土師器	高环	17.8	12.5	11.0	長石・石英、 赤色校子	橙	普通	脚部外側位のヘラブリ 脚部外側位のナダ 并列脚部位ヘラブリ 内面ヘラナダ 内面横位のヘラブリ 内面・土手調査 手標位のヘラブリ	床面	90% PL17 外・内面被熱
89	土師器	高环	18.7	(5.9)	-	長石・石英、 赤色校子	にい・橙	普通	大部分が焼成、外面一部ナダの痕跡が残る	床面	50% 外・内面被熱
90	土師器	高环	19.7	(5.9)	-	長石・石英	橙	普通	体部外側へナダ	床面	40% 外・内面被熱
91	土師器	高环	[16.6]	(5.5)	-	長石・石英、 赤色校子	にい・橙	普通	体部外側・内面ヘラブリ後ヘナダ	床面	30% 外・内面被熱
92	土師器	高环	-	(9.4)	[11.4]	長石・石英	橙	普通	脚部外側へラブリ後ヘナダ 内面横位のヘラブリ	床面	90% 外・内面被熱
93	土師器	高环	-	(9.3)	-	長石・石英	明赤褐	普通	脚部外側位のヘラナダ 内面輪積目須(未調整)	床面	90% 外・内面被熱
94	土師器	高环	-	(7.8)	-	長石・石英、雲母	橙	普通	脚部外側輪積目須、弱いナダ	床面	30%
95	土師器	高环	-	(5.9)	-	長石・石英	橙	普通	脚部ナダ 外面上半未調整、下半ナダ 脚部外側位のヘラナダ	覆土下層	10%
96	土師器	壺	14.8	23.1	5.0	長石・石英	にい・橙	普通	脚部外側位のヘラナダ 体部外側へラブリ後不規 則なヘラナダ 内面ヘラナダ	床面	90% PL18
97	土師器	壺	19.0	28.2	7.0	長石・石英、 赤色校子	にい・橙	普通	脚部外側位のヘラナダ 体部外側へラブリ 内面ヘラナダ	覆土中層	70%
98	土師器	壺	-	(24.2)	5.0	長石・石英、 赤色校子	にい・橙	普通	体部外側不規則なヘラブリ 内面ヘラナダ 並みは強いか立す	貯藏穴上層	90% PL18
99	土師器	壺	17.5	(10.6)	-	長石・石英、 赤色校子	橙	普通	脚部外側位のヘラナダ 後横位のナダ 内面 横位のナダ	覆土下層	20%
100	土師器	壺	13.7	(8.3)	-	長石・石英	明赤褐	普通	脚部外側位のヘラナダ 体部外側位のヘラナダ 脚部外側へラブリ後ヘナダ 内面ヘラナダ	床面	20%
101	土師器	手括土器	[11.2]	4.7	5.4	長石・石英	黒褐	普通	外側脚部位のヘラナダ 一部ナダ 内面ナダ	床面	50% PL20

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 2	粘土鉢	31	3.0	0.6	27.56	長石・石英	明赤褐	一方向から穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 3	鐵斧形 土製品	7.6	3.7	2.2	51.29	長石・石英	橙	袋部外形方形、孔は円形、深さ23cm 両部幅34cm	覆土下層	PL21

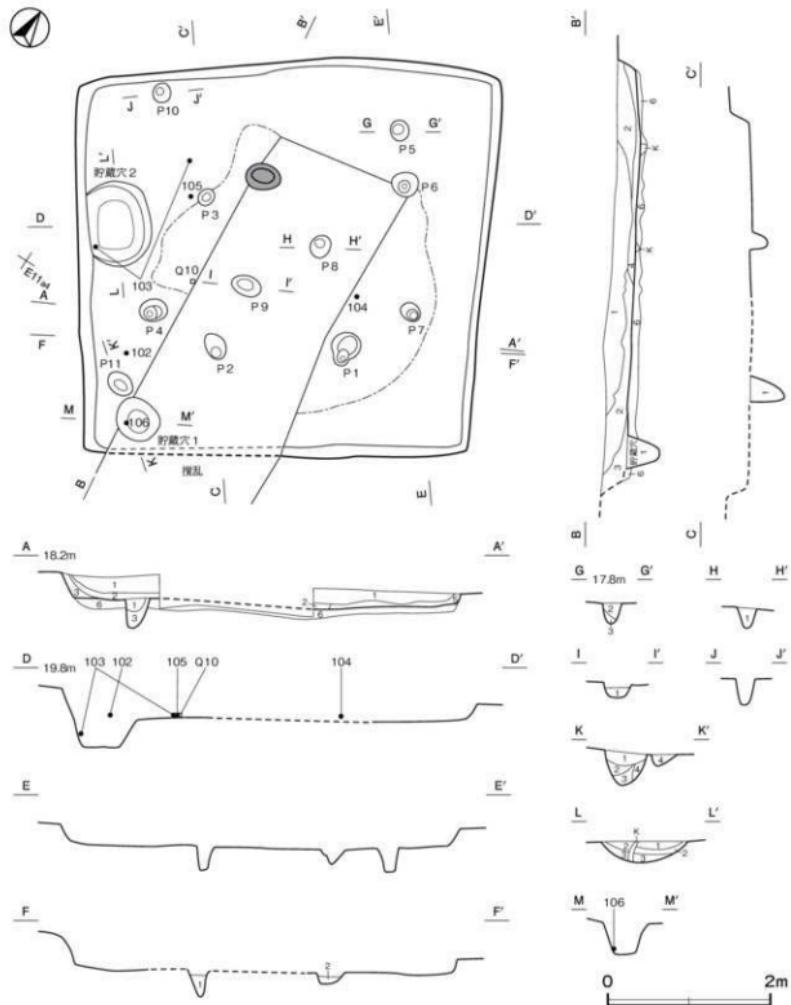
第11号竪穴建物跡(第29・30回 PL 6)

位置 D区のD11j4区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.18m、短軸4.93mの方形で、主軸方向はN-32°Wである。壁は高さ16~34cmで、外傾している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床はローム粒子を少量含む褐色土によって構成され、掘方はわずかに凹凸がみられる。

炉 北西壁寄りに位置している。長径43cm、短径32cmの楕円形で、地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。



第29図 第11号堅穴建物跡実測図

ビット 11か所。P 1～P 3・P 6は径 22～42cm、深さ 21～43cmで、配置から主柱穴である。P 4は径 32cm、深さ 34cmで、位置と規模から、出入り口施設に関わるビットである。P 5・P 7～P 11は径 24～37cm、深さ 18～40cmで、性格は不明である。

## ピット土層解説 (P1・P2・P4・P5・P8・P9・P11共通)

1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量	3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	4 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子、炭化粒子微量

貯藏穴 2か所。南コーナー部と南西壁際中央部に位置している。貯藏穴1は長径56cm、短径48cmの不整円形で、深さは46cmである。壁は外傾し、底面は平坦である。貯藏穴2は長径98cm、短径80cmの楕円形で、深さは26cmである。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。両者の新旧関係は不明である。

## 貯藏穴土層解説 (共通)

1 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子、炭化粒子微量	3 褐色 ローム粒子多量、燒土粒子、炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子中量、燒土粒子、炭化粒子微量	4 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第6層は貼床の構築土である。

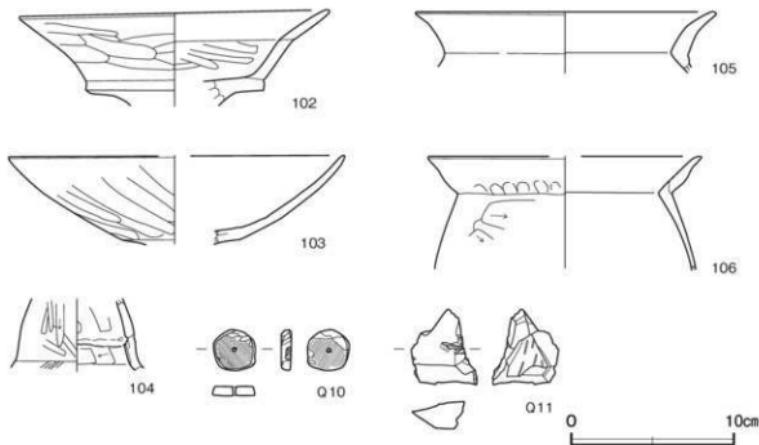
## 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、燒土粒子、炭化粒子微量	4 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子、炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子中量、燒土粒子、炭化粒子微量	5 黒褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子少量	6 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片61点(壺1、高坏10、甕50)、石製品4点(有孔円板1、滑石片3)が出土している。

105・Q10は床面から、103は床面と貯藏穴2下層から、106は貯藏穴1の下層から出土している。いずれも破片であり、廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第30図 第11号竪穴建物跡出土遺物実測図

第11号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
102	土師器	高坏	18.9	(6.0)	-	長石・石英	にぶい澄	普通	環状外・内面擦痕のナメ	覆土下層	30%
103	土師器	高坏	[20.6]	(5.3)	-	長石・石英・赤色粒子・細纖	澄	普通	環状外表面斜位のヘラ削り	床面	40%
104	土師器	高坏	-	(4.4)	-	長石・石英	にぶい澄	普通	環状外表面の細い縦・斜位のヘラ削り 内面上手ナメ、下半擦痕のヘラ削り	貯藏穴2下層	内面施熱

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
105	土器部	甕	183	(37)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ	床面	10% 煙付者
106	土器部	甕	[167]	(69)	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外画横・斜位のヘラ削り	貯藏穴1 下層	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 10	有孔円板	25	26	06	7.61	滑石	全面研磨	孔1か所	孔径0.2cm	床面	PL22
Q 11	滑石片	46	40	17	31.99	滑石	未研磨	板状	形制品	貯藏穴2 下層	

## 第12号竪穴建物跡（第31・32図 PL 6・7）

位置 C区のC9h5区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸480m、短軸412mの方形で、主軸方向はN-30°-Eである。壁は高さ76~80cmで、直立している。

**床** 平坦な貼床で、中央部から南コーナー部にかけて踏み固められている。壁下には、幅10~16cm、深さ5~11cmの縦溝が全周している。床面から覆土下層にかけて多量の焼土と炭化材が出土している。貼床は橙色土と明褐色土によって構築され、掘方は全体的に平坦で、南西壁以外の壁際をわずかに掘り残している。

**炉** 南東壁寄りに位置している。長径38cm、短径32cmの不整円形で、深さ6cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

### 炉土層解説

1 赤褐色 土塊ブロック多量、ローム粒子少量

**貯蔵穴** 南コーナー部に位置している。長径63cm、短径62cmの不整円形で、深さは93cmである。壁は外傾し、底面は平坦面である。

### 貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	4	暗褐色	ローム粒子中量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

**覆土** 33層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。第34・35層は貼床の構築土である。

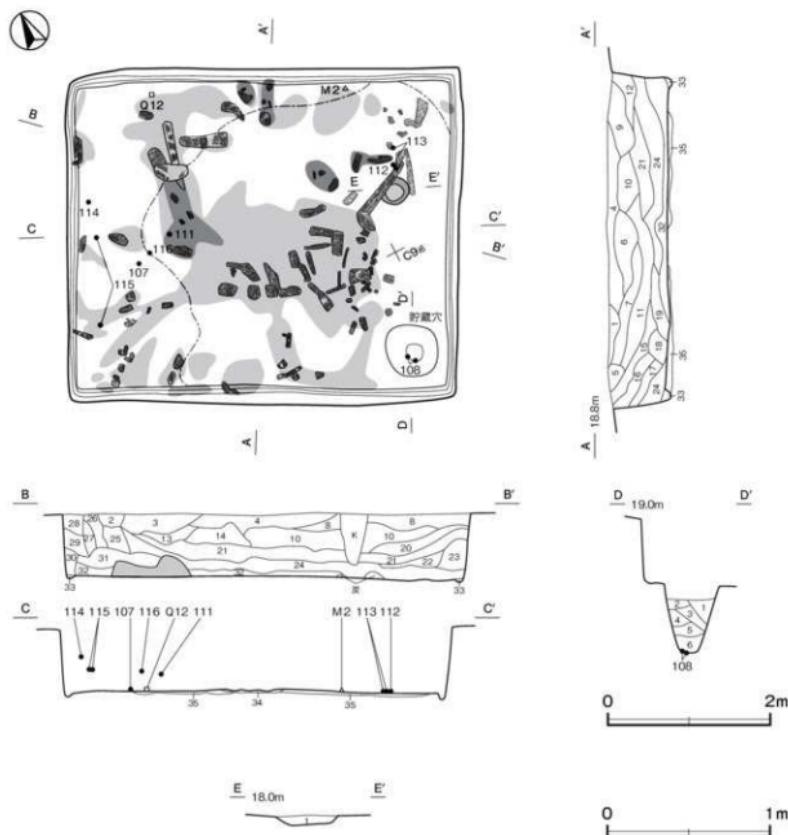
### 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量	19	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック微量	20	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック多量	21	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	22	灰褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
5	褐色	ローム粒子少量	23	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
6	褐色	ロームブロック微量	24	褐色	ロームブロック・炭化物多量、焼土粒子少量
7	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	25	にぶい黄褐色	ロームブロック多量
8	灰褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	26	灰褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
9	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	27	にぶい褐色	ロームブロック中量
10	暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	28	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
11	灰褐色	ロームブロック中量	29	黒褐色	ロームブロック少量
12	黒褐色	ローム粒子中量	30	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量
13	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	31	灰褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
14	灰褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	32	褐色	焼土ブロック・炭化物多量、ローム粒子中量
15	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量	33	褐色	ローム粒子中量
16	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	34	橙褐色	粘土ブロック少量
17	褐色	ロームブロック中量	35	明褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量
18	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量			

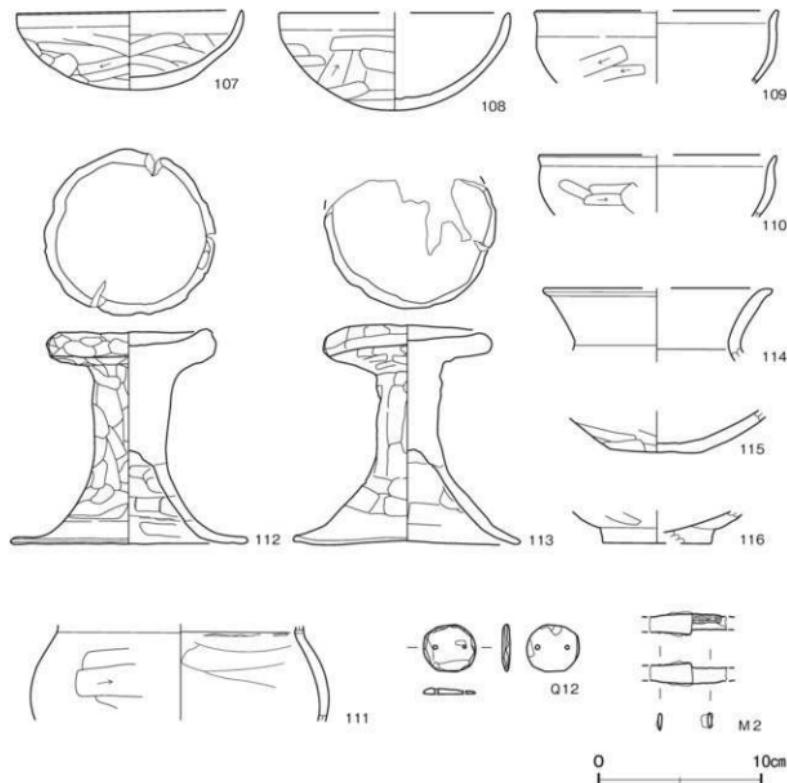
**遺物出土状況** 土器器片157点（甕35、壺1、高杯6、炉器2、甕113）、石製品1点（有孔円板）、鐵製品1点（刀子）のほか、繩文土器片2点（深鉢）、平安時代の須恵器片1点（蓋）、剣片1点が出土している。炭化材は、丸材や削材などが混在し、床面上に位置するものや、焼土の上面に位置するものがある。中央部に空

白城があり、その周囲に散在し、南側が比較的多く出土している。樹種同定の結果、コナラ属コナラ亜属クヌギ節と同定された。112・113は、炉付近の床面から並んで出土している。いずれも上面と側面の片側が火熱を受け、煤が付着している。M2は北東壁際の床面から出土している。床面や貯蔵穴底面から出土している107・108・112・113・M2は遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。多量の焼土と炭化材が出土していることから、焼失建物である。炉器台は通常3点1セットで用いられると考えられ、不足する1点は持ち出された可能性がある。



第31図 第12号竪穴建物跡実測図



第32図 第12号堅穴建物跡出土遺物実測図

第12号堅穴建物跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
107	土師器	榪	138	48	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外縁ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	床面	100%
108	土師器	榪	[142]	60	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外縁窪のヘラ削り	堅穴底面 堅穴外縁 内面・直角切欠	30% 堪付着 内面・直角切欠
109	土師器	榪	[138]	(45)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外縁横欒のヘラ削り	堅穴内 覆土中	10%
110	土師器	榪	[146]	(38)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外縁横欒のヘラ削り	覆土中	10%
111	土師器	壺	-	(58)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	10%
112	土師器	卯跡台	91	132	146	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部外面ナデ 内面ナデ、一部ヘラナデ	床面	95% PL16 堅付着
113	土師器	卯跡台	103	136	139	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部外面ナデ 内面ナデ、一部ヘラナデ	床面	PL16 堅付着
114	土師器	甕	[142]	(45)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土中層	10%
115	土師器	甕	-	(26)	5.8	長石・石英	にぶい赤茶	普通	体部外縁・斜辺のヘラ削り 底部ヘラ削り	覆土下層	10%
116	土師器	甕	-	(20)	[6.7]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外縁ヘラナデ	覆土下層	10%

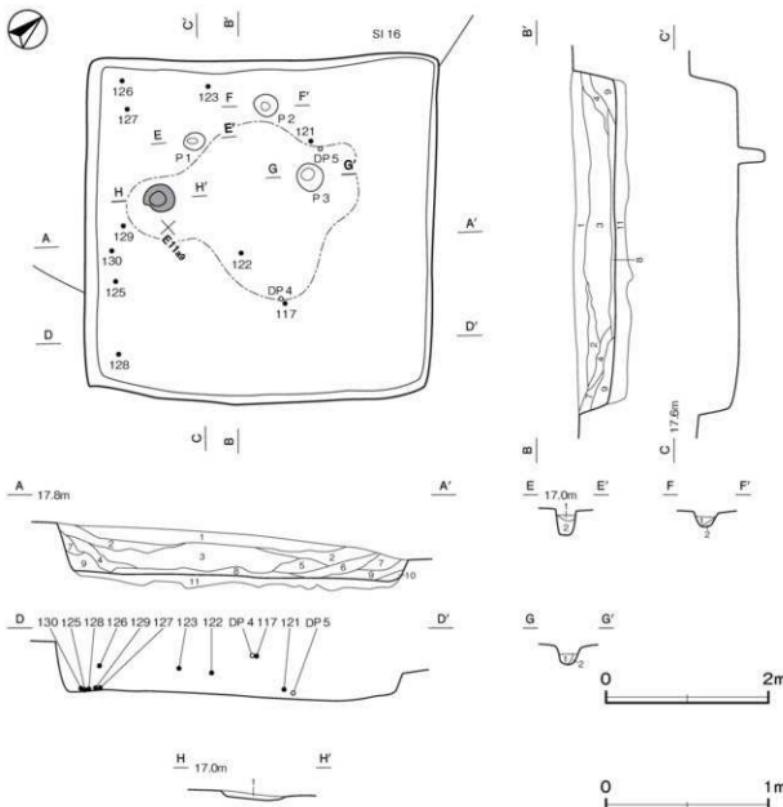
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 12	有孔円板	29	3.2	0.4	638	滑石	全面磨削 孔2か所 孔径0.21cm	床面	PL22
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	刀子	(46)	1.0	0.2	(450)	鉄	桙開 木質残存	床面	PL21

## 第13号竪穴建物跡（第33～36図 PL 3・7・8）

位置 D区のD 119区、標高17mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第16号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸431m、短軸424mの方形で、主軸方向はN-44°-Eである。壁は高さ28～57cmで、ほぼ直立している。



第33図 第13号竪穴建物跡実測図

**床** 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを少量含む褐色土によって構築され、掘方は凹凸がある。

**炉** 南西壁寄りに位置している。長径38cm、短径36cmの不整円形で、深さ4cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 塗 赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量

**ピット** 3か所。P 1は径27cm、深さ34cmで、位置と規模から主柱穴である。P 2は径30cm、深さ20cmで、位置から、出入り口施設に関わるピットである。P 3は径12cm、深さ18cmで、性格は不明である。

#### ピット土層解説（P 1～P 3共通）

1 黒褐色 ローム粒子少量

2 黄褐色 ロームブロック少量

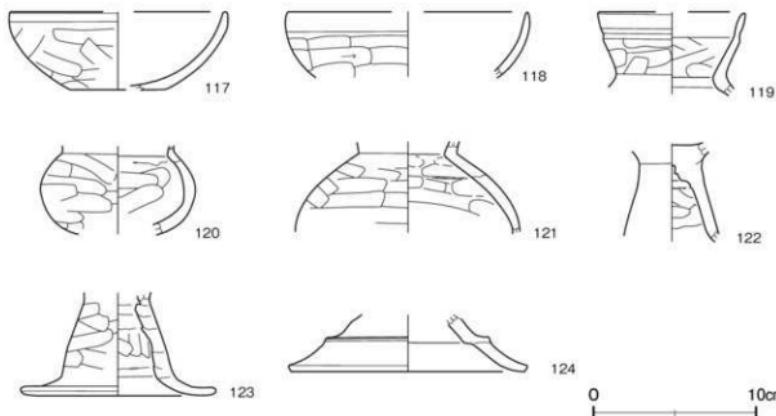
**覆土** 10層に分層できる。第1・2層は周囲から流入した自然堆積で、第3層以下は人為的な埋め戻しと考えられる。第11層は貼床の構築土である。

#### 土層解説

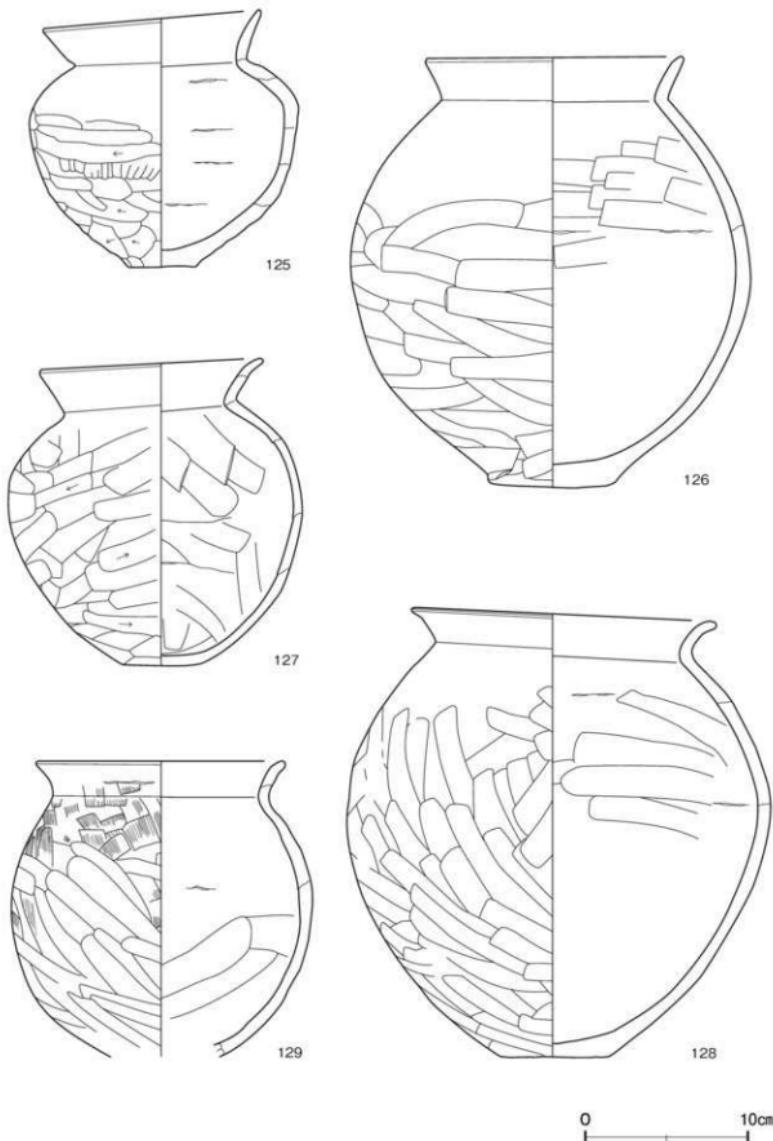
1	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子少量
2	褐褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	8	明褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子少量	11	褐色	ロームブロック少量
6	褐褐色	ローム粒子微量			

**遺物出土状況** 土師器片189点（碗4、壺4、高杯12、甕169）、土製品3点（球状土錘）、滑石片1点のほか、繩文土器片6点（深鉢）が出土している。南西壁際から、遺存状態の良い甕（125～130）が壁に沿って出土している。逆位や倒位など多様であり、建物廃絶に伴って遺棄されたものと考えられる。

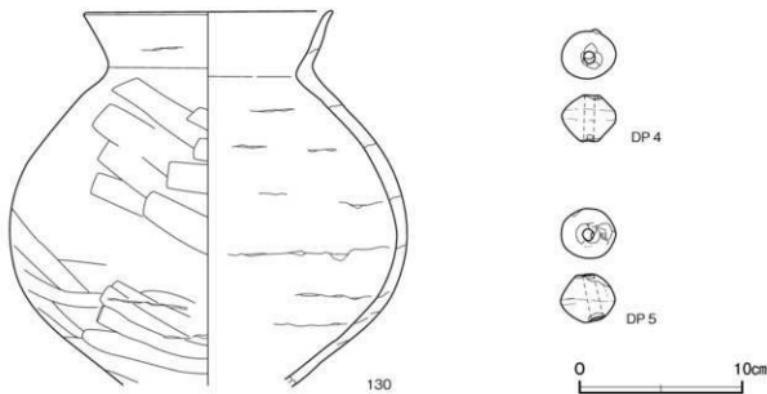
**所見** 時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。一般的な堅穴建物跡と比べ、不規則なピット配置であり、簡易な構造の建物と考えられる。甕の出土量が多いことから貯蔵施設としての性格が想定される。



第34図 第13号堅穴建物跡出土遺物実測図（1）



第35図 第13号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）



第36図 第13号竪穴建物跡出土遺物実測図（3）

第13号竪穴建物跡出土遺物観察表（第34～36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
117	土師器	榦	[132]	4.8	[5.8]	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外表面ヘラ削り	覆土上層	40% 外面被熱
118	土師器	榦	[148]	(4.0)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外表面横位のヘラ削り	覆土中	10%
119	土師器	壺	[9.0]	(5.1)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ、明瞭な段をもつ	覆土中	10%
120	土師器	壺	-	(5.4)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外・内面横位のナデ	覆土中	20% 甌材者
121	土師器	壺	-	(5.6)	-	長石・石英	棕	普通	外・内面横位のナデ	覆土下層	30% 外面被熱
122	土師器	高杯	-	(6.1)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	内面横位のナデ 接合部に腰部内側から斜窓による小孔	覆土中層	40% 甌材者
123	土師器	高杯	-	(6.3)	[12.0]	長石・石英	棕	普通	外表面横位のナデ 内面一部ナデ、輪積み痕明瞭	覆土中層	20%
124	土師器	高杯	-	(3.5)	[14.4]	長石・石英	にじ赤褐	普通	有刃跡 全体的に摩擦により調整不明	覆土中	10% 内面被熱
125	土師器	甌	132	15.8	4.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外表面柱状の長い凹掘り 一列掘立クランク式工具によって輪積み部分をナデ 口縁部、体部外表面付近	覆土下層	50% PL18 外・内面被熱
126	土師器	甌	156	26.6	7.7	長石・石英	浅黄褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外表面横位のヘラ削り	覆土中層	100% PL18 甌材者
127	土師器	甌	136	18.9	4.6	長石・石英・赤色粘土	にじ赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外表面 斜位のヘラ削り	床面	70%
128	土師器	甌	179	27.7	6.5	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外表面	床面	60% PL18
129	土師器	甌	151	(18.2)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外表面ハケ目調整後ヘラナデ 内面ヘラナデ	床面	90% PL18
130	土師器	甌	152	(23.1)	-	長石・石英	にじ赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外表面ヘラ削り	床面	50%

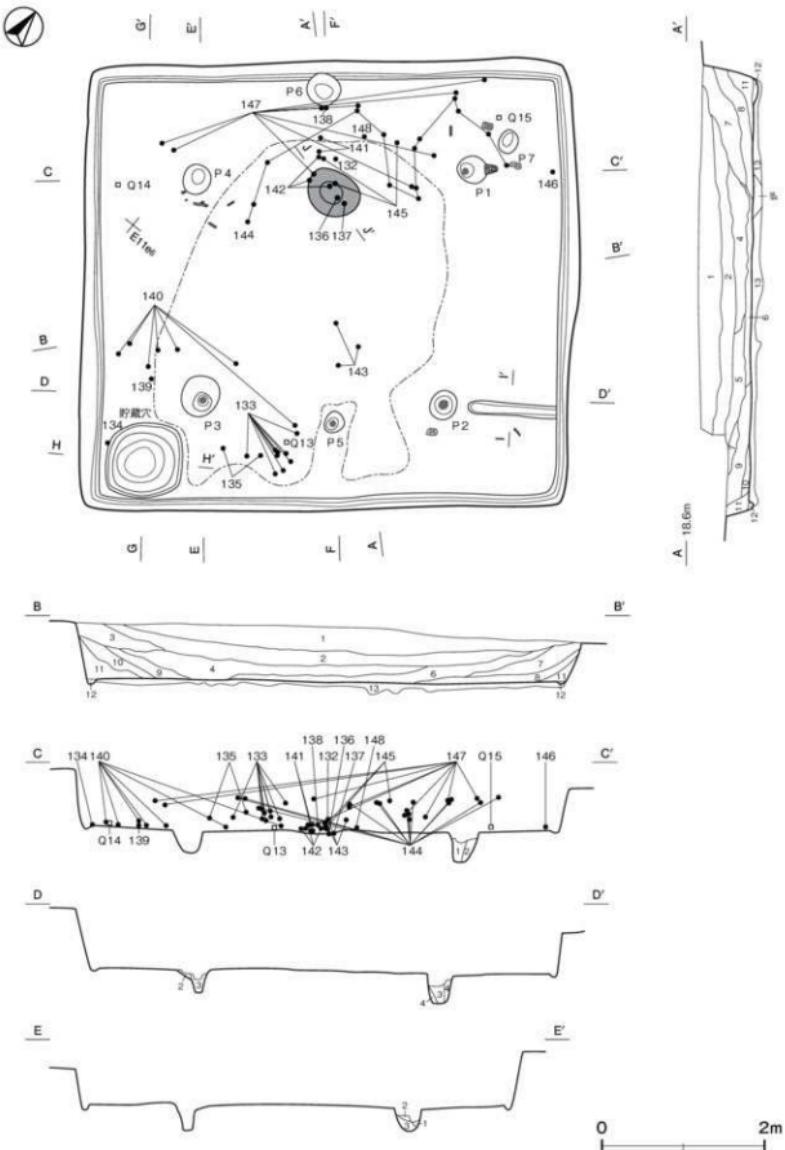
番号	種別	伴	長さ	孔径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 4	球状土錐	43	23	0.6	23.37	長石・石英	にぶい褐	ソロバン玉状 一方から穿孔 孔の端部を指ナデ	覆土上層	
DP 5	球状土錐	33	30	0.7	23.76	長石・石英	にぶい褐	ソロバン玉状 一方から斜めに穿孔 孔の端部を指ナデ	覆土下層	

第14号竪穴建物跡（第37～42図 PL 8・9）

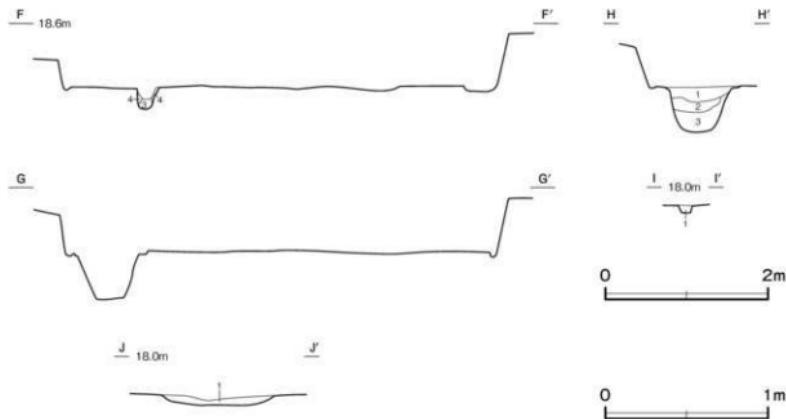
位置 D区のE 11d6区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.08m、短軸5.52mの方形で、主軸方向はN-37°Wである。壁は高さ28～68cmで、やや外傾している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅10cm、深さ8cmの壁溝が全周している。北東壁からP2に向かって、長さ110cm、幅16cm、深さ9cmの間仕切り溝が延びている。床面からは少量の炭化材が出土している。貼床はロームブロックを少量含む褐色土によって構築され、掘方は凹凸がある。



第37図 第14号竪穴建物跡実測図（1）



第38図 第14号堅穴建物跡実測図（2）

**間仕切り溝土層解説**

1 黒 色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

**炉** 北西壁寄りに位置している。長径 68cm、短径 54cm の不整円形で、深さ 5cm の地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

**炉土層解説**

1 黒 色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量

**ピット** 7か所。P 1～P 4は径 35～49cm、深さ 32～38cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5は径 27cm、深さ 26cm で、規模と位置から、出入り口施設に関わるピットである。P 6・P 7は径 41・36cm、深さ 5・8cm で、性格は不明である。

**ピット土層解説（P 1～P 5共通）**

1 黒 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒 色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

3 黒 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

4 黒 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

**貯蔵穴** 南コーナー部に位置している。長径 100cm、短径 90cm の隅丸方形で、深さは 54cm である。壁は外傾し、底面は円形で平坦である。中位に平坦な段を有している。

**貯蔵穴土層解説**

1 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

3 黒 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

**覆土** 12層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第13層は貼床の構築土である。

**土層解説**

1 黒 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

8 黒 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

9 黒 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

3 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

10 黒 色 ローム粒子少量

4 黑 褐 色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量

11 明 褐 色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

5 黑 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

12 黑 褐 色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

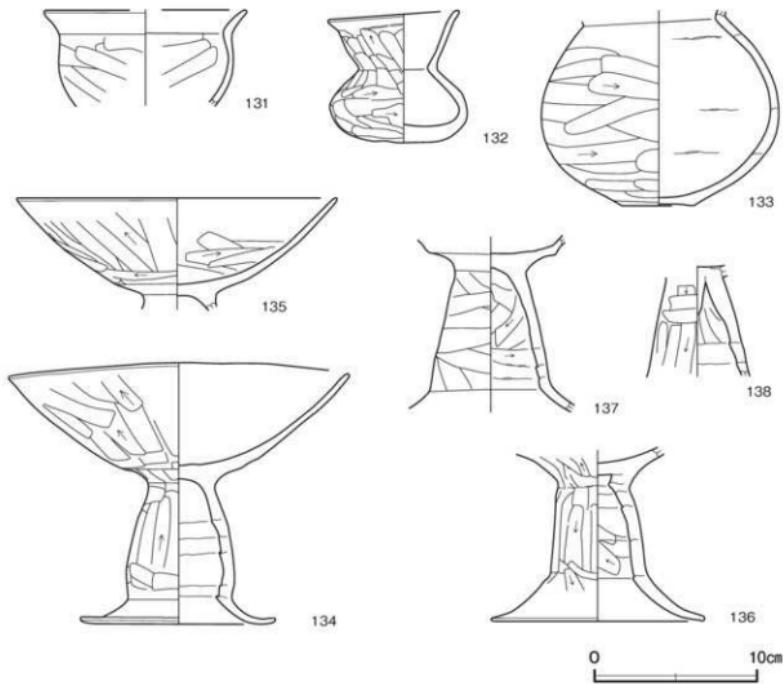
6 黑 褐 色 ロームブロック・炭化物少量

13 黑 褐 色 ロームブロック少量

7 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片 302 点（楕 1, 増 45, 高坏 18, 壺 238）, 土製品 1 点（不明土製品）, 石器・石製品 3 点（砥石 2, 刃形品 1）のほか, 繩文土器片 2 点（深鉢）, 剥片 7 点が出土している。炉と貯蔵穴の周辺からの出土量が多く、炉周辺の床面から覆土中層にかけて出土量が多い。貯蔵穴からの出土量は極端に少なく、図示できる遺物はない。床面からは火熱を受けた土器が多く、廃絶時に遺棄されたものと思われるが、覆土中から出土している土器の大部分は焼けていないことから、埋没過程で投棄されたものと考えられる。

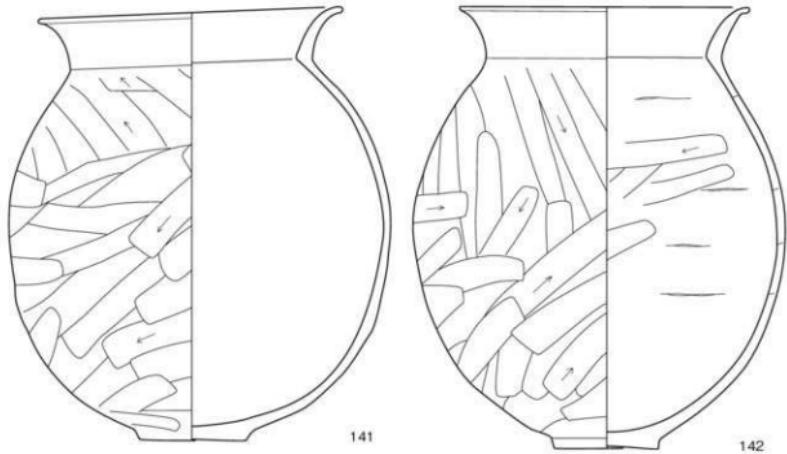
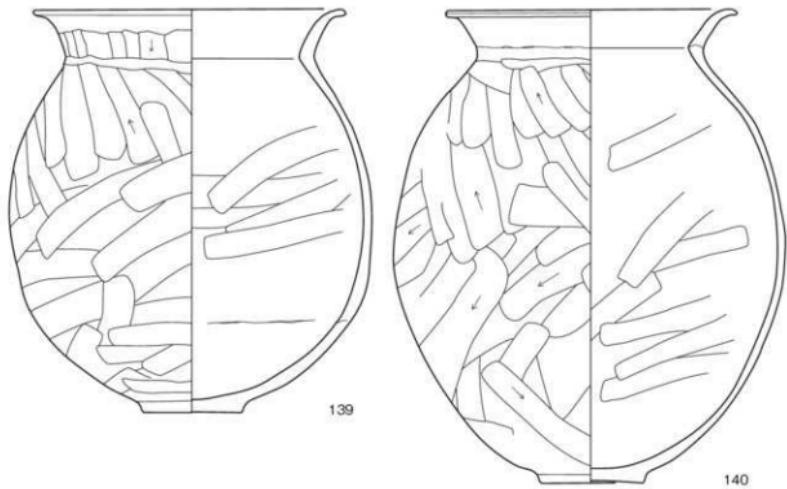
**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀前葉と考えられる。壺の保有数が多く、良好な一括資料である。覆土中に炭化物を含んでいること、床面から炭化材や火熱を受けた土器が出土していることから、焼失建物である。



第39図 第14号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）

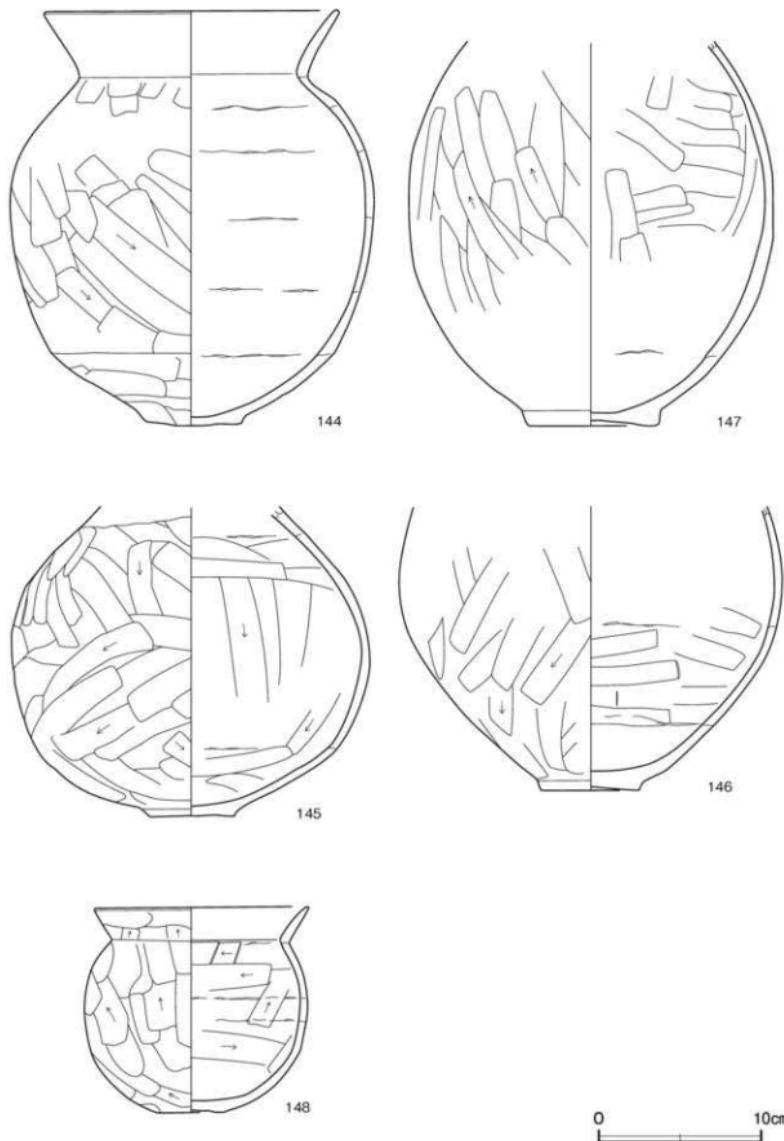
第14号竪穴建物跡出土遺物観察表（第39～42図）

番号	種別	器種	口径	覆高	底径	船	土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
131	土師器	楕	[12.3]	(5.9)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外・内面指ナデ	覆土中	20%	
132	土師器	壺	8.0	8.1	3.6	長石・石英 赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 外部へラブリ後一部指ナデ	覆土下層	100%	
133	土師器	壺	-	(12.0)	4.4	長石・石英	にぶい橙	普通	外面模様のハラブリ後一帯ヘラナデ	覆土中層～下層	90%	
134	土師器	高坏	20.8	16.0	12.0	長石・石英	橙	普通	外側外表面、斜位のへラブリ 内面未調整	床面	80% PL16 环状内面剥落	
135	土師器	高坏	19.6	(6.8)	-	長石・石英 赤色粒子	橙	普通	外表面・斜位のへラブリ 内面ヘラナデ	覆土下層	40%	
136	土師器	高坏	-	(10.6)	[13.0]	長石・石英	褐橙	普通	脚部外側斜位のへラブリ 脚部内面一部 削位のヘラナデ 中央の脚部上面に杯部を接合	床面	60% 环状内面剥落	

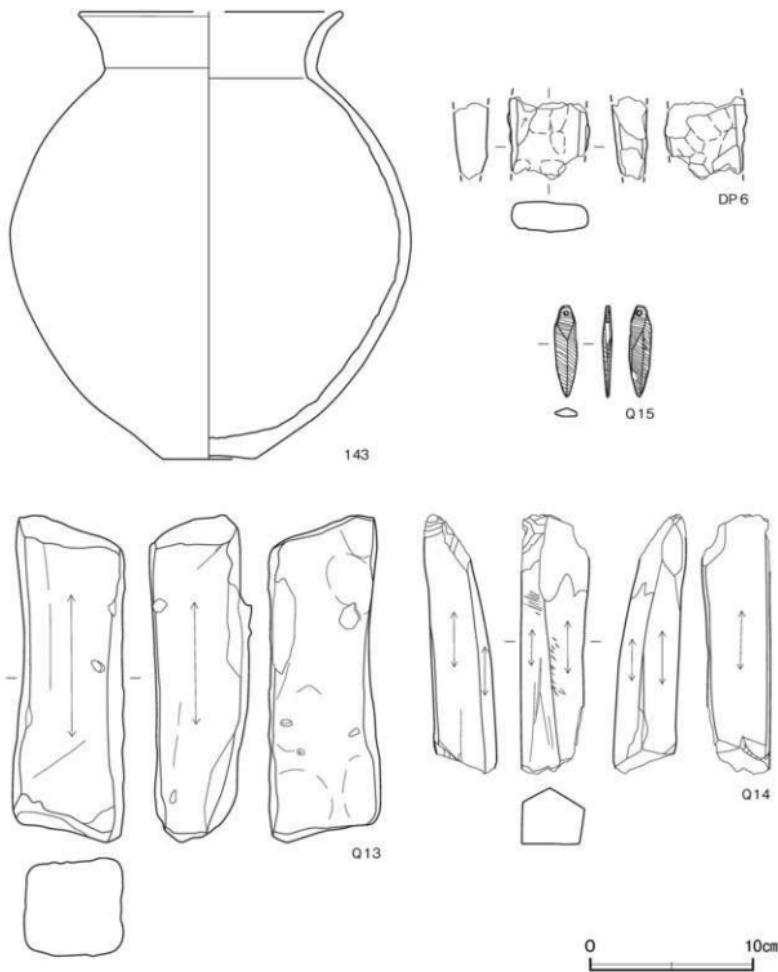


0 10cm

第40図 第14号堅穴建物跡出土遺物実測図(2)



第41図 第14号竪穴建物跡出土遺物実測図（3）



第42図 第14号堅穴建物跡出土遺物実測図(4)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
137	土師器	高环	-	(10.8)	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	脚部外面横・斜線のナデ 内面ハラ削り	床面	30% 烧成内部熟成
138	土師器	真环	-	(6.8)	-	長石・石英・白色粒子	棕	普通	外周面部位のハラ削り後一部横線のナデ 内面上斜め部位、下部横線のナデ ホリによる接合	覆土下層	20%
139	土師器	甕	18.8	24.9	6.1	長石・石英	にぶい棕	普通	口縁部外側上部・内面ナデ、底盤下半部・内面ナデ、脚部外側上部ナデ、下部ハラ削り、下部ハラナデ 内面ハラナデ	床面	95% PL19
140	土師器	甕	18.0	29.1	6.4	長石・石英	棕	普通	脚部外・内面ナデ 体部外表面不規則なハラ削り	覆土下層～	80% PL19
141	土師器	甕	12.5	26.7	6.5	長石・石英	にぶい棕	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外表面のハラ削り	覆土下層～	90% PL19
									内面ハラ削り	床面	深付型

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
142	土師器	甕	17.8	27.2	6.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面上半偏位。下半偏位のへラ削り 内面へラナデ	覆土下層 床面	95% 保有者
143	土師器	甕	[16.0]	27.5	5.6	長石・石英	橙	普通	外・内面とも掌滅のため調整不明	覆土下層	60% 全体的に鉛熱
144	土師器	甕	17.8	25.5	6.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側上半偏位。下半偏位のへラ削り 内面へラナデ	覆土下層 中層	60% PL19
145	土師器	甕	-	(19.1)	5.1	長石・石英・ 赤玉・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ へラ削り後一部へラナデ	覆土下層 中層	60%
146	土師器	甕	-	(17.5)	6.0	長石・石英・ 白色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 上半偏位から削り 下半偏位のへラ削り 内面偏位のへラナデ	覆土下層 下層	30%
147	土師器	甕	-	(23.6)	7.8	長石・石英	橙	普通	外面部のへラ削り 内面へラナデ	覆土中層 下層	30%
148	土師器	甕	13.1	12.6	4.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側部のへラ削り 内面へラ削り後へラナデ	床面	90% PL19

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 6	不明 土製品	(5.0)	(5.0)	2.2	(49.70)	長石・石英	にぶい橙	ナデ 指揮研磨、一部へラ削り 縫合形狀で一方に凹凸で彫りこなる 肩部を持つ製品の模造品。	覆土中 PL21	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 13	砥石	20.2	7.0	6.2	61.8	雲母片岩	砥面2面	床面	
Q 14	砥石	(15.9)	4.2	4.4	(345.0)	安山岩	砥面5面	床面	PL22
Q 15	鏡形品	5.6	1.4	0.5	5.00	滑石	全面研磨 両面鏡 孔1か所 孔径0.20cm	覆土下層	PL22

### 第 15 号竪穴建物跡 (第 43 ~ 47 図 PL 9 ~ 10)

位置 D 区の E 11h4 区、標高 18 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 114 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 7.80 m、短軸 7.73m の方形で、主軸方向は N - 30° - W である。壁は高さ 46 ~ 80cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅 10cm、深さ 5 ~ 8 cm の壁溝が全周している。間仕切り溝が 7 条確認でき、長さ 40 ~ 106cm、幅 10 ~ 21cm、深さ 4 ~ 7 cm である。壁溝やピットとの位置関係に規則性は認められない。P 2 に接続する間仕切り溝は、貯蔵穴の周堤を掘り込んでいる。貼床は黒褐色土と褐色土によって構築され、掘方は全体的に平坦である。

#### 間仕切り溝土層解説

1 磚 色 ローム粒子多量

炉 北西壁寄りに位置している。長径 60cm、短径 55cm の不整円形で、深さ 5 cm の地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 磚 赤褐色 土塊ブロック少量、炭化粒子少量 2 磚 赤褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 8 か所。P 1 ~ P 4 は径 25 ~ 31cm、深さ 38 ~ 42cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5 は径 18cm、深さ 18cm で、位置から出入り口施設に関わるピットである。P 6 ~ P 7 は径 31 ~ 20cm、深さ 12 ~ 24cm で、規模と配置から補助柱穴と考えられる。P 8 は径 18cm、深さ 18cm で、間仕切り溝が接続していることから、関連性のあるピットと考えられる。

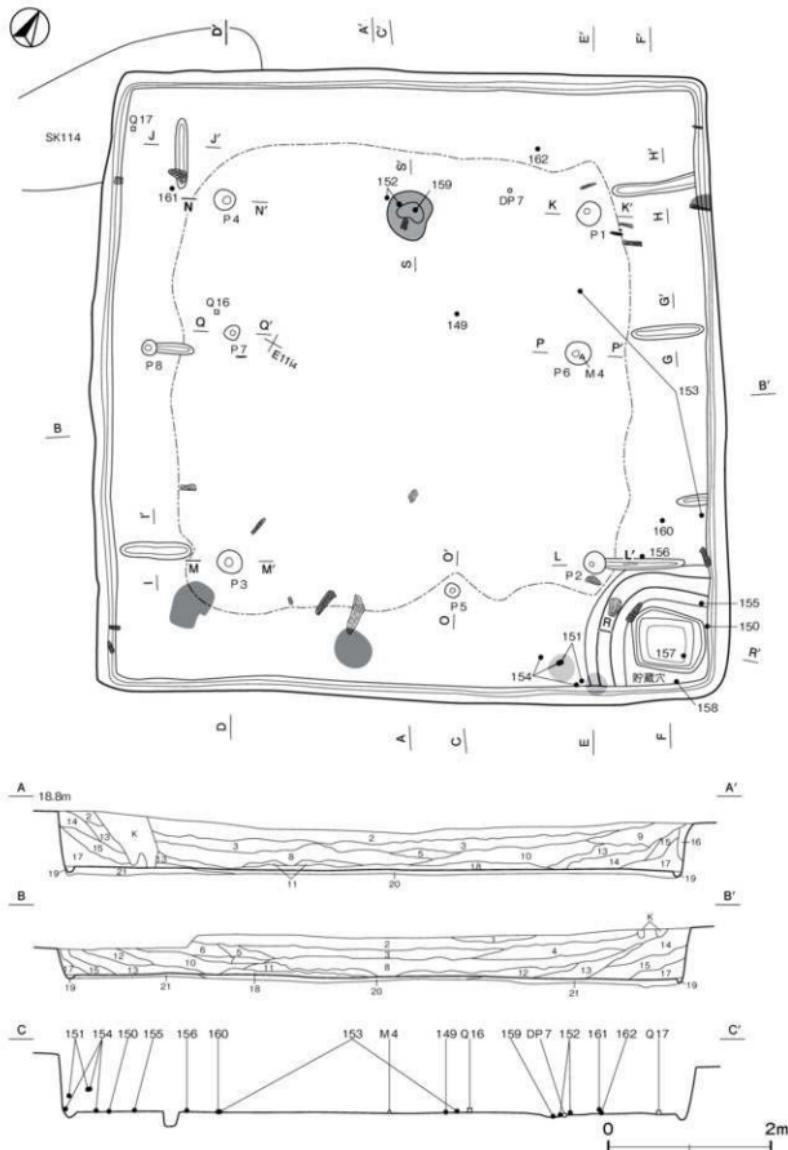
#### ピット土層解説 (P 1 ~ P 7 共通)

1 黒褐色 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 磚 色 ローム粒子多量、炭化粒子微量  
2 磚 色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

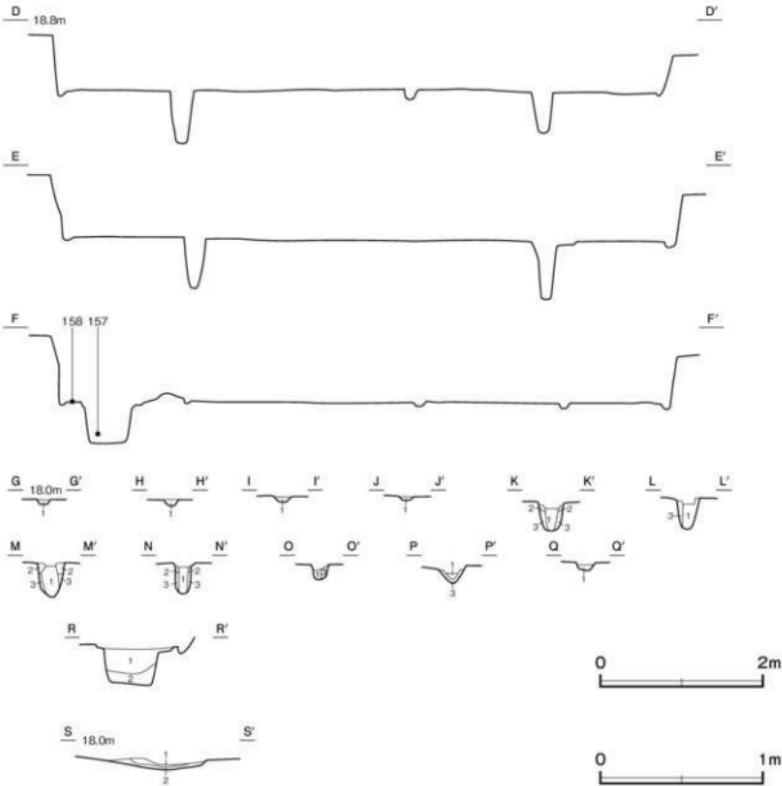
貯蔵穴 東コーナー部に位置している。長軸 89cm、短軸 74cm の隅丸方形で、深さは 43cm である。壁は直立し、底面は平坦である。中位に平坦な段を有している。

#### 貯蔵穴土層解説

1 磚 色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 2 磚 色 ローム粒子多量、炭化粒子中量



第43図 第15号堅穴建物跡実測図（1）



第44図 第15号堅穴建物跡実測図（2）

覆土 19層に分層できる。第1～4層は周開から流入した堆積状況であり、自然堆積である。第5層以下は不規則な堆積状況から埋め戻されている。第19層は壁溝の覆土、第20・21層は貼床の構築土である。

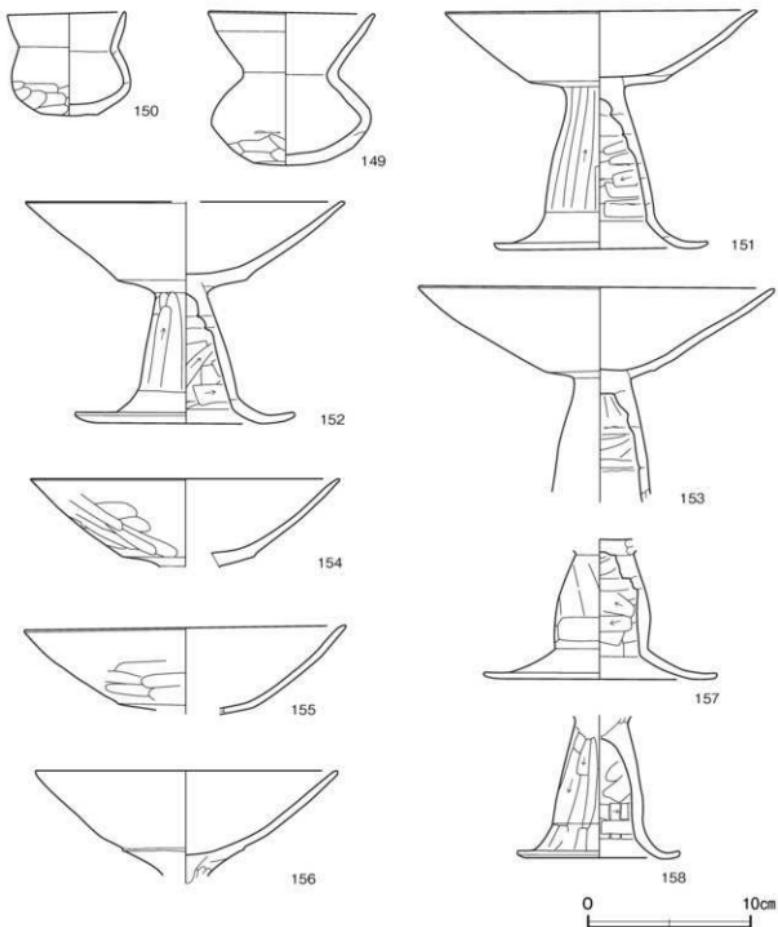
## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	12 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子少量	13 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	14 にぶい褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	15 明褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
5 斑赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量	16 褐色	ローム粒子多量
6 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	17 にぶい褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
7 斑赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子少量	18 明褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	19 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
9 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	20 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
10 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	21 褐色	ロームブロック微量
11 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量		

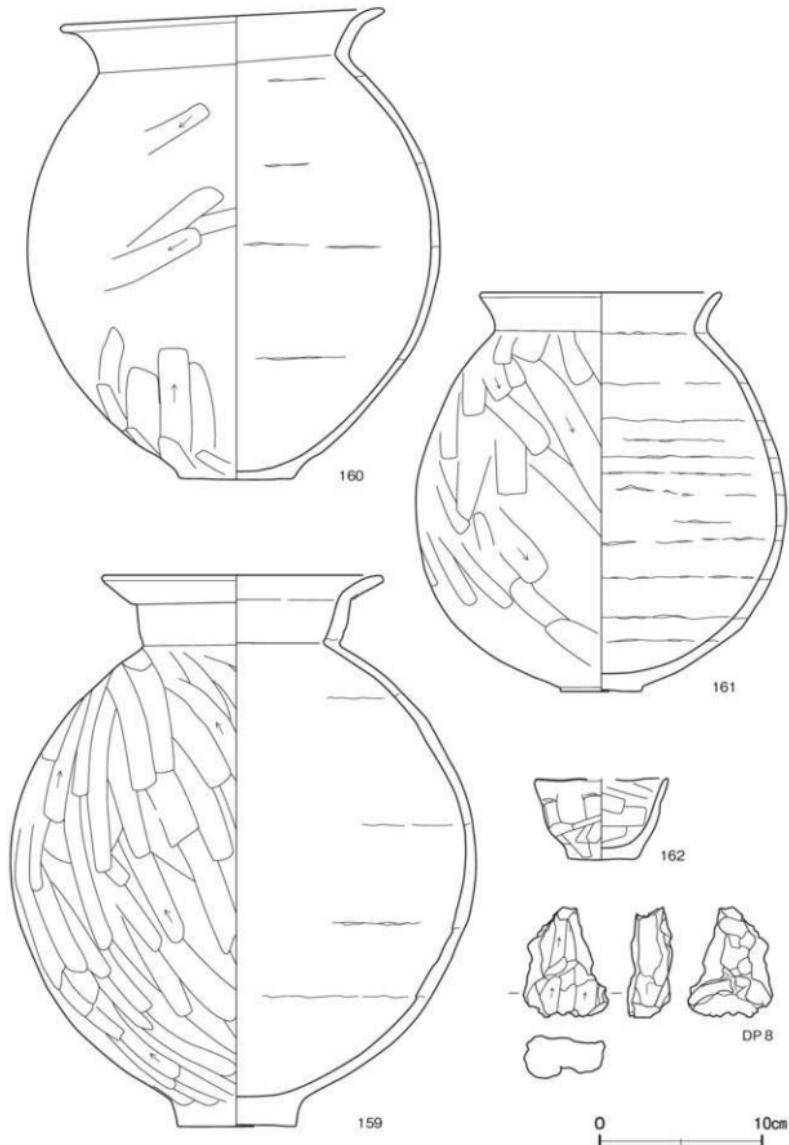
遺物出土状況 土師器片282点（埴20、高坏127、壺133、ミニチュア土器1）、土製品2点（管玉1、不明土製品1）、石製品19点（劍形品1、臼玉1、滑石片17）、鐵製品2点（鎌1、不明鐵製品）のほか、繩

文土器片 13 点（深鉢）、石核 1 点、剥片 5 点が出土している。覆土上層からの出土量は少なく、覆土下層から床面にかけて多い。滑石片は、床面から覆土下層にかけて出土している。炭化材が南コーナー部付近の床面から 5 ~ 10cm ほど上位から出土している。樹種同定の結果、コナラ属コナラ亜属クスギ節と同定された。159 は炉の底面から出土している。周囲には炉に伴う多量の焼土と、坏部と脚部が折れた状態の 152 が出土している。床面から破片で出土している遺物が多く、廃絶に伴って遺棄されたものと考えられる。

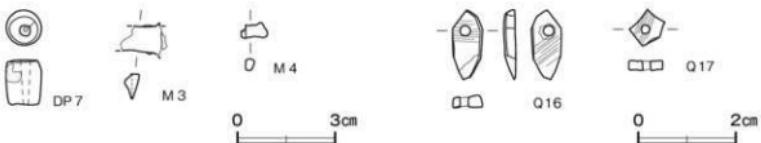
**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀前葉と考えられる。覆土中に炭化粒子を含むこと、床面から覆土下層にかけて炭化材や火熱を受けた土器が出土していることから、焼失建物である。



第 45 図 第 15 号堅穴建物跡出土遺物実測図（1）



第46図 第15号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)



第47図 第15号堅穴建物跡出土遺物実測図(3)

第15号堅穴建物跡出土遺物観察表(第45~47図)

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
149	土器部	堆	10.1	9.5	4.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ 胎部外面大部分焼成、下端ナデ	床面	100% PL16
150	土器部	堆	7.2	6.4	3.4	長石・石英	橙	普通	胎部外面下半ナデ	床面	95% PL15
151	土器部	堆	19.2	14.6	13.2	長石・石英	橙	普通	胎部外面縫合部のへラ削り 内面接合部付近未調 整、下半焼成のへラ削り	覆土下層	80% ②面内部剥落
152	土器部	高杯	[19.6]	13.6	13.6	長石・石英	にぶい橙	普通	胎部外面縫合部付近未調 整、下半焼成のへラ削り	床面	20%
153	土器部	高杯	21.8	(13.1)	-	長石・石英、 赤色粒子	橙	普通	胎部外面縫合部付近未調のナデ、下半横・斜位 のへラ削り	床面	50%
154	土器部	高杯	18.9	(5.5)	-	長石・石英	淡橙	普通	口縁部外・内面・环部外面ナデ	覆土下層	40% 床面
155	土器部	高杯	19.7	(5.4)	-	長石・石英、 赤色粒子	黄橙	普通	外面一辺ナデ。全体的に摩滅	床面	30%
156	土器部	高杯	18.6	(7.0)	-	長石・石英、 赤色粒子	にい(赤) 橙	普通	口縁部外による接合	床面	40%
157	土器部	高杯	-	(8.6)	14.3	長石・石英	にい(赤) 橙	普通	胎部外面のへラ削り 内面接合部付近未調整、 下半横位のへラ削り 中空の盤足部前面に环部を接合	野蔵穴下層	30%
158	土器部	高杯	-	(8.7)	10.0	長石・石英・雲母	明赤	普通	外縫合部位のへラ削り 内面接合部による小孔、一 箇所に限る	野蔵穴上面	40%
159	土器部	壺	17.0	33.9	7.2	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面・环部外面ナデ、折り返し口縫	床面	80% PL20
160	土器部	壺	19.5	29.0	7.9	長石・石英、 赤色粒子	にぶい橙	普通	胎部外面上部斜位、下半焼成のへラ削り	床面	90%
161	土器部	壺	14.0	24.6	5.0	長石・石英、 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面・环部外面斜位のへラ削り 輪積みの一辺位が粗雑な成形	床面	60%
162	土器部	[二重? 壺]	[8.0]	5.0	4.2	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ヘラナデ	床面	40% PL21

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 7	碧玉	1.4	1.1	1.1	1.95	長石・石英	にぶい橙	一方側から穿孔後端面ナデ 孔径 0.2~0.3cm	床面	PL21
DP 8	不明 土製品	(6.8)	(5.2)	2.7	(61.20)	長石・石英	にぶい橙	穿孔一向向のヘラ削り 胎部外面上部斜位	覆土下層	PL21

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 16	剝離品	1.4	0.6	0.2	0.30	滑石	全面研磨 孔 1か所 孔径 0.19cm	床面	PL22
Q 17	白玉	(0.7)	(0.7)	0.2	(0.30)	滑石	全面研磨 孔 1か所 孔径 0.18cm	床面	PL22

### 第17号堅穴建物跡(第48~50図)

位置 E区のH 13d9区、標高18mほどの緩斜面部に位置している。

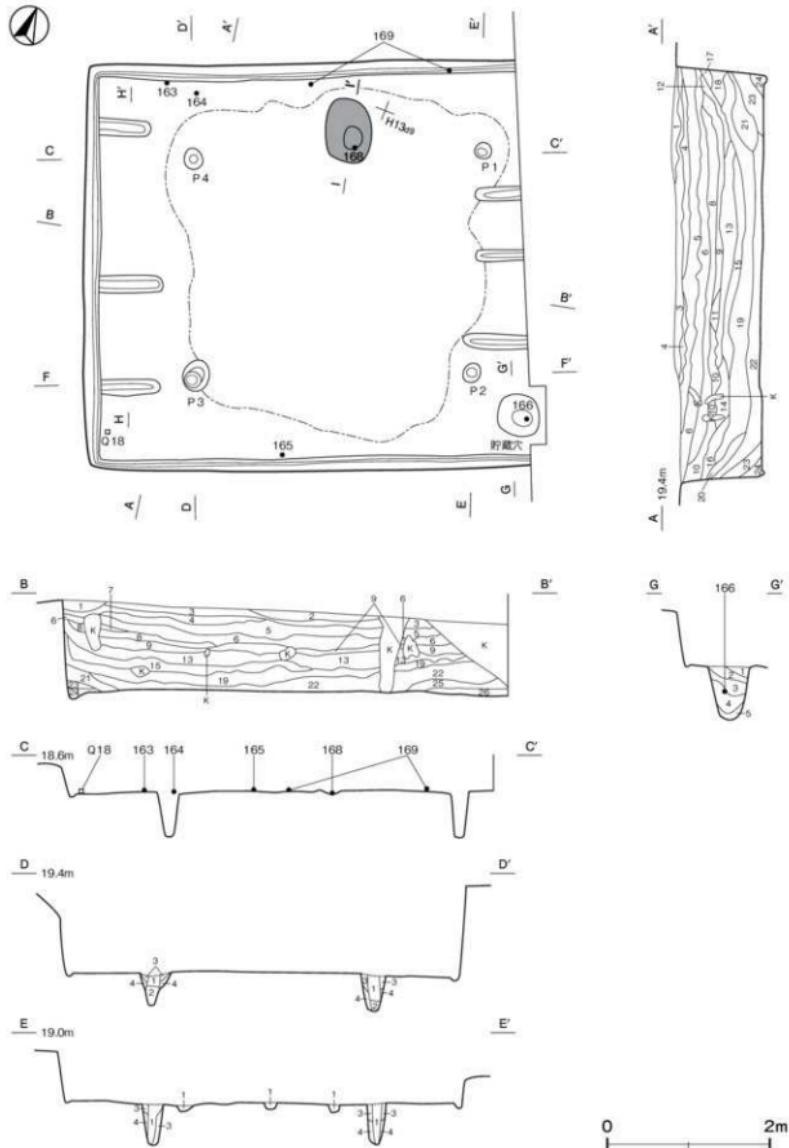
規模と形状 東部が調査区域外に延びているため、南北軸は5.02mで、東西軸は5.63mしか確認できなかった。

東西方向に長い長方形と推定でき、主軸方向はN-22°-Wである。壁は高さ28~110cmで、ほぼ直立している。

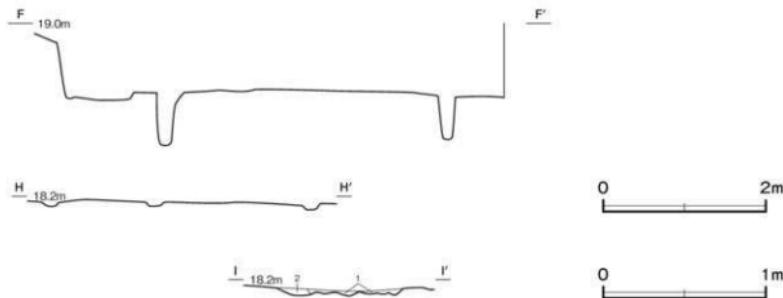
床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅10~16cm、深さ5~8cmの壁溝が全周している。

間仕切り溝を6条確認した。確認できた範囲では長さ56~80cm、幅12~22cm、深さ6~9cmで、壁溝から南北軸に直交する方向に延びている。

炉 北壁寄りに位置している。長径82cm、短径56cmの楕円形で、深さ4cmの地床炉である。使用による赤変硬化は極めて弱い。



第48図 第17号竪穴建物跡実測図(1)



第49図 第17号堅穴建物跡実測図（2）

**炉土層解説**

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子少量

**ピット** 4か所。P 1～P 4は径18～38cm、深さ40～49cmで、規模と配置から主柱穴である。

**ピット土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ローム粒子少量

2 にぶい褐色 ローム粒子中量

4 明褐色 ロームブロック少量

**貯藏穴** 南東コーナー部に位置している。長径58cm、短径50cmの不整円形で、深さは66cmである。壁はやや外傾し、底面の平坦面は狭い。

**貯藏穴土層解説**

1 明褐色 ロームブロック少量

4 暗褐色 ロームブロック少量

2 にぶい褐色 ローム粒子少量

5 暗褐色 ロームブロック少量

3 にぶい褐色 ローム粒子少量

**覆土** 26層に分層できる。薄い層がほぼ水平に堆積していることから、埋め戻されている。覆土上層（第1～14層）は暗褐色土・黒褐色土主体、覆土下層（第15～26層）は褐色土主体で、明確に区別できることから、堆積が2時期に分けられると推定できる。

**土層解説**

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

14 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

15 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

16 暗褐色 ロームブロック多量

4 黑褐色 ロームブロック少量

17 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

5 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

18 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

19 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

20 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

8 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

21 暗褐色 ロームブロック中量

9 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

22 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

10 黑褐色 ローム粒子中量

23 明褐色 ロームブロック多量

11 暗褐色 ロームブロック微量

24 にぶい褐色 ロームブロック中量

12 暗褐色 ロームブロック少量

25 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

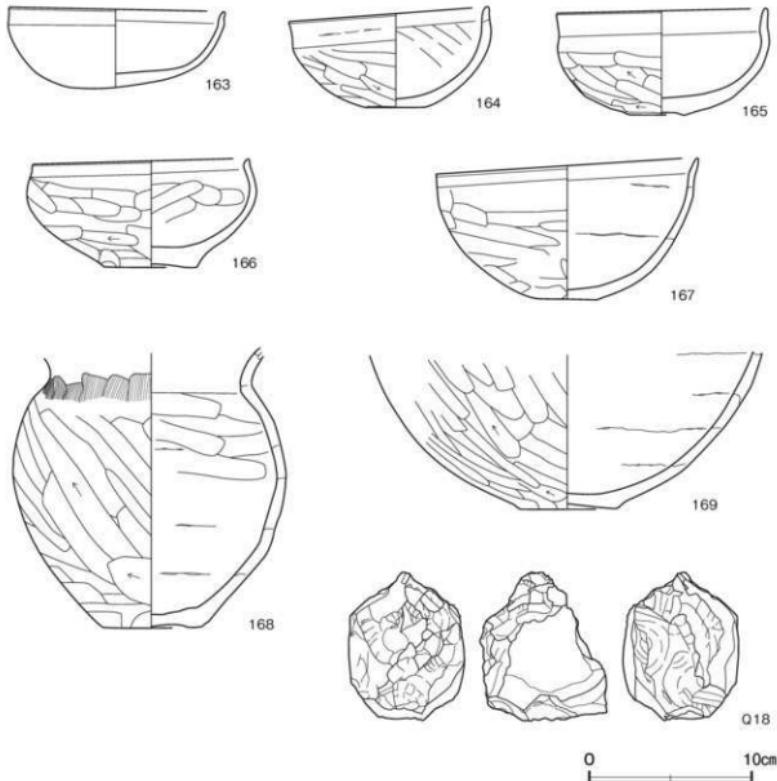
13 暗褐色 ロームブロック中量

26 明褐色 ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片56点（壺12、楕4、甕40）、滑石原石1点のほか、石器1点（敲石）が出土している。

出土量が少なく、遺存状態も悪い。163～165・Q 18は床面から、168は炉の底面から出土しており、遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。炉の使用痕跡が弱い点や、遺物出土状況などから、短期間のみ使用された建物跡と考えられる。



第50図 第17号竪穴建物跡出土遺物実測図

第17号竪穴建物跡出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
163	土陶器	环	136	4.6	-	長石・石英	明赤褐	普通	全体的に火熱を受け摩滅、調整不明	床面	95%
164	土陶器	輪	122	62	38	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ	床面	100%
165	土陶器	輪	128	6.6	34	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側へラ削り	床面	95%
166	土陶器	輪	133	67	68	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側のヘラ削り 内面ナデ	貯藏穴中層	80% PL15 内面被熱
167	土陶器	輪	160	87	38	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ 外面横位のヘラナデ	覆土中	40%
168	土陶器	甕	-	(173)	60	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外側ナデ 蔵岱のハケ目調整 体部外側のヘラ削り 内面ナデ	仰床面	20%
169	土陶器	甕	-	(9.5)	[60]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外側横位のヘラ削り	覆土下層	20% 黒・内面被熱
Q 18	滑石製石	91	2.7	7.2	5900	滑石	無	敲打痕		床面	

### 第18号竪穴建物跡（第51～53図 PL10）

位置 D区のE 12g5区、標高17mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第175号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.72m、短軸5.60mの方形で、主軸方向はN-43°-Wである。壁は高さ21～101cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、コーナー部を除く広い範囲が踏み固められている。壁下には、幅9～14cm、深さ4～9cmの壁溝が全周している。間仕切り溝が5条確認でき、長さ39～53cm、幅14～21cm、深さ4～7cmで、壁溝からそれぞれ壁と直交する方向に延びている。床面からは炭化した丸材が出土している。

#### 間仕切り溝土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

炉 中央やや南西寄りに位置している。長径113cm、短径38～53cmの不整梢円形で、深さ1～4cmの地床炉である。2か所に炉床面をもち、いずれも火熱を受けているが、硬化はしていない。覆土に差は認められず、一連の土層である。

#### 炉土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は径26～32cm、深さ64～86cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は径28cm、深さ29cmで、位置から、出入り口に関わるピットである。

#### ピット土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子中量

4 明褐色 ロームブロック中量

5 暗褐色 ロームブロック少量

6 暗褐色 ローム粒子少量

7 暗褐色 ローム粒子少量

8 明褐色 ローム粒子少量

貯蔵穴 2か所。東コーナー部（貯蔵穴1）と北コーナー部（貯蔵穴2）に位置する。貯蔵穴1は長径80cm、短径63cmの梢円形で、深さは44cmである。壁はやや外傾し、底面は平坦である。貯蔵穴2は北西壁下の壁溝に接している。長径58cm、短径48cmの梢円形で、深さは18cmである。壁は外傾し、底面に平坦面をもたない。

#### 貯蔵穴土層解説（共通）

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

4 黑褐色 ロームブロック少量

覆土 13層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子少量

3 暗褐色 ローム粒子微量

4 暗褐色 ローム粒子少量

5 灰褐色 ロームブロック微量

6 黑褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

7 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量

8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

9 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

10 灰褐色 ローム粒子・炭化粒子微量、焼土粒子微量

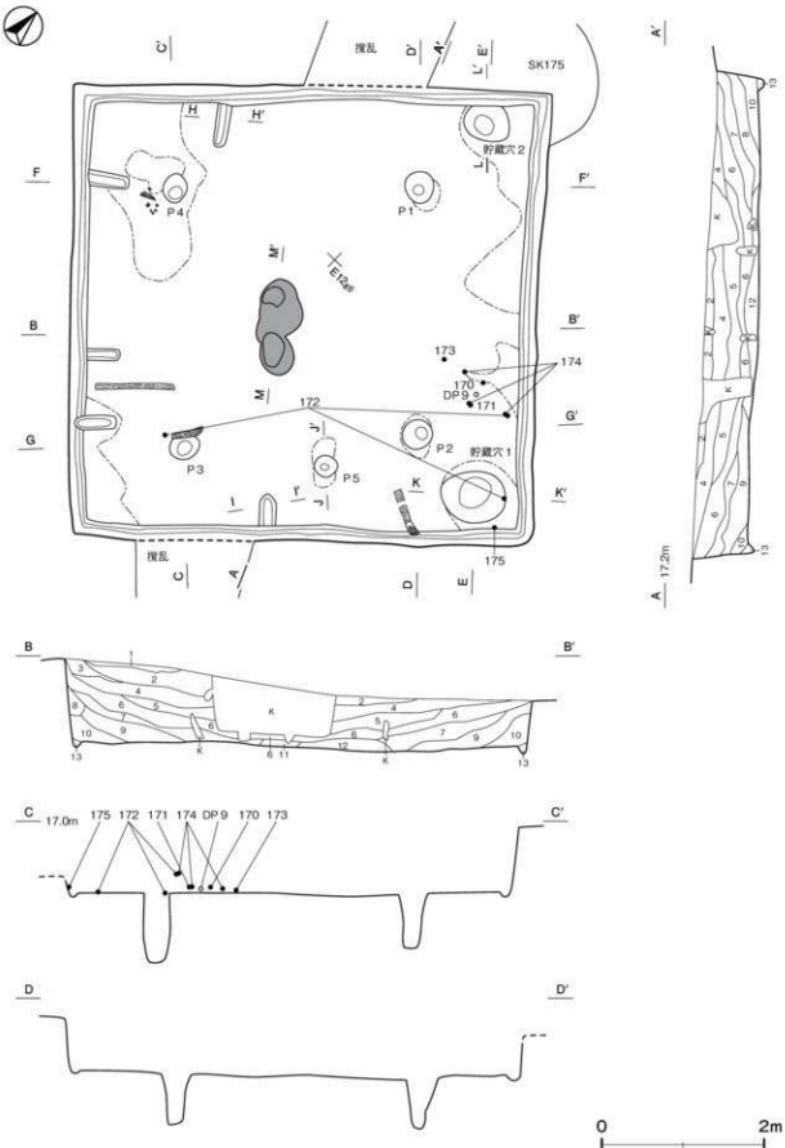
11 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子微量

12 にぶい黄褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

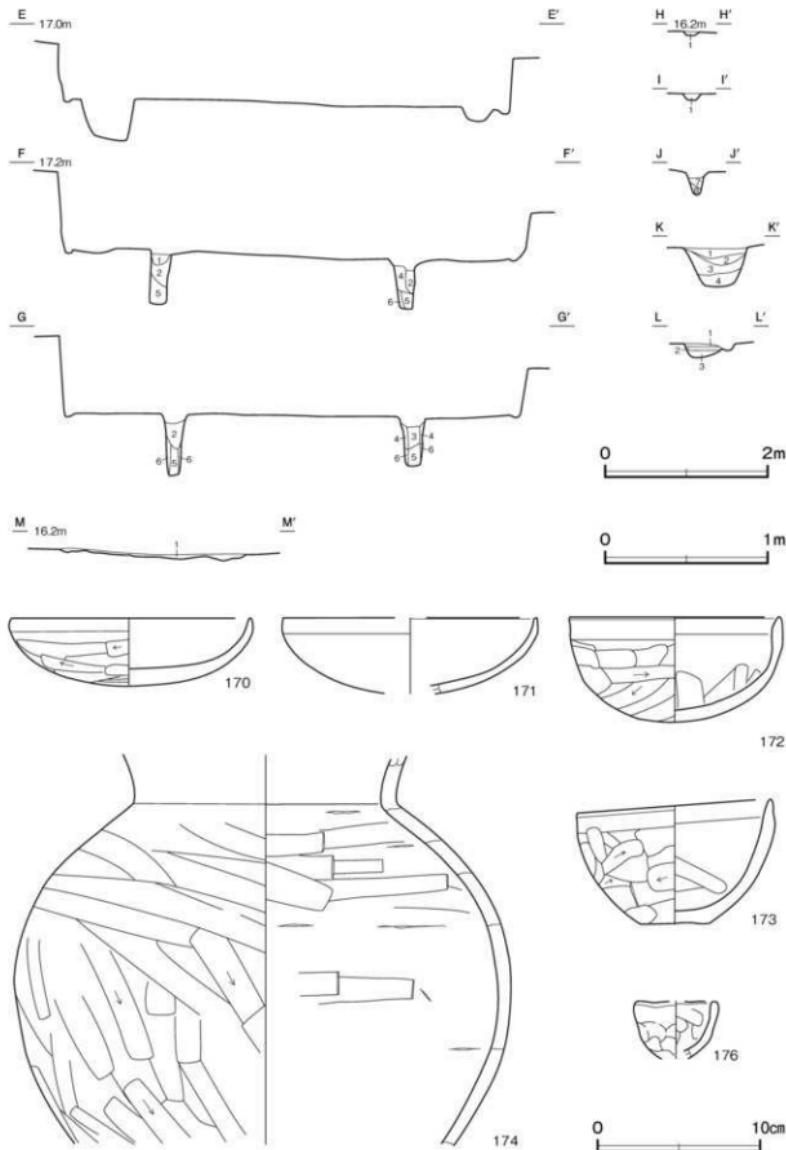
13 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片93点（环23、碗2、高杯4、甕63、手捏土器1）、土製品2点（球状土錐）、石製品3点（滑石片）のほか、縄文土器片37点（深鉢）が出土している。貯蔵穴1の周辺からの出土が多く、172は貯蔵穴1上面、P3付近の床面・北東壁際の覆土下層から出土した破片が接合している。175は貯蔵穴1と南東壁の間から出土している。ほとんどが破片の状態で出土しており、廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

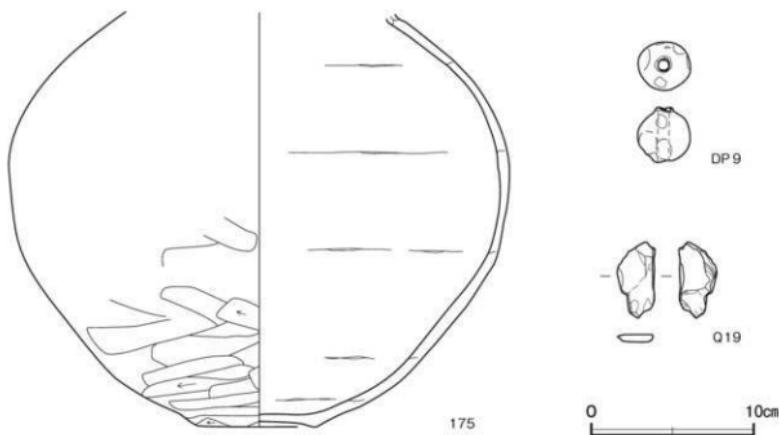
所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。覆土中に焼土や炭化物を含み、床面からは炭化材が出土していることから、焼失建物である。



第51図 第18号竪穴建物跡実測図



第52図 第18号堅穴建物跡・出土遺物実測図



第53図 第18号竪穴建物跡出土遺物実測図

第18号竪穴建物跡出土遺物観察表（第52・53図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
170	土師器	环	14.6	4.1	-	長石・石英、赤色粒子	橙	普通	口縁部・内面ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土下層	100%
171	土師器	环	[15.6]	(47)	-	長石・石英	明赤褐	普通	全体的に摩耗のため調整不明确	覆土下層	40% 外・内面被熱
172	土師器	輪	13.0	6.5	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・内面ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	90%
173	土師器	輪	11.9	7.6	4.2	長石・石英	にぶい米黄	普通	口縁部・内面ナデ 体部外面不規則なヘラ削り 内面ナデ	床面	80% PL15
174	土師器	甕	-	(24.0)	-	長石・石英、滑石、細繩	黄橙	普通	口縁部外面ナデ 体部外面上半横旋のナデ、下半斜削のヘラ削り 内面横旋のヘラナデ	覆土中層～下層	50%
175	土師器	甕	-	(25.5)	7.4	長石・石英、滑石、細繩	橙	普通	体部外面横旋のヘラ削り	覆土下層	40%
176	土師器	手揉土器	[4.8]	(3.5)	-	長石・石英	橙	普通	体部外・内面擦痕压痕、ナデ	覆土中	20%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 9	環状土鍤	32	3.4	0.7	28.45	長石・石英	橙	一方向から穿孔 孔道未調査	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	材質	特徴	出土位置	備考
Q 19	滑石片	(47)	(2.3)	0.5	(7.18)	滑石	未研磨	板状 彫刻品	覆土中	

第19号竪穴建物跡（第54・55図 PL10・11）

位置 D区のE 10d6区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸7.18m、短軸5.20mの長方形で、主軸方向はN-54°-Eである。壁は高さ48~60cmで、外傾している。

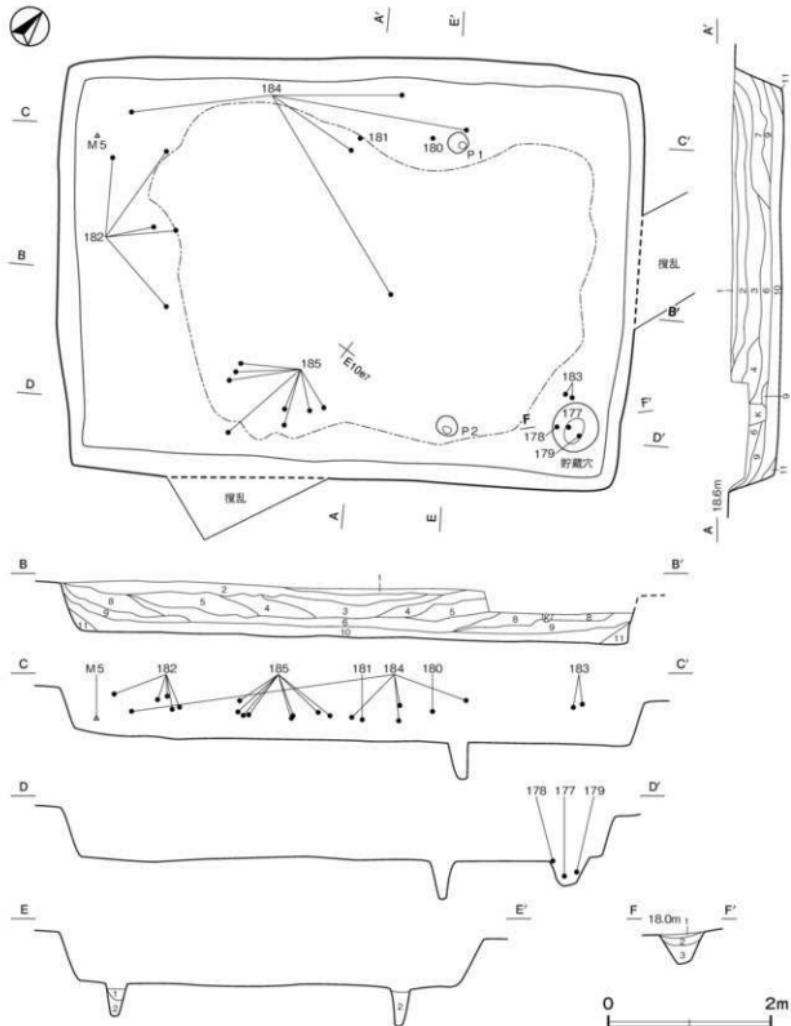
床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 2か所。P 1・P 2は径26cm、深さ45・47cmで、規模と配置から主柱穴である。

#### ピット土層解説

1 噴出物 色 ロームブロック微量

2 灰褐色 ローム粒子微量



第54図 第19号堅穴建物跡実測図

貯藏穴 東コーナー部に位置している。長径 60cm、短径 55cmの梢円形で、深さは 35cmである。壁は外傾し、底面は平坦である。

貯藏穴土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 噴褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

3 灰褐色 ローム粒子微量

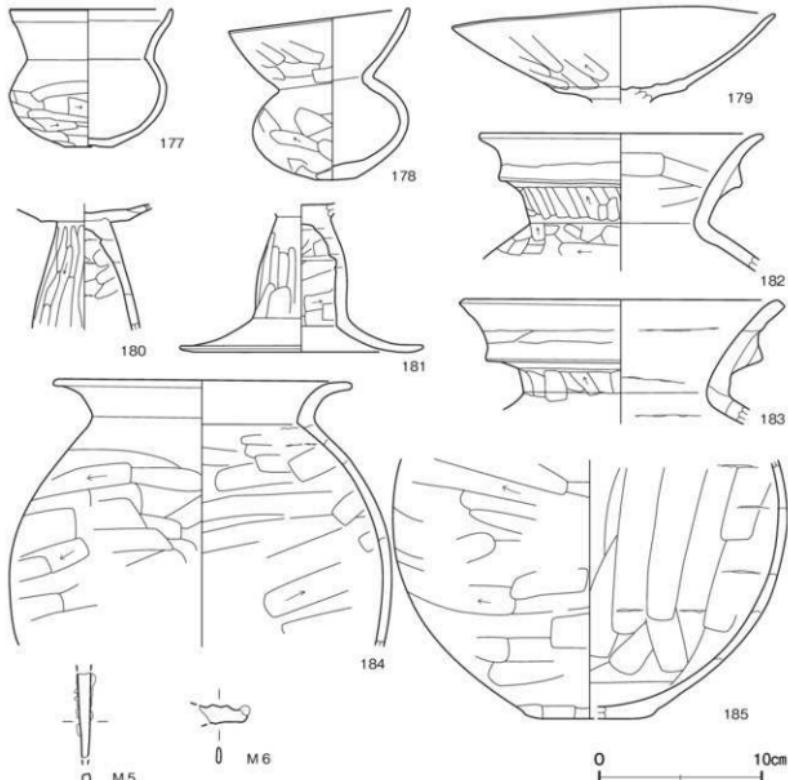
**覆土** 11層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われるが、第6層の上面に遺物が流入もしくは投棄された様相を呈しているため、第6層以下は人為的に埋め戻された可能性がある。

**土層解説**

- |         |                  |          |                  |
|---------|------------------|----------|------------------|
| 1 黒褐色   | ローム粒子微量          | 7 暗褐色    | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 灰褐色   | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 8 褐色     | ロームブロック微量        |
| 3 暗褐色   | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 9 褐色     | ロームブロック微量        |
| 4 暗褐色   | ローム粒子少量          | 10 明褐色   | ロームブロック中量        |
| 5 暗褐色   | ロームブロック少量        | 11 にぶい褐色 | ロームブロック中量        |
| 6 にぶい褐色 | ロームブロック微量        |          |                  |

**遺物出土状況** 土師器片 154点（塔13、高杯37、壺2、甕102）、鉄製品2点（釘、刀子）のほか、繩文土器片1点（深鉢）が出土している。177・179が貯蔵穴覆土から出土している。床面からの出土がみられず、覆土上層から中層にかけて出土量が多いため、大部分は建物の廃絶後の窪地に流入もしくは投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。炉を持たず柱穴が2か所のみで、簡易な建物構造である。



第55図 第19号竪穴建物跡出土遺物実測図

第19号竪穴建物跡出土遺物観察表（第55図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
177	土師器	壇	9.9	8.5	3.0	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面横位のヘラ削り	貯蔵穴中層	100% PL16
178	土師器	壇	11.2	10.5	2.6	長石・石英・ 赤色粒子	褐色	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ヘラ削り	貯蔵穴上面 （口縁部・内面ナデ）	PL16 50% PL16
179	土師器	高壺	19.7	(6.0)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面ナデ 外面縦位のヘラ削り	貯蔵穴中層	内面被熱強
180	土師器	高壺	-	(7.7)	-	長石・石英	褐色	普通	輪花外面縦位のヘラ削り 内面横位のナデ 輪花の上部に凹部を残す	覆土中層	40% 内面被熱強
181	土師器	高壺	-	(9.1)	15.0	長石・石英	明赤褐色	普通	輪花外面縦位のヘラ削り	覆土下層	40%
182	土師器	壺	17.4	(8.4)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	輪花外面縦位のヘラ削り 上部ナデ 下部縦位の ヘラ削り	覆土上層 中層	30%
183	土師器	壺	19.4	(7.7)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	輪花外面縦位のヘラ削り 上部ナデ 下部縦位の ヘラ削り	覆土上層	20%
184	土師器	甕	18.1	(16.4)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	輪花外面縦位のヘラ削り 一部ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面縦位のヘラ削り	覆土上層～ 中層	30%
185	土師器	甕	-	(16.0)	[7.2]	長石・石英	にぶい褐色	普通	輪花外面横位のヘラ削り 内面縦位のヘラ削り	覆土上層～ 中層	30%

番号	部種	長さ	幅	厚S	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 5	釘	(5.2)	0.5	0.4	(6.77)	鉄	頭部・先端欠損	覆土下層	PL21
M 6	刀子	(3.1)	1.0	0.3	(2.56)	鉄	片側が波状を呈する	覆土中	PL21

第20号竪穴建物跡（第56～59図 PL11）

位置 C区のC 10g1 区、標高 18 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第171号土坑、第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 6.98 m、短軸 6.92 m の方形で、主軸方向は N - 9° - E である。壁は高さ 5 ~ 48 cm で、やや外傾している。

床 東に向かってわずかに傾斜している。全体的に軟質の床である。

ピット 4か所。P 1 ~ P 4 は径 21 ~ 30 cm、深さ 54 ~ 79 cm で、規模と配置から主柱穴である。

#### ピット土層解説

1 にぶい褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径 52 cm、短径 50 cm の楕円形で、深さは 64 cm である。壁は外傾し、底面は平坦である。西部には、深さ 5 cm で段が設けられている。

#### 貯蔵穴土層解説

1 埋褐色 色 ロームブロック・炭化粒子少量

3 黒褐色 ローム粒子微量

2 埋褐色 色 ローム粒子少量

4 黑褐色 ロームブロック少量

覆土 7 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

#### 土層解説

1 埋褐色 色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量

5 にぶい褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量

2 埋褐色 色 ローム粒子・燒土粒子微量

6 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量

3 埋褐色 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量

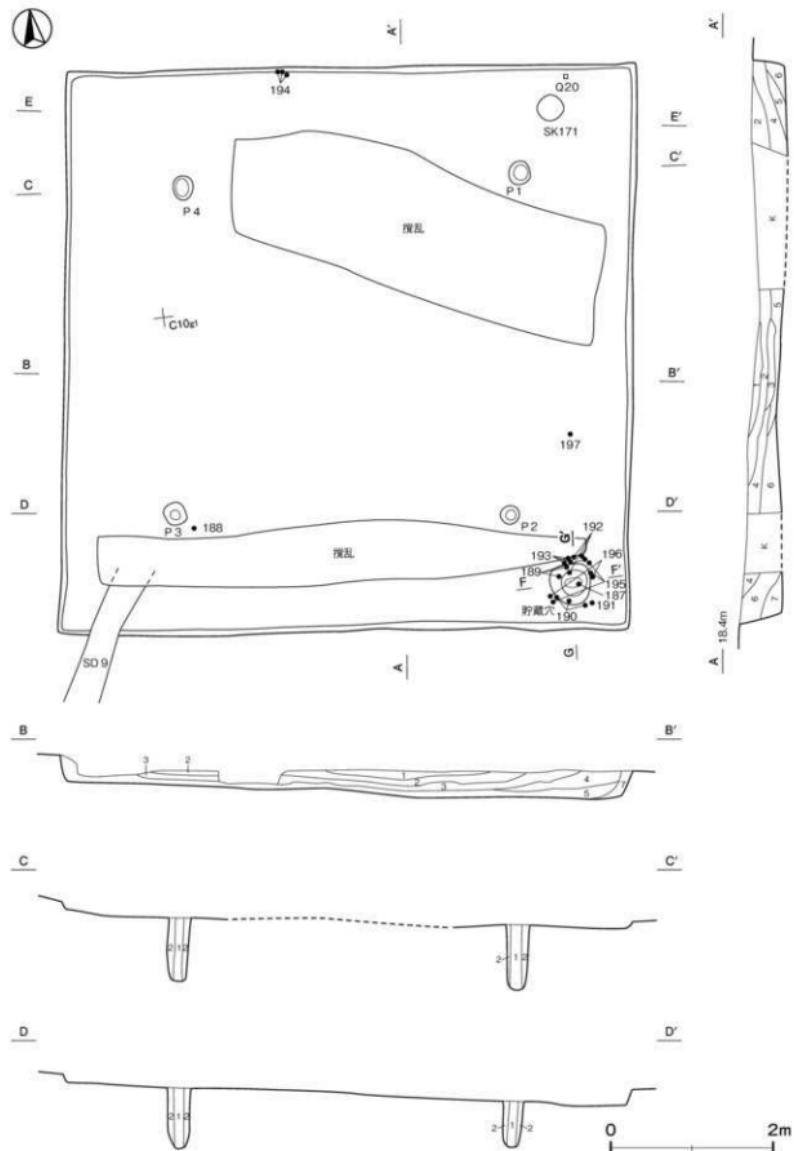
7 明褐色 ローム粒子中量

4 烧土色

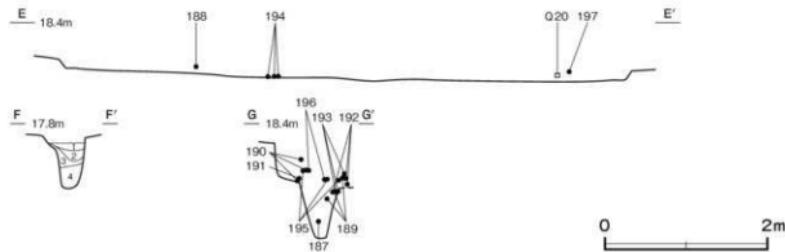
ローム粒子中量、燒土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 70 点（壇 8、壺 9、高壺 26、甕 27）、石製品 1 点（勾玉）のほか、平安時代の須恵器片 1 点（壺）が出土している。出土量は建物の中央部が極端に少なく、貯蔵穴の周辺に集中しているが、貯蔵穴の覆土からの出土量は少ないと見られる。187は貯蔵穴の下層から出土しており、上部からの転落と思われる。貯蔵穴の周辺に高壺がまとまっている点は特筆される。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀前葉と考えられる。出土土器のなかに、焼成前の穿孔がある土器が 4 点みられることが特徴として挙げられる。186は口縁部付近に内面から半分程度まで孔を開けたところで中断し、やや上に改めて穿孔している。中断された面は平坦なため、使用された工具の先端は扁平もしくは筒状と考え

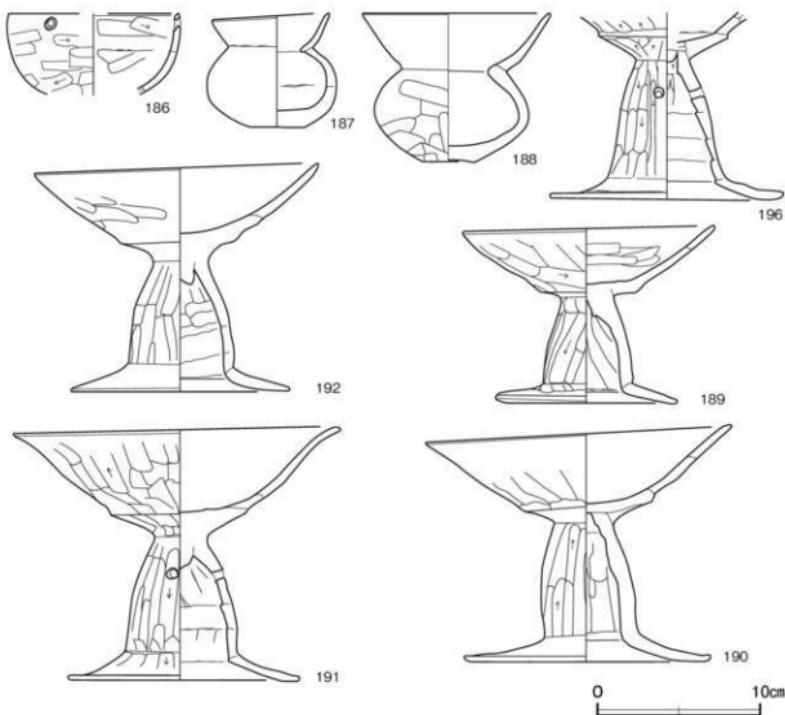


第56図 第20号竪穴建物跡実測図(1)

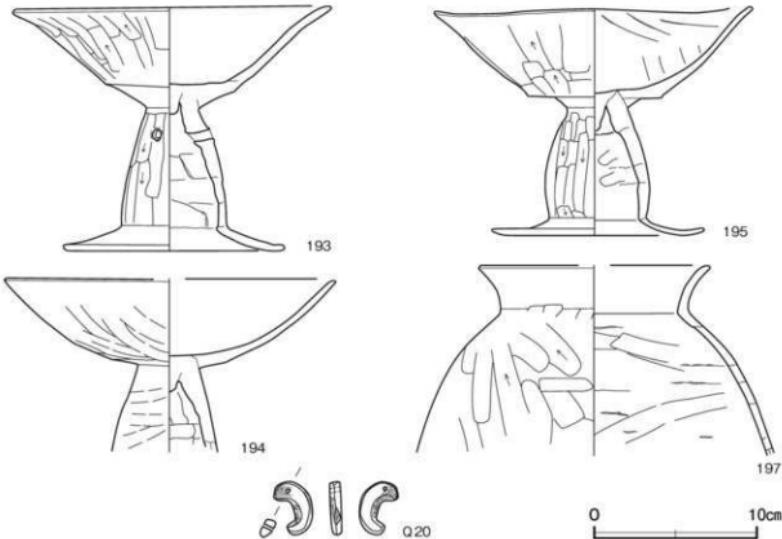


第 57 図 第 20 号堅穴建物跡実測図（2）

られる。191 は脚部に 1 か所の穿孔がみられ、両面に粘土のはみ出しが確認できることから、外面のヘラ削りを行った後に外面から穿孔している。193・196 も同様である。以上の高壙 3 点は製作技法、孔の位置などが類似し、同一工人によるものと考えられ、186 も同一の可能性が高い。



第 58 図 第 20 号堅穴建物跡出土遺物実測図（1）



第59図 第20号堅穴建物跡出土遺物実測図(2)

第20号堅穴建物跡出土遺物観察表(第58・59図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
186	土師器	輪	[10.4]	(5.0)	-	長石・石英	棕	普通 基部外側部へ削り 豆泣成形に内面から1か所の穿孔	口縁部 後半に後半ナデ 孔径0.4cm	堅穴下層 堅土少鉄熱	20% PL15
187	土師器	埋	7.2	7.0	3.2	長石・石英	にぶい橙	普通 口縁部外・内面ナデ	外縁端付着	堅穴下層 堅土少鉄熱	100% PL15
188	土師器	埋	11.5	9.2	3.2	長石・石英	棕	普通 環部外表面斜位のへら削り	内面ナデ 体部外表面ナデ	覆土下層	90% PL16
189	土師器	高环	15.3	11.0	10.8	長石・石英	棕	普通 環部外表面へ削り後ナデ	内面ナデ 内面斜位のナデ	覆土下層	90% PL17
190	土師器	高环	18.8	14.5	15.6	長石・石英	棕	普通 環部外表面へ削り後ナデ 脚部外表面斜位のへら削り	内面ナデ 中段の脚部上部に堆積を残す	覆土中層～下層	80% PL17
191	土師器	高环	19.9	15.7	14.0	長石・石英	棕	普通 環部外表面へ削り後ナデ 内面ナデ	内面ナデ 内面斜位のナデ	覆土下層	90% PL17
192	土師器	高环	17.4	14.0	13.4	長石・石英	にぶい赤褐	普通 脚部外表面へ削り後ナデ 内面ナデ ホジによる接合	脚部外表面へ削り後ナデ 内面ナデ ホジによる接合	覆土下層 堅土少鉄熱	80% PL17
193	土師器	高环	19.4	15.1	[13.1]	長石・石英	棕	普通 環部外表面のへら削り	脚部外表面へ削り後ナデ 内面ナデ ホジによる接合	堅土下層 堅土少鉄熱	70% PL17
194	土師器	高环	[20.1]	[10.6]	-	長石・石英 赤色粒子	棕	普通 環部外表面のへら削り	脚部外表面へ削り後ナデ 内面ナデ ホジによる接合	床面	50%
195	土師器	高环	19.4	13.9	12.9	長石・石英 赤色粒子	にぶい橙	普通 環部外表面のへら削り	内面ナデ 内面ナデ ホジによる接合	堅土下層	20%
196	土師器	高环	-	(11.6)	14.2	長石・石英	にぶい橙	普通 環部外表面のへら削り	内面ナデ 内面ナデ ホジによる接合 内面ナデ ホジによる接合	堅土下層	60% PL17 堅土少鉄熱
197	土師器	甕	[14.0]	(11.7)	-	長石・石英	灰褐色	普通 環部外表面へ削り	内面機位のナデ	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 20	勾玉	33	24	0.8	7.16	滑石	全面研磨 一方向から穿孔 孔径0.20cm	覆土下層	PL22

表3 古墳時代堅穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	幅 横 長さ×幅( m )	奥 高 ( cm )	床面	壁構	内 部 設			覆 土	主な出土遺物	時 期	備 考	
								柱穴	蓋入口	ピット	歩・量	深			
1	D 5a1	N - 11° - E	長方形	8.50 × 7.33	19 ~ 30	平坦	-	3	1	3	歩3	-	自然	5世紀中葉	
2	E 5e6	[N - 47° - E]	[方形容]	6.00 × 4.80	32 ~ 52	平坦	-	4	2	4	歩2	-	自然 土器類 石器	5世紀中葉	本群 → SK 1 · SD 1

表3 古墳時代堅穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形 長軸×短軸(m)	標高 (cm)	床面	壁構 王室穴 玄関口 ピット 炉・壺 切妻穴	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考	
							王室穴	玄関口	ピット					
3	D5e1	[N - 58° - W]	[方形] 7.66 × 6.16	8 - 14	平坦	-	2	2	5	-	自然	土師器、石製品	5世紀前葉 本跡→SK4-6 SD1-3-TM1	
4	C3g7	N - 58° - W	4.78 × 4.74	34 - 50	平坦	全周	4	1	1	1	自然	土師器、須恵器、 土製品、石製品	6世紀後葉 本跡→SK81	
8	D8b9	N - 13° - E	5.68 × 5.62	20 - 34	平坦	-	4	1	2	炉	1	人為	土師器	5世紀中葉
9	C9i2	N - 25° - E	4.52 × 4.52	26 - 46	平坦	全周	2	-	2	炉	1	自然	土師器、石器、 石製品、鐵製品	5世紀中葉
10	E11j0	N - 39° - W	5.18 × 5.17	79 - 93	平坦	全周	4	1	1	炉	1	自然	土師器、土製品	5世紀前葉
11	D11j4	N - 32° - W	5.18 × 4.93	16 - 34	平坦	-	4	1	6	-	2	自然	土師器、石製品	5世紀前葉
12	C9h5	N - 30° - E	4.80 × 4.12	76 - 80	平坦	全周	-	-	-	炉	1	人為	土師器、石製品	5世紀中葉
13	D11j9	N - 44° - E	4.31 × 4.24	28 - 57	平坦	-	1	1	1	炉	-	自然	土師器、土製品、 滑石器	5世紀前葉 SI16→本跡
14	E11g6	N - 37° - W	6.08 × 5.52	28 - 68	平坦	全周	4	1	2	炉	1	自然	土師器、石製品	5世紀前葉
15	E11b4	N - 30° - W	7.80 × 7.73	46 - 80	平坦	全周	4	1	3	炉	1	自然	土師器、土製品、 石製品、鐵製品	5世紀前葉 SK114→本跡
17	H13b9	[N - 22° - W]	[方舟] 5.02 × 5.63	28 - 110	平坦	全周	4	-	-	炉	1	自然	土師器、石器	5世紀中葉
18	E12g5	N - 43° - W	5.72 × 5.60	21 - 101	平坦	全周	4	1	-	炉	2	自然	土師器、土製品、 石製品	5世紀中葉 本跡→SK175
19	E10b6	N - 54° - E	7.18 × 5.20	48 - 60	平坦	-	2	-	-	1	自然	土師器、鐵製品	5世紀前葉	
20	C10g1	N - 9° - E	6.98 × 6.92	5 - 48	斜斜	-	4	-	-	1	自然	土師器、石製品	5世紀前葉 本跡→SK171 SD 9	

## (2) 土坑

## 第118号土坑（第60・61図）

位置 D区のE11b4区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.69m、短軸1.62mの円形で、底面は平坦である。深さは50cmで、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから、埋め戻されている。

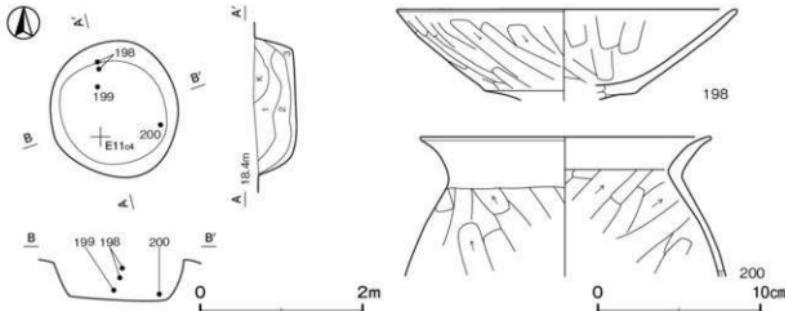
## 土層解説

1 底 暗褐色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量  
2 壁 暗褐色 ローム粒子・燒土粒子微量

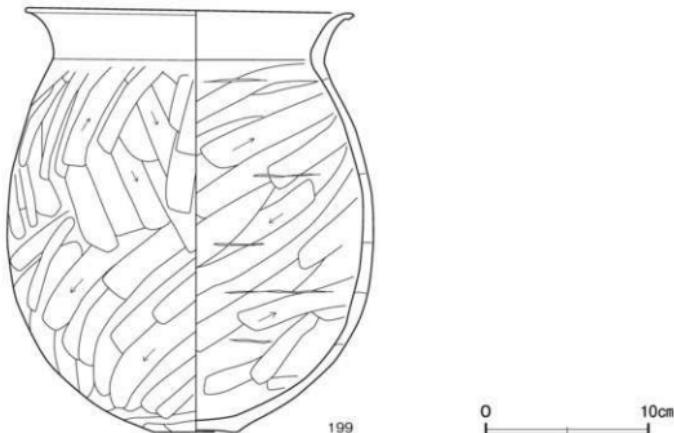
3 売 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片33点（高環1、壺22）が出土している。199・200は覆土下層から、198は覆土上層から中層にかけて出土している。完形に近い土器が含まれていることから、埋め戻しに伴って廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第60図 第118号土坑・出土遺物実測図



第61図 第118号土坑出土遺物実測図

第118号土坑出土遺物観察表（第60・61図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
198	土師器	高杯	-	20.7	(5.7)	- 長石・石英、赤色粒子	棕	普通	窓部外面斜位のへラ削り 内面へラ削り後ナデ	覆土下第一 中層	20%
199	土師器	甌	19.9	26.1	5.1	長石・石英、赤色粒子	にぶい棕	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外・内面斜位のへラ削り	覆土下層	PL20 保有者
200	土師器	甌	17.8	08.6	-	長石・石英	にひい褐色	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外・内面へラ削り	覆土下層	20%

### 3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴建物跡3棟、炉跡1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

#### (1) 堅穴建物跡

##### 第5号堅穴建物跡（第62・63図 PL11）

位置 B区のC314区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.28m、短軸2.96mの隅丸長方形で、主軸方向はN-29°-Eである。壁は高さ30~50cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁下には幅14~17cm、深さ3~7cmの縦溝が竈近を除いて巡っている。竈の袖には接していない。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで96cm、燃焼部幅は68cmである。燃焼部は、床面から深さ8cmほど掘り込み、第9・10層を埋土している。火床面は第9・10層の上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に42cm掘り込まれ、火床面から外傾している。

#### 竈土層解説

1 黒 植 色	ローム粒子、燒土粒子、炭化粒子、粘土粒子微量	3 暗赤褐色	ロームブロック、燒土ブロック、炭化粒子少量、粘土粒子微量
2 暗褐 色	ロームブロック、燒土ブロック少量、炭化粒子、粘土粒子微量	4 にぶい褐色	粘土粒子中量、ローム粒子、燒土粒子、炭化粒子少量

5	暗赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量
6	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
7	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

9	暗赤褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量
10	褐色	ロームブロック少量

**ピット** P 1 は径 33cm、深さ 17cm で、位置から出入り口施設に関わるピットと考えられる。掘方の調査時にも、主柱穴やその他のピットは確認できなかった。

#### ピット土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2	褐色	ローム粒子多量

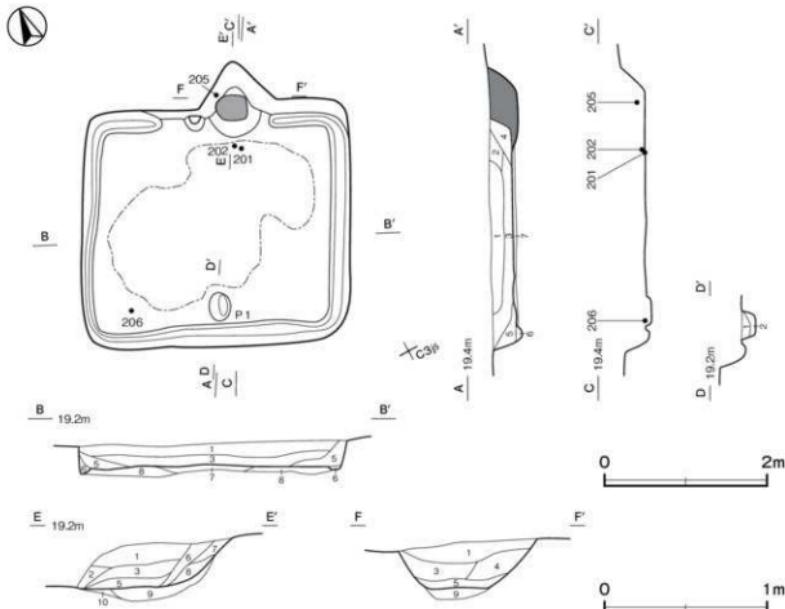
**覆土** 6 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第 7・8 層は貼床の構築土である。

#### 土層解説

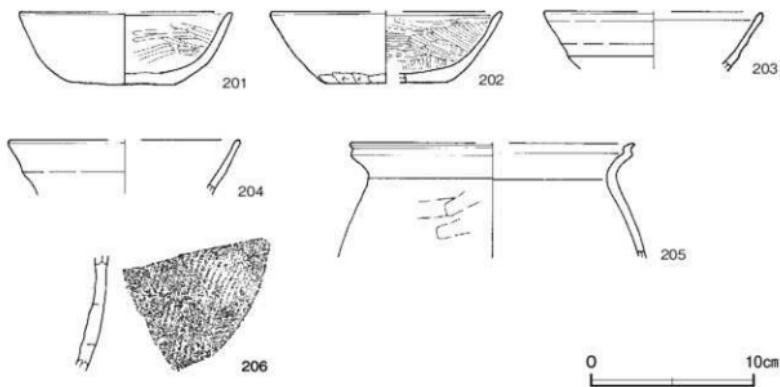
1	灰褐色	ローム粒子微量
2	黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5	黒褐色	ローム粒子少量
6	暗褐色	ローム粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
8	褐色	ローム粒子多量

**遺物出土状況** 土器器 127 点（坏 30、甕 97）、須恵器 2 点（坏、甕）のほか、縄文土器片 19 点（深鉢）、石製品 1 点（剣形）、鐵製品 1 点（不明鐵製品）が、覆土中から出土している。201・202 は竈前面の床面から、206 は南西コーナー付近の床面から、205 は竈の覆土から出土している。いずれも破片であり、廃棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から 9 世紀中葉と考えられる。



第 62 図 第 5 号堅穴建物跡実測図



第63図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図

第5号竪穴建物跡出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	部類	口径	頂高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
201	土師器	环	[130]	4.5	6.0	長石・石英	浅黄褐	普通	内面ハラミガキ、黒色処理、底部外面磨滅のため不明	床面	50%
202	土師器	环	[140]	4.4	[7.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	多底下層手持ちハラ磨り 内面ハラミガキ、黒色処理	床面	40%
203	埴器	环	[134]	(3.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	30% 外・内面少剥落
204	埴器	环	[140]	(3.4)	-	長石・石英	灰	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	10%
205	土師器	甕	[175]	(7.1)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	底部外面ハラナデ	竪内	10% 内面被熱色
206	埴器	甕	-	(7.1)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外・内面平行叩き	床面	10%

## 第6号竪穴建物跡（第64・65図 PL12）

位置 B区のD3d3区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号ピット群のP 13を掘り込んでいる。

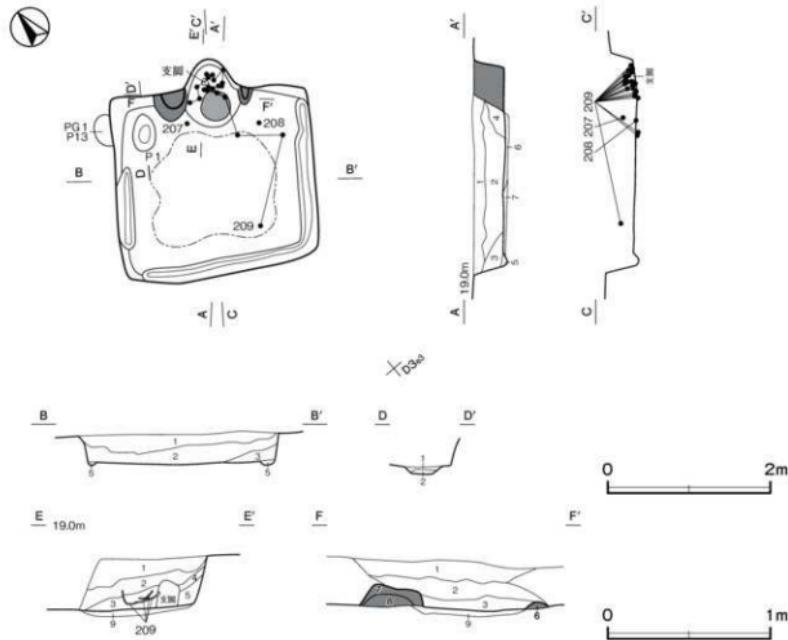
規模と形状 長軸 2.49 m、短軸 2.29 m の方形で、主軸方向は N - 35° - E である。壁は高さ 32 ~ 36 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。南東・南西壁下と北西壁下の一部には、幅 10 ~ 19 cm、深さ 4 ~ 5 cm の壁溝が巡っている。

竪 北東壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで 82 cm、燃焼部幅は 59 cm である。燃焼部は、床面から深さ 10 cm ほど掘り込み、第 9 層を埋土している。火床面は第 9 層の上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 34 cm 掘り込まれ、火床面からほぼ直立している。第 1 層は壁際からの流入土の上層で、建物の埋没が進んだ後の自然堆積土である。第 2 ~ 5 層は、ほぼ完形に復元される甕が出土していることから、甕の崩落土と考えられる。第 6 層は右袖部、第 7 ~ 8 層は左袖部の構築土である。

## 遺土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	6 暗赤褐色	燒土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	粘土ブロック・燒土粒子少量、ローム粒子微量	7 黑褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	燒土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量	8 灰褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 黑褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	9 暗赤褐色	燒土ブロック・ローム粒子少量
5 暗赤褐色	燒土ブロック・粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量		



第64図 第6号堅穴建物跡実測図

**ピット** P 1は長径45cm、短径26cm、深さ8cmで、性格は不明である。

**ピット土層解説**

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

2 褐色 ロームブロック、粘土ブロック少量

**覆土** 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第6・7層は貼床の構築土である。

**土層解説**

1 黒褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量

5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、燒土粒子微量

6 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量

7 明褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

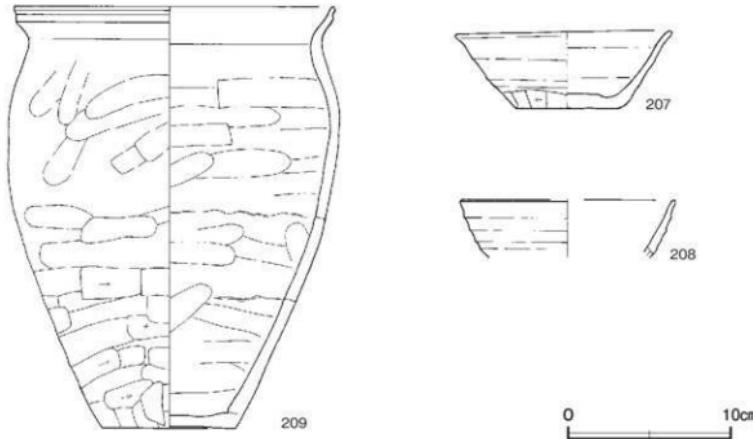
4 暗褐色 燃土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土器片21点(环6, 壺15), 須恵器片2点(环), 土製品1点(支脚), 粘土塊7点が出土している。208は床面から、209は大部分が窓内の支脚付近から出土し、一部床面や覆土中層から出土した破片が接合していることから、建物廃絶時に遺棄されたと考えられる。支脚は遺存状態が悪く、図示できなかった。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第6号堅穴建物跡出土遺物観察表(第65図)

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
207	須恵器	环	132	48	64	焼土・石英・ 赤土・繊維	にぶい濃青	普通	外・内面クロナデ 底部剥離	覆土中層	90% PL23
208	須恵器	环	[130]	(36)	-	焼土・石英・ 赤土・繊維	にぶい青	普通	外・内面クロナデ	床面	10%
209	土器部	壺	19.7	26.0	8.2	焼土・石英・ 赤土・繊維	にぶい青	普通	口縁部外・内面ナデ 部位のハラ削り 内面ナデ 底部ナデ	覆土中層	80% PL23



第65図 第6号竪穴建物跡出土遺物実測図

## 第7号竪穴建物跡（第66図）

位置 B区のC3g2区、標高18mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第1～3号墓坑、第4号溝に掘り込まれ、上部に第1号土塁が構築されている。

規模と形状 長軸350m、短軸336mの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁は高さ16～44cmで、やや外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竪 北壁中央部のやや東寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで97cm、燃焼部幅は55cmである。燃焼部は、床面の高さから13cmほど盛土している。火床面は第6層の上面で、火熱を受けて赤変硬化している。土製支脚は原位置を保っている。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、緩やかに立ち上がっていいる。

## 竪土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	6	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量	7	褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量	8	灰褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子少量
4	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック多量、炭化粒子少量	9	灰褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10	にじみ褐色	ロームブロック・粘土粒子少量

覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

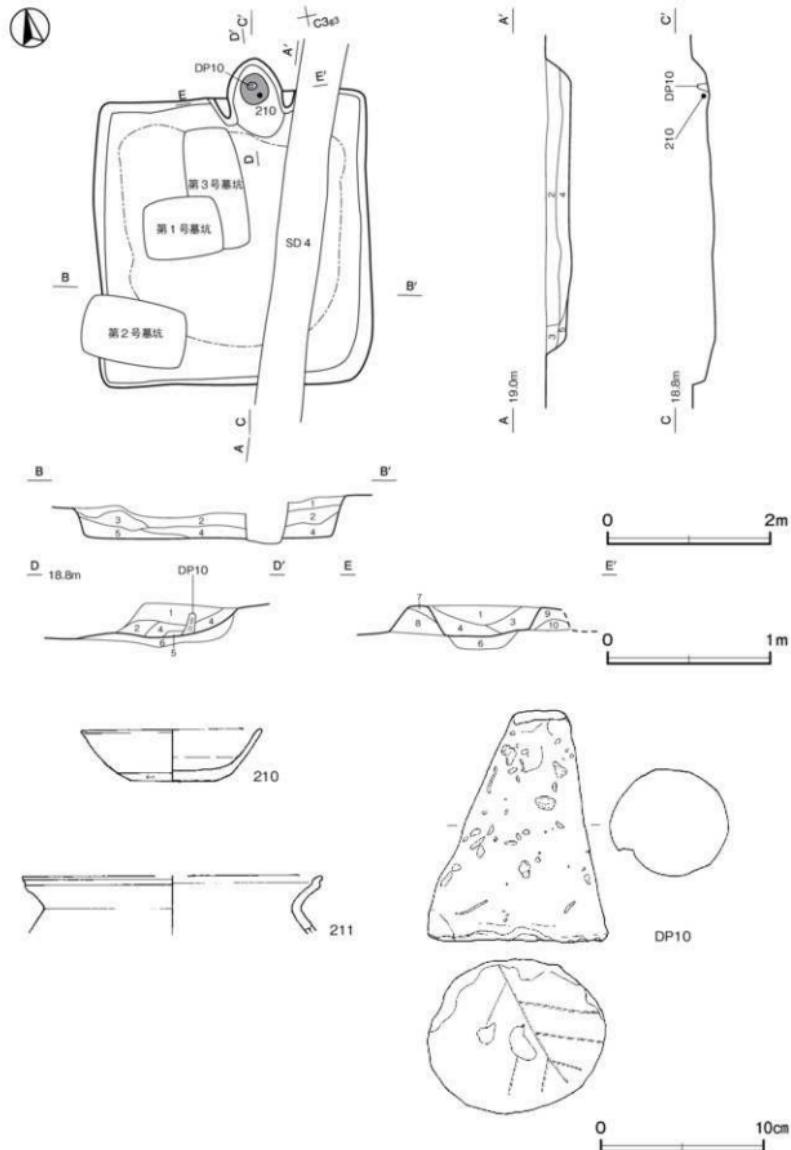
## 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ローム粒子少量	5	褐色	ロームブロック中量、・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量			

遺物出土状況 土師器片72点(环3、壺69)、須恵器片2点(环)、土製品1点(支脚)のほか、縄文土器片2点(深鉢)が覆土中から出土している。D P 10は竪火床面から、210はその前面の火床面直上から正位で出土している。

竪廐絶時に遭棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第66図 第7号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第7号竪穴建物跡出土遺物観察表（第66図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
210	土師器	环	11.0	3.2	5.2	長石・石英・ 雲母・磁鐵	にぶい橙	普通	底部下端斜軸ヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	覆土	90% P123
211	土師器	甕	[18.4]	[3.6]	-	長石・石英・磁鐵	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナナ	覆土中	10%

番号	器種	最大径	最小径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP10	支脚	11.1	3.2	14.3	845.0	長石	橙	底面木集灰	窓火床面	

表4 平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形 長軸×短軸(m)	断面 (cm)	床面	壁構 柱穴 全周	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考	
							王門穴	造入口	ビット					
5	C314	N - 29° - E	方形	3.28 × 2.96	30 ~ 50	平坦	全周	-	1	-	北壁	-	自然 土師器、須恵器	9世紀中葉
6	D3d3	N - 35° - E	方形	2.49 × 2.29	32 ~ 36	平坦	11.2 全周	-	-	1	北東壁	-	自然 土師器、須恵器、粘土塊	9世紀中葉
7	C3g2	N - 10° - E	方形	3.50 × 3.36	16 ~ 44	平坦	-	-	-	-	北壁	-	自然 土師器、須恵器、土製品	9世紀後葉 本跡→第1~3号 窓火床4.S.A.1

## (2) 炉跡

## 第1号炉跡（第67図）

位置 D区のElla4区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南側が荒れに壊されているが、径0.48mほどの円形と推測できる。火床面にはわずかな凹凸があり、深さは3cmである。

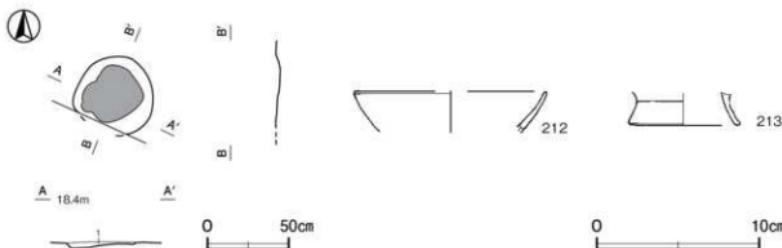
覆土 単一層である。焼土を多く含んでおり、赤変硬化している。

## 土層解説

1 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片5点（环3、高台付环1、甕1）、須恵器片4点（甕）が出土している。小片のみで、一部の土器片には火熱を受けた痕跡が認められる。

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉と考えられる。竪穴建物の窓火床面の可能性も想定されるが、付近に硬化面や柱穴等の掘り込みは確認できなかった。覆土中から平安時代の土器片が複数出土しているため、当期の炉跡とした。



第67図 第1号炉跡・出土遺物実測図

第1号炉跡出土遺物観察表（第67図）

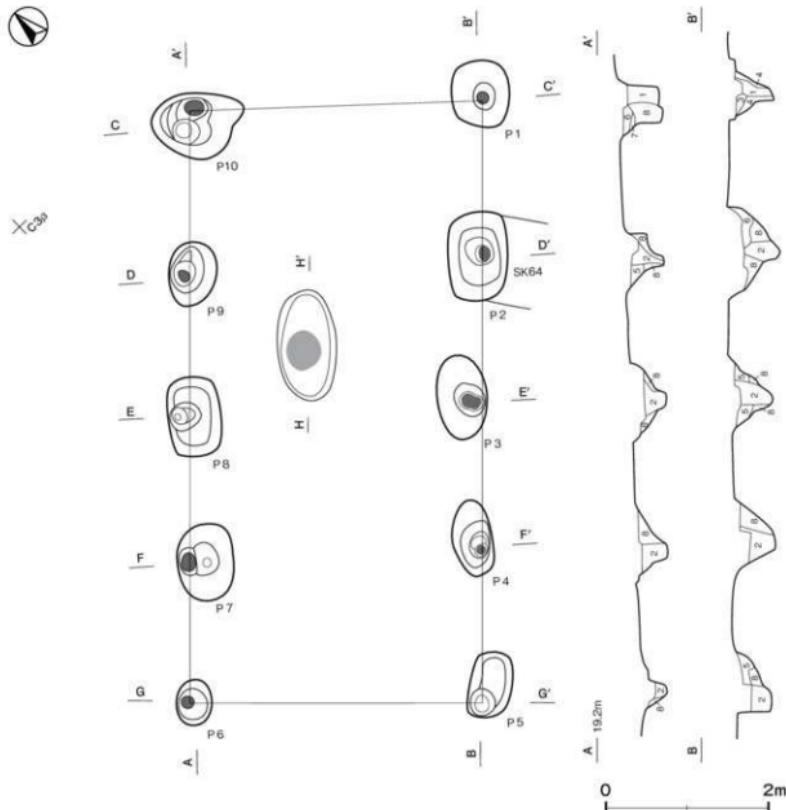
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	注記	出土位置	備考
212	土器器	坪	[口18]	(26)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ		覆土中	10% 外・内面被熱
213	土器器	高台付耳	-	[20]	[6.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ナデ		覆土中	10%

#### 4 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡1棟、塚1基、井戸跡2基、墓坑7基、土坑31基、溝跡2条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

##### (1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第68～70図 PL12）



第68図 第1号掘立柱建物跡物実測図（1）

**位置** B区のC 3b3～D 3b3区、標高19mほどの台地平坦部で、北側には同時期と考えられる墓坑をはじめ、江戸時代の井戸跡や土坑などが散在している。

**重複関係** P 2が第64号土坑を掘り込んでいる。

**規模と構造** 桁行4間。梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-44°-Eの南北棟である。規模は、桁行7.25m、梁行3.60mで、面積は26.10m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、桁行に若干の差異があるものの、18m(6尺)を基調とし、梁行は3.6m(12尺)で、柱筋はほぼ揃っている。東桁が西桁に比べ10cm長く、北東コーナーが北へわずかに張り出している。

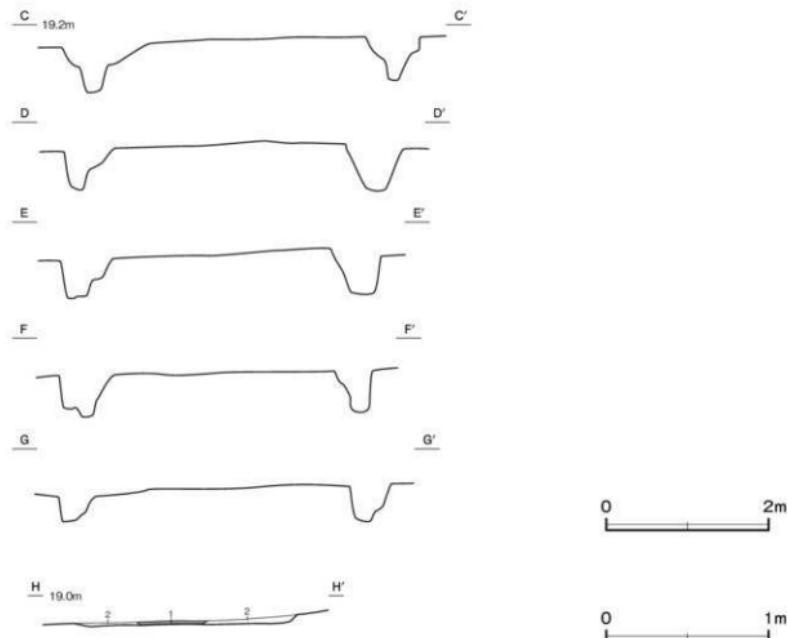
**炉** 中央北寄りに位置している。長径1.35m、短径0.73mの楕円形で、深さ4cmの地床炉である。位置関係から本跡に伴う可能性があるが、周囲に床面と思われる硬化面は確認できなかった。

#### 炉土層解説

1 細赤褐色 烧土ブロック多量、炭化粒子微量

2 黄褐色 ローム粒子多量

**柱穴** 10か所。平面形は円形、楕円形、隅丸長方形と、多様である。長径56～116cm、短径44～82cmで、深さは32～57cmである。掘方の断面形は漏斗状またはU字状で、柱部分が一段低く掘り込まれるものが多い。第1・2層は柱痕跡、第3～8層は埋土である。P 5・P 8を除いて、底面から明瞭な柱のあたりを確認した。



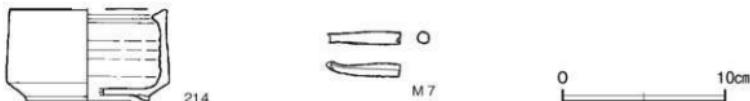
第69図 第1号掘立柱建物跡実測図(2)

**柱穴土層解説（各柱穴共通）**

1	褐	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒	褐	色	ローム粒子微量
3	暗	褐	色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
4	褐	色	色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 瓦質土器2点（甕）、陶器片1点（香炉）、銅製品1点（煙管）が、P 3・P 7から出土している。214はP 3から、M 7はP 7から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から18世紀後半と考えられる。確認した炉を本跡に含めたが、柱穴の内側で硬化面が確認されていないため、床面として機能していたかは不明である。



第70図 第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図

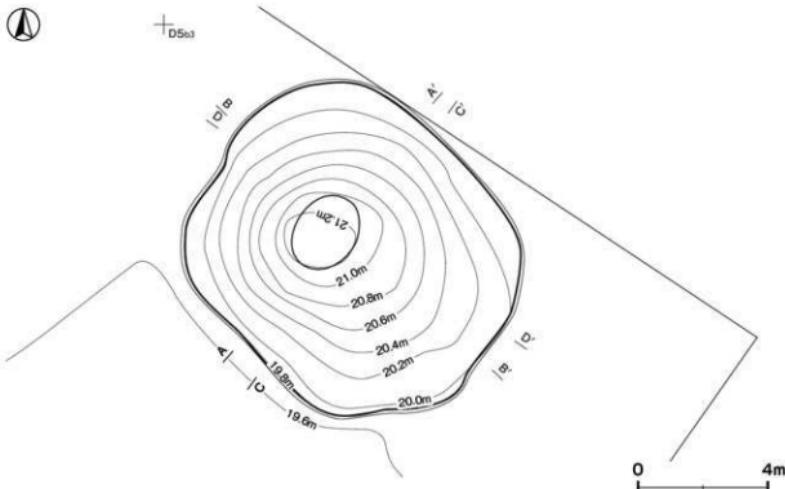
第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
214	陶器	香炉	[9.5]	5.7	[7.6]	緻密・灰白色	口縁部内外につまみ出し 底部外 底面直脚。外周脚台三足	灰釉	瀬戸・美濃系	P 3	40%
<hr/>											
M 7	煙管	(46)	—	0.7	(3.06)	潤	瓶首のみ 開板丸め後傾付け			P 7	

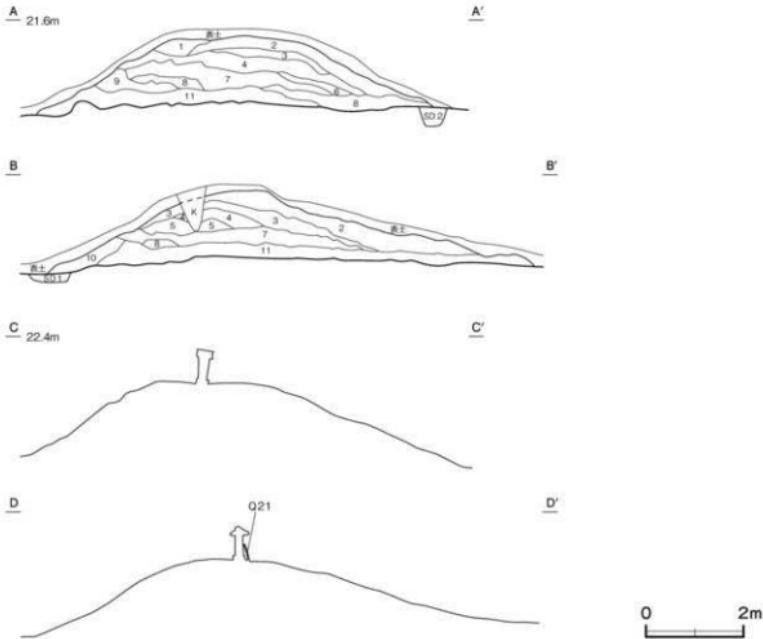
(2) 塚

**第1号塚（第71～73図）**

**位置** A区のD 5 b3～D 5 d5区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。



第71図 第1号塚実測図（1）



第72図 第1号塚実測図（2）

**確認状況** 調査前の段階で、本跡の墳頂部に祠と板碑が南東向きで祀られていた。表土の表面からは土師器や陶器などを確認した。本跡は吉原向古墳として登録されていたため、古墳の可能性も考慮し調査を開始した。

**重複関係** 第3号竪穴建物跡、第4～6号土坑、第1～3号溝跡の埋没後に構築されている。

**規模と形状** 長径9.98m、短径8.66mの楕円形で、長径方向はN-46°-Wである。旧表土面から墳頂部までの高さは178cmである。

**構築土と構造** 構築土は11層に分層できる。全体的に黒褐色の土を盛土して構築している。下層の中央付近(第7・8・11層)はロームブロックを含み、締まりが強い。上層は下層に比べ、ロームブロックの含有量が少なく、締まりも弱い。基盤を意識した結果、下層は強く構築し、上層は比較的簡素に土を積み上げて構築したと考えられる。

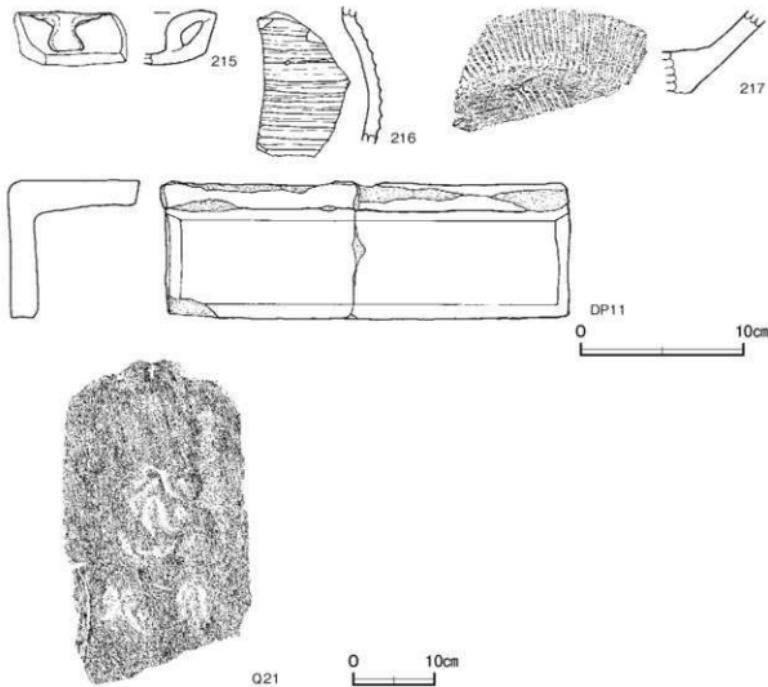
#### 土層解説

1 黒 色	ローム粒子微量、締まり弱い	7 灰 褐 色	ロームブロック中量、締まり強い
2 黒 色	ロームブロック少量、締まり弱い	8 黒 褐 色	ロームブロック中量、締まり強い
3 黒 褐 色	ローム粒子少量、締まり弱い	9 黒 褐 色	ロームブロック中量
4 黒 褐 色	ロームブロック少量、締まり弱い	10 黒 褐 色	ローム粒子少量
5 褐 色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	11 黒 褐 色	ロームブロック多量、締まり強い
6 黒 褐 色	ロームブロック少量		

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(焰烙)、陶器片38点(碗20、皿2、鉢5、蓋1、擂鉢4、壺4、瓶1、猪口1)、磁器片2点(碗)、土製品1点(甕材)、石器・石製品3点(砥石2、板碑1)、鐵製品1点(釘)、瓦片1点(平

瓦)が出土している。構築土から出土している遺物は大部分が破片である。墳頂部では、Q 21とともに祠を確認した。祠には文字が刻まれていたが、全体的に風化が著しく、判読できなかった。Q 21は基部が墳頂部の表土層に埋まっていた状態で掘えられていた。構築土までは達していなかったため、後世に移設されたと考えられる。片面に梵字と蓮台が陰刻されている。215～217・DP 11は構築土中から出土している。

**所見** 構築時期は、出土遺物から17世紀後半と考えられる。本塚に伴う遺物が少なく、明確ではないが、山岳信仰に基づく塚の可能性がある。Q 21には阿弥陀如来を表す「キリーク」の下に蓮台、さらにその右下に聖観音菩薩を表す「サ」、左下に勢至菩薩を表す「サク」が陰刻され、阿弥陀三尊を表現している。



第73図 第1号塚出土遺物実測図

第1号塚出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
215	土師質瓦	始格	-	3.4	-	長石・石英・雲母	にふ・非織	普通	口縁部外・内面ナメ後、耳部貼り付け	構築土中	10%
216	陶器	瓶	-	(8.3)	-	緻密・暗赤褐色	外面波状の凹凸	-	鉄輪	画面・美濃	10%
217	陶器	罐	-	(5.0)	-	緻密・赤褐色	7条1単位の羅目	-	鉄輪	墳	構築土中 10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP11	板瓦	25.3	8.5	1.8	(835.0)	長石・石英	に赤い斑	内面端部取扱	構築土中	探し者
Q 21	板磚	39.8	22.5	2.2	-	綠泥片岩	武藏型板磚 梵字「キリーカ」、「サ」、「サク」、邊台が鋸削		墳頂部	

## (3) 井戸跡

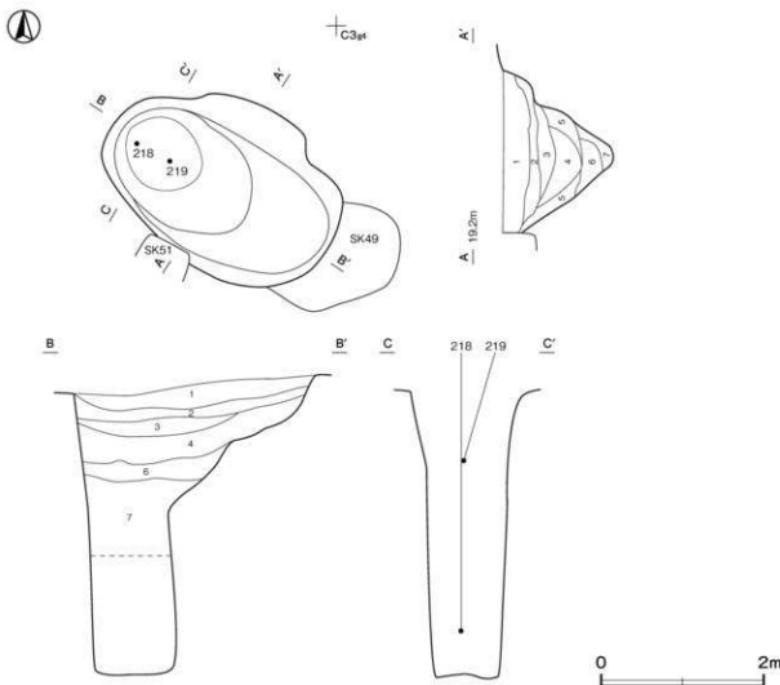
## 第1号井戸跡（第74・75図）

位置 B区のC 3g3区、標高 19 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第49号土坑を掘り込み、第51号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認面は長径 3.02m、短径 2.11m の不整橿円形で、長径方向は N - 53° - Wである。北側の上面がわずかに張り出している。確認面から深さ 150cmまでは、南東側が漏斗状に掘り込まれ、それより下部は径 1 m の円筒形に掘り込まれている。深さは 345cmで、底面は平坦である。

覆土 下層は様相を確認することができなかったが、確認できた範囲では 7 層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックを含む土で埋め戻されている。



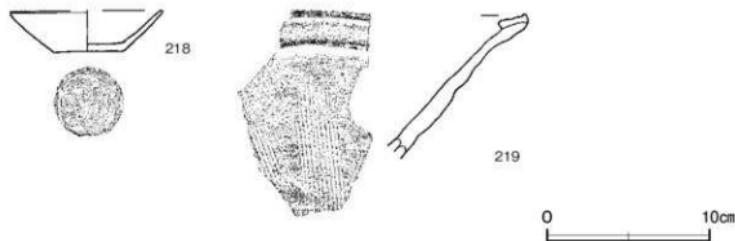
第74図 第1号井戸跡実測図

#### 土層解説

1	にぶい褐色	粘土ブロック多量。ロームブロック少量。焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子微量
2	褐色	ロームブロック中量。粘土粒子少量。炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック少量。炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子・粘土粒子中量	6	明褐色	ローム粒子多量。粘土粒子・炭化粒子少量
			7	褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(小皿)、陶器片7点(碗4、擂鉢2、蓋1)のほか、繩文土器片3点(深鉢)、土師器片29点(坏2、甕27)、須恵器片4点(坏2、甕2)が、覆土中から出土している。218は覆土下層、219は覆土上層から出土しており、埋め戻しに伴って廃棄されたものと考えられる。

**所見** 出土遺物から18世紀代と考えられる。



第75図 第1号井戸跡出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	厚高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
218	土師質土器	小皿	[9.2]	2.6	4.2	共石・石英	浅黄橙	普通	底部回転系切り		覆土下層	40%

番号	種別	器種	口径	厚高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
219	陶器	擂鉢	-	(8.8)	-	微密・褐灰色	10条1単位の擂目		鉄輪	雨戸・美濃	覆土上層 10%

第2号井戸跡（第76・77図）

**位置** B区のC3e4区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 確認面は長径1.24m、短径1.13mで、深さ284cmの円形である。底面は平坦で、形状は円筒状である。

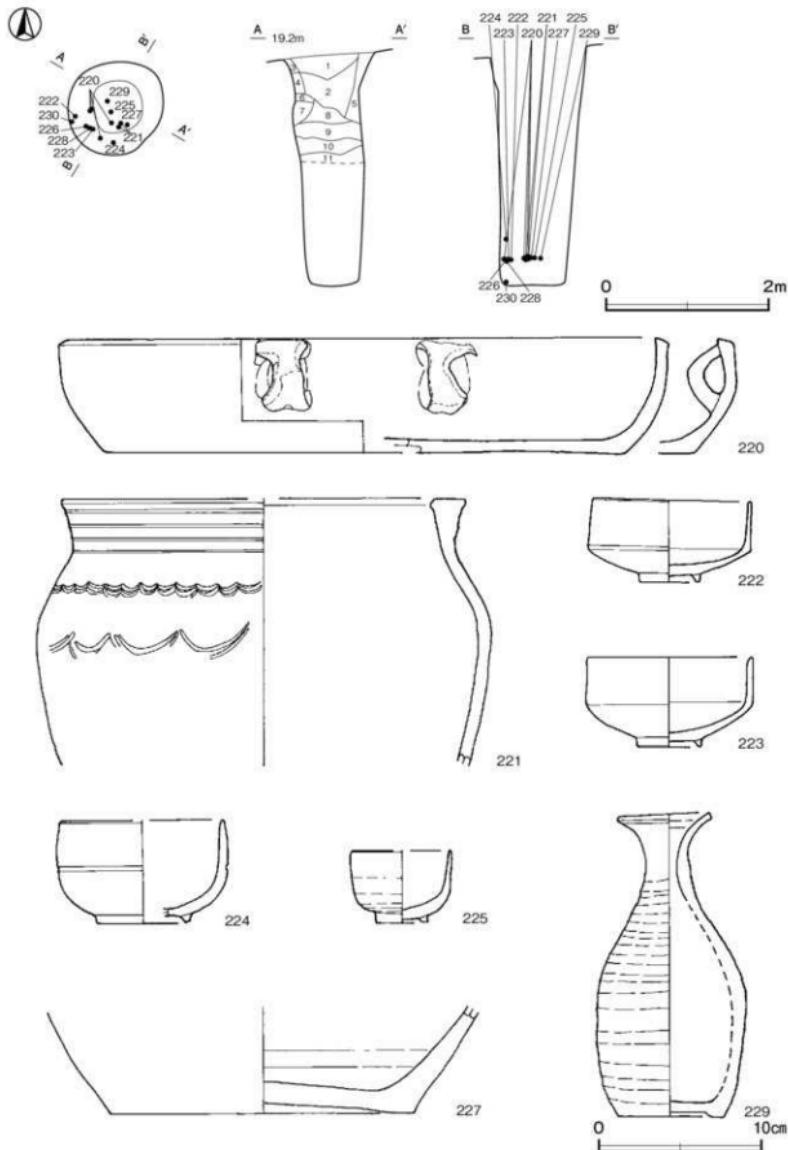
**覆土** 下層は様相を確認することができなかつたが、確認できた範囲では11層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

#### 土層解説

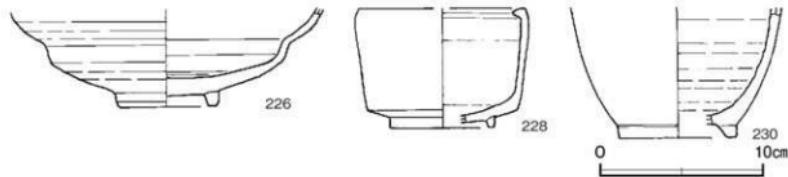
1	暗褐色	ロームブロック少量。焼土粒子・炭化粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック中量
2	褐色	ロームブロック少量。焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック少量。炭化粒子微量
3	明褐色	ローム粒子多量	9	黒褐色	ローム粒子微量
4	褐色	ローム粒子多量。炭化粒子微量	10	灰褐色	ローム粒子少量
5	褐色	ローム粒子多量	11	暗褐色	ロームブロック少量
6	褐色	ロームブロック中量			

**遺物出土状況** 土師質土器片18点(焰烙1、甕17)、陶器片20点(碗10、小碗1、稜皿1、甕1、鉢3)、香炉1、浅鉢1、瓶2)、磁器片1点(瓶)、銅製品1点(煙管)のほか、繩文土器片1点(深鉢)が、覆土中から出土している。230は底面付近から。その他は底面から30cmほど上位から出土している。水平方向にまとまって出土していることから、底面付近が埋まつた段階でまとめて投棄されたものと考えられる。

**所見** 出土遺物から、18世紀中葉に廃棄されたと考えられる。



第76図 第2号井戸跡・出土遺物実測図



第77図 第2号井戸跡出土遺物実測図

第2号井戸跡出土遺物観察表(第76・77図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
220	土師質	培格	360	71	31.5	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面ナデ後耳部貼り付け	覆土下層	50% PL23
221	土師質 土器	甕	[24.8]	(16.5)	-	長石・石英・ 紫付・繩縄	にい・赤褐色	普通	口縁部外側4条の沈線 全体へラ書き速弧文	覆土下層	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
222	陶器	甕	9.6	5.2	3.6	緻密・灰白色	腰折縁 外底面露胎	灰釉	瀬戸・美濃系	覆土下層	80% PL23
223	陶器	甕	10.1	5.6	3.7	緻密・明オリーバー 色	腰折縁 色葉掛け分け 高台輪調ぎ	灰釉・灰釉	瀬戸・美濃系	覆土下層	60% PL23
224	陶器	甕	[10.0]	6.3	[5.5]	緻密・にい・黄 褐色	灰釉・掛け分け	灰釉	瀬戸・美濃系	覆土下層	30%
225	陶器	小甕	[6.0]	4.5	3.2	緻密・灰白色	外底露胎	灰釉	瀬戸・美濃系	覆土下層	70%
226	陶器	棱皿	-	(5.9)	[5.8]	緻密・にい・黄 褐色	乾の目輪調ぎ 二次焼成	灰釉	肥前	覆土下層	20%
227	陶器	甕	-	(6.6)	1.88	緻密・暗赤褐色	網毛彫り	鉄釉	信楽	覆土下層	20%
228	陶器	香炉	[10.2]	7.4	[6.4]	緻密・灰白色	外面底部・内面口縁部以外露胎	灰釉	瀬戸・美濃系	覆土下層	30%
229	陶器	瓶	5.5	18.8	6.6	緻密・灰白色	灰釉し掛け	灰釉	瀬戸・美濃系	覆土下層	95% PL23
230	磁器	瓶	-	(8.0)	[7.2]	緻密・灰白色	紫付 斜頸	透明釉	肥前	底面	20%

表5 江戸時代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 横		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径	短径(m)	深さ(cm)				
1	C3g3	N - 53° - W	不整格円形	302	×	211	345	平坦	円筒状 人為	土師質土器、陶器 SK49→本跡 →SK50
2	C3e4	-	円形	124	×	113	281	平坦	円筒状 人為	土師質土器、陶器、銅製品

#### (4) 墓坑

第1号墓坑(第78～80図 PL13)

位置 B区のC3g2区、標高19mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第7号竪穴建物跡を掘り込み、第3号墓坑に掘り込まれている。上部には第1号土壙が構築されている。

規模と形状 第3号墓坑に東部を掘り込まれているが、長軸0.98m、短軸0.76mの長方形で、長軸方向はN-89°-Wと推定でき、深さは137cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックが含まれ、埋葬された人骨が出土していることから埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 にい・褐色 粘土粒子少量
- 3 にい・黄褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量
- 5 黑褐色 ロームブロック多量

- 6 青褐色 ロームブロック中量
- 7 明褐色 ローム粒子多量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量
- 9 黑褐色 ロームブロック中量

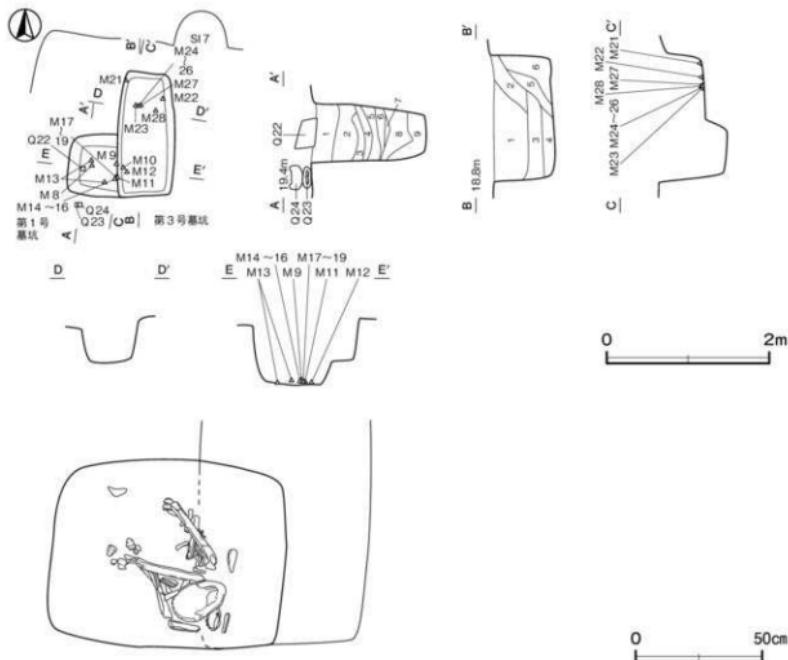
**埋葬の状況** 座位屈葬で埋葬され、頭蓋骨と体肢骨が崩れた状態であった。

**遺物出土状況** 土師質土器片 21 点（壺）、石塔 3 点（無縫塔基礎、中台、請花）、鉄製品 2 点（刀子、不明鉄製品）、銅製品 16 点（鍾管 1、輪宝 9、錢貨 6）、木製品 29 点（数珠玉）、ほか、縄文土器片 4 点（深鉢）、土師器片 10 点（壺）、須恵器片 2 点（壺、蓋）が出土している。M9～M12、M14～M19 は覆土下層から骨と混在した状態で出土しており、本来は遺骸の上に置かれていたと考えられる。錢貨は、M14～M16、M17～M19 の各 3 枚が癒着した状態で出土している。W1～W29 は、覆土下層からまとまって出土している。M9～M12・W1～W29 は遺骸が身に着けていたと考えられ、M14～M19 は副葬品と考えられる。M8 は覆土中からの出土で、混入と考えられる。Q22～Q24 は無縫塔のセットで、Q22 が本跡の上面でわずかに埋まっていた状態で出土している。Q23・Q24 は本跡に近接した位置で、Q23 の上に Q24 が積まれた状態で確認されている。Q22 との関係性を考慮し本跡で扱うこととした。なお、塔身（Q27）は後世の第 1 号土塁構築に伴って、土壘上面へと移設されている。

**性別と年齢** 女性 熟年後半以降

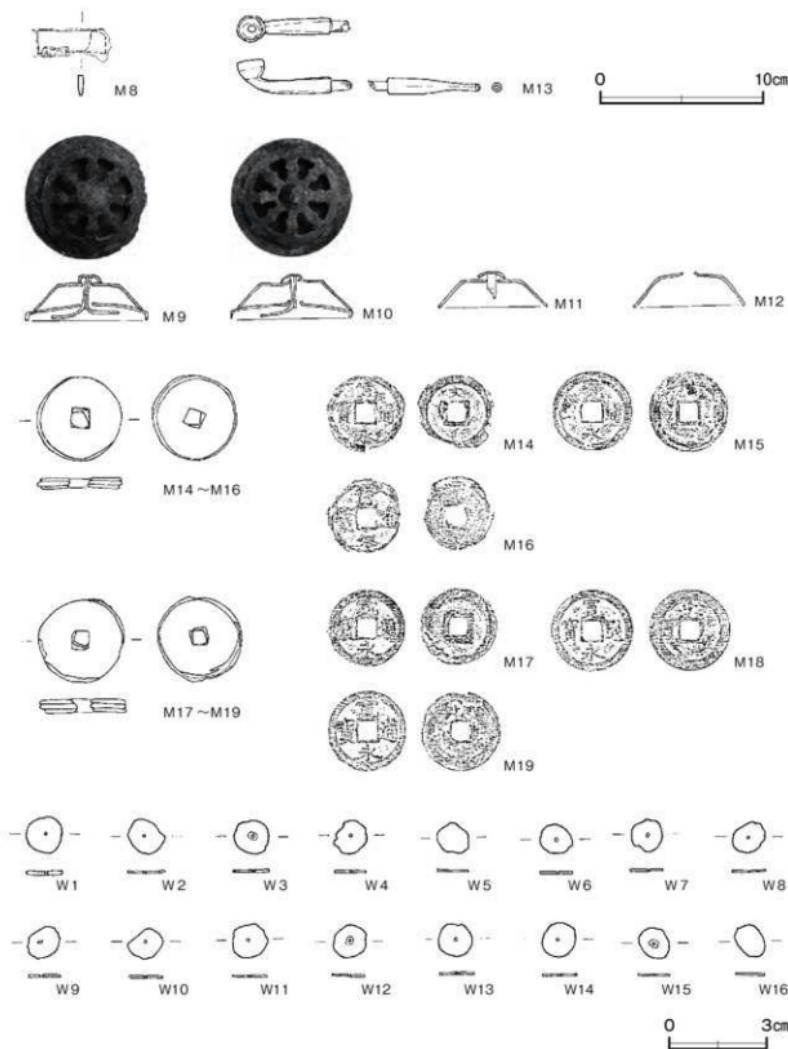
**遺骸の特徴** 噎嚢が進み閑瓣部分の判別が困難である。頭蓋骨の縫合が閉じ、確認できた上顎の切歯は咬耗が顕著である。

**所見** M9～M12 は製金具として用いられる輪宝で、埋葬された遺骸が製金を身につけていた可能性が高い。

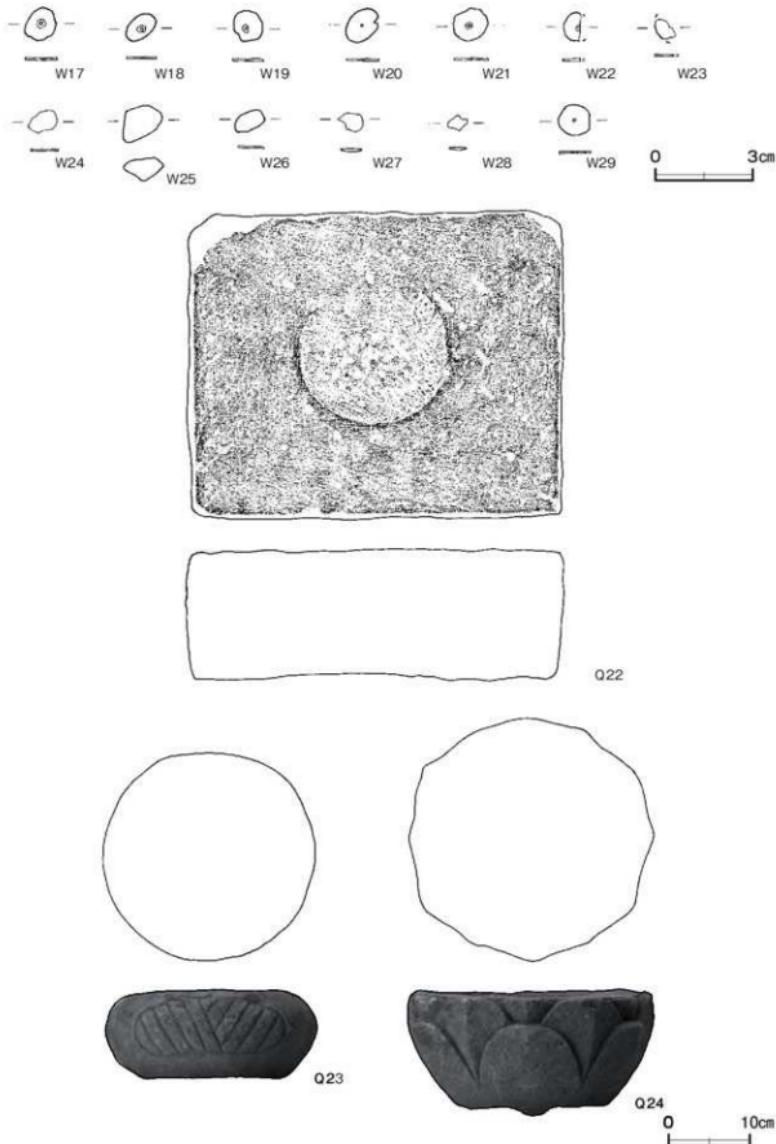


第 78 図 第 1・3 号墓坑実測図

v). Q 22～Q 24 の3点は、上面や近接した位置で確認されたことや、第3号墓坑に掘り込まれていることを考慮すると、移設された可能性が高い。埋葬時期は、出土遺物から18世紀後半と考えられる。木片等の遺物が出土していないことから、土葬の可能性が高い。



第79図 第1号墓坑出土遺物実測図（1）



第80図 第1号墓坑出土遺物実測図(2)

第1号墓坑出土遺物観察表（第79・80図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
Q 22	石塔	38.2	46.2	16.4	32.900	安山岩	無縫接合部 上面に中古をはめ込む円形の窪み、深さ0.3cm 側面に鋸歯状工具痕	覆土上面		
Q 23	石塔	25.3	25.8	10.9	10.200	安山岩	無縫接合部 正面に浮彫の蓮華文 上面に蓮花をはめ込むホルダー、深さ3.1cm	上面南側		
Q 24	石塔	29.5	30.0	15.3	14.100	安山岩	無縫接合部 背面以外蓮華形 上面に佛身をはめ込む格円形の窪み、深さ2.6～2.8cm	上面南側		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
M 8	小刀	(42)	16	0.3	(8.74)	鉄	木質造存	覆土中		
番号	器種	径	高さ	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
M 9	輪宝	38	15	0.1	7.68	銅	袈裟具全 駒輪部に進升を除刻 表面に金箔	覆土下層		
M 10	輪宝	38	14	0.1	8.00	銅	袈裟具全 駒輪部に進升を除刻 表面に金箔	覆土下層		
M 11	輪宝	(34)	(11)	0.1	(4.86)	銅	袈裟具全 駒輪部に進升を除刻 表面に金箔 外側のみ残存	覆土下層		
M 12	輪宝	(34)	(11)	0.1	(3.60)	銅	袈裟具全 外側のみ残存	覆土下層		
番号	器種	長さ	火薙径	小口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
M 13	經筒	(71) (69)	17	0.9	(16.41)	銅・竹	羅字經筒 銅板丸い接觸付け 羅字竹製	底面	PL24	
番号	種別	銘名	径	孔径	重量	材質	初跡年	特徴	出土位置	備考
M 14	錢貨	宣永通寶	2.30	0.60	(1.89)	銅	1668 新寛永 背文 表がM 15表と重複	覆土下層	PL24	
M 15	錢貨	宣永通寶	2.40	0.61	1.92	銅	— 裏がM 16裏と重複 文字不明	覆土下層	PL24	
M 16	錢貨	宣永通寶	(2.31)	0.60	(1.88)	銅	1636 古寛永 背無し	覆土下層	PL24	
M 17	錢貨	宣永通寶	2.31	0.60	1.90	銅	1636 古寛永 背無し 表がM 18表と重複	覆土下層	PL24	
M 18	錢貨	宣永通寶	2.42	0.60	1.95	銅	1668 新寛永 背文 表がM 19裏と重複	覆土下層	PL24	
M 19	錢貨	宣永通寶	2.40	0.60	1.83	銅	1636 古寛永 背無し	覆土下層	PL24	
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
W 1	数珠玉	11	0.2	0.1	0.11	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 2	数珠玉	12	0.1	0.1	0.09	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 3	数珠玉	11	0.1	0.1	0.08	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 4	数珠玉	19	0.1	0.1	0.05	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 5	数珠玉	10	0.1	—	0.05	木	扁平	覆土下層		
W 6	数珠玉	10	0.1	0.1	0.06	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 7	数珠玉	10	0.1	0.1	0.06	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 8	数珠玉	10	0.1	0.1	0.05	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 9	数珠玉	10	0.1	0.1	0.08	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 10	数珠玉	10	0.1	0.1	0.05	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 11	数珠玉	11	0.1	0.1	0.07	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 12	数珠玉	19	0.1	0.1	0.08	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 13	数珠玉	10	0.1	0.1	0.07	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 14	数珠玉	11	0.1	0.1	0.10	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 15	数珠玉	10	0.1	0.1	0.07	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 16	数珠玉	09	0.1	—	0.06	木	扁平	覆土下層		
W 17	数珠玉	10	0.1	0.1	0.05	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 18	数珠玉	09	0.1	0.1	0.05	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 19	数珠玉	09	0.1	0.1	0.07	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 20	数珠玉	10	0.1	0.1	0.08	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 21	数珠玉	11	0.1	0.1	0.05	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 22	数珠玉	(0.5)	0.1	—	(0.03)	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層		
W 23	数珠玉	(0.6)	0.1	—	(0.01)	木	扁平	覆土下層		

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
W 24	数珠玉。	(0.8)	0.1	-	(0.03)	木	扁平	覆土下層	
W 25	数珠玉。	(1.2)	(0.7)	-	(0.14)	木	不整形の玉状	覆土下層	
W 26	数珠玉。	(0.8)	0.1	-	(0.03)	木	扁平	覆土下層	
W 27	数珠玉。	(0.8)	0.2	-	(0.02)	木	扁平	覆土下層	
W 28	数珠玉。	(0.6)	(0.1)	-	(0.01)	木	扁平	覆土下層	
W 29	数珠玉。	0.9	0.1	0.1	0.05	木	扁平 中央に孔1か所	覆土下層	

### 第2号墓坑（第81・82図 PL13）

位置 B区のC 3g2区、標高 19 mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第7号竖穴建物跡を掘り込み、上部に第1号土壙が構築されている。

規模と形状 長軸 1.31m、短軸 0.78mの長方形で、長軸方向はN - 66° - Wである。深さは 150cmで、底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれ、埋葬された人骨が出土していることから埋め戻されている。

#### 土層解説

1 には 黄褐色 ローム粒子・粘土粒子少量

4 暗 色 ローム粒子少量、締まり弱い

2 暗 色 ローム粒子少量

5 暗 暗 色 ロームブロック少量

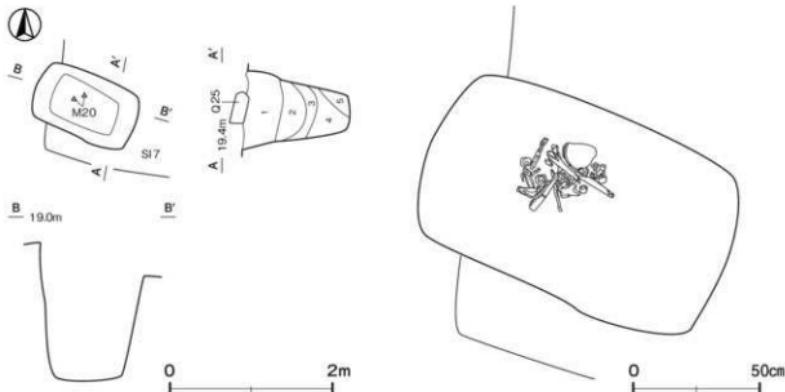
3 暗 色 ロームブロック少量、締まり弱い

埋葬の状況 人骨が部分的に残存している。一か所に複数の部位の骨がまとまった不自然な状況や、大腿骨が折れていることから、改葬されている可能性が高い。

遺物出土状況 石塔1点（台座）、銅製品1点（煙管）が出土している。M 20は底面から骨と混在した状態で出土し、副葬品と考えられる。Q 25は、本跡の上面でわずかに埋まった状態で出土している。

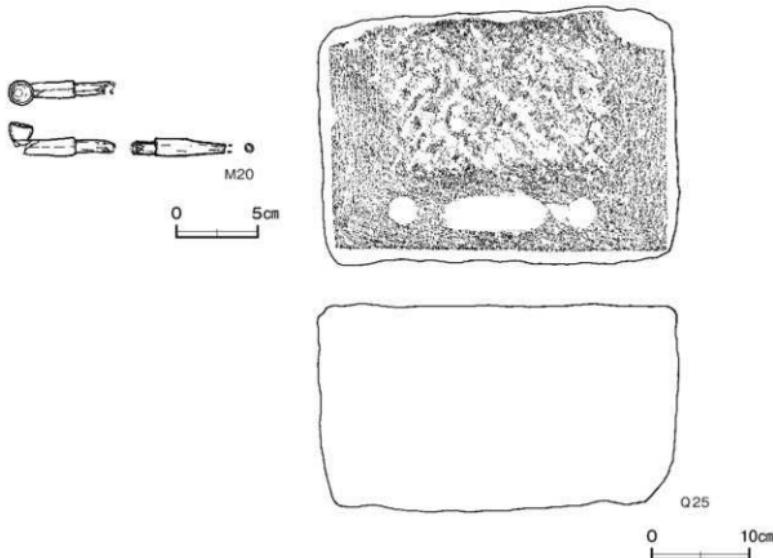
性別と年齢 女性 成年後半～壯年前半

遺骸の特徴 頭蓋骨の縫合線は接合しているが、明確に確認できる。眉間部の凹凸は少なく、頭頂部から額まで直角に近い状態で傾斜している。歯は、上顎に植立した右大臼歯から左小白歯までの12本と、上下不明の大臼歯2本、下顎の前歯1本、犬歯2本、小白歯2本の計19本を確認した。虫歯は見られず、摩耗も少ない。



第81図 第2号墓坑実測図

**所見** 埋葬時期は、19世紀代と考えられる。木片等の遺物が出土していないことから、土葬の可能性が高い。



第82図 第2号墓坑出土遺物実測図

第2号墓坑出土遺物観察表（第82図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 25	石斧	26.8	37.0	21.5	(36.90)	安山岩	台座 上面手前に長楕円形(中央)・円形(両脇)の凹み。深さ26~28cm。外周平滑に仕上げ。一部未整形。	覆土上面	
番号	器種	長さ	火薬室	小口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 20	錐管	(6.5) (5.8)	1.6	11 1.0	(9.08)	鋼・竹	羅宇櫛管 框板丸め後端付け 羅宇竹製	底面	PL24

第3号墓坑（第78・83図 PL14）

**位置** B区のC3g2区、標高19mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第7号竪穴建物跡、第1号墓坑を掘り込み、上部に第1号土塁が構築されている。

**規模と形状** 長軸151m、短軸0.71mの長方形で、長軸方向はN-3°-Eである。深さは72cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

**覆土** 6層に分層できる。ロームブロックが含まれ、埋葬された人骨が出土していることから埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黄褐色 ロームブロック中量

- 4 黑褐色 ロームブロック中量
- 5 黄褐色 ロームブロック中量、縫まり弱い
- 6 黑褐色 ローム粒子少量、縫まり弱い

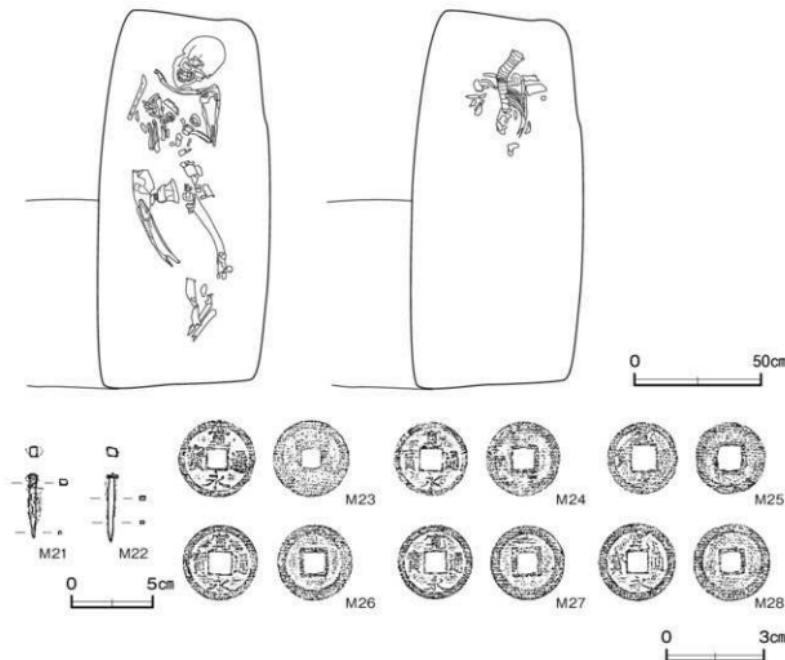
**埋葬の状況** ほぼ全身の骨格を確認したが、大腿骨以下は遺存状態がやや悪い。北頭位伸展姿勢で、下半身は東方向にやや曲がっている。胸部から指骨がまとまっており、胸に手を置いたか合掌していたと考えられる。

**遺物出土状況** 陶器片1点（描鉢）、鉄製品17点（釘）、銅製品6点（錢貨）が出土している。M 21・M 22は、北西コーナー部と東壁際の底面からそれぞれ出土している。この他の釘は遺存状態が悪く、図示できなかった。木質の残るものがあり、壁際から出土していることから木棺の部材として使用されたと考えられる。M 23～M 28は底面から骨と混在して出土している。

**性別と年齢** 女性 熟年後半以降

**遺骸の特徴** 頭蓋骨の縫合線は癒着が顕著で確認できない。頸椎から胸椎まで連続してつながった状態で、左右の肋骨は押しつぶされたように外側へ広がった状態である。部分的に残存している骨盤は大坐骨切痕がやや広い。

**所見** 埋葬時期は、18世紀代と考えられる。釘の出土量が多く、木質の残るものがあることから、木棺を用いた伸展葬と考えられる。



第83図 第3号墓坑出土遺物実測図

第3号墓坑出土遺物観察表（第83図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 21	釘	40	0.5	0.3	163	鉄	先端部に木質遺存 頭部方形	底面	
M 22	釘	41	0.7	0.2	120	鉄	頭部方形	底面	

番号	種別	銘名	径	孔径	重量	材質	初開年	特徴	出土位置	備考
M 23	銭貨	寛永通寶	2.30	0.60	2.00	銅	1636	古寛永 背無し	底面	PL24
M 24	銭貨	寛永通寶	2.31	0.66	2.01	銅	1668	新寛永 背無し	底面	PL24
M 25	銭貨	寛永通寶	2.30	0.71	1.86	銅	1668	新寛永 背無し	底面	PL25
M 26	銭貨	寛永通寶	2.29	0.69	2.07	銅	1668	新寛永 背無し	底面	PL25
M 27	銭貨	寛永通寶	2.28	0.61	2.36	銅	1668	新寛永 背無し	底面	PL25
M 28	銭貨	寛永通寶	2.30	0.60	2.60	銅	1668	新寛永 背無し	底面	PL25

#### 第4号墓坑（第84・85図）

位置 B区のC32区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第78号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.03m、短軸0.85mの長方形で、長軸方向はN-1°-Eである。深さは120cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれ、埋葬された人骨が出土していることから埋め戻されている。

##### 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	5	褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量
2	にい褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	6	灰褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量
3	灰褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量	7	にい褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量、綿毛り弱い
4	褐色	ロームブロック・粘土粒子少量			

埋葬の状況 頭蓋骨は顔が下を向き、下肢骨の上位に上肢骨が折り重なった状態で出土していることから、座位屈葬による埋葬後、遺骸が前面に倒れたものと考えられる。

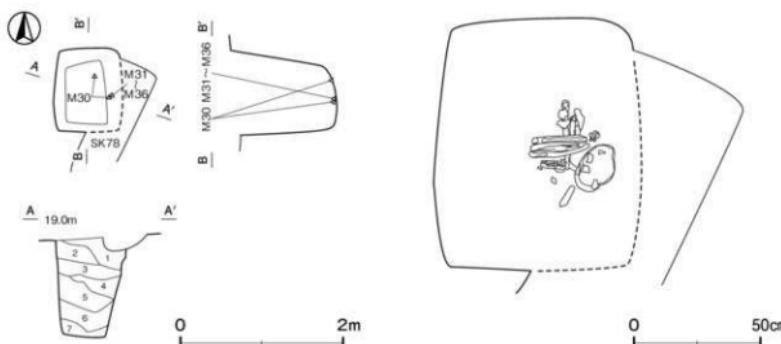
遺物出土状況 土師質土器片2点（壺）、鉄製品1点（釘）、銅製品7点（煙管1、銭貨6）が出土している。

M 30は雁首が遺骸の前面から、吸口とM 31～M 36は骨と混在して出土している。いずれも副葬品と考えられる。M 29は覆土中から出土しており、本質が確認できる。

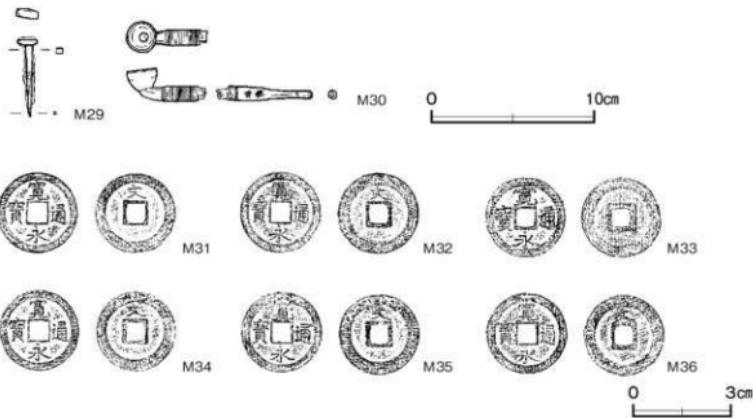
性別と年齢 女性 熟年後半以降

遺骸の特徴 頭蓋骨の縫合線は癡着が顕著で確認できない。四肢骨は関節部分が腐朽している。歯の残存数は少なく、いずれも永久歯である。

所見 埋葬時期は、18世紀前半と考えられる。木質の残る釘が出土していることから、木棺を使用していたと思われる。



第84図 第4号墓坑実測図



第85図 第4号墓坑出土遺物実測図

第4号墓坑出土遺物観察表（第85図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 29	釘	50	13	0.4	2.03	鉄	先端部に木質遺存 銅板長方形	覆土中	
<hr/>									
番号	器種	長さ	火薙径	小口徑	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 30	縄管	(5.0) · (5.6)	1.9	1.0 · 0.8	(5.99)	銅・竹	羅字彫り 銅板丸め後無付け 吸口部分に織紋付着 羅字竹製	底面	PL.24
<hr/>									
番号	種別	銘名	径	孔徑	重量	材質	初調年	特徴	出土位置
M 31	銭貨	寛永通寶	2.40	0.60	3.37	銅	1668	新寛永 背文	底面 PL.25
M 32	銭貨	寛永通寶	2.41	0.60	3.36	銅	1668	新寛永 背文	底面 PL.25
M 33	銭貨	寛永通寶	2.43	0.57	3.55	銅	1636	古寛永 背無し	底面 PL.25
M 34	銭貨	寛永通寶	2.40	0.59	3.38	銅	1668	新寛永 背文	底面 PL.25
M 35	銭貨	寛永通寶	2.50	0.59	3.61	銅	1668	新寛永 背文	底面 PL.25
M 36	銭貨	寛永通寶	2.50	0.60	3.59	銅	1668	新寛永 背文	底面 PL.25

第5号墓坑（第86図）

位置 B区のC3h2区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第80号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.16m、短径0.92mの楕円形で、長径方向はN-84°-Eである。深さは72cmで、底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

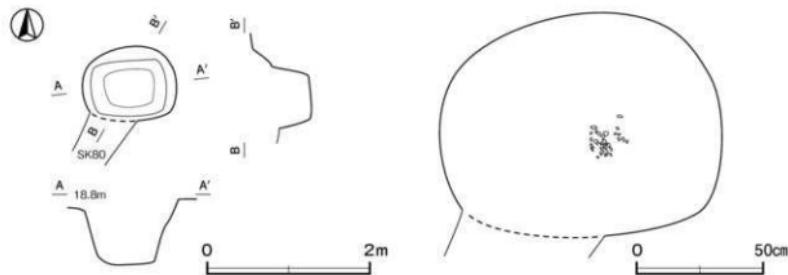
埋葬の状況 骨片と歯を検出したのみで、状況は不明である。

遺物出土状況 混入した縄文土器片1点（深鉢）のみ出土している。

性別と年齢 不明 幼児後半（4～5歳程度）

遺骸の特徴 部位不明の骨片2点、歯27本である。歯は乳歯9本、永久歯18本で、乳歯は歯根部が残る萌芽後、永久歯は歯根部がわずかに成長した状態の混合歯列である。

**所見** 埋葬時期は明確ではないが、周辺に江戸時代の墓坑が複数分布しているため、江戸時代の可能性が高い。木片等の遺物が出土していないことから、土葬の可能性が高い。



第 86 図 第 5 号墓坑実測図

#### 第 6 号墓坑（第 87 図）

**位置** B 区の C 3 h2 区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸 1.31m、短軸 0.89m の長方形で、長軸方向は N - 7° - E である。深さは 124cm で、底面は平坦である。壁は直立している。

**覆土** 8 層に分層できる。ロームブロックが含まれ、埋葬された人骨が出土していることから埋め戻されている。

##### 土層解説

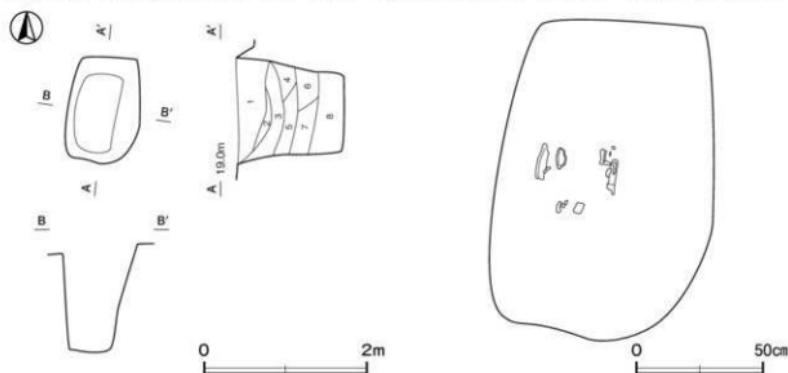
1 黒褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック少量	5 青褐色	ローム粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	6 灰褐色	ローム粒子少量
3 灰褐色	ロームブロック・粘土粒子中量	7 青褐色	ロームブロック少量
4 灰褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量	8 褐色	ロームブロック少量、締まり弱い

**埋葬の状況** 少量の骨片と歯が出土しているのみで、状況は不明である。

**遺物出土状況** 土師質土器片 1 点（甕）が出土しているが、細片のため図示できない。

**性別と年齢** 女性。熟年後半以降

**遺骸の特徴** 右下頸骨、頭蓋骨片のほか、大腿骨の可能性がある骨片と、小白歯 1 本・大臼歯 1 本が確認でき



第 87 図 第 6 号墓坑実測図

た。咬耗が弱いが、右下顎骨に歯が脱落し歯槽が吸収している箇所がある。

**所見** 埋葬時期は明確ではないが、周辺に江戸時代の墓坑が複数分布しているため、江戸時代の可能性が高い。木片等の遺物が出土していないことから、土葬の可能性が高い。

#### 第7号墓坑（第88・89図）

**位置** B区のC3g1区、標高18mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 上部に第1号土壙が構築されている。

**規模と形状** 長軸140m、短軸0.86mの長方形で、長軸方向はN-25°-Eである。深さは134cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

**覆土** 11層に分層できる。ロームブロックが含まれ、埋葬された人骨が出土していることから埋め戻されている。

#### 土層解説

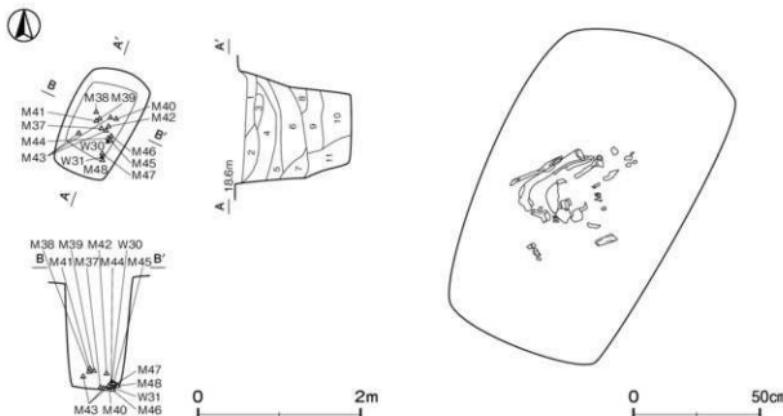
1 にぶい黄褐色	粘土ブロック・ローム粒子中量	7 暗褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量
2 にぶい褐色	粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子微量	8 褐色	ロームブロック、粘土ブロック小量
3 にぶい褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	9 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
4 灰褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック中量
5 にぶい褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック少量
6 灰褐色	ロームブロック・粘土粒子少量		

**埋葬の状況** 骨盤と頭蓋骨が近接して出土し、骨盤の上位に頭蓋骨が位置するため座位屈葬の可能性がある。

**遺物出土状況** 陶器片1点(碗)、銅製品12点(輪宝6、煙管1、錢貨5)、木製品2点(櫛、板材)のほか、混入した繩文土器片1点(深鉢)が出土している。W31は底面から出土し、棺の底板の一部と考えられる。上面には植物質の纏物が部分的に付着している。この他、底面からは輪宝(M40)や煙管(M43)、錢貨5枚(M44~M48)、櫛(W30)が出土し、W30にはM44が密着した状態で出土している。

**性別と年齢** 女性。熟年後半以降

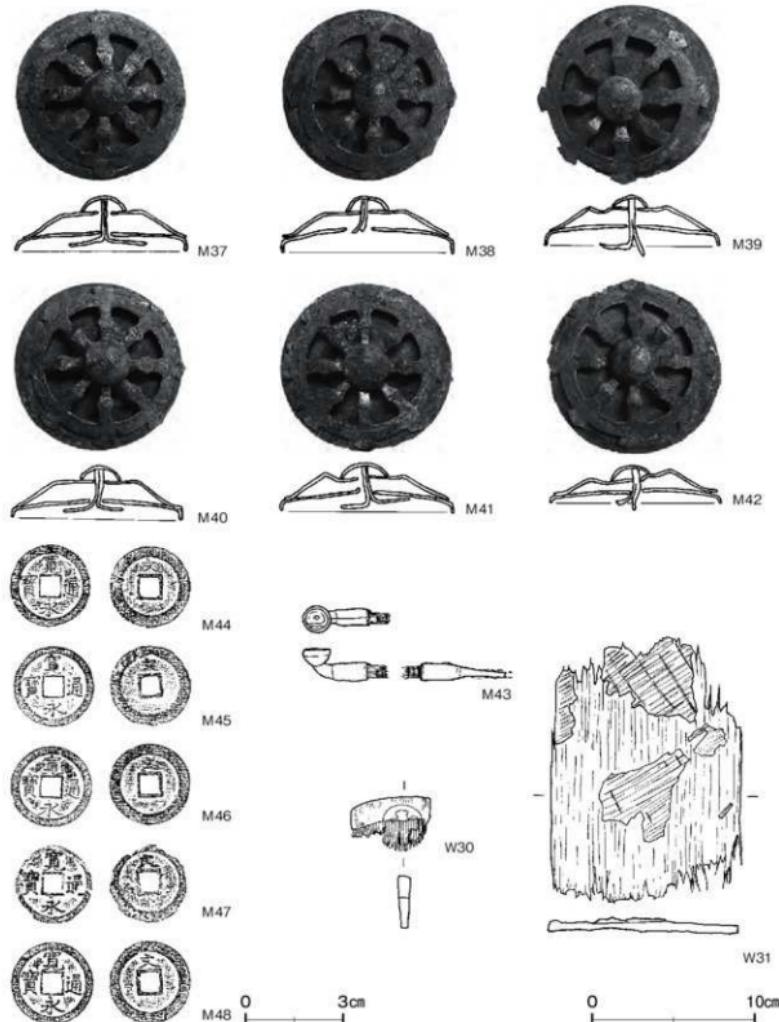
**遺骸の特徴** 全体的に腐朽が進行しているが歯の遺存状況は良好である。頭蓋骨の縫合線は著しく確認できない。歯の摩耗は少ない。頭蓋骨の内側には炎症性変化の可能性がある状況が確認でき、何らかの疾病を



第88図 第7号墓坑実測図

忠っていた可能性がある。

**所見** 装姿金具として用いられる輪宝が出土しているため、第1号墓坑と同様に、遺骸が装姿を身につけていた可能性が高い。埋葬時期は18世紀後半と考えられる。板材が出土していることから、木棺を使用したと考えられる。



第89図 第7号墓坑出土遺物実測図

第7号墓坑出土遺物觀察表（第89図）

番号	器種	幅	高さ	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
M 37	輪宝	5.3	1.7	0.1	12.85	銅	契安金具 車輪部に蓮弁と珠文を施削 表面に金箔 裏面に製造記	覆土下層		
M 38	輪宝	5.3	1.7	0.1	(11.69)	銅	契安金具 車輪部に蓮弁と珠文を施削 表面に金箔	覆土下層		
M 39	輪宝	5.4	1.8	0.1	10.21	銅	契安金具 車輪部に蓮弁と珠文を施削 表面に金箔	覆土下層		
M 40	輪宝	5.4	1.7	0.1	13.76	銅	契安金具 車輪部に蓮弁と珠文を施削 表面に金箔	底面		
M 41	輪宝	5.4	1.5	0.1	11.45	銅	契安金具 車輪部に蓮弁と珠文を施削 表面に金箔	覆土下層		
M 42	輪宝	5.4	1.4	0.1	11.44	銅	契安金具 車輪部に蓮弁と珠文を施削 表面に金箔 裏面に製造記	覆土下層		
番号	器種	長さ	火薬径	小口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
M 43	錐管	(5.4) + (6.3)	1.6	1.0	(8.75)	銅・竹	羅字標管 銅板丸め後無付け 吸口肩に銅環付着 羅字竹製	底面 覆土下層	PL24	
番号	種別	鉢名	径	孔径	重量	材質	初年	特徴	出土位置	備考
M 44	鉢	寛永通寶	249	0.60	212	銅	1668	折寛永 背文	底面	PL25
M 45	鉢	寛永通寶	241	0.60	333	銅	1668	新寛永 背文	底面	PL25
M 46	鉢	寛永通寶	250	0.60	203	銅	1668	新寛永 背文	底面	PL25
M 47	鉢	寛永通寶	238	0.59	(215)	銅	1668	新寛永 背文	底面	PL25
M 48	鉢	寛永通寶	250	0.62	230	銅	1668	折寛永 背文	底面	PL25
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
W 30	柄	3.2	4.9	0.8	(4.56)	柘	M 44 帽部分に白色の痕跡	底面		
W 31	板材	16.3	11.7	0.6	(70.80)	杉	上面に植物質の纏物付着	底面		

表6 江戸時代墓坑一覧表

番号	位置	長軸方向	平面形	規格		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸×短軸(m)	深さ(cm)					
1	C3g2	N - 89° - W	長方形	[0.98] × 0.76	137	平坦	ほぼ直立	人為	土師質土器、石塔、鉄製品、銅製品、木製品	土葬 SI7 → 本跡 → 第3号墓坑 → SA1
2	C3g2	N - 66° - W	長方形	131 × 0.78	150	平坦	ほぼ直立	人為	銅製品	土葬 SI7 → 本跡 → SA1
3	C3g2	N - 3° - E	長方形	151 × 0.71	72	平坦	直立	人為	陶器、鐵製品、銅製品	木棺 SI7 → 第1号墓坑 本跡 → SA1
4	C3i2	N - 1° - E	長方形	103 × [0.85]	120	平坦	直立	人為	土師質土器、鉄製品、銅製品	木棺 本跡 → SK78
5	C3g2	N - 84° - E	楕円形	116 × 0.92	72	平坦	ほぼ直立	-	-	土葬 本跡 → SK80
6	C3g2	N - 7° - E	長方形	131 × 0.89	124	平坦	直立	人為	土師質土器	土葬
7	C3g1	N - 25° - E	長方形	140 × 0.86	134	平坦	直立	人為	陶器、銅製品、木製品	木棺 本跡 → SA 1

## (5) 土坑

今回の調査で、当時代と考えられる土坑31基を確認した。出土遺物から時期の判断が可能な土坑遺物のはかに、遺存状況が悪いものを含め、規模、形状、位置関係、軸方向、覆土の様相などに共通性が認められるものを、当時代に属するものと判断し、実測図（第104～106図）と土層解説、一覧表を掲載する。

## 第14号土坑（第90図）

位置 B区のC3j7区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.60m、短軸0.62mの長方形で、長軸方向はN-32°-Eである。深さは11cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

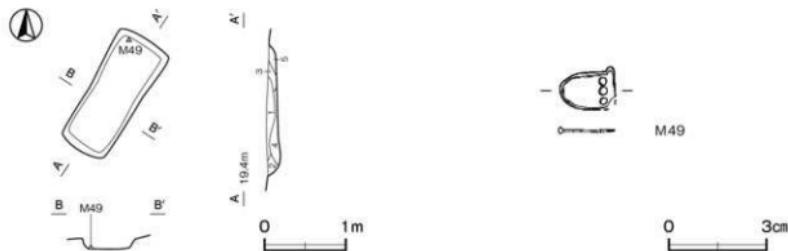
覆土 5層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

**土層解説**

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、粘土ブロック微量	4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5	黒褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量			

**遺物出土状況** 銅製品 1 点（小鉤）のほか、土師器片 4 点（壺）、剝片 1 点が、覆土中から出土している。M 49 は北コーナー部の底面から出土しており、埋め戻し以前に遺棄されていたと思われる。

**所見** 形状や軸方向が当期の土坑とはば揃っていることから、江戸時代と考えられる。性格は不明である。



第 90 図 第 14 号土坑・出土遺物実測図

第 14 号土坑出土遺物観察表（第 90 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M49	小鉤	18 (13)	0.1	0.53		銅	1列3個の孔 孔径0.22cm	底面	PL24

**第 17 号土坑（第 91 図）**

**位置** B 区の C 3 h2 区、標高 19 m ほどの台地縁辺部に位置している。

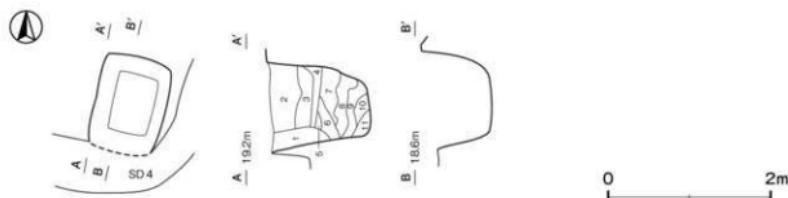
**重複関係** 第 4 号溝跡に掘り込まれ、上部に第 1 号土塁が構築されている。

**規模と形状** 長軸 120m、短軸 0.87m の長方形で、長軸方向は N - 12° - E である。深さは 78cm で、底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

**覆土** 11 層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

**土層解説**

1	褐色	ロームブロック中量	7	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子多量	8	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3	褐色	ローム粒子多量	9	暗褐色	ロームブロック少量
4	明褐色	ロームブロック少量	10	褐色	ロームブロック少量
5	明褐色	ロームブロック中量	11	明褐色	ローム粒子中量
6	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量			



第 91 図 第 17 号土坑実測図

**所見** 遺物が出土していないため明確ではないが、規模や形状、軸方向などが当期の土坑と類似していることから江戸時代の可能性が考えられる。本跡の周辺に江戸時代の墓坑群があり、位置関係から本跡も墓坑の可能性が考えられるが、人骨や遺物がみられないため土坑とした。

### 第21号土坑（第92図）

**位置** B区のC315区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 径0.70mほどの円形である。深さは38cmで、底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

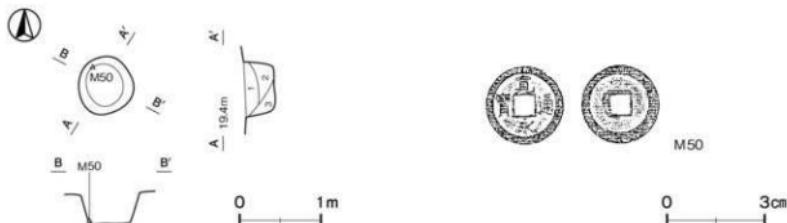
**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- |                             |               |
|-----------------------------|---------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量             |               |

**遺物出土状況** 陶器片1点（瓶）、銅製品1点（錢貨）のほか、土師器片1点（甕）が出土している。M50は底面壁際から出土している。

**所見** 時期は、出土錢貨から17世紀以降と考えられる。性格は不明である。



第92図 第21号土坑・出土遺物実測図

### 第21号土坑出土遺物観察表（第92図）

番号	種別	銘名	径	孔径	重量	材質	初期年	特徴	出土位置	備考
M50	錢貨	寛永通寶	2.40	0.69	2.35	銅	1668	新寛永 背無し	底面	

### 第27号土坑（第93・94図）

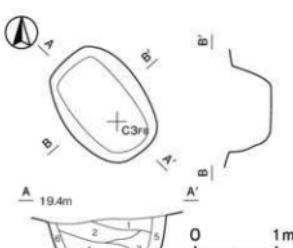
**位置** B区のC3e7区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸1.46m、短軸1.04mの長方形で、長軸方向はN-45°-Wである。深さは52cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

**覆土** 6層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第5・6層は壁際で縦方向に堆積しているため、何らかの構造物が存在した可能性がある。

#### 土層解説

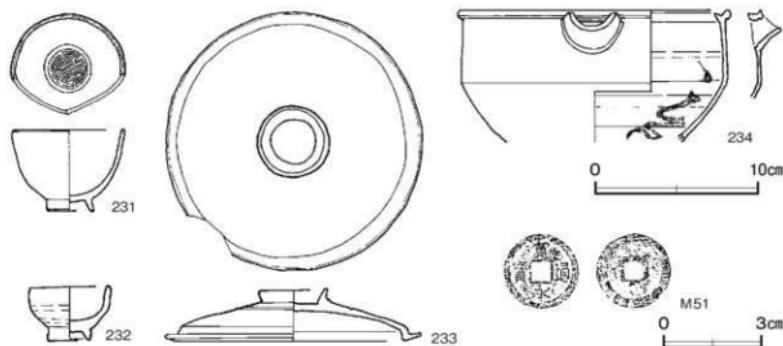
- |                           |
|---------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子多量              |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量        |
| 3 黑褐色 ロームブロック・炭化物少量       |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量 |
| 6 褐色 ロームブロック中量            |



第93図 第27号土坑実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片1点（小皿）。陶器片11点（碗8、猪口1、蓋1、鍋1）、磁器片1点（小碗）、鉄製品3点（不明鉄製品）、銅製品1点（錢貨）のほか、土師器片19点（甕）が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から18世紀後半と考えられる。覆土の様相から墓坑の可能性がある。



第94図 第27号土坑出土遺物実測図

第27号土坑出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	厚高	底径	粘土・色調	文様・特徴	種類	産地	出土位置	備考
231	磁器	小皿	7.0	5.1	2.8	緻密・灰白色	内底面見込みに吉祥文	透明釉	肥前	覆土下層	60%
232	陶器	猪口	4.8	3.4	2.7	緻密・灰白色	外面部下露胎 剥り高台	灰釉	瀬戸・美濃系	覆土下層	100% PL23
233	陶器	蓋	15.8	3.1	—	緻密・灰白色	高台状構造 蓋受頭胎	褐釉	瀬戸・美濃系	覆土下層	90%
234	陶器	鍋	[16.4] (8.1)	—	—	緻密・灰白色 内面にぶい赤 黒色	内面黒釉の文様 外面部下部保付着	褐釉	瀬戸・美濃系	覆土下層	30%

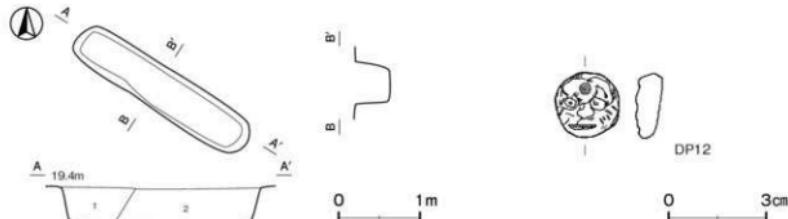
番号	種別	銘名	径	孔径	重量	材質	初跨年	特徴	出土位置	備考
M51	銭貨	寛永通寶	2.30	0.62	2.76	銅	1668	新寛永 背無し	覆土下層	

第28号土坑（第95図）

**位置** B区のC3h6区、標高19mなどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸2.46m、短軸0.54mの長方形で、長軸方向はN-57°-Wである。深さは42cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第95図 第28号土坑・出土遺物実測図

## 土層解説

1 級 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

2 級 褐 色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 陶器片 1 点（碗）、土製品 1 点（泥面子）、銅製品 1 点（不明銅製品）のほか、縄文土器片 2 点（深鉢）、土師器片 9 点（甕）が出土している。D P 12 は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、形状や出土遺物から 19 世紀代と考えられる。性格は不明である。

第 28 号土坑出土遺物観察表（第 95 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP12	泥面子	20	1.9	0.8	25	長石・石英	棕	芥子面	覆土中	

## 第 35 号土坑（第 96 図）

**位置** B 区の C 3 h8 区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸 1.82m、短軸 0.72m の長方形で、長軸方向は N - 38° - E である。深さは 14cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

**覆土** 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

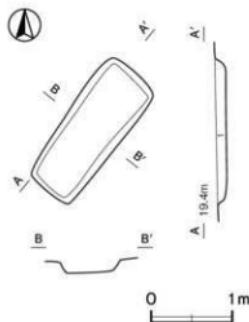
## 土層解説

1 級 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

**遺物出土状況** 陶器片 2 点（碗）、鐵製品 1 点（不明鐵製品）のほか、

縄文土器片 1 点（深鉢）、土師器片 5 点（甕）、剝片 1 点が出土している。いずれも細片のため、図示できなかった。

**所見** 出土遺物が細片のため明確な時期は不明だが、形状や軸方向が当期の土坑とはほぼ揃っていることから、江戸時代の可能性が考えられる。性格は不明である。



第 96 図 第 35 号土坑実測図

## 第 43 号土坑（第 97 図）

**位置** B 区の C 3 c0 区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 45 号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸 1.59m、短軸 0.86m の長方形で、長軸方向は N - 60° - W である。深さは 54cm で、底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

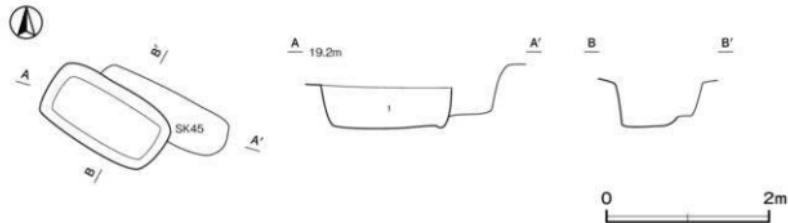
**覆土** 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 級 褐 色 ロームブロック多量

**遺物出土状況** 陶器片 9 点（皿 8、鉢 1）、鐵製品 1 点（不明鐵製品）、銅製品 1 点（錢貨）のほか、縄文土器片 1 点（深鉢）、土師器片 4 点（甕）が出土している。いずれも細片のため、図示できなかった。

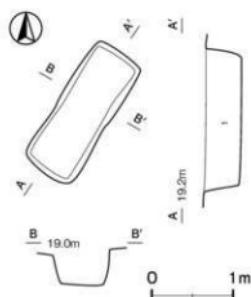
**所見** 出土遺物が細片のため明確な時期は不明だが、形状や軸方向が当期の土坑とはほぼ揃っていることから、江戸時代の可能性が考えられる。性格は不明である。



第97図 第43号土坑実測図

### 第63号土坑（第98図）

位置 B区のC3c5区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。



第98図 第63号土坑実測図

**規模と形状** 長軸1.75m、短軸0.68mの長方形で、長軸方向はN-32°-Eである。深さは40cmで、底面は平坦である。壁は直立している。  
**覆土** 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**  
1 黒褐色 ロームブロック中量、粘土粒子少量

**遺物出土状況** 陶器片2点（小皿）のほか、縄文土器片2点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため、図示できなかった。

**所見** 出土遺物が細片のため明確な時期は不明だが、形状や軸方向が当期の土坑とはほぼ揃っていることから、江戸時代の可能性が考えられる。性格は不明である。

### 第77号土坑（第99図）

位置 B区のC3g8区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

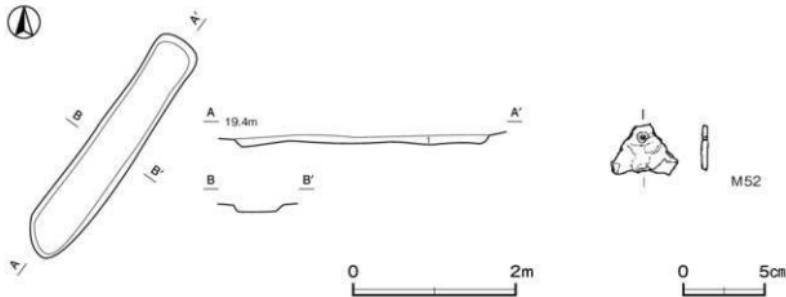
**規模と形状** 長軸3.18m、短軸0.59mの長方形で、長軸方向はN-34°-Eである。深さは9cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

**覆土** 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**  
1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片1点（鉢）、鐵製品1点（火打金）のほか、土師器片1点（甕）が覆土中から出土している。

**所見** 時期は、形状や軸方向が当期の土坑とはほぼ揃っていることから、江戸時代の可能性が考えられる。性格は不明である。



第99図 第77号土坑・出土遺物実測図

第77号土坑出土遺物観察表（第99図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M52	火打金	3.1	(4.0)	0.4	(6.98)	鉄	孔1か所 孔深0.20cm	覆土中	

第83号土坑（第100図）

位置 B区のC3丘区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.64m、短軸0.70mの隅丸長方形で、長軸方向はN-35°-Eである。深さは42cmで、底面はやや凹凸である。壁は外傾している。

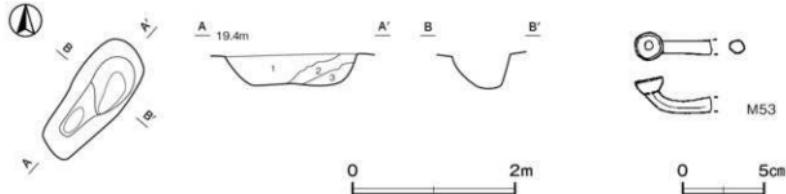
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。堆積状況から、北側から埋め戻していると考えられる。

## 土層解説

- |   |     |                  |   |     |           |
|---|-----|------------------|---|-----|-----------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |   |     |           |

遺物出土状況 磁器片1点(碗)、鉄製品1点(不明鉄製品)、銅製品1点(煙管)が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土した煙管から、18世紀代と考えられる。性格は不明である。



第100図 第83号土坑・出土遺物実測図

第83号土坑出土遺物観察表（第100図）

番号	器種	長さ	火薬室	小口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M53	煙管	(4.7)	1.7	-	(5.08)	個	雁首のみ 銅板丸め後継付け	覆土中	

### 第85号土坑（第101図）

**位置** B区のC3i0区、標高18mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 上部に第1号土壙が構築されている。

**規模と形状** 長軸173m、短軸122mの長方形で、長軸方向はN-28°-Eである。深さは44cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

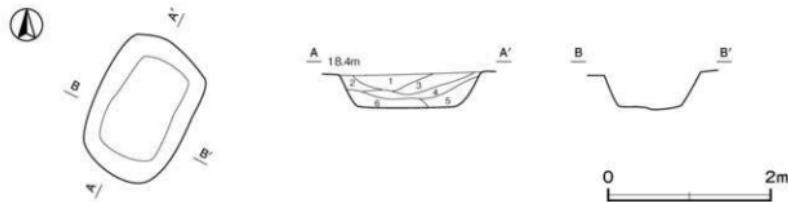
**覆土** 6層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

1	褐	色	ロームブロック中量	4	暗	褐	色	ロームブロック中量	
2	黒	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5	黒	褐	色	ロームブロック少量
3	黒	褐	色	ロームブロック多量	6	黒	褐	色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 陶器片1点（碗）、鉄製品1点（不明鉄製品）のほか、縄文土器片1点（深鉢）、土師器片1点（甕）が覆土中から出土している。いずれも細片のため、図示できなかった。

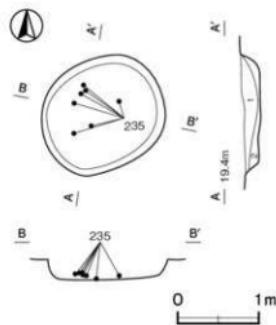
**所見** 出土遺物が細片のため明確な時期は不明だが、形状や軸方向が当期の土坑とはば描っていることから、江戸時代の可能性が考えられる。性格は不明である。



第101図 第85号土坑実測図

### 第98号土坑（第102・103図）

**位置** B区のC3i7区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。



第102図 第98号土坑実測図

**規模と形状** 径1.50mほどの円形で、深さは26cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。

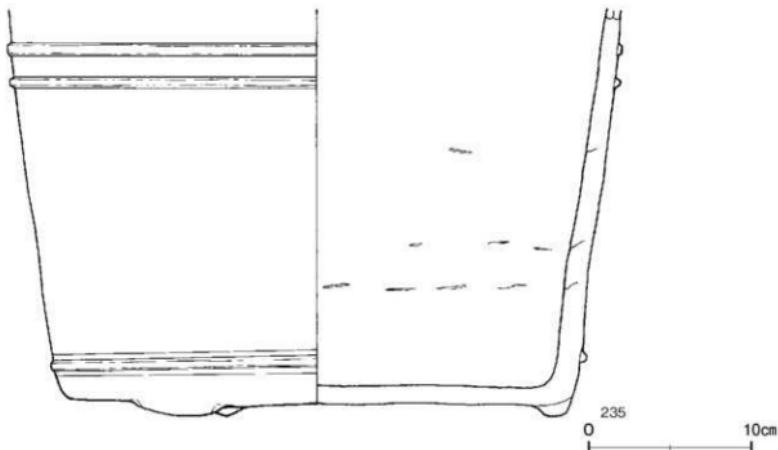
**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説		
1	黒	褐
2	褐	色

ロームブロック少量  
ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師質土器片1点（火鉢）、陶器片1点（碗）のほか、縄文土器片2点（深鉢）、土師器片6点（甕）が覆土中から出土している。235は大形の火鉢で、覆土下層から散在した状態で出土している。土坑の埋め戻しに伴って、割れた状態で投棄されたものと考えられる。

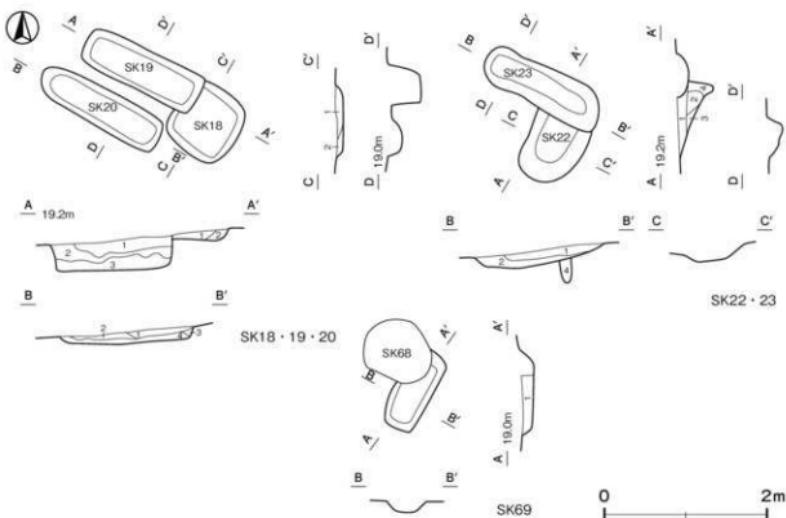
**所見** 時期は、出土遺物から18世紀代で、性格は廃棄土坑と考えられる。



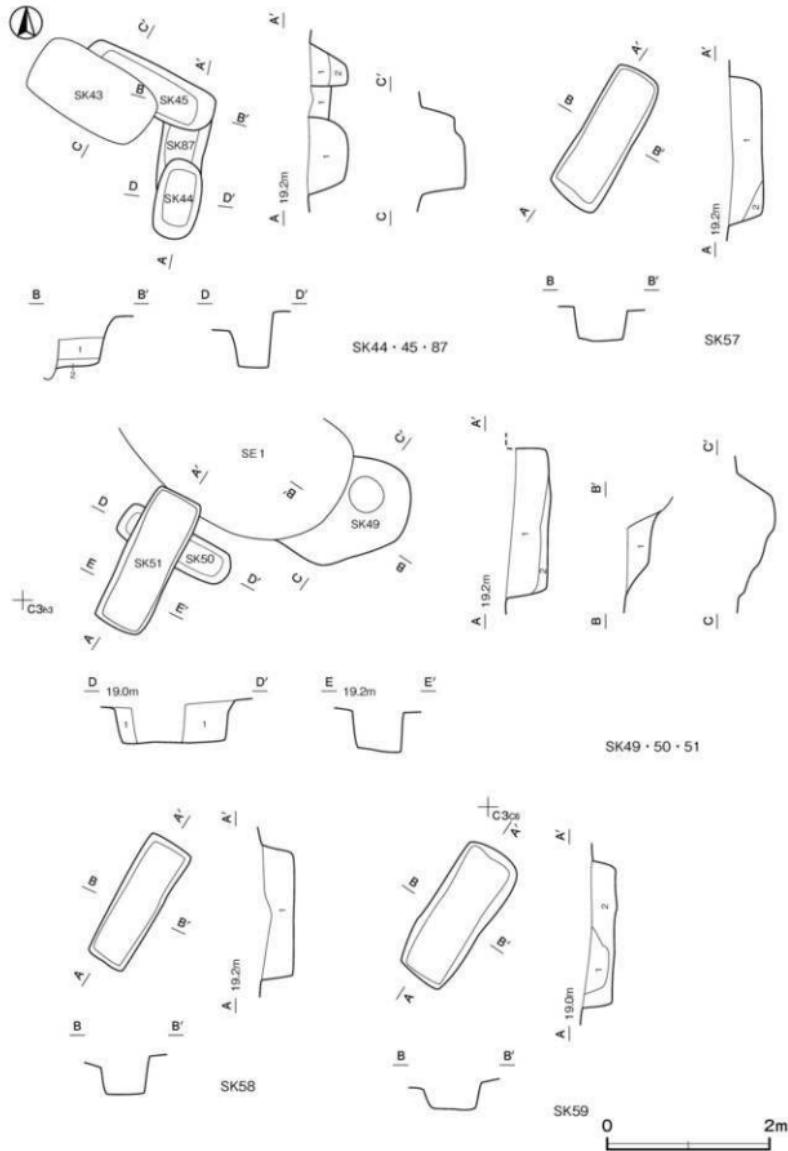
第103図 第98号土坑出土遺物実測図

第98号土坑出土遺物観察表（第103図）

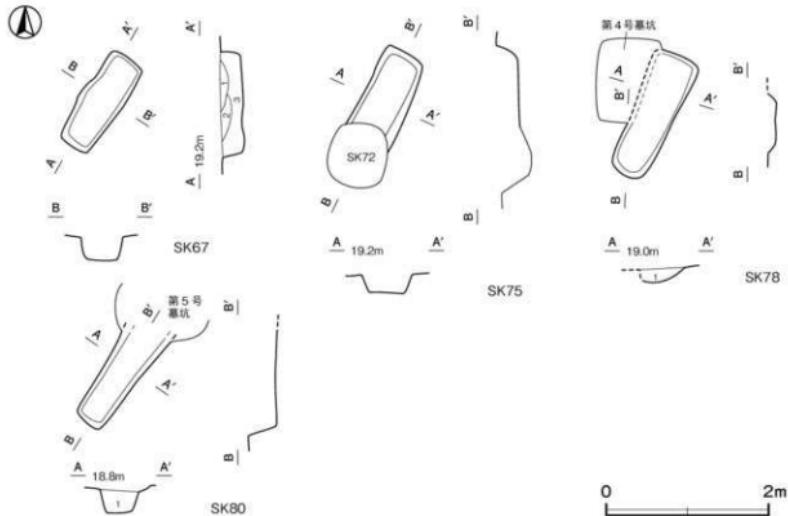
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
235	土面質 土器	火鉢	-	(25.1)	30.6	長石・石英	に赤い橙	普通	体部外表面に2条、下部に1条の粘土紐貼付 底部外周輪郭三足	覆土下層	60% PL.23



第104図 江戸時代土坑実測図(1)



第105図 江戸時代土坑実測図（2）



第106図 江戸時代土坑実測図(3)

## 第18号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

## 第19号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

## 第20号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 黑褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量

## 第22号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

## 第23号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

## 第44号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量

## 第45号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

## 第49号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

## 第50号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

## 第51号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

## 第57号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

## 第58号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

## 第59号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

## 第67号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

## 第69号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

## 第78号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量

## 第80号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量

## 第87号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量

表7 江戸時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 規		底面	側面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
14	C3b7	N - 32° - E	長方形	160 × 0.62	11	平坦	外傾	人為	銅製品	
17	C3b2	N - 12° - E	〔長方形〕	[120] × 0.87	78	平坦	ほぼ直立	人為		本跡→SD 4・SA 1
18	C3g4	N - 35° - E	方形	0.88 × 0.84	10	平坦	外傾	人為		
19	C3g3	N - 62° - W	長方形	152 × 0.52	39	平坦	直立	人為	土師質土器	
20	C3g5	N - 59° - W	構丸長方形	165 × 0.46	16	平坦	外傾	人為		
21	C3b5	-	円形	0.71 × 0.67	38	平坦	ほぼ直立	人為	銅製品	
22	C3g4	-	〔椎円形〕	(0.78) × 0.72	14	傾斜	ほぼ直立・傾斜	人為		本跡→SK23
23	C3g4	N - 63° - W	構丸長方形	156 × 0.55	18	傾斜	外傾	人為		SK22→本跡
27	C3e7	N - 45° - W	長方形	1.46 × 1.04	52	平坦	外傾	人為	土師質土器、陶器、鉄製品、銅製品	
28	C3b6	N - 57° - W	長方形	2.46 × 0.54	42	平坦	外傾	人為	陶器、土製品、銅製品	
35	C3b8	N - 38° - E	長方形	1.82 × 0.72	14	平坦	外傾	人為	陶器、鉄製品	
43	C3e0	N - 60° - W	長方形	1.59 × 0.86	54	平坦	ほぼ直立	人為	陶器、鉄製品、銅製品	SK45→本跡
44	C3e0	N - 10° - E	長方形	0.97 × 0.55	56	平坦	ほぼ直立	人為		SK87→本跡
45	C3d9	N - 62° - W	〔長方形〕	1.74 × 0.57	41	平坦	ほぼ直立	人為	陶器	SK87→本跡→SK43
49	C3g3	-	〔不整円形〕	(1.53) × (0.89)	46	長状	外傾	人為		本跡→SE 1
50	C3g3	N - 61° - W	長方形	1.47 × 0.48	48	平坦	ほぼ直立	人為		本跡→SK51
51	C3g3	N - 25° - E	長方形	1.85 × 0.65	48	平坦	直立	人為	陶器、鉄製品	SK50→本跡
57	C3d6	N - 30° - E	長方形	1.83 × 0.65	40	平坦	直立	人為		
58	C3e6	N - 31° - E	長方形	1.69 × 0.58	40	平坦	直立	人為		
59	C3e5	N - 30° - E	長方形	1.84 × 0.78	30	平坦	ほぼ直立	人為	土師質土器、陶器	
63	C3e5	N - 32° - E	長方形	1.75 × 0.68	40	平坦	直立	人為	陶器	
67	C3i3	N - 34° - E	長方形	1.28 × 0.56	30	平坦	ほぼ直立	人為		
69	C3j2	N - 28° - E	長方形	1.06 × 0.45	15	平坦	外傾	人為		本跡→SK68
75	C3i3	N - 34° - E	長方形	1.28 × 0.56	30	平坦	ほぼ直立	人為	陶器	本跡→SK72
77	C3g8	N - 34° - E	長方形	3.18 × 0.59	9	平坦	外傾	人為	土師質土器、鉄製品	
78	C3i2	N - 24° - E	長方形	1.63 × 0.51	10	平坦	外傾	人為		第4号墓坑→本跡
80	C3i1	N - 31° - E	〔長方形〕	(1.32) × 0.51	36	平坦	直立	人為		第5号墓坑→本跡
83	C3f5	N - 35° - E	構丸長方形	1.64 × 0.70	42	凹凸	外傾	人為	磁器、鉄製品、銅製品	
85	C3i0	N - 28° - E	長方形	1.73 × 1.22	44	平坦	外傾	人為	陶器、鉄製品	本跡→SA 1
87	C3e0	N - 9° - E	〔長方形〕	(0.93) × 0.54	16	平坦	外傾	人為		本跡→SK44・45
98	C3i7	-	円形	1.58 × 1.45	26	平坦	外傾	人為	土師質土器、陶器	

## (6) 溝跡

## 第1号溝跡（第107図・付図1）

位置 A区のD5b3～D5e6区にかけて、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2・3号竪穴建物跡を掘り込み、第2号溝に掘り込まれている。埋没後、上部に第1号塚が構築されている。

規模と形状 北・東側が調査区域外へ延びているため、22.66mしか確認できなかった。西方向（N - 62° - W）へ直線的に延び、D5c3区で北方向（N - 28° - E）へ屈曲している。深さ24～30cmの浅い溝から、深さ46～56cmの深い溝に掘りかえられている。1期の溝は、下幅0.15～0.21m、断面形はU字状で、壁は外傾している。2期の溝は、上幅0.75～1.45m、下幅0.08～0.30mである。断面形はU字状で、壁は外傾しない緩やかに立ち上がりっている。底面の標高は、北西部が高く、南東へ向かって徐々に低くなっている。

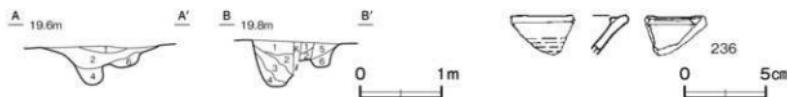
**覆土** 6層に分層できる。第1～4層は2期の覆土、第5・6層は1期の覆土で締まりが強い。いずれもロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色 ロームブロック多量
2 黒褐色 ロームブロック中量	5 黒褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
3 褐色 ロームブロック多量	6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(鍋)、陶器片6点(碗5、灯明受皿1)、磁器片2点(碗、盃)のほか、土師器片62点(壺)、石製品1点(石製模造品未完成)、鉄製品1点(不明鉄製品)が覆土中から出土している。

**所見** 時期は、重複関係から17世紀後半以前と考えられる。形状から区画溝としての性格が想定できる。



第107図 第1号溝跡・出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表(第107図)

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
236	陶器	灯明受皿	-	(2.4)	-	黒褐色・にぶい黄褐色	口縁部に粘土絆胎付	無釉	瀬戸・美濃系	覆土中	10%

**第2号溝跡(第108図・付図1)**

**位置** A区のD 5b4～D 5d7区にかけて、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第3号竪穴建物跡、第1・3号溝跡を掘り込んでいる。埋没後、上部に第1号塚が構築されている。  
**規模と形状** 東側が調査区域外へ延びているため、15.63mしか確認できなかった。東方向(N-60°W)へ直線的に延びている。規模は上幅0.45～0.72m、下幅0.29～0.45m、深さ73cmである。断面形はU字状で、壁はほぼ直立している。底面の標高は、西部が高く、東に向かって徐々に低くなっている。

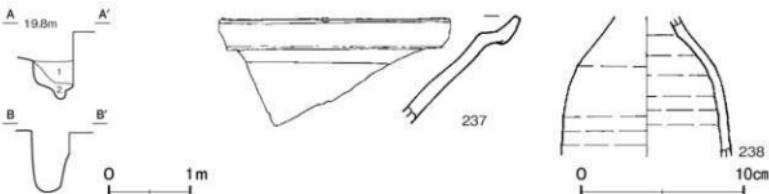
**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック少量	2 暗褐色 ロームブロック多量
-----------------	-----------------

**遺物出土状況** 陶器片4点(碗1、鉢1、瓶2)、瓦片1点(平瓦)、粘土塊1点のほか、土師器片26点(壺)が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、重複関係から17世紀後半以前と考えられる。第1号溝跡と並行していることから、関連があると推測される。



第108図 第2号溝跡・出土遺物実測図

第2号溝跡出土遺物観察表（第108図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土・色調	文様・特徴	胎葉	産地	出土位置	備考	
237	陶器	鉢	-	(6.5)	-	黒褐色に赤い赤 褐色	折線形 鉄輪流し掛け	鉄輪	瀬戸・美濃系	覆土中	10%	
238	陶器	瓶	-	(8.6)	-	黒褐色	肩部灰輪流し掛け	灰輪	鉄輪	瀬戸・美濃系	覆土中	30%

表8 江戸時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	断面			新面	横面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)					
1	D5b3～D5c6	N-28°-E N-62°-W	L字形	(22.66)	0.75-1.45	0.08-0.30	24-56	U字状	外傾 直立	人形 土師質土器、陶器、磁器	SI 2→3一本斜 SD 2→TM 1
2	D5b4～D5d7	N-60°-W	直線	(15.63)	0.45-0.72	0.29-0.45	73	U字状	直立	人形 陶器、瓦	SI 3→SD 1-3 一本斜→TM 1

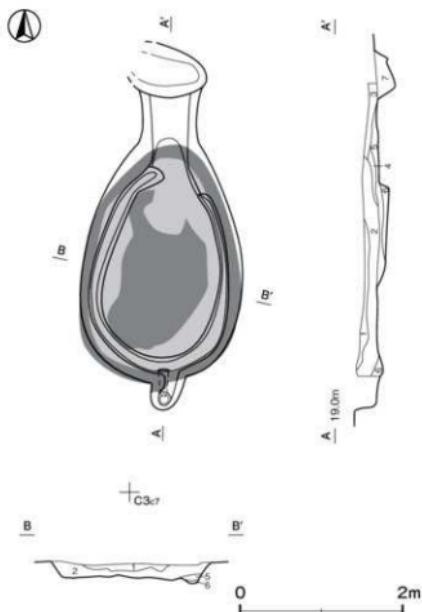
## 5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、近代以降や時期が明確にできなかった炭焼窯跡2基、土壙1条、土坑136基、溝跡14条、ピット群6か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

### (1) 炭焼窯跡

#### 第1号炭焼窯跡（第109図）

位置 B区のC3b7区、標高18mほどの台地縁辺部に位置している。



規模と形状 全長4.46mの瓢箪形で、長軸方向はN-3°-Eである。

点火室 西側が削平を受けているため、奥行0.60m、幅は0.84mしか確認できなかった。梢円形で、深さは23cmである。底面は皿状で、壁は外傾している。

炭化室 幅1.98m、奥行き2.80mの梢円形で、深さは17cmである。窯壁には厚さ15-20cmの粘土が貼られている。窯底はやや凸凹で、壁際に浅い溝を有する。窯壁は外傾している。窯底と窯壁は強く焼けて硬化している。

煙道部 奥壁のやや東寄りに位置し、ほぼ直立している。

覆土 7層に分層できる。第1-3層は炭化室の覆土。第4-6層は点火室と炭化室をつなぐ窯口部。第7層は点火室の覆土である。炭化室の覆土に粘土を含まず焼土が多量に含まれているため、焼成後まもなく埋め戻されたと考えられる。

第109図 第1号炭焼窯跡実測図

## 土層解説

- |        |                     |        |                     |
|--------|---------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色  | 焼土ブロック・炭化物中量        | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量         |
| 2 赤褐色  | 焼土ブロック多量・炭化物中量      | 6 黒色   | 炭化物多量               |
| 3 明赤褐色 | 焼土ブロック多量            | 7 暗褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |        |                     |

**遺物出土状況** 土師質土器片4点(甕), 瓦片1点(平瓦)が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は、点火室と炭化室の間に障壁を設ける改良型の形状から、大正期と考えられる。

## 第2号炭焼窯跡(第110図)

**位置** B区のC3b6区。標高18mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 全長4.57mの瓢箪形で、長軸方向はN-11°-Eである。

**点火室** 幅0.99m、奥行0.78mの楕円形で、深さは23cmである。底面は北に向かってわずかに傾斜し、壁は外傾している。

**炭化室** 幅1.74m、奥行き2.50mの楕円形で、深さは8cmである。窯壁には厚さ6~14cmの粘土が貼られているが、大部分は崩落により土が露出している。窯底は凹凸で、窯壁は外傾している。窯底と窯壁は強く焼けて硬化している。

**煙道部** 奥壁の中央に位置し、ほぼ直立している。

**覆土** 5層に分層できる。第4・5層は煙道部の覆土。第1~3層は粘土ブロックを含む崩落土である。

## 土層解説

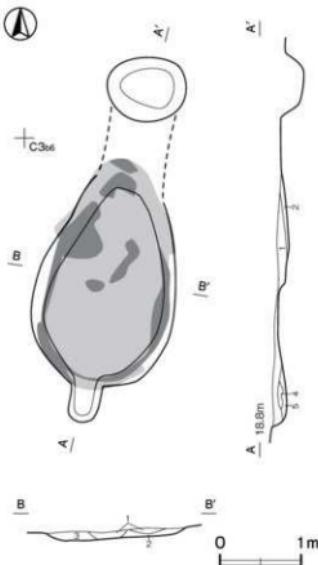
- |          |                             |
|----------|-----------------------------|
| 1 暗赤褐色   | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物中量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物中量、ローム粒子少量 |
| 3 黒色     | 炭化粒子多量、粘土ブロック・ローム粒子少量       |
| 4 赤褐色    | 焼土粒子・ローム粒子少量                |
| 5 暗赤褐色   | 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子少量     |

**遺物出土状況** 土師器片2点(甕)、陶器片1点(碗)が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は、点火室と炭化室の間に障壁を設ける改良型の形状から、大正期と考えられる。

表9 その他の炭焼窯跡一覧表

番号	位置	軸方向	平面形	全長 (m)	点火室			炭化室			煙道部			主な出土遺物	備考		
					奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	底面 (m)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	底面 (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)		
1	C3b7	N-3°-E	瓢箪形	4.46	0.60	(0.84)	23	椭状	1.98	2.80	17	凹凸	0.36	0.15	28	人為	
2	C3b6	N-11°-E	瓢箪形	4.57	0.78	0.99	23	椭狀	2.50	1.74	8	凹凸	0.39	0.24	20	人為	



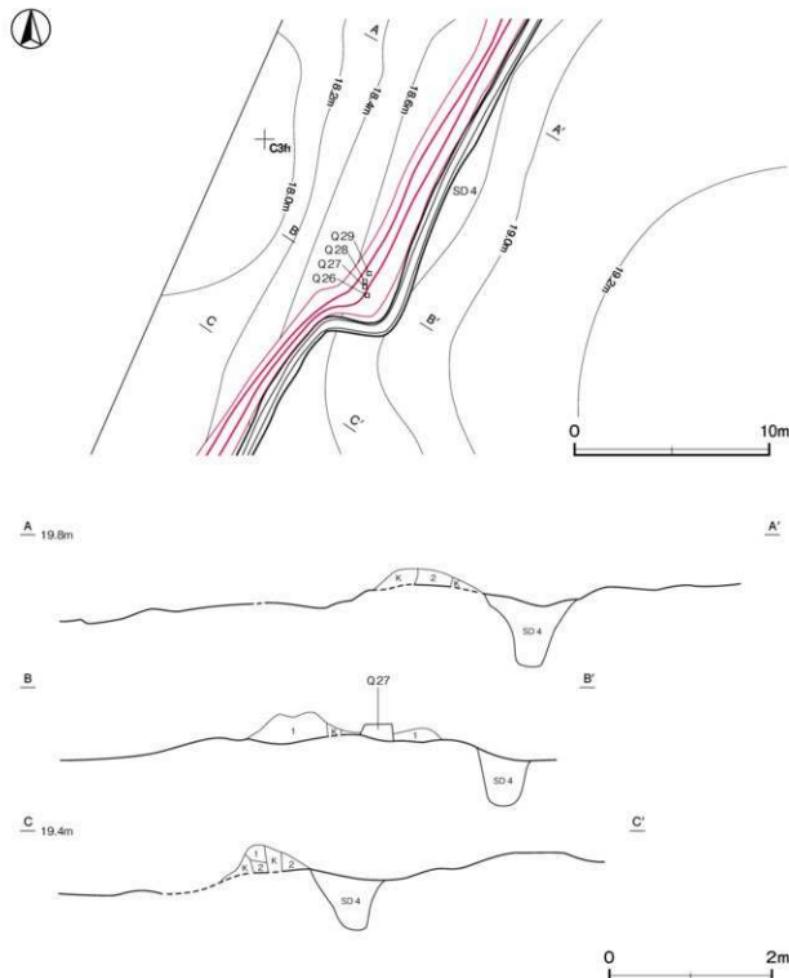
第110図 第2号炭焼窯跡実測図

(2) 土塁

**第1号土塁** (第111～114図)

**位置** B区のC 3b5～D 3d2区、標高19 mほどの台地縁辺部に位置している。第4号溝跡に沿って、南・西側に構築されている。

**重複関係** 第7号竪穴建物跡、第1～3・7号墓坑、第17・70・71・73・85号土坑の埋没後に構築されている。



第111図 第1号土塁実測図

**規模と形状** 両端が調査区域外に延びているため、確認できた長さは63.2mである。C 3 b5 区から南西方向 ( $N - 30^\circ - E$ ) へ直線状に延び、28.5mの位置で西へわずかに折れ、再び南西方向 ( $N - 30^\circ - E$ ) へ直線状に16.5m延びている。D 2 a9 区で南東方向 ( $N - 34^\circ - W$ ) へ曲がり、調査区域外へ直線状に延びている。

**覆土** 2層に分層できる。いずれも締まりの弱い構築土である。

#### 土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、締まり弱い

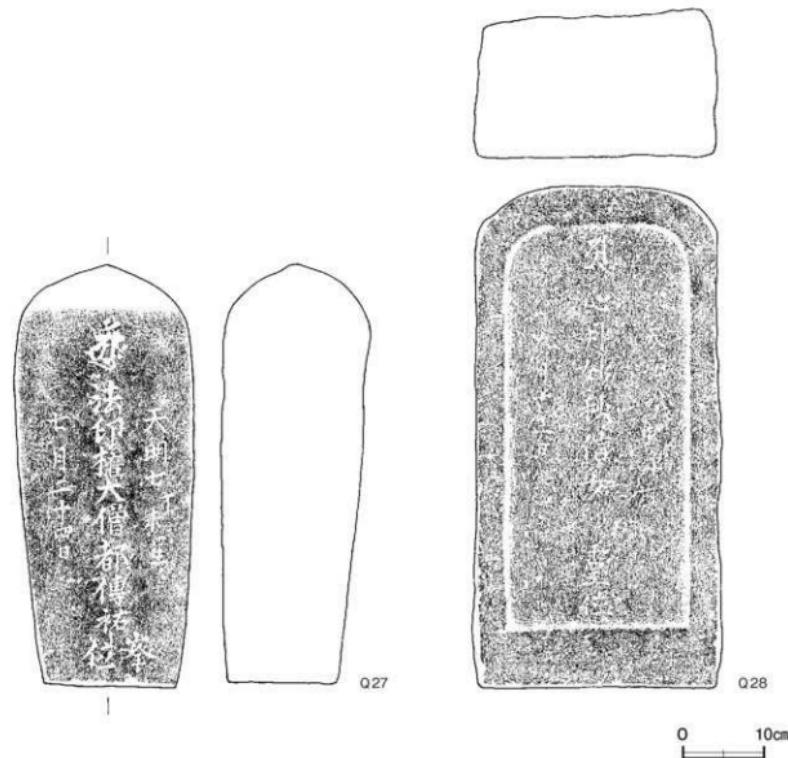
2 褐色 ロームブロック少量、締まり弱い

**遺物出土状況** 近現代の陶磁器をはじめ、様々な時期の遺物が出土している。縄文土器片62点（深鉢）、土師器片79点（壺5、高台付壺1、高壺2、甕71）、須恵器片6点（壺）、陶器片24点（碗5、皿2、蓋1、鉢10、擂鉢3、甕1、徳利1、急須1）、磁器片28点（碗27、小形甕1）、石仏2点（如意輪觀音像、地蔵菩薩像）、石塔3点（塔身2、台座1）、剝片2点（黒曜石、瑪瑙）が出土している。いずれも構築土中に混入していたものと考えられる。Q 30は、本跡底面（旧表土面）から出土し、Q 26～Q 29は、土壘上面に4点が東向きに並べられた状態で確認した。

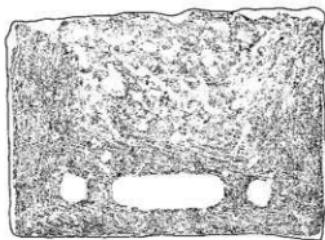


第112図 第1号土壘出土遺物実測図（1）

**所見** 本跡に沿う第4号溝の掘削土を南・西側に積み上げることによって構築されており、根切り溝に伴って地境を明示する機能が想定できる。構築土中から近現代の陶磁器が出土しているため、構築時期は近現代と考えられる。上面で確認したQ 26～Q 30は、本跡の下部に位置する墓坑群に伴うもので、Q 30は旧表土面から移設されずに本跡が構築され、Q 26～Q 29は、本跡構築時にはほぼ同位置を保ったまま上面に移設されたと推測される。Q 27は第1号墓坑のQ 22～Q 24と組み合う無縫塔の塔身である。



第113図 第1号土壙出土遺物実測図（2）



0 10cm

第114図 第1号土塁出土遺物実測図（3）

第1号土塁出土遺物観察表（第112～114回）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 26	石仏	61.2	28.3	18.3	44.700	花崗岩	舟形 知恩輪觀音像浮彫 記録「ア」「解説妙法蓮華經」「光明 六〇〇六年六月二十七日」	上面	
Q 27	石塔	51.8	21.9	18.5	36.500	安山岩	無縫石塔身 2段構成 ハーフタワー 「法印僧大僧都傳祐位証」「光明 七年八月生」「七月二十日」	上面	
Q 28	石塔	62.1	30.7	18.7	36.500	安山岩	円頂方形 記録「ア」「心月妙秋尼女婬位」「光明八九年」「九 月十三日」	上面	
Q 29	石仏	59.4	26.4	20.0	54.100	安山岩	舟形 地藏菩薩像浮彫 記録「ア」「智溫侯婆証」「安永三年三 月廿五日」	上面	
Q 30	石塔	28.0	39.5	19.1	36.300	安山岩	舟形 上面手前に後椎円形(中央)・円形(頭部)の窪み、深 さ24～28cm 5面平滑に仕上げ、一部本磨耗	旧表面	

## (3) 土坑

土坑の規模や形状等について、特徴的なものについては個別に記述し、その他は一覧表を掲載する。

## 第81号土坑（第115図 PL14）

位置 B区のC3h8区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 軸長は247mで、軸方向はN-61°-Wである。長方形と円形の土坑が接続した形状である。

円形部 方形部の西壁中央部に位置し、奥行1.01m、横幅1.20mの楕円形で、深さ68cmである。底面は平坦で、方形部より12cm深く掘り込まれている。全体的に強く硬化している。

方形部 奥行1.46m、横幅1.66mの長方形で、深さ56cmである。底面は平坦で、強く硬化している。底面中央で溝とピットを確認した。溝はT字状を呈し、幅24cm、深さ12cmで、円形部から方形部のピットまで延びている。円形部に向かってわずかに傾斜し、上面から蓋石が出土していることから、排水施設と思われる。

ピット 長軸75cm、短軸40cmの隅丸長方形で、深さ19cmである。

## ピット・溝土層解説

1 暗褐色	ローム粒子多量	4 黒褐色	ロームブロック中量
2 明褐色	ロームブロック少量	5 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック少量		

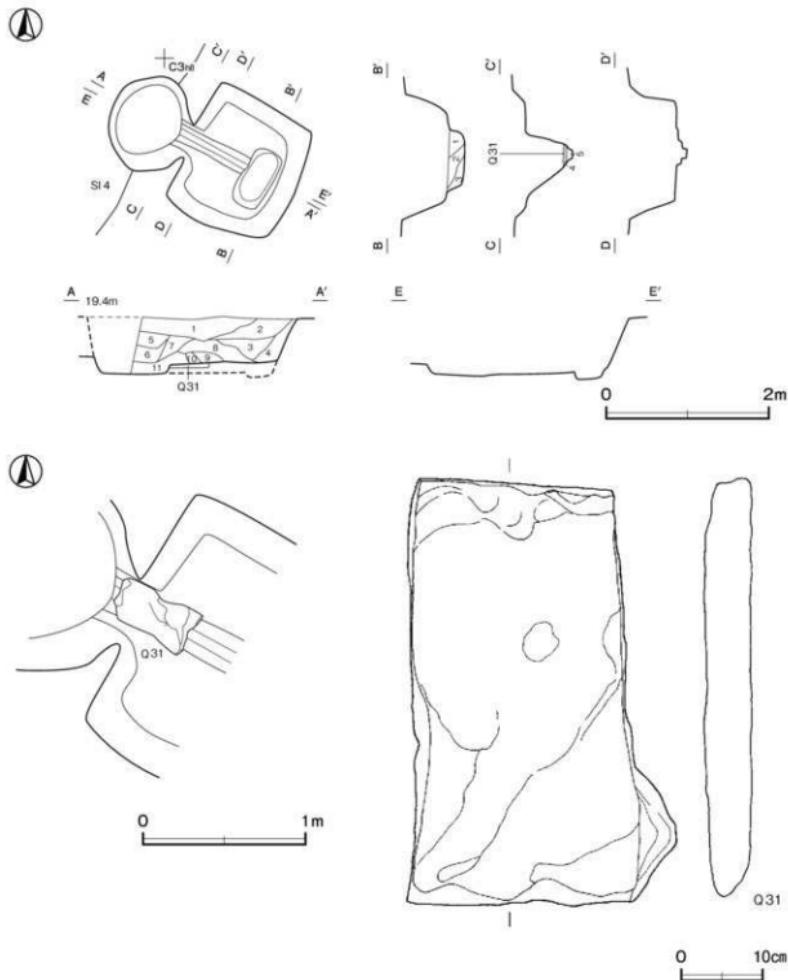
覆土 11層に分層できる。中央部に第8～11層が山状に堆積した後、東西から流れ込んでいる。ロームブロックなどの含有物が多く含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	8 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 にぶい褐色	ローム粒子多量、粘土粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子多量	10 黒褐色	ローム粒子少量
5 暗褐色	ロームブロック少量	11 黒褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 石製品1点（石蓋）のほか、土師器片7点（环2、甕5）、洞片1点が出土している。Q 31は方形部に掘り込まれた溝の上面から出土している。溝はT字状で、石蓋をはめ込むのに適した形状だが、Q 31は溝よりも幅が広く、はめ込むことはできない。土師器片は古墳時代のもので、細片のため混入と考えられる。

所見 遺構に伴う遺物がQ 31のみで、時期は不明である。平面形が地下式坑に類似し、底面に石蓋を伴う溝やピットを有する点が特筆される。今回の調査で中世の遺構・遺物が確認されていないことや、同一調査区内で江戸時代の掘立柱建物跡や墓坑、土坑群などを確認していることから近世に属する可能性があり、底面の硬化状況から、貯蔵施設として機能していたと思われる。



第 115 図 第 81 号土坑・出土遺物実測図

第 81 号土坑出土遺物観察表（第 115 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 31	石蓋	52.2	32.9	7.2	18,400	雲母片岩	上面や平滑	溝上面	

表10 その他の土坑一覧表

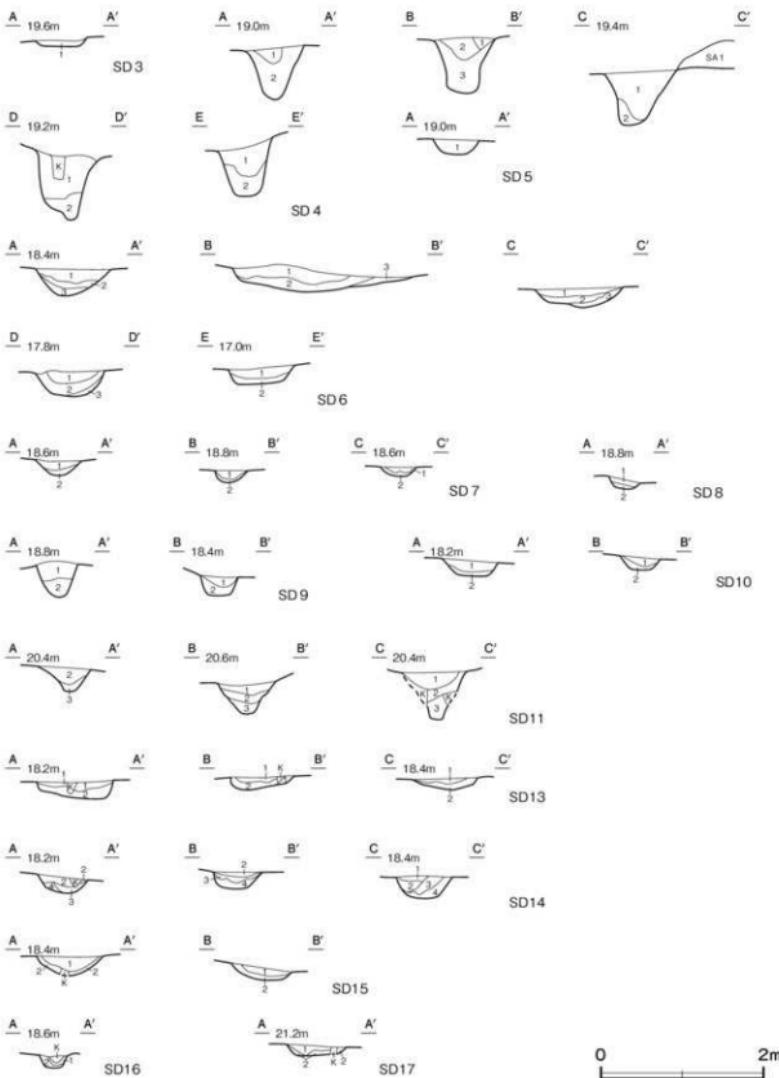
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	D5e6	-	円形	1.10 × 1.08	53	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	SI 2 → 本跡
2	D5d5	N - 43° - W	椭円形	1.58 × 1.00	12	圓状	傾斜	人為	土師器	
3	D5b3	N - 53° - W	[椭円形]	1.98 × [1.32]	92	平坦	ほぼ直立	人為	土師器、銅片	
4	D5c4	N - 23° - W	椭円形	0.82 × 0.56	27	平坦	外傾	人為		SI 3 → 本跡 → TM 1
5	D5c5	N - 55° - E	椭円形	0.65 × 0.36	10	平坦	外傾	自然		SI 3 → 本跡 → SD 3 → TM 1
6	D5c4	N - 35° - W	[椭円形]	[0.54] × 0.46	6	平坦	外傾	人為		SI 3 → 本跡 → SD 3 → TM 1
8	D3e3	N - 90°	[椭円形]	(0.45) × 0.38	16	平坦	外傾	人為		
9	D3e3	N - 8° - E	椭円形	1.18 × 0.85	24	平坦	外傾	人為		
10	D3e3	N - 0°	椭円形	0.61 × 0.54	20	平坦	外傾	自然		
11	D3d4	N - 38° - W	椭円形	1.19 × 0.75	26	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	
12	D3a6	N - 20° - W	椭円形	1.62 × 1.53	15	平坦	外傾	人為	陶文土器、陶器、鐵製品	
13	C3j7	-	円形	1.46 × 1.39	10	平坦	外傾	人為		
15	D3a5	N - 18° - W	椭円形	0.85 × 0.67	15	平坦	外傾	人為	陶文土器、土師器、土師質土器、陶器	SK62 → 本跡
25	C3i7	-	円形	1.50 × 1.50	20	平坦	外傾	人為	陶文土器、陶器	
26	C3j7	-	円形	1.43 × 1.40	25	平坦	外傾	人為		
29	C3e9	N - 71° - W	[椭円形]	(0.76) × 0.68	13	平坦	外傾	人為		本跡 → SK30
30	C3e9	N - 9° - E	椭丸長方形	2.01 × 1.01	22	平坦	外傾	人為		SK29 → 本跡
31	C3e0	N - 71° - W	椭円形	0.85 × 0.72	26	平坦	ほぼ直立	人為	陶器	
32	C3b6	N - 8° - E	[椭円形]	(1.10) × 1.20	17	平坦	傾斜	人為		
33	C3b7	N - 21° - E	椭円形	1.12 × 0.55	70	平坦	外傾	人為	陶文土器	
34	C3i8	N - 4° - W	椭円形	0.90 × 0.62	22	平坦	外傾	人為		SK52 と重複
36	C3b8	-	円形	1.68 × 1.59	23	平坦	外傾	人為	土師器、陶器、貝	
37	C3g9	-	円形	1.48 × 1.43	28	平坦	外傾	人為	陶文土器、土師器、陶器	
38	C3f9	-	[円形]	0.94 × (0.64)	24	圓狀	傾斜	人為	土師器	
39	C3f6	N - 38° - E	椭円形	0.88 × 0.66	17	平坦	外傾	人為	土師器	
40	C3f6	N - 3° - E	椭円形	1.12 × 0.89	31	圓狀	傾斜	自然	鐵質	
41	C3f6	N - 28° - E	椭円形	1.13 × 0.63	42	-	外傾	人為		
42	C3b8	N - 52° - W	[椭円形]	(1.80) × (1.42)	24	平坦	外傾	人為	鐵製品	本跡 → SD 5
52	C3i8	N - 15° - W	椭円形	1.05 × 0.70	28	平坦	ほぼ直立	人為	陶文土器	SK34 と重複
53	C3e6	N - 35° - E	椭円形	1.43 × 1.02	36	圓凸	外傾	人為	陶文土器	
54	C3e9	N - 26° - E	長方形	2.64 × 0.63	48	平坦	ほぼ直立	人為	陶文土器、土師器、鉢器、陶片	
55	C3f9	-	円形	0.65 × 0.64	31	平坦	外傾	人為	土師器	
56	C3b5	N - 29° - E	椭円形	1.29 × 0.74	36	圓狀	外傾	人為		
60	C3f6	N - 22° - E	椭円形	1.18 × 0.82	32	平坦	外傾	人為	土師器	
61	C3f6	-	円形	0.48 × 0.45	32	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	
62	D3a5	N - 58° - W	長方形	1.71 × 0.50	15	平坦	外傾	自然		本跡 → SK15
64	D4a4	N - 35° - W	[長方形]	(1.62) × 1.08	11	平坦	外傾	人為	陶文土器、土師器、土師質土器、陶器	本跡 → SB 1 P 2
65	C3e3	-	円形	1.90 × 1.75	84	平坦	外傾	人為	陶文土器	
66	C3e6	N - 31° - E	椭円形	1.33 × 0.68	40	平坦	外傾	人為		
68	C3i2	N - 48° - W	椭円形	0.88 × 0.76	14	平坦	外傾	人為		SK69 → 本跡
70	D2b6	N - 60° - E	椭円形	1.30 × 1.07	60	平坦	ほぼ直立	人為	陶文土器	
71	D2b6	N - 31° - E	椭円形	0.89 × 0.69	27	平坦	外傾	人為	陶文土器	
72	C3k3	N - 13° - E	長方形	0.81 × 0.73	46	傾斜	外傾	人為		SK25 → 本跡
73	D2g9	-	円形	0.65 × 0.62	63	平坦	直立	人為		
74	D2a6	N - 1° - E	長方形	1.63 × 1.13	69	平坦	ほぼ直立	人為	陶文土器	本跡 → SD 4

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
81	C38b	N - 61° - W	長方形・円形	247 × 166	28	平坦・凹凸	直立	人為	土師器、石蓋、瓦片	SI 4 → 本跡
86	C38e	N - 37° - E	椭円形	0.90 × 0.61	52	平坦	ほぼ直立	人為	土師質土器、陶製品	
89	C3g5	N - 48° - W	椭円形	0.95 × 0.56	26	平坦	外傾	人為	陶文土器	
90	C3f6	N - 35° - E	椭円形	1.02 × 0.58	24	圓状	傾斜	人為		SK99 → 本跡
91	C3e5	-	円形	0.95 × 0.94	28	平坦	傾斜	人為		
92	C3e5	N - 4° - E	椭円形	0.86 × 0.58	58	平坦	有段	人為	土師器	
93	C3e7	N - 44° - E	椭円形	1.10 × 0.70	24	平坦	傾斜	人為		
94	C3f6	N - 84° - W	椭円形	1.20 × 0.84	12	平坦	傾斜	人為		
95	C3e5	N - 27° - E	椭円形	0.45 × 0.36	48	U字状	ほぼ直立	人為	土師器	
96	C3f6	-	円形	0.84 × 0.80	20	平坦	外傾	人為		
97	C3f7	N - 62° - W	椭円形	1.20 × 0.91	27	圓状	外傾	人為	土師器	
99	C3g6	N - 36° - E	椭円形	1.13 × 0.86	58	平坦	ほぼ直立	人為		本跡 → SK90
101	C3e9	N - 5° - W	椭円形	0.72 × 0.55	11	圓状	傾斜	人為		
102	E8e1	N - 7° - E	方形	0.92 × 0.89	(28)	平坦	ほぼ直立	人為		
103	E8e2	N - 34° - W	椭円形	1.83 × 1.23	12	平坦	傾斜	人為	骨灰(鹿)	
104	D9a3	N - 58° - W	長方形	1.22 × 0.68	52	平坦	ほぼ直立	人為		
105	C9e3	N - 60° - W	方形	1.16 × 1.10	56	平坦	外傾	人為		SK163 → 本跡
106	D8j4	-	円形	0.70 × 0.70	43	平坦	外傾	人為	土師器	
107	D8j6	N - 25° - E	椭円形	1.04 × 0.73	20	凹凸	外傾	人為		
108	C9f6	N - 37° - E	椭円形	0.78 × 0.56	27	圓状	外傾	自然	陶文土器	
109	E10f0	N - 34° - E	不定形	2.14 × 1.00	21	平坦	外傾	人為		
110	E11e1	N - 15° - W	椭円形	0.56 × 0.48	26	平坦	外傾	人為		
111	E11e1	N - 45° - W	椭円形	1.01 × 0.82	18	平坦	傾斜	人為		
112	E11e1	N - 15° - W	椭円形	0.52 × 0.43	22	平坦	外傾	人為		
113	E11e2	N - 65° - W	椭円形	0.96 × 0.71	18	平坦	外傾	人為		
114	E11h3	N - 41° - E	隅丸長方形	3.62 × 1.40	21	平坦	傾斜	人為	漆石片	本跡 → SI15
115	E10j2	-	円形	0.94 × 0.92	15	平坦	外傾	自然		
116	E11a3	N - 50° - W	隅丸長方形	2.68 × 0.96	10	平坦	傾斜	自然		
117	E11b4	N - 87° - E	椭円形	0.93 × 0.68	11	平坦	傾斜	自然	土師器	
119	E11e6	N - 26° - E	椭円形	0.44 × 0.38	72	圓状	外傾	人為		
120	E12e5	N - 28° - W	【椭円瓶】	0.45 × (0.41)	21	平坦	外傾	自然	土師器	本跡 → SK127
121	E12e2	N - 13° - W	椭円形	0.94 × 0.78	28	圓状	外傾	自然		
122	E11b8	N - 27° - E	椭円形	1.14 × 0.86	14	平坦	傾斜	人為	陶文土器、土師器	
123	E11e8	N - 21° - E	椭円形	1.16 × 0.92	14	平坦	傾斜	人為	瓦片	
124	E11e8	N - 25° - E	椭円形	2.08 × 1.00	14	平坦	外傾	人為		
125	F12d1	N - 2° - E	椭円形	2.03 × 0.76	32	平坦	外傾	人為	陶文土器	
126	F12e3	N - 54° - E	椭円形	1.73 × 0.96	19	平坦	外傾	人為	土師器	
127	E12e6	N - 28° - E	椭円形	1.26 × 1.04	23	平坦	外傾	人為		SK120 → 本跡
128	E11e7	N - 30° - E	椭円形	0.72 × 0.60	52	圓状	外傾	人為	土師器	
129	E11a6	N - 59° - E	隅丸長方形	1.62 × 0.87	16	平坦	外傾	人為	土師器	
130	D11j7	N - 10° - E	椭円形	1.18 × 0.87	22	平坦	外傾	人為	土師器	
131	E11j3	N - 18° - E	椭円形	1.47 × 0.61	10	平坦	外傾	人為	陶文土器	
132	F11a4	N - 10° - W	椭円形	1.14 × 0.63	17	平坦	外傾	人為	土師器	
133	E11j4	N - 12° - W	椭円形	1.37 × 0.90	9	平坦	外傾	人為		
134	E11j4	N - 20° - W	椭円形	2.45 × 0.74	9	平坦	外傾	人為	土師器	
135	E11h2	N - 23° - W	椭円形	0.94 × 0.64	16	圓状	傾斜	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
136	E1211	N - 43° - E	楕円形	0.50 × 0.44	32	皿状	外傾	人為	縄文土器、土師器	SD 6と重複
137	E1166	N - 39° - E	楕円形	1.50 × 1.34	42	皿状	紙斜	人為		本跡→SD10
138	E11c7	N - 47° - W	楕円形	0.58 × 0.44	22	平坦	外傾	人為		本跡→SD10
139	E1067	N - 0°	楕円形	0.53 × 0.46	29	平坦	外傾	自然		
140	E10c7	N - 55° - W	[隅丸長方形]	(1.60) × 0.98	12	平坦	外傾	人為	土師器	
141	F10a7	N - 47° - W	楕円形	0.53 × 0.46	46	平坦	外傾	人為	縄文土器	
143	G13g6	N - 72° - E	楕円形	1.10 × 0.94	46	平坦	外傾	人為		SK142→本跡
144	E12g3	N - 22° - W	楕円形	1.12 × 0.74	28	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡→SK145
145	E12g3	N - 24° - W	[楕円形]	(0.75) × 0.60	32	平坦	外傾	人為		SK144→本跡
146	E10j7	N - 41° - W	楕円形	0.74 × 0.61	36	平坦	外傾	人為	縄文土器	
147	E10i8	-	円形	0.55 × 0.55	22	平坦	外傾	人為		
148	E10j7	N - 24° - W	楕円形	0.68 × 0.60	20	平坦	外傾	人為		
149	E10j8	N - 7° - E	楕円形	0.50 × 0.41	30	平坦	外傾	人為		
150	E10j8	-	円形	0.69 × 0.66	60	平坦	外傾	人為		
151	E10j8	N - 46° - W	楕円形	0.55 × 0.37	39	平坦	外傾	人為		
152	E10j8	-	円形	0.69 × 0.64	54	平坦	外傾	人為		
153	E1069	N - 42° - W	楕円形	0.47 × 0.38	25	平坦	外傾	自然		
154	E1069	N - 6° - E	楕円形	0.58 × 0.52	40	平坦	外傾	自然		
155	E1068	N - 12° - E	楕円形	0.51 × 0.46	50	平坦	外傾	人為		
156	C963	N - 64° - W	長方形	1.15 × 0.72	60	平坦	ほぼ直立	人為		SD 9・SK162→ 本跡→SK164
157	D9d8	N - 8° - W	楕円形	0.79 × 0.71	50	平坦	外傾	人為		
158	D9c8	N - 45° - E	楕円形	1.00 × 0.70	28	平坦	紙斜	人為		
159	D9b6	N - 15° - W	楕円形	0.82 × 0.62	19	平坦	外傾	人為	縄文土器	
160	C916	N - 12° - E	楕円形	1.58 × 1.25	13	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器	
161	D9e8	N - 10° - E	楕円形	0.70 × 0.48	20	平坦	外傾	自然		SD 16
162	C963	N - 59° - W	[楕円形]	0.48 × (0.24)	20	平坦	外傾	自然		本跡→SK156
163	C963	N - 61° - W	[長方形]	1.62 × (0.52)	22	平坦	外傾	自然		本跡→SK164
164	C963	N - 31° - E	長方形	1.08 × 0.88	18	平坦	外傾	人為		SK163・156→ 本跡
165	D9d6	N - 59° - W	[楕円形]	(0.95) × (0.44)	40	平坦	外傾	人為		本跡→SD 9
166	C960	N - 24° - E	楕円形	1.65 × 1.15	20	平坦	紙斜	人為		
167	C9b4	N - 34° - E	長方形	1.24 × 1.02	28	平坦	外傾	人為		SD 9・SK168→ 本跡
168	C9b4	N - 30° - E	[長方形]	0.68 × (0.34)	30	平坦	外傾	人為		本跡→SK167・ 169
169	C9b4	N - 27° - E	方形	1.24 × 1.02	32	平坦	ほぼ直立	自然		SK168→本跡
170	E10b7	-	円形	0.74 × 0.69	38	平坦	外傾	人為	土師器	
171	C10f2	-	円形	0.34 × 0.32	30	平坦	外傾	人為		本跡→SI20
173	E12a6	N - 66° - E	[楕円形]	1.13 × (0.83)	20	平坦	紙斜	人為		
174	C12b2	N - 29° - E	楕円形	1.48 × 1.12	64	平坦	外傾	人為		
175	E12f6	-	円形	1.97 × 1.95	57	皿状	紙斜	人為		
176	E4g5	N - 60° - W	[楕円形]	0.64 × (0.55)	30	平坦	外傾	人為		本跡→SK177 SD17
177	E4g5	N - 22° - E	不定形	1.35 × 1.05	30	凹凸	外傾	人為		SK176→本跡
178	E4f5	-	円形	1.08 × 1.06	43	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	
179	E4f5	N - 48° - W	[隅丸長方形]	2.13 × 0.64	32	平坦	外傾	人為		
180	E4f5	N - 38° - E	長方形	1.47 × 0.60	22	平坦	外傾	人為		SD11と重複
181	E11a5	-	円形	0.94 × 0.91	17	皿状	外傾	人為	土師器	
182	E11d2	N - 28° - E	楕円形	0.70 × 0.63	28	皿状	外傾	人為		

## (4) 溝跡(第116図 付図1)

土層断面図、土層解説と一覧表を掲載する。平面図については遺構全体図に示す。



第116図 溝跡実測図

**第3号溝跡土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック少量

**第4号溝跡土層解説**

1 明褐色 ローム粒子微量

2 褐色 ロームブロック少量

3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第5号溝跡土層解説**

1 黒褐色 ロームブロック少量

**第6号溝跡土層解説**

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

3 灰褐色 ローム粒子少量

**第7号溝跡土層解説**

1 褐色 ローム粒子少量

2 にぶい褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第8号溝跡土層解説**

1 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量

2 にぶい褐色 ロームブロック少量

**第9号溝跡土層解説**

1 褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック少量

**第10号溝跡土層解説**

1 灰褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

**第11号溝跡土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック中量

2 褐色 ロームブロック少量

3 にぶい褐色 ロームブロック少量

**第13号溝跡土層解説**

1 暗褐色 ローム粒子微量

2 褐色 ロームブロック少量

**第14号溝跡土層解説**

1 灰褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子微量

3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

4 にぶい褐色 ロームブロック少量

**第15号溝跡土層解説**

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 黑褐色 ローム粒子微量

**第16号溝跡土層解説**

1 暗褐色 ローム粒子微量

2 褐色 ロームブロック微量

**第17号溝跡土層解説**

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック微量

表11 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面図	断面			主な出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)			
3	D5c3～D5c5	N=52°～E N=86°～E	直線状	(5.34)	0.30～0.62	0.12～0.40	12	逆台形 範斜 人骨	SI 3→SK 5・6 →SD 2→本跡
		N=28°～E N=82°～W	直線状	74.1	0.50～0.85	0.10～0.50	64～79	U字状 逆台形 外傾 人骨	SA 1に伴う
5	C3b7～C3c8	N=55°～W	直線	4.76	0.54～0.70	0.26～0.36	18	逆台形 範斜 自然	SK42→本跡
6	D11d8～E12f5	N=36°～W N=45°～E	V字状	(49.7)	0.46～1.10	0.10～0.68	10～24	直状 範斜 自然	
7	C9d3～D9e4	N=56°～W N=29°～E	L字状	25.4	0.25～0.53	0.10～0.27	9～25	直状 範斜 外傾 人骨	SD 9→本跡
8	C9e7	N=73°～W	直線	3.25	0.30～0.39	0.13～0.18	10	逆台形 範斜 人骨	
9	C8j0～C9h0	N=38°～W N=25°～E	V字状	(62.3)	0.18～0.90	0.06～0.50	18～40	逆台形 外傾 人骨	SD16・SK165・ SD17・SK166・ →SK156・167
10	E11a5～E11d8	N=50°～W	直線	17.8	0.49～0.74	0.24～0.48	10～17	逆台形 範斜 外傾 人骨	SK137・138→ 本跡
11	E4b4～E4g7	N=43°～E N=66°～W	L字状	16.15	0.42～0.92	0.07～0.24	20～44	U字状 範斜 人骨	SK180と重複
13	E10c3～E10a5	N=40°～E	直線	12.04	0.64～0.94	0.40～0.84	12～20	直状 範斜 外傾 人骨	
14	D10j6～D11a9	N=63°～W	直線	12.96	0.62～0.78	0.26～0.60	24	直状 外傾 人骨	
15	E10c8～E10d6	N=33°～E N=68°～W	L字状	10.74	0.34～0.82	0.18～0.56	18～20	直状 範斜 外傾 人骨	
16	D9d7～D9e8	N=80°～W N=65°～W	直線	(8.52)	0.26～0.38	0.10～0.20	18	逆台形 外傾 自然	本跡→SD 9・ SK161
17	E4g5～E4b7	N=65°～W	直線	6.08	0.62～0.77	0.29～0.42	12～37	逆台形 範斜 自然	SK176と重複

## (5) ピット群(付図1)

今回の調査でピット群6か所を確認した。各ピット群の配置状況から建物跡は想定できず、遺物は細片のみであるため時期を判断できなかった。ここでは土層解説と計測表を掲載する。平面図については遺構全体図に示す。

第1号ピット群計測表

ピット番号	位置	形状	規模(cm)			ピット番号	位置	形状	規模(cm)			ピット番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	D3d3	【椎円形】(38)	30	24	9	9	D3d4	椎円形	61	50	26	17	D3d2	円形	25	23	18
2	D3d3	椎円形	38	33	25	10	D3d4	円形	28	27	22	18	D3d2	椎円形	25	22	34
3	D3d3	円形	36	35	16	11	D3d2	円形	33	32	62	19	D3d2	椎円形	30	27	21
4	D3d3	椎円形	30	24	18	12	D3d2	円形	33	32	30	20	D3c3	椎円形	35	26	36
5	D3d2	円形	28	26	16	13	D3d2	椎円形	42	30	25	21	D3c3	【椎円形】(24)	22	16	
6	D3d3	椎円形	53	38	20	14	D3d3	椎円形	35	26	13	22	D3c3	椎円形	23	18	22
7	D3d4	椎円形	42	38	56	15	D3d3	円形	31	29	15						
8	D3d4	椎円形	42	35	31	16	D3d2	円形	32	31	30						

第2号ピット群計測表

ピット番号	位置	形状	規模(cm)			ピット番号	位置	形状	規模(cm)			ピット番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C3l7	円形	28	28	40	2	D3a5	椎円形	34	30	38	3	C3l9	椎円形	38	30	30

第3号ピット群計測表

ピット番号	位置	形状	規模(cm)			ピット番号	位置	形状	規模(cm)			ピット番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C3d6	円形	34	33	27	5	C3d5	椎円形	38	34	25	9	C3d6	椎円形	50	38	48
2	C3d5	円形	29	28	40	6	C3d5	椎円形	38	26	38	10	C3c5	椎円形	36	32	30
3	C3d5	椎円形	32	26	44	7	C3d5	円形	30	28	28	11	C3c5	椎円形	40	32	36
4	C3d5	椎円形	40	36	20	8	C3d6	椎円形	42	32	16						

第4号ピット群計測表

ピット番号	位置	形状	規模(cm)			ピット番号	位置	形状	規模(cm)								
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ						
1	E7d0	円形	28	28	20	2	E7d0	椎円形	44	38	36						

第5号ピット群計測表

ピット番号	位置	形状	規模(cm)			ピット番号	位置	形状	規模(cm)			ピット番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	E10f9	椎円形	30	24	15	3	E11g1	椎円形	48	41	36	5	E11g1	椎円形	52	36	70
2	E10e9	椎円形	38	34	38	4	E11f1	円形	32	30	26						

第6号ピット群計測表

ピット番号	位置	形状	規模(cm)			ピット番号	位置	形状	規模(cm)			ピット番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F12a3	椎円形	64	48	38	3	F11j3	円形	44	40	20	5	F11e9	椎円形	60	42	45
2	F12a3	椎円形	40	33	18	4	F12h3	円形	48	45	50						

## 第1号ピット群土層解説(共通)

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量  
2 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量  
3 黒褐色 ロームブロック少量

## 第2号ピット群土層解説(共通)

- 1 黑褐色 ローム粒子少量  
2 暗褐色 ロームブロック少量  
3 暗褐色 ローム粒子多量・炭化粒子微量

## 第3号ピット群土層解説(共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック中量  
2 褐色 ローム粒子多量  
3 褐色 ローム粒子多量・炭化粒子少量  
4 黑褐色 ロームブロック少量  
5 暗褐色 ロームブロック少量

## 第4号ピット群土層解説(共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量  
2 黑褐色 ローム粒子少量

## 第5号ピット群土層解説(共通)

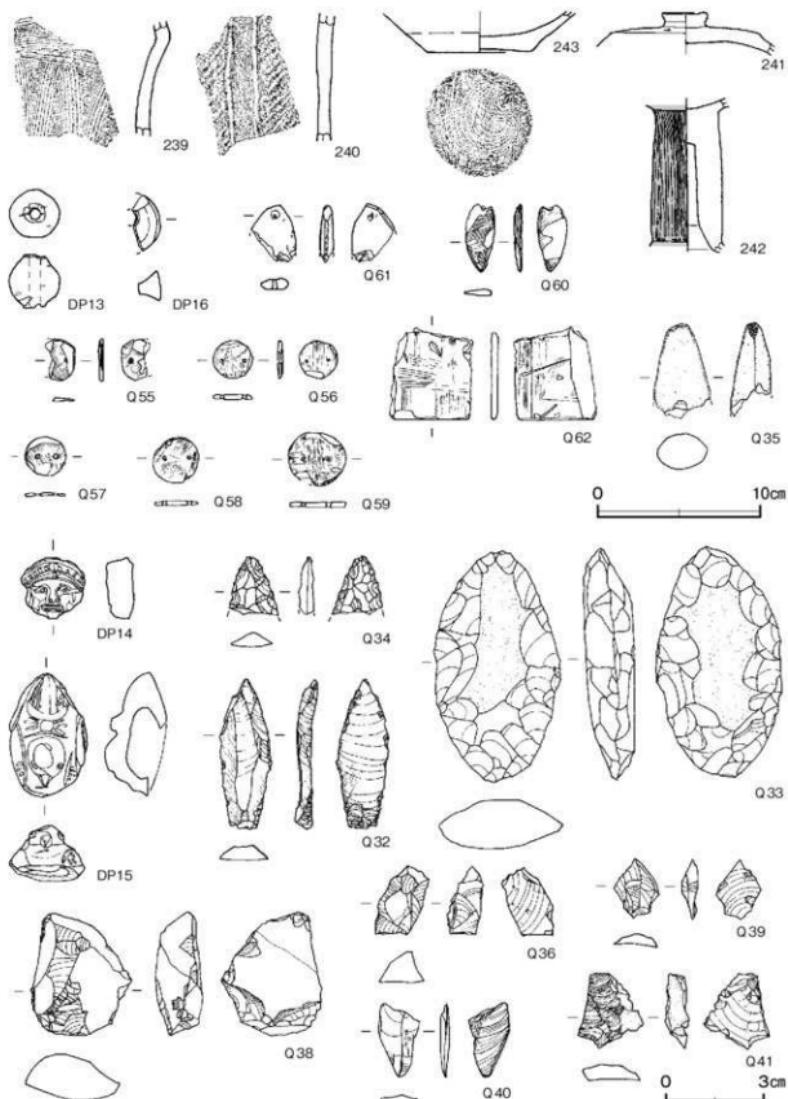
- 1 暗褐色 ローム粒子少量  
2 黑褐色 ローム粒子中量  
3 黑褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量  
4 黑褐色 ローム粒子微量

## 第6号ピット群土層解説(共通)

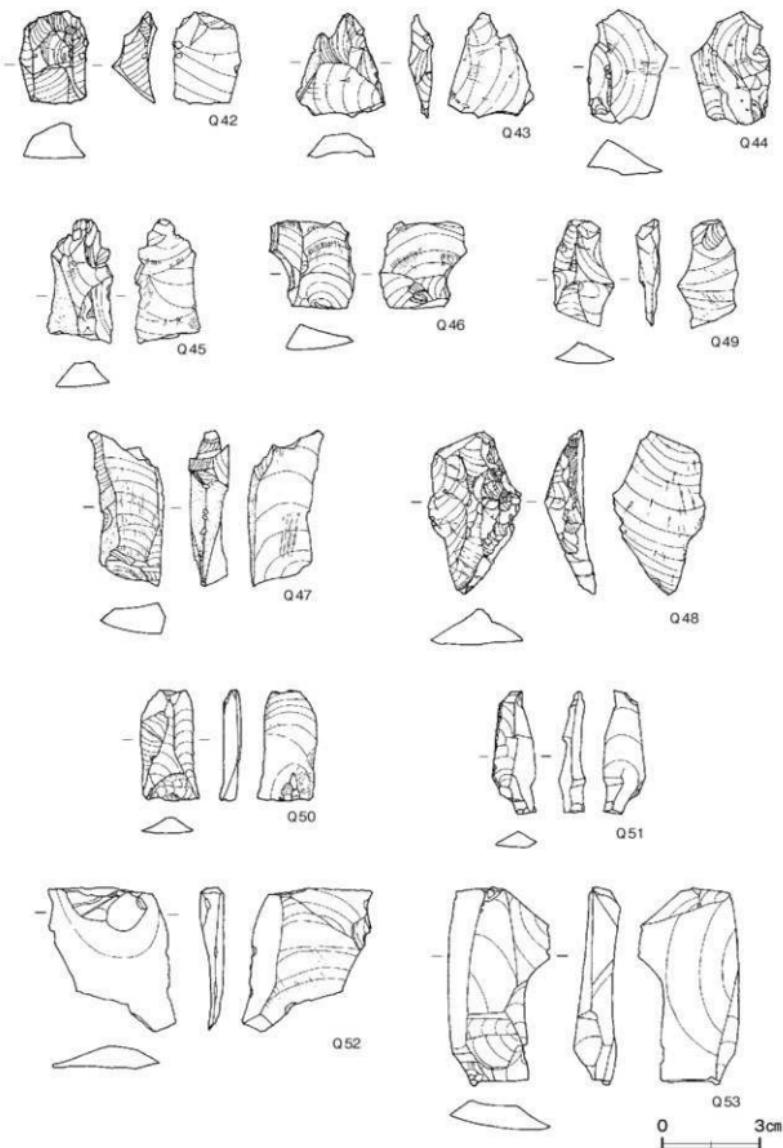
- 1 暗褐色 ロームブロック少量  
2 黑褐色 ローム粒子中量  
3 暗褐色 ローム粒子少量  
4 褐色 ロームブロック中量

(6) 遺構外出土遺物(第117~119図)

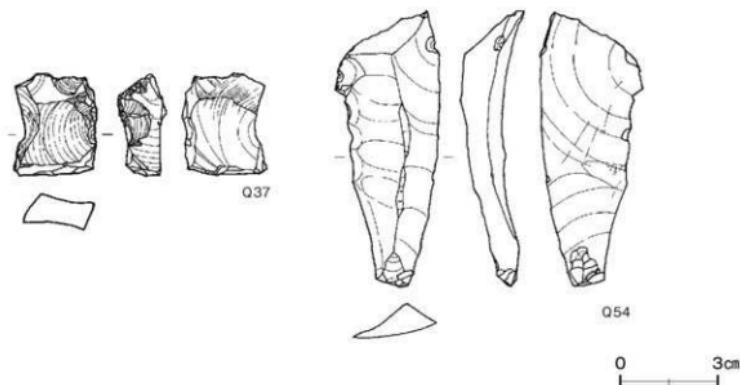
遺構に伴わない遺物について、実測図及び観察表を掲載する。



第117図 遺構外出土遺物実測図(1)

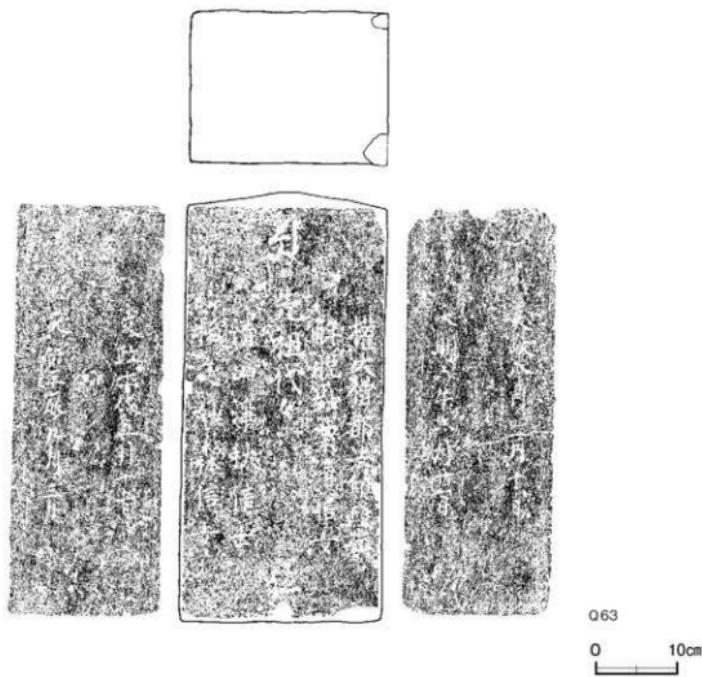


第118図 遺構外出土遺物実測図（2）



Q54

0 3cm



0 10cm

第119図 遺構外出土遺物実測図（3）

遺構外出土遺物観察表（第 117 ~ 119 図）

番号	種 別	器種	口径	高 度	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
239	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英	明赤褐	普通	7 級 1 単位の櫛刷文	SK69	前期後半
240	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英	に赤い褐	普通	櫛刷純文 斧頭純文 LR	表土	中期後半
241	須恵器	壺	-	(2.6)	-	長石・石英・細纈	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	第 1 号墓坑	30%
242	土師器	高环	-	(9.4)	-	長石・石英・赤色粒子	棕	普通	外面ヘラ削き、赤彩	表土	30%
243	土師器	壺	-	(2.5)	6.4	長石・石英・芸母	棕	普通	外・内面ロクロナサ 底部回転糸切り	SI15	10%
番号	器種	伴・長・幅	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調		特 徴	出土位置	備 考
DP13	泥状土鉢	31	-	3.3	(24.73)	長石・石英	に赤い褐	一方向から穿孔 孔径 0.7cm 孔端未調整		表土	一部被熱
DP14	泥面子	19	1.9	0.8	2.29	長石・石英	棕	裏面に指頭圧痕		表土	
DP15	泥面子	4.8	2.4	(1.8)	(4.82)	長石	棕	中空		表土	
DP16	耳飾	[4.0]	-	1.8	(8.72)	長石・石英	に赤い褐	孔径 [1.0] cm		SI11	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質		特 徴		出土位置	備 考
Q 32	尖頭器	4.6	1.6	0.7	3.62	黒曜石	縦長剥片を素材として片面調整			D区表土	和田岬産
Q 33	尖頭器	7.1	4.0	1.6	36.02	安山岩	自然面残存 両側に細かい剥離痕			D区表土	PL26
Q 34	尖頭器	(1.8)	(1.5)	0.4	(0.92)	黒曜石	多方向からの細かい剥離痕			D区表土	PL26 海津島見尾島産
Q 35	翦製石斧	(5.8)	3.5	2.5	(37.26)	砂岩	上部に敲打痕			表土	
Q 36	石核	21	1.7	1.2	2.58	黒曜石	折面平坦で細かい敲打痕			SI 4	PL26 海津島見尾島産
Q 37	石核	3.2	2.5	1.5	11.63	黒曜石	折面平坦で細かい敲打痕			SK81	PL26 和田岬産
Q 38	石核	3.8	3.1	1.5	14.03	珪質頁岩	折面平坦で細かい敲打痕			SI15	PL26
Q 39	剥片	1.8	1.4	0.5	0.61	黒曜石	背面に前段階の剥離痕			SI14	PL27
Q 40	剥片	2.3	1.3	0.3	0.43	黒曜石	縦長剥片			SI15	PL27
Q 41	剥片	2.3	2.0	0.7	2.25	黒曜石	背面に前段階の剥離痕			SI14	PL27 高麗山産
Q 42	剥片	2.8	2.1	1.4	4.94	黒曜石	背面に前段階の剥離痕			B区表土	PL27
Q 43	剥片	3.2	2.8	0.8	3.46	黒曜石	背面に前段階の剥離痕			SI14	高麗山産
Q 44	剥片	3.5	2.4	1.1	3.96	黒曜石	横長剥片 背面に前段階の剥離痕			SI14	PL27 高麗山産
Q 45	剥片	3.9	2.1	1.1	3.97	黒曜石	縦長剥片 自然面残存 背面に前段階の剥離痕			SI14	PL27 高麗山産
Q 46	剥片	2.7	2.6	1.1	3.98	黒曜石	横長剥片 背面に前段階の剥離痕			SI 4	PL27
Q 47	剥片	4.8	2.4	1.2	9.05	黒曜石	縦長剥片			SI14	PL27
Q 48	剥片	5.0	2.9	1.6	9.26	黒曜石	前面に多方向からの細かい剥離			SI14	PL27 高麗山産
Q 49	剥片	3.4	1.9	0.7	2.53	珪質頁岩	縦長剥片 背面に前段階の剥離痕			SI 1	PL27
Q 50	剥片	3.4	1.9	0.6	3.11	珪質頁岩	縦長剥片			SI15	PL27
Q 51	剥片	3.8	1.3	0.9	2.72	珪質頁岩	片側に微細剥離痕			SI15	PL27
Q 52	剥片	4.4	4.0	0.7	6.01	珪質頁岩	背面に前段階の剥離痕			SI15	PL27
Q 53	剥片	6.1	3.1	1.4	13.39	珪質頁岩	横長剥片 自然面残存			SI14	PL27
Q 54	剥片	8.5	3.2	2.0	20.52	瑪瑙	縦長剥片			SI 1	PL27
Q 55	有孔円板	26	(1.8)	0.3	(1.93)	滑石	全面研磨 孔 1 か所残存 一方向から穿孔 孔径 0.2cm			C区表土	PL26
Q 56	有孔円板	24	2.4	0.3	3.30	滑石	全面研磨 孔 2 か所 一方向から穿孔 孔径 0.2cm			B区表土	PL26
Q 57	有孔円板	24	2.5	0.2	1.99	滑石	全面研磨 孔 2 か所 一方向から穿孔 孔径 0.2~0.3cm			D区表土	PL26
Q 58	有孔円板	28	2.8	0.3	4.48	滑石	全面研磨 孔 2 か所 一方向から穿孔 孔径 0.2cm			A区表土	PL26
Q 59	有孔円板	3.3	3.5	0.4	(8.33)	滑石	全面研磨 孔 2 か所 一方向から穿孔 孔径 0.2cm			D区表土	PL26
Q 60	削形	(4.1)	1.8	0.4	(3.80)	滑石	上部欠損 全面研磨 孔 1 か所	1 方向から穿孔 孔径 0.2cm		D区表土	PL26
Q 61	削形	(3.5)	(2.7)	0.8	(9.16)	滑石	下部欠損 孔 1 か所	1 方向から穿孔 孔径 0.2cm		SI 5	PL26
Q 62	未成品	(5.7)	(5.1)	0.4	(23.41)	粘板岩	全面研磨 圓錐形取り			SD 1	PL26
Q 63	石塔	525	254	19.3	61.200	安山岩	左側方斜面 3 面に斜削、正面「ア」先祖代々「後木曾郡法印解説妙業・清信女 清山淨秋也主始」右側面「妙女貞白女」右側面「文政八〇四月十日 天明六〇六月廿七日」左側面「文政十一〇五月十五日 天保三〇九月三日」			F区現地表面	

## 第4節 まと め

### 1 はじめに

今回の調査で、縄文時代、古墳時代、平安時代、江戸時代の遺構を確認した。縄文時代の遺構は、前期の堅穴建物跡や前期以降の遺物包含層などである。その他の遺構の覆土中からは前期の土器片が出土しており、前期が主体と考えられる。古墳時代の集落跡は中期が主体で、当遺跡の中心となる時期である。なかでも、5世紀前葉の第10号堅穴建物跡から出土した鉄斧形土製品は、県内に類例のない資料であり特筆される。平安時代の遺構は堅穴建物跡3棟と炉跡である。このうち、堅穴建物跡はいずれもB区に位置していることから、桂川から入り込んでいる小支谷に挟まれた台地の西側縁辺部で小規模に生活していたことが伺える。江戸時代の遺構もB区に集中的に認められる。特徴的なものとして、石塔を伴う墓坑が挙げられる。また、近接する牛頭座遺跡では石塔を伴う塚5基を確認しており、時期も近いことから当期の地域的な関係性が想定できる。

本節では、当遺跡で中心となる古墳時代中期について述べ、江戸時代に関しては第4章第4節にて牛頭座遺跡と合わせて記載することとする。

### 2 出土土器と集落の様相

今回の調査で出土している古墳時代中期の土器群は、5世紀前葉から中葉に位置付けられる。堅穴建物跡は、ほとんどが重複していないため出土遺物の遺存状態が良く、その他の時代の遺物との混在が少ない良好な一括遺物である。ここでは、5世紀前葉を1期、5世紀中葉を2期として時期別の器種構成と出土土器の特徴について述べる。なお、出土土器の年代については、茨城県や周辺地域の様相を考慮して判断した<sup>1)</sup>。

#### (1) 器種構成

1期の土器群として、第10・13・14・15・20号堅穴建物跡などの出土土器が代表される。当期の器種構成は、高壺と壺が主体で、次いで壺が多い。壺は、破片では壺との判別が困難だが、口縁部の破片の数量から、個体数は少なかったと考えられる。壺・椀類はごく少量しか出土しておらず、2期以降に本格的に使用される前段階として位置付けられる。出土した土器を遺構単位でみてみると、第13・14号堅穴建物跡では壺の割合が際立って高く、同時期の建物跡であっても数量に差異が認められることから、集落内での土器の保有と使用的状況は一様ではないことが伺える。なお、第20号堅穴建物跡では高壺の割合が高いが、脚部穿孔の高壺が集中していることや、同時期の堅穴建物跡とやや離れた位置にあること、床面の硬化が弱く、炉をもたないなど生活的痕跡が希薄であることから、特殊な用途が想定される。

2期の土器群は、第9・12号堅穴建物跡が代表的である。主体的だった高壺が減少し、壺・椀類が定着する。底部から内擣しながら立ち上がる椀が多く、直線的に立ち上がり、口縁部が内擣しない壺は少量である。5世紀中葉頃から壺・椀類が増加し、地域に定着する状況は、関東地域で一般的な器種構成の変遷とも当てはまる<sup>2)</sup>。1期から少量であった壺は、2期でも少量ながら継続して使用されている。全体的に赤彩された土器が少なく、赤彩の盛行する以前の土器群である。

## (2) 土器群の特徴

多数出土している土器の中でも、量的に主体となるのは高坏と甕である。1期の高坏は、脚部がエンタシス状に膨らむものが多く認められ、破片ではあるが、根部に段が設けられた有段脚も出土している(SI13-124)。坏部外面の底部付近に稜をもつものと、もたないものが混在し、稜の部分が大きく突出し、錐状に広がるものが1点出土している(SI3-34)。2期の高坏は、点数も少ないので詳細は明らかではないが、坏部外面の底部付近に明瞭な稜をもつものが出土している(SI1-15・16)。

高坏の接合技法が多様であることは広く知られているとおり<sup>3)</sup>で、茨城県内でも弥生時代の段階から様々な技法が存在している<sup>4)</sup>。当遺跡から出土している高坏の接合技法は、中空の脚部にホゾを用いて坏部を接合したもの(第120図1)<sup>5)</sup>と、脚部上面に坏部をのせるように接合したもの(第120図2)、脚部の周間に坏部を接合するもの(第120図3)などの技法がみられる。SI14・15・20などでは複数の技法が混在して出土しており、遺構ごとに分別された状況は認められない。土器の製作という観点から、特徴的なものとしてSI20が挙げられる。8個体以上の高坏が出土しているうち、3点は脚部に焼成前の穿孔が行われており、孔の位置や孔径、穿孔の手法などの類似性から同一工人か、関係性の強い工人によって製作され、意図的に1か所の建物に集めて使用されたと考えられる。桂川を挟んだ対岸に位置する猿崎遺跡<sup>6)</sup>でも、同時期の高坏に焼成前穿孔のあるものが3点出土しているが、穿孔の位置がやや低いものや、2対1か所のものなどで、当遺跡とは異なる様相を呈していることから、集落単位で製作されていた可能性がある。



第120図 高坏接合部 (1・2: SI20 3: SI15) (S=1/6)

甕は、口縁部や底部の整形によって分類が可能である(第121図)。2期は遺存状態が悪いため、主に1期のものが対象となっている。

1類: 口縁部が外反しながら立ち上がり、口唇部は反りが強く、わずかに下方に向いている。体部中位に最大径をもち、底部は突出している。

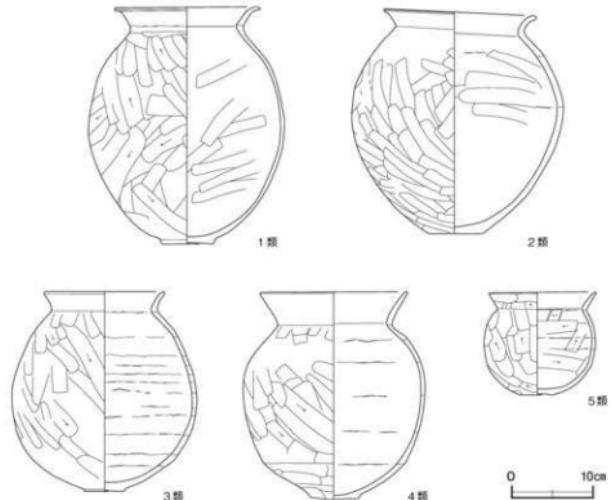
2類: 口縁部は短く外反しながら立ち上がっている。体部やや上位に最大径をもち、底部は突出しない。1類に比べて厚みがあり、やや粗雑な印象をうける。

3類: 口縁部は短く直線状に立ち上がっている。体部中位よりやや下に最大径をもち、底部の突出は1類より弱い。

4類: 口縁部が長く直線状に立ち上がっている。体部は球形に近いが、下半の輪積み部が弱い稜のようになる。底部は突出している。

5類: 小形である。口縁部は直線状に立ち上がっている。体部は球形で、底部は突出しない。SI13-125のような粗製のものもある。

以上のように分類した。量的には大半が1類に含まれ、2~5類は少量である。2期にはSI18-174・175などのように大形のものが出現している。底部が突出しないため2類に含まれると考えられる。



第121図 烧分類図 (1・4・5:SI14 2:SI13 3:SI15) (S=1/6)

### (3) 集落の様相

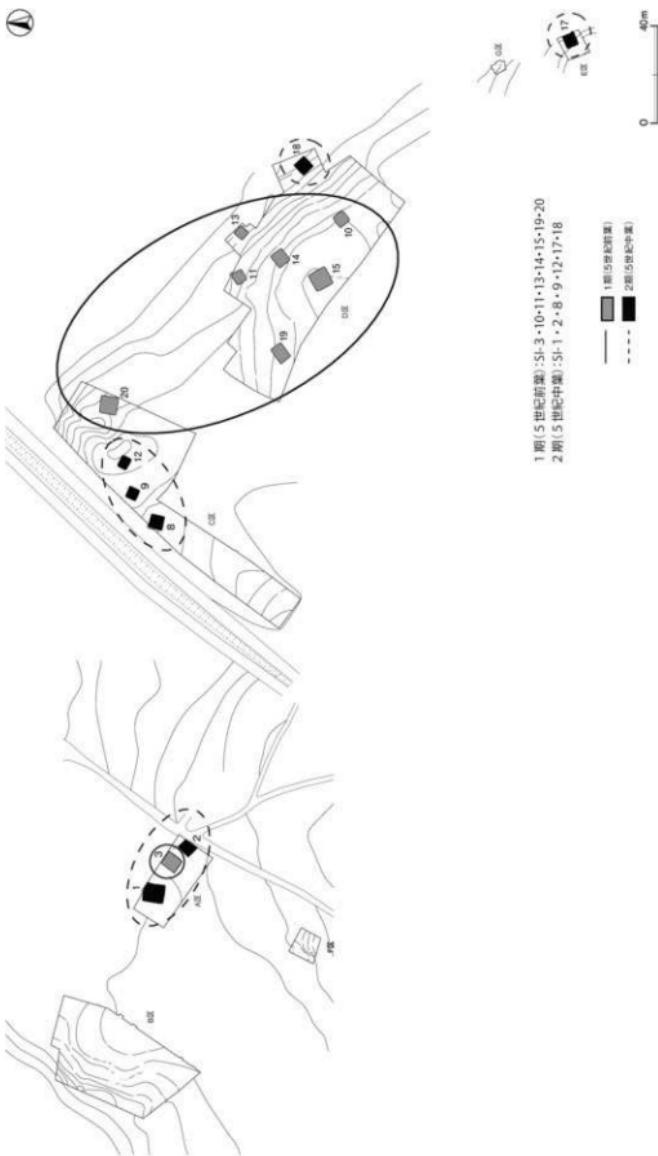
今回の調査で確認した竪穴建物跡は、1期8棟、2期7棟である。各時期の分布状況から、1期の集落は一部を除いて台地の東部を中心としている様相を見てとることができる。2期になると、前段階の集落の外側に広がるように竪穴建物跡が分布しており(第122図)、建物跡の重複がないことから、前葉から中葉の集落は一連の流れのなかで捉えることができる。建物の構造は、対岸に位置する薬師入遺跡で分析されているように<sup>7)</sup>、各期を通じて建物の構造が一様ではなく、炉、主柱穴、貯蔵穴などの主要な内部施設が設けられているもの(1期…SI10・11・14・15、2期…SI 1, 2, 8, 17, 18)と、主柱穴が明確でない、炉や貯蔵穴をもたない等、内部施設が描かないもの(1期…SI 3・13・19・20、2期…SI 9・12)に分けられる。生活空間として中心的なものと、その他の役割をもつ建物跡が区別されていた可能性がある。

また、焼失建物跡は1期で8棟中3棟(SI10・14・15)、2期で7棟中6棟(SI 1・2・8・9・12・18)確認できた。1期の3棟は、前述した内部施設の描うものであり、集落内で中心的な建物と考えられる点は注目される。

### 3 鉄斧形土製品について

出土遺物の中で特筆されるものとして、第10号竪穴建物跡から出土した鉄斧形土製品が挙げられる。茨城県内には類例が多く、全国的にも数点しか確認されていない資料である。鉄の合わせ目が表現されていることから、鍛造無肩袋状鉄斧の模造品である。4面がヘラ削りによって面取りされ、袋部や鉄表面の質感など、細部に至るまで模倣されていることから、実物の鉄斧を観察しながら製作されたものと考えられる。

茨城県では古墳時代中期の鉄斧は出土例が少なく、主に副葬品として古墳から出土する例があり、行方市三味塚古墳<sup>8)</sup>、坂東市上出島2号墳<sup>9)</sup>、水戸市堀町西古墳<sup>10)</sup>などから出土している。上出島2号墳は5世



第122図 中期の堅穴建物跡の時期別分布 (S=1/2,000)

紀前葉墳に位置付けられており、当遺跡と同時期の資料である。古墳時代中期の鉄斧の出土例が少ないため、模造品も貴重な資料といえる。

鉄斧形土製品は、宮城県仙台市橋江遺跡<sup>11)</sup>、福島県南相馬市（旧鹿島町）烏崎1号墳<sup>12)</sup>、千葉県館山市東田遺跡<sup>13)</sup>、大阪府豊中市新免遺跡<sup>14)</sup>から出土している（第123図）。出土した遺構と時期は、橋江遺跡は奈良・平安時代の鍛冶工房、烏崎1号墳は前方部の堅穴状遺構からの出土で6世紀後半から7世紀、東田遺跡は祭祀遺物が多量に出土している溝状遺構からの出土で、6世紀後半から7世紀前半、新免遺跡は遺物包含層から多様な時期の遺物と共に出土している。以上のように、時期が明らかなものは6世紀以降で、土製模造品を用いた祭祀が盛行している時期の資料である。当遺跡は5世紀前葉に位置付けられることから、一般的な土製模造品の祭祀行為とは一線を画すものと考えられる。

古墳時代の鉄器は貴重品であり、副葬品にも見られるが、開発に重要な役割を果たしたことが考えられる。古霞ヶ浦沿岸地域は、古墳時代に入ってから集落が急増し、南西岸にある現阿見地域も同様で<sup>15)</sup>、当遺跡の周辺でも、古墳時代以降に集落が増加している。桂川対岸の薬師入遺跡<sup>16)</sup>は、弥生時代以降の中核となる集落と考えられ、県内でも初期に位置付けられる前期の鍛冶工房跡や、初期須恵器などが出土し、他地域との交流を盛んに行なながる。周辺を開発していく状況が伺える。当遺跡は中期に入ってから開発された集落であり、出土した鉄斧形土製品はそうした状況のなかで、開発に関わる祭祀が行われたと推測される。



第123図 鉄斧形土製品の類例と上出島2号墳出土鉄斧 (S=1/4)

## 4 おわりに

今回の調査成果のうち、古墳時代中期における出土土器の位置づけ、集落の様相、鉄斧形土製品という3点に焦点をあてて述べてきた。土器は同時期の資料であっても、製作技法や形態的特徴に多様性が認められ、茨城県南部において土器様相を検討するうえで参考となる。鉄斧形土製品は、全国的に類例が少なく、なかでも年代的に古く位置付けられることが明らかになった。また、当遺跡の周辺は古墳時代以降に集落が急速に増えており、当遺跡も5世紀前葉に開発され、中葉まで継続する集落として位置付けられる。

最後になるが、今回の報告では、石製模造品や焼失建物などの祭祀に関わることについて検討することができなかった。古墳時代においての霞ヶ浦沿岸地域を考えるうえで重要なことであるため、今後の課題としたい。

## 註

- 1) 桜村宜行・土生朗治・白石真理「茨城県における5世紀の動向」『東国土器研究』第5号 1999年5月
- 2) b 井久美子「集落出土土器等の様相」『研究紀要』27 千葉県教育振興財團 2012年3月  
c 黒沢晶「北部地域の集落」『研究紀要』27 千葉県教育振興財團 2012年3月
- 2) 内山敏行「手持食器考」『HOMINIDS』vol. 1 1997年3月
- 3) a 井上和人「古代土器製作技法考再説」『文化財論叢Ⅲ』奈良文化財研究所 2002年12月  
b 中野咲「接合技法からみた古墳時代中・後期の土師器高窯」『韓式系土器研究』X号 2008年11月
- 4) 鈴木素行「船塗遺跡における十王台式土器の分析」『船塗遺跡』(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第32集 財團法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 2005年3月
- 5) 粘土塊充填などの呼称もある。
- 6) 寺内久永・間崎美「猿崎遺跡 阿見吉原東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財團文化財調査報告」第347集 2011年3月
- 7) 胸澤悦郎「菊部入道跡 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」「茨城県教育財團文化財調査報告」第239集 2005年3月
- 8) 茨城県教育委員会編「三昧塚古墳－茨城県行方郡玉造町所在－」茨城県教育委員会 1960年3月
- 9) 日高慎「上出島古墳群」『岩井市史 考古編』岩井市 1999年3月
- 10) 斎藤和浩「堀町西古墳 一般県道真瀬水戸線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財團文化財調査報告」第341集 2011年3月
- 11) 渡辺康伸「橋江遺跡発掘調査報告書—造瓦所の調査—」『仙台市文化財調査報告書』第18集 仙台市教育委員会 1980年3月
- 12) 戸田有二「鳥崎1号墳発掘調査報告書」鹿島町教育委員会 1982年3月
- 13) 高梨友子「館山市東田遺跡 国道410号(北条)埋蔵文化財調査報告書2」「千葉県教育振興財團調査報告」第551集 財團法人千葉県教育振興財團 2006年3月
- 14) 服部聰志・岡村勝行・祭本敦士「新免遺跡第11次発掘調査報告書」「豊中市文化財調査報告」第22集 豊中市教育委員会 1987年3月
- 15) 塩谷修「古墳時代古霞ヶ浦沿岸社会の論点－考古学による内海社会と地域形成史の研究に向けて－」『土浦市立博物館紀要』第21号 2011年3月
- 16) a註7) と同じ  
b 細引英樹・小林悟「菊部入道跡2 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」「茨城県教育財團文化財調査報告」第296集 2008年3月

## 第4章 牛頭座遺跡

### 第1節 調査の概要

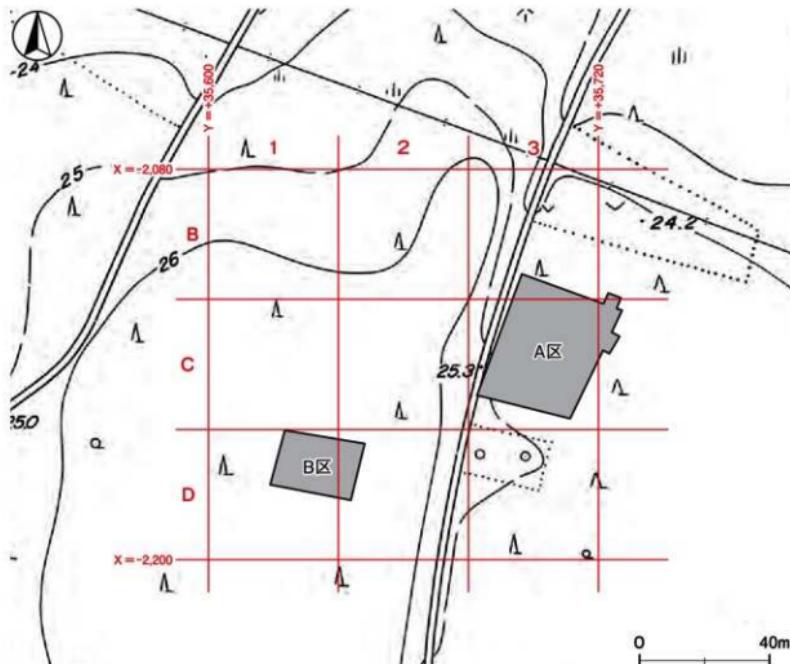
牛頭座遺跡は、阿見町の南部に位置し、桂川右岸の標高約25mの台地上に立地している。遺跡の所在する台地は、北側の桂川、南側の乙戸川に挟まれている。調査面積は1,525m<sup>2</sup>で、調査前の現況は山林及び畠地である。

調査の結果、堅穴建物跡2棟（古墳時代）、塚5基（江戸時代）、土坑6基（時期不明）を確認した。

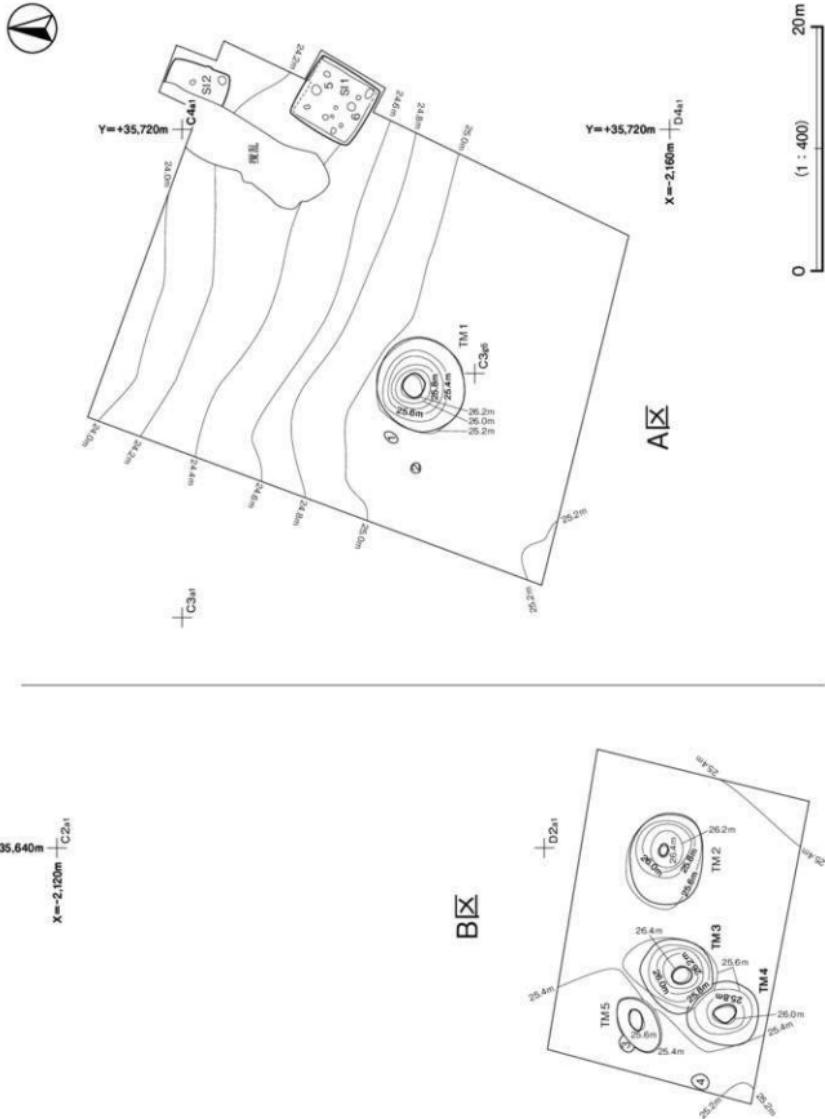
遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に3箱出土している。主な遺物は、縄文土器(深鉢)、土師器(壺・椀・壇・高壺・甕)、須恵器(壺・甕)、土師質土器(小皿・甕)、陶器(碗)、土製品(耳飾・球状土錘・管状土錘)、石器・石製品(磨石・滑石片)、石塔、銅製品(煙管・輪宝)、木製品(櫛)、繊維製品などである。

### 第2節 基本層序

隣接する吉原向遺跡と同様の基本土層であるため、解説は省略する。第3章第2節を参照していただきたい。



第124図 牛頭座遺跡調査区設定図（阿見町都市計画図1,500分の1）



第 125 図 牛頭座遺跡遺構全体図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 古墳時代の遺構と遺物

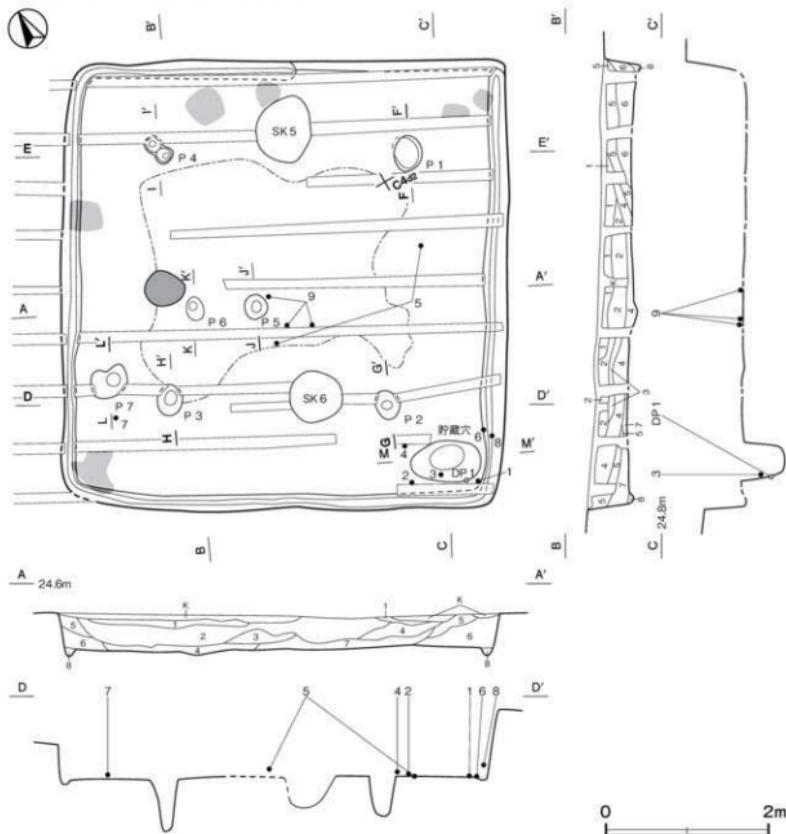
当時代の遺構は、堅穴建物跡2棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

##### 堅穴建物跡

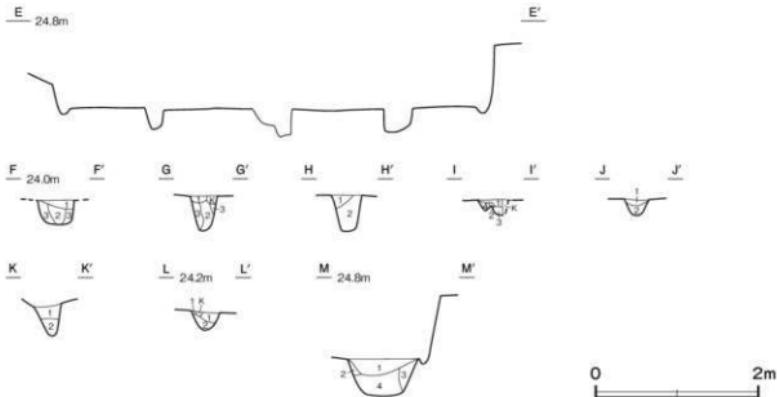
###### 第1号堅穴建物跡（第126～128図 PL28）

位置 A区のC4 d1区、標高24mほどの緩斜面部に位置している。

重複関係 第5・6号土坑に掘り込まれている。



第126図 第1号堅穴建物跡実測図（1）



第127図 第1号竪穴建物跡実測図（2）

**規模と形状** 撫乱を受けているが、一辺 5.48 m の方形で、主軸方向は N - 60° - W である。壁は高さ 32 ~ 76cm で、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、中央部が踏み固められている。北壁の東半部を除く壁下には、幅 12 ~ 15cm、深さ 7 ~ 9cm の壁溝が巡っている。

**炉** 西壁寄りに位置している。長径 50cm、短径 43cm の不整円形で、地床炉と考えられる。

**ピット** 7か所。P 1 ~ P 4 は径 36 ~ 40cm、深さ 26 ~ 63cm で、配置から主柱穴と考えられる。P 6 は径 28cm、深さ 37cm で、炉の南部に位置することから、炉との関連性が想定できる。P 5・P 7 は径 30 ~ 45cm、深さ 29 ~ 30cm で、性格は不明である。

#### ピット土層解説 (P 1 ~ P 7 共通)

1 黒褐色	ローム粒子微量	3 墓褐色	ローム粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック少量	4 褐色	ロームブロック少量

**貯蔵穴** 南東コーナー部に位置している。長径 87cm、短径 50cm の楕円形で、深さは 53cm である。壁はやや外傾し、底面は平坦である。

#### 貯蔵穴土層解説

1 黒褐色	ローム粒子、燒土粒子、炭化粒子少量	3 褐色	ロームブロック少量
2 墓褐色	ローム粒子少量	4 墓褐色	ロームブロック少量

**覆土** 8 層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

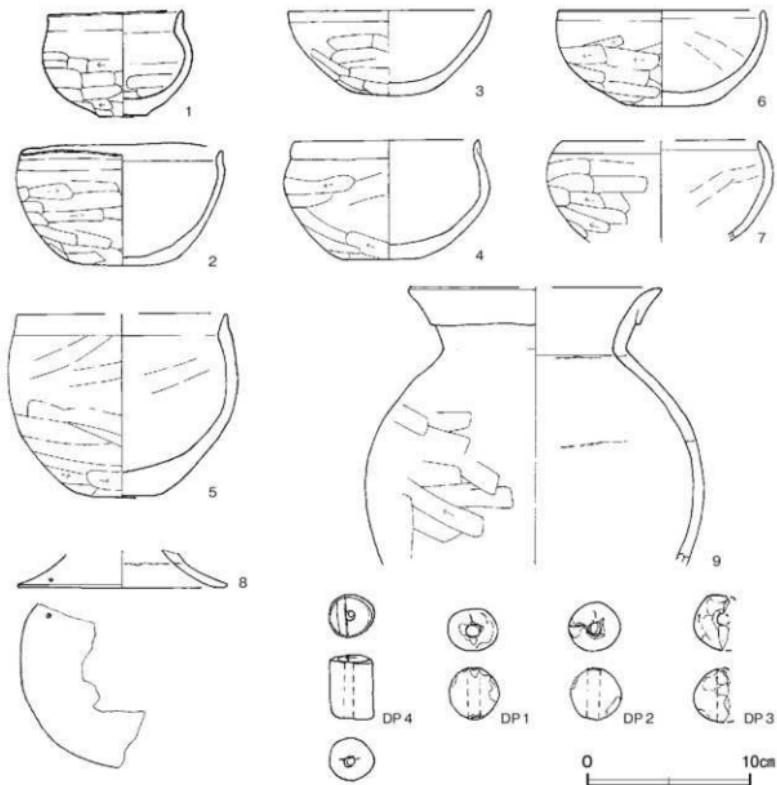
#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	5 墓褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子中量、燒土粒子微量	6 墓褐色	燒土粒子中量、ローム粒子少量
3 墓褐色	ロームブロック少量	7 墓褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片 169 点（碗 68、高杯 1、甕 100）、土製品 5 点（球状土錘 4、管状土錘 1）、石製品 1 点（滑石片）のほか、繩文土器片 16 点（深鉢）が出土している。貯蔵穴周辺からの出土量が比較的多く、1・2・4・6・8 は貯蔵穴の周辺から、3・D 1 は貯蔵穴内から出土している。遺存状態が良く、床面付近や

貯蔵穴などから出土していることから、建物の廃絶時に遺棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第128図 第1号竖穴建物跡出土遺物実測図

第1号竖穴建物跡出土遺物観察表（第128図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土器部	桶	8.3	6.5	2.8	長石・石英	にい赤茶	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側横位のヘラ削り 内面横位のナデ 体部外側へラ削り	床面	90% 葦行柵
2	土器部	桶	12.4	7.5	6.0	長石・石英・細纖	にい白	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側横位のヘラ削り	床面	100% 内面被熱
3	土器部	桶	12.4	5.2	-	長石・石英・細纖	明赤茶	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側ナデ	野藏穴中層	90% 内面被熱
4	土器部	桶	11.3	7.4	4.2	長石・石英	明赤茶	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側へラ削り	覆土下層	70% 内面被熱
5	土器部	桶	[128]	11.3	5.2	長石・石英	にい白	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側ナデ 下端ヘラ削り 内面ナデ	床面	70%
6	土器部	桶	12.6	5.9	5.2	長石・石英	にい白	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側横位のヘラ削り 内面ナデ	床面壁際清潔	70%
7	土器部	桶	[122]	[62]	-	長石・石英	にい白	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側横位のヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	10%
8	土器部	高杯	-	[23]	[13.0]	長石・石英	にい白	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側横位のヘラ削り 内面被熱成前に未貫通の剝刻 奥 0.3cm	覆土下層	10%
9	土器部	壺	[154]	(17.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側へラ削り 内面ナデ	床面	50%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	環状土錐	31	32	0.7	2578	長石・石英	にぶい橙	一方向から穿孔 孔端未調整	貯蔵穴中層	
DP 2	環状土錐	32	32	0.7 ~ 0.8	(2535)	長石・石英 赤色粒子	にぶい赤褐色	孔端未調整	覆土中	
DP 3	環状土錐	35	34	[0.7]	(1816)	長石・赤色粒子	橙	指痕痕 孔端欠損	覆土中	
DP 4	管状土錐	28	40	0.5	3197	長石・石英	橙	ナデ 條状の圧痕 一方向から穿孔	覆土中層	

## 第2号竪穴建物跡 (第129・130図 PL28)

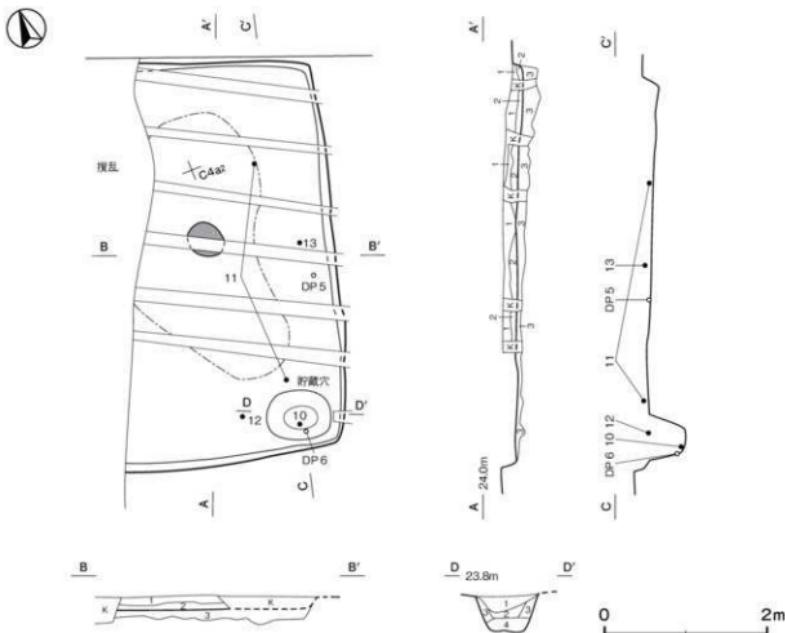
位置 A区のC 4 a1区、標高 24 m ほどの緩斜面部に位置している。

規模と形状 掘乱により西側が大きく壊されているため、南北軸は 4.96 m で、東西軸は 2.37 m しか確認できなかった。方形と推定され、軸方向は N - 18° - E である。壁は高さ 18 ~ 21 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、炉の周辺が踏み固められている。貼床は、掘方に粘性の強いにぶい黄褐色土を埋土して構築されている。全体的に凹凸がある。

炉 東壁寄りに位置していると想定できる。長径 45 cm、短径 39 cm の楕円形で、地床炉と考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径 79 cm、短径 62 cm の楕円形で、深さは 43 cm である。壁は外傾し、底面は平坦である。



第129図 第2号竪穴建物跡実測図

**貯藏穴土層解説**

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

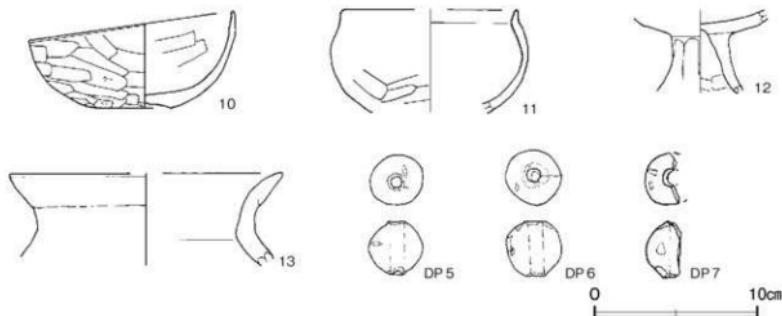
**覆土** 2層に分層できる。含有物が無いことから、自然堆積と考えられる。第3層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |               |                        |
|---------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 にい青褐色 ロームブロック中量、粘性強い |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量 |                        |

**遺物出土状況** 土器片346点(环38、楕30、壺3、高环47、甕228)、土製品3点(球状土錐)のほか、繩文土器片8点(深鉢)が出土している。10・DP6はいずれも貯藏穴の底面・下層から出土している。10はほぼ完形であることから、遺棄されたと考えられる。11~13は床面付近から出土しているが、小破片であり廃棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第130図 第2号堅穴建物跡出土遺物実測図

第2号堅穴建物跡出土遺物観察表（第130図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
10	土器器	环	126	60	39	長石・石英	棕	普通 ナデ	口縁部外・内面ナデ 体部外縁へラ筋り後横位のナデ	貯藏穴底面	90%
11	土器器	楕	[108]	(63)	—	長石・石英	にい赤褐色	普通 体部外縁ナデ		覆土下層	30%
12	土器器	高环	—	(50)	—	長石・石英	浅黄褐色	脚部外縁位のナデ 内面横位のナデ		床面	30%
13	土器器	甕	[166]	(58)	—	長石・石英	棕	普通 全体的に摩滅のため調整不明		覆土下層	10%
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調		特徴	出土位置	備考
DP 5	球状土錐	33	33	0.8	30.64	長石・石英	にい赤褐色	一方向から穿孔	孔端未調整	床面	
DP 6	球状土錐	34	34	0.8 ~ 0.9	35.15	長石・石英	にい赤褐色	一方向から穿孔	孔端指頭圧痕	貯藏穴	
DP 7	球状土錐	32	34	[0.8]	[18.72]	長石・石英	棕	一方向から穿孔	孔端未調整	覆土下層	

表12 古墳時代堅穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	復元		壁高 (cm)	床面 傾斜	内部施設			覆土	未な出土遺物	時期	備考
				長軸	短軸			玉置穴	玄関	ビット				
1	C4d1	N - 60° - W	方形	5.48	5.48	32 ~ 76	平頂	玉置穴 玄関	4	-	3	炉	1	人為 土器器、土製品 5世紀中葉
2	C4a1	N - 18° - E	【方形】	4.96	x (2.37)	18 ~ 21	平頂	-	-	-	炉	1	自然 土器器、土製品 5世紀中葉	

## 2 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、塚5基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

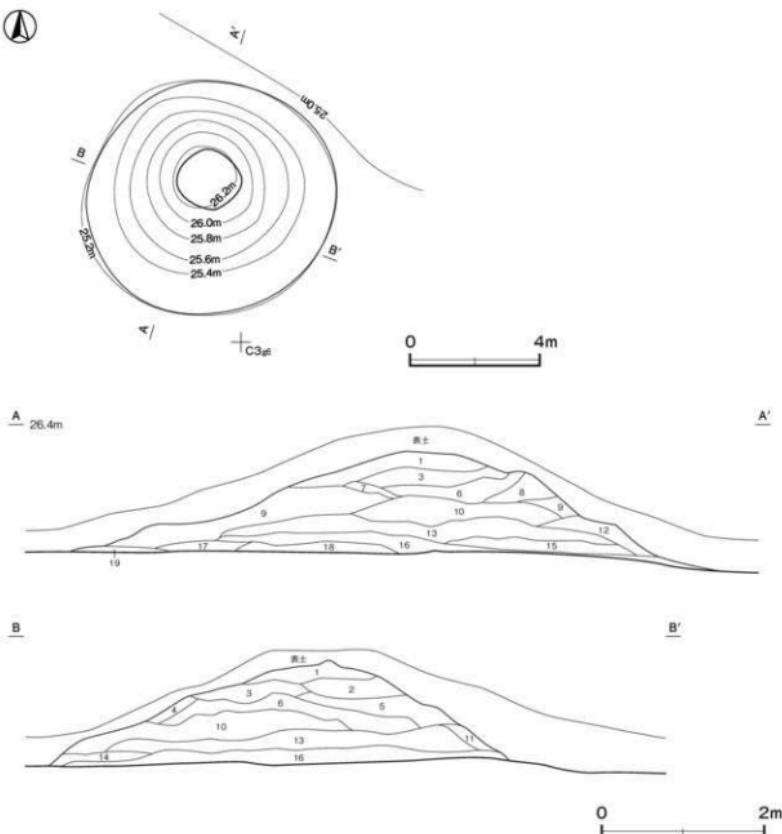
## 塚

当跡は牛頭座古墳群として登録されていたため、古墳の可能性を考慮し調査を開始した。周溝が確認できなかったことや、出土遺物、覆土の様相などから判断し、当時代の塚とした。

第1号塚（第131図）

位置 A区のC3e4～C3e5区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 調査前の段階で、径7.5m、高さ130cmほどの塚状の高まりを確認した。



第131図 第1号塚実測図

**規模と形状** 長径 7.77m、短径 7.27m の楕円形で、長径方向は N - 33° - E である。旧表土面から塚頂部までの高さは 124cm である。

**構築土と構造** 構築土は 19 層に分層できる。上層は黒褐色土、下層は暗褐色土を主体として構築されている。下層（第 13・15・16・18 層）は締まりが強く、土台となる基礎を幅広く構築し、その外側に締まりの弱い暗褐色土が積まれている（第 11・12・14 層）。上層は比較的締まりが弱く、単位の細かいブロック状の盛土で構築されている。

#### 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量、締まり弱い	11 暗褐色	ロームブロック少量、締まり弱い
2 暗褐色	ロームブロック中量	12 暗褐色	ローム粒子微量、締まり弱い
3 黒褐色	ローム粒子少量、締まり弱い	13 黒褐色	ロームブロック少量、締まり強い
4 黒褐色	ロームブロック微量	14 暗褐色	ローム粒子中量、締まり弱い
5 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック少量、締まり強い
6 黒褐色	ロームブロック中量	16 暗褐色	ローム粒子中量、締まり強い
7 黒褐色	ローム粒子微量	17 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
8 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量、締まり弱い	18 にふい黄褐色	ローム粒子中量、締まり強い
9 黒褐色	ローム粒子中量、締まり弱い	19 暗褐色	ロームブロック微量
10 黒褐色	ロームブロック少量		

**遺物出土状況** 繩文土器片 20 点（深鉢）、土師器片 47 点（壺 6、甕 41）、須恵器片 1 点（甕）が、構築土中から出土している。遺物は大部分が細片であり、本塚に伴うと考えられるものは出土していない。

**所見** 時期決定の可能な遺物が出土していないため、明確な構築時期や性格は不明だが、B 区に位置している第 2～5 号塚と規模や構造が類似していることから、江戸時代に構築されたと想定できる。

#### 第 2 号塚（第 132・133 図）

**位置** B 区の D 1 b0～D 2 d1 区、標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

**確認状況** 調査以前に撮影された写真では、塚頂部に石塔が直立した状態で確認できたが、調査開始時には倒れていた。伐採等の作業時に倒れたと思われる。

**規模と形状** 長径 7.38m、短径 5.97m の楕円形で、長径方向は N - 89° - E である。旧表土面から塚頂部までの高さは 93cm である。

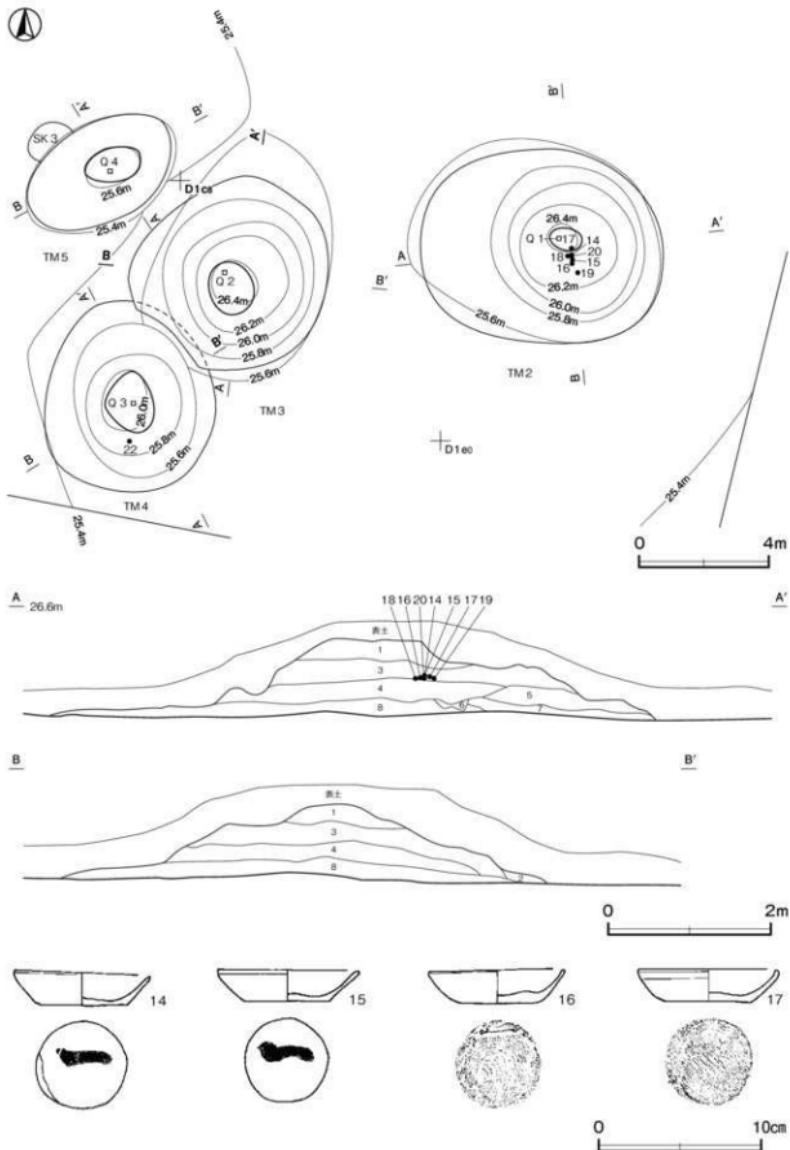
**構築土と構造** 構築土は 8 層に分層できる。上層は黒褐色土、下層は暗褐色土を主体として構築されている。土台となる基礎（第 7・8 層）を幅広く構築しているが、上部は東寄りに盛土されている。ほぼ水平に盛土しているが版築状の工法ではなく、締まりの強い土層は確認できなかった。

#### 土層解説

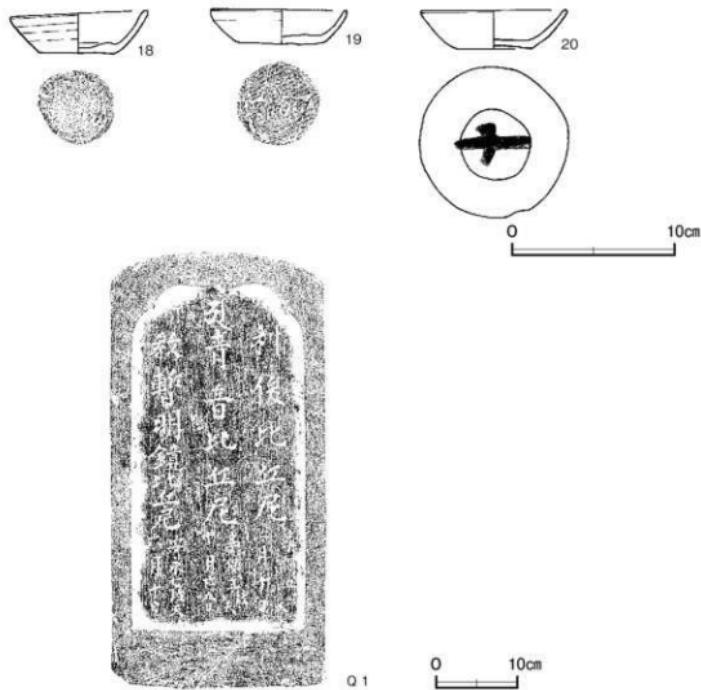
1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子少量、締まり弱い	6 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック微量	8 暗褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師質土器片 7 点（小皿）、石塔 1 点のほか、繩文土器片 2 点（深鉢）が出土している。14～20 は中心部付近の第 3 層から、正位や逆位、斜位など様々な状態でまとまって出土している。第 3 層を盛土する際に意図的に埋められたと考えられる。Q 1 は塚頂部の表土上面で確認したため移設された可能性も考えられるが、第 2～5 号塚の表土上面でそれぞれ 1 点ずつ石塔を確認しているため、いずれもそれぞれの塚に伴うものと判断した。

**所見** Q 1 は、胎蔵界大日如来を示す梵字が陰刻され、銘文から尼僧 3 人の墓石と考えられるが、人骨や埋葬施設は確認できなかった。陰刻された年号は右から、享保五年（1720）、享保三年（1718）、安永七年（1778）となっている。構築時期は、石塔の年号から 18 世紀後半で、大日如来信仰に基づく塚と考えられる。



第132図 第2~5号塚・第2号塚出土遺物実測図



第133図 第2号塚出土遺物実測図

第2号塚出土遺物観察表（第132・133図）

番号	種別	器種	口径	腹高	底径	胎	土	色調	焼成	手法の特徴	出土地点	備考
14	土師質 土器	小瓶	8.4	22	5.6	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	底部回転系切り後、ナデ	墨書「一」	第3層	100% PL29
15	土師質 土器	小瓶	8.7	20	5.2	長石・石英	橙	普通	底部回転系切り後、ナデ	墨書「一」	第3層	95% PL29
16	土師質 土器	小瓶	8.2	21	5.0	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転系切り後、ナデ		第3層	90% PL29
17	土師質 土器	小瓶	8.5	21	5.2	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転系切り後、ナデ		第3層	100% PL29
18	土師質 土器	小瓶	8.3	27	4.4	長石・石英	橙	普通	底部回転系切り		第3層	100% PL29
19	土師質 土器	小瓶	8.3	22	5.1	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転系切り後、ナデ		第3層	100% PL29
20	土師質 土器	小瓶	8.9	24	4.6	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	底部回転系切り後、ナデ	墨書「十」	第3層	95% PL29

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土地点	備考
Q 1	石塔	52.8	26.9	13.0	-	-	円頂方彫。記録「アリ利根北丘尼。享保五年八月廿日ノ者造北 丘尼。享保三年九月廿九日ノ教智明造北丘尼。安永七年六月 廿日」	表土上面	

第3号塚（第132・134・135図）

位置 B区のD1b8～D1d9区。標高25mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 第4号塚の北東裾部と接し、塚頂部では石塔を確認した。

**重複関係** 第4号塚の構築後、裾部が重なるように本塚が構築されている。

**規模と形状** 長径 6.16m、短径 5.73m の不整円形である。旧表土面から塚頂部までの高さは 107cm である。

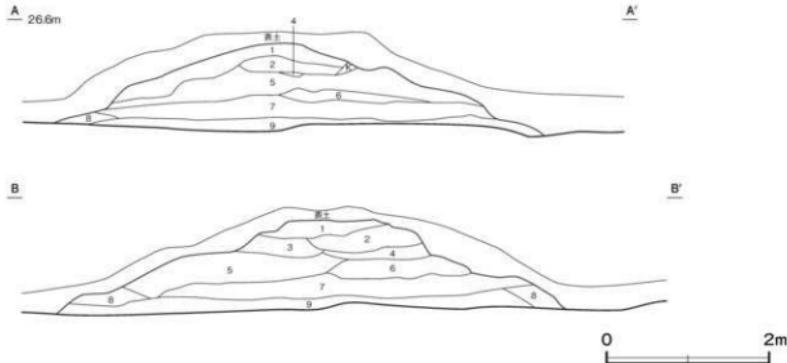
**構築土と構造** 構築土は 9 層に分層できる。旧地表面に段差があり、旧地表面を部分的に削ってから盛土している。土台となる基礎（第 5～7・9 層）は締まりが強い。南西部には第 4 号塚が位置しているが、掘り返しは認められず、上部に重ねて盛土し本塚を構築している。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	6 黒褐色	ローム粒子微量、締まり強い
2 黒褐色	ロームブロック少量	7 黒褐色	ロームブロック少量、締まり弱い
3 墓褐色	ロームブロック中量	8 墓褐色	ロームブロック微量、締まり弱い
4 墓褐色	ロームブロック少量	9 にふい青褐色	ロームブロック中量、締まり強い
5 墓褐色	ロームブロック中量、締まり強い		

**遺物出土状況** 土師質土器片 1 点（小皿）、石塔 1 点、木製品 1 点（櫛）が出土している。21 は構築土中から出土し、構築土中に混入していたものと考えられる。Q 2 は塚頂部の表土で確認した。

**所見** Q 2 は銘文から僧 4 人の墓石と考えられるが、人骨や埋葬施設は確認できなかった。不動明王を示す梵字や年号が陰刻され、年号は右から、宝曆四年（1754）、延宝元年（1673）、宝永七年（1710）、享保三年（1718）となっている。不動明王は大日如来との関係性が強いため、大日如来信仰に基づく塚と考えられる。構築時期は、石塔の年号から 18 世紀後半と考えられる。



第 134 図 第 3 号塚実測図

第 3 号塚出土遺物観察表（第 135 図）

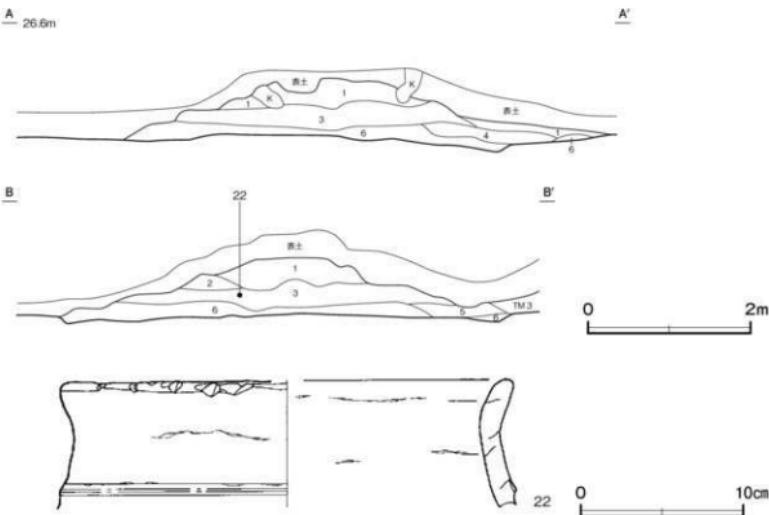
番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	土師質土器	小皿	-	(0.9)	3.6	長石・石英	棕	普通	底部回転名切り、外面下端未調整	構築土中	40%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 2	石塔	59.5	29.0	14.8	-	-	円頂方形 記録「カシマーン」 宝曆四年七月二十六日 積大熊 都法印主 山喜院 〔延宝元年三月十八日〕 印田海銀菊、江 不幸 院 〔宝永七年七月二十九日〕 積大熊院大藏家阿蘭陀法印被清 〔享保三年正月二十二日〕 積大熊院大藏家阿蘭陀法印被清」			表土上面	



第135図 第3号塚出土遺物実測図

**第4号塚（第132・136・137図）**

位置 B区のD1c7～D1e8区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。



第136図 第4号塚・出土遺物実測図

**確認状況** 北東裾部が第3号塚と接し、塚頂部では石塔を確認した。

**重複関係** 本塚の構築後、裾部が重なるように第3号塚が構築されている。

**規模と形状** 長径 5.94m、短径 5.43m の不整円形である。旧表土面から塚頂部までの高さは 69cm である。

**構築土と構造** 構築土は 6 層に分層できる。旧地表面に凹凸があり、旧地表面を部分的に削ってから盛土している。最下層のみ締まりが強い。水平を意識した盛土によって構築されている。北東部には裾部に重なって第3号塚が構築されているが、本塚の構築土は掘り込まれていないと考えられる。

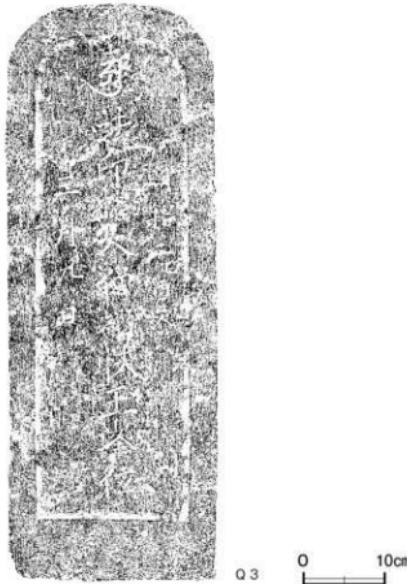
#### 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック微量

4 暗褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	ロームブロック少量、締まり強い

**遺物出土状況** 土師質土器片 1 点（甕）石塔 1 点のほか、土師器片 4 点（甕）が出土している。22 は第3層から出土し、構築土中に混入していたものと考えられる。Q 3 は塚頂部の表土上面で倒れた状態で確認した。

**所見** Q 3 には胎藏界大日如来を示す梵字が陰刻され、銘文から僧侶の墓石と考えられるが、内部で人骨や埋葬施設は確認できなかった。明和二年（1765）の年号が陰刻されている。構築時期は、石塔の年号から 18 世紀後半で、大日如来信仰に基づく塚と考えられる。



第 137 図 第 4 号塚出土遺物実測図

第 4 号塚出土遺物観察表（第 136・137 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
22	土師質土器	甕	[27.0]	(7.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外側剥み 顎部外張部貼付	第3層	10%

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 3	石塔	706	257	139	-	-	円頂方形 記録「アーチ」法印庵大僧都扶正墓位(明和二乙酉 天正三月九日)	表土上面	

### 第5号塚（第132・138～140図 PL28）

位置 B区のD1b6～D1c7区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 第1～4号塚に比べ、現況の高さが低く小規模な楕円形の高まりであった。塚頂部では石塔を確認した。

重複関係 第3号土坑の埋没後に構築されている。

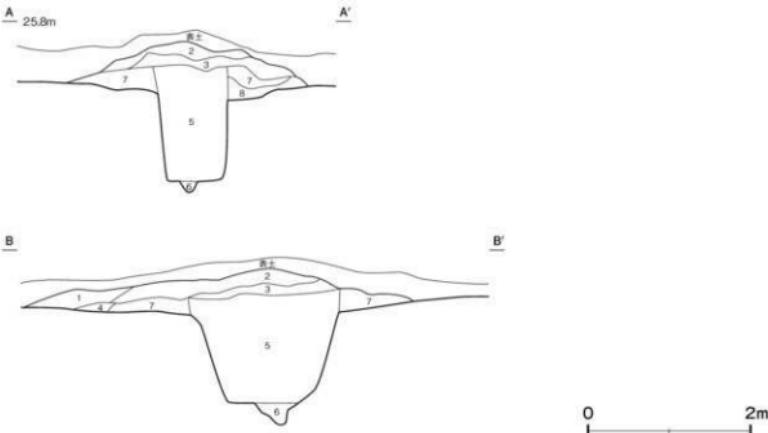
規模と形状 長径489m、短径300mの楕円形で、長径方向はN-56°-Eである。旧表土面から塚頂部までの高さは38cmである。

構築土と構造 構築土は8層に分層できる。第4・7・8層を盛土した後、上部から1.8m掘り込み、埋葬施設としている。第5・6層は埋葬後の埋め戻しで、ロームブロックを多量に含んでいる。埋め戻し後に塚の上層部となる第2・3層を盛土し、南西裾部に第1層を盛土することで楕円形の塚を構築している。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量	5 砂褐色 ロームブロック多量
2 砂褐色 ローム粒子中量	6 砂褐色 ロームブロック多量、締まり弱い
3 黒褐色 ロームブロック少量	7 黒褐色 ロームブロック微量
4 砂褐色 ロームブロック少量	8 にほい黄褐色 ローム粒子少量

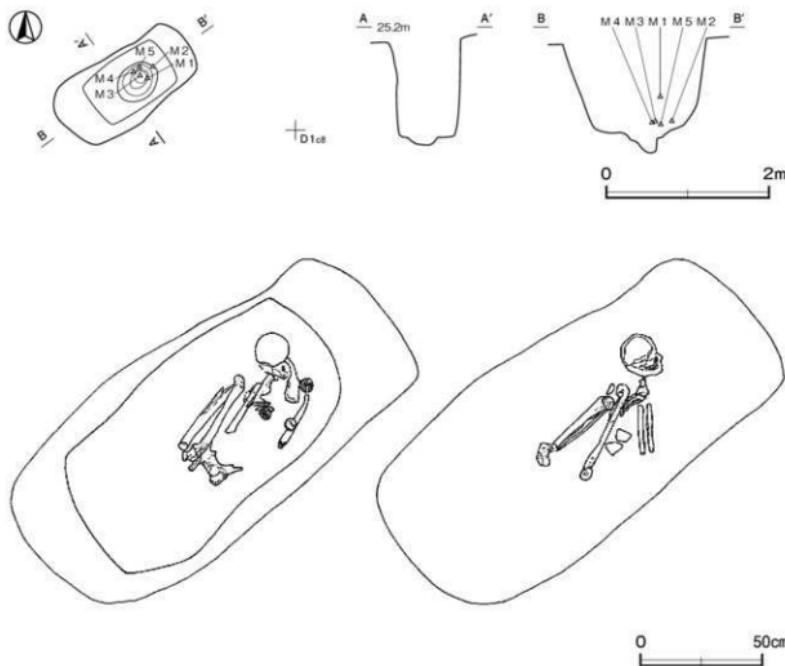
埋葬施設 長軸189m、短軸0.84mの長方形である。長軸方向はN-59°-Eで、塚の長径方向とはほぼ一致している。底面からは人骨や副葬品が出土し、その下部は長径55cm、短径41cm、深さ32cmの楕円形に掘り込まれている。遺骸を据えるために掘りくぼめたと考えられる。人骨は頭部が北西側に位置している。頭蓋骨や頭椎と大腿骨が近接した位置から出土しているため、屈葬と考えられる。墓坑内の土層に梢の痕跡が認められず、一括して埋め戻された単一層であることから、土葬と考えられる。



第138図 第5号塚実測図

**遺物出土状況** 陶器片2点(碗)、石塔1点、銅製品5点(輪宝)、織維製品3点が出土している。M1~M5は墓坑から出土し、遺骸が身に着けていた袈裟の飾り金具と考えられる。M3は上腕骨の下部から出土し、M3と骨の間には袈裟もしくは衣服と考えられる織維製品が遺存していた。M2・M4・M5は骨と混在して出土している。M1はM2~M5よりやや上層から出土しているため、埋め戻しの際に動いたものと考えられる。Q4は塚頂部の表土上面で立てられた状態で確認した。

**所見** 墓坑に埋葬された遺骸は、袈裟金具である輪宝が出土していることから、僧侶と考えられる。Q4の銘文には「法印大僧都照海」という僧1名の名前が見られるため、関連する可能性が高い。構築時期は、陰刻された年号から安永四年(1775)頃と考えられ、性格は墳墓としての塚と考えられる。



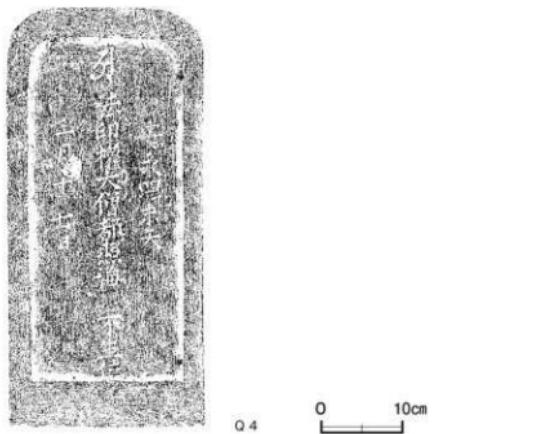
第139図 第5号塚・出土遺物実測図

第5号塚出土遺物観察表(第139・140図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	石塔	51.5	24.0	14.0	-	-	内頂方形 記銘「了」[法印大僧都照海 不生位]安永四年 天正三月十七日]	表土上面	
M1	輪宝	48	1.6	0.1	(1205)	銅	袈裟金具 轮宝部に蓮弁を陰刻 表面に金箔	墓坑覆土下層	
M2	輪宝	48	1.7	0.1	(1224)	銅	袈裟金具 轮宝部に蓮弁を陰刻 表面に漆・金箔	墓坑覆土下層	



0 3cm



第140図 第5号塚出土遺物実測図

番号	器種	径	高さ	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	輪宝	48	15	0.1	(12.68)	銅	製造金具 車輪部に蓮弁を除削 表面に金箔	墓坑覆土下層	
M4	輪宝	47	16	0.1	(12.65)	銅	製造金具 車輪部に蓮弁を除削 表面に金箔	墓坑覆土下層	
M5	輪宝	48	15	0.1	(9.68)	銅	製造金具 車輪部に蓮弁を除削 表面に金箔	墓坑覆土下層	

表13 江戸時代の塚一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		主な出土遺物	備 考
				長径(m)	短径(m)		
1	C3e4～C3f6	N - 33° - E	楕円形	7.77	7.27	124	
2	D1b6～D2d1	N - 89° - E	楕円形	7.38	5.97	93	土師質土器、石塔
3	D1b8～D1d9	N - 47° - E	不整円形	6.16	5.73	107	土師質土器、石塔、木製品
4	D1c7～D1c8	N - 14° - W	不整円形	5.94	5.43	69	土師質土器、石塔
5	D1b6～D1c7	N - 56° - E	楕円形	4.89	3.00	38	陶器、石塔、銅製品、鐵製品
							埋蔵施設(土器) SK 3 → 本塚

## 3 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期を明確にできなかった土坑6基を確認した。以下、一覧表について記述する。

## (1) 土坑

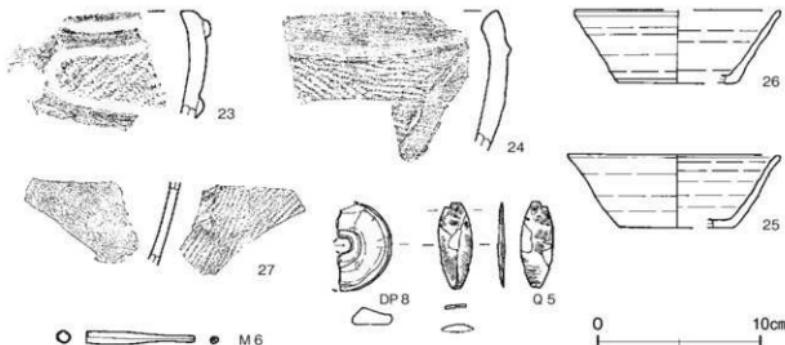
土坑の規模や形状等について、一覧表を掲載する。

表14 その他の土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	C3e4	N - 33° - E	楕円形	1.20 × 0.74	22	平坦	外傾	人為		
2	C3e4	-	円形	0.86 × 0.85	48	圓状	外傾	自然	繩文土器、土師器	
3	D1b6	N - 42° - E	楕円形	1.43 × 1.12	23	平坦	外傾	人為	石器	本跡→TM 5
4	D1d6	N - 21° - E	楕円形	1.48 × 1.26	32	平坦	外傾	自然		
5	C4c1	N - 44° - E	楕円形	0.81 × 0.65	67	傾斜	ほぼ直立	人為	土師器	SI 1 → 本跡
6	C4d1	-	円形	0.64 × 0.63	81	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	SI 1 → 本跡

## (2) 遺構外出土遺物(第141図)

遺構に伴わない遺物について、実測図及び観察表を掲載する。



第141図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第 141 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
23	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい黄澄	普通	隆帯による区画文 区画内単節縄文充填	A 区表土	中期後半
24	縄文土器	深鉢	-	(8.6)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	隆帯による区画文 区画内単節縄文充填	B 区表土	中期後半
25	須恵器	环	13.0	45	[68]	長石・石英・ 赤色粒子・細繩	明赤褐	普通	外・内面クロナデ 底部手持ちヘラ削り	B 区表土	40%
26	須恵器	环	[124]	45	[72]	長石・石英・ 赤色・細繩	にぶい黄澄	普通	外・内面クロナデ	B 区表土	30%
27	須恵器	甌	-	(5.1)	-	長石・石英	橙	普通	外面部平行叩き 内面同心円文当て具痕。	T M 1	10%

番号	部 様	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 8	耳鉢	53	(3.3)	10	(16.35)	長石・石英	にぶい黄澄	両面ナデ 脚部欠損	B 区表土	

番号	部 様	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 5	側板品	(5.3)	2.1	(0.4)	(6.72)	滑石	全面研磨 片面鏡 孔 1か所 孔径 0.20cm	A 区表土	

番号	部 様	長さ	火照径	小口徑	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M 6	燈管	67	-	0.9	4.91	陶	吸口のみ 銅板丸め後継付け	A 区表土	

## 第4節 ま　と　め

今回の調査で、古墳時代の堅穴建物跡2棟、江戸時代の塚5基などを確認した。古墳時代の堅穴建物跡はいずれも5世紀中葉に位置付けられ、近接している吉原向遺跡と同時期の集落であることが明らかになった。江戸時代の塚群は、牛頭座古墳群として登録されていたが、調査によって江戸時代の塚と判明した。吉原向遺跡（第3章参照）の塚も同様に、古墳と考えられていたものが江戸時代の塚と判明した。ここでは、吉原向遺跡の塚や墓坑の調査成果も踏まえて、江戸時代の周辺地域について記述する。

確認できた塚は、牛頭座遺跡で5基、吉原向遺跡で1基である。塚の構築方法について、牛頭座遺跡の第3・4号塚は、盛土前に旧地表面を一部削ってから盛土する点が異なっているものの、盛土方法は水平を意識しながら積み上げる点で共通している。稲敷市（旧稲敷郡江戸崎町）に所在する山崎塚群<sup>1)</sup>では、100mほどの距離に4基の塚が構築されており、その構築方法を2種類に分類している。ひとつは盛土を水平に積み上げる「薄皮工法」。もう一方は、下段の盛土を逆勾配状に積み上げ、その内部に土を水平に積み上げる「すり鉢工法」である。この分類によれば、牛頭座・吉原向遺跡の塚はいずれも「薄皮工法」である。埋葬施設をもつ牛頭座遺跡第5号塚は盛土の途中に、埋葬施設を掘り込んで設けているが、構築土は概ね水平に盛土されている。

牛頭座遺跡の第1～4号塚は、塚に伴う石塔などから大日信仰に基づいていると考えられる。阿見町域内には、大日如来信仰を示す大日塚が点在しているが、正徳年間（1711～1715）以降に衰退していく<sup>2)</sup>。牛頭座遺跡の4基は18世紀後半に位置付けられることから、流行の時期から遅れたものと考えられる。

第5号塚の埋葬施設からは人骨とともに、5点の輪宝が出土し、吉原向遺跡の第1・7号墓坑からも人骨とともに輪宝が出土している。密教法具である輪宝は、地鎮に用いられることが多く、輪宝を描いた土版や土器など多様である<sup>3)</sup>。今回の調査で出土している輪宝は、出土状況などから、僧尼が身に着ける袈裟の金具として用いられたと考えられ、牛頭座・吉原向遺跡で出土している石塔には、「法印」、「權大僧都」、「比丘尼」などの僧尼を指す文字や、「優婆塞」、「信女」などの仏教信者を指す文字が確認できることから、仏教的な要素の強さが伺える。

最後に、塚と墓坑の関係性についてふれておきたい。袈裟金具として輪宝を用いるのは真言系の宗派のみで、前述したように、今回の調査で確認した塚のうち4基は大日信仰に基づくものと考えられることは、大日如来が真言密教の主仏であることとの関係で注目される。牛頭座遺跡・吉原向遺跡に埋葬された僧尼や、石塔に名前が刻まれた仏教信者が、地域においての大日信仰に深く関わっていたことが考えられる。

### 註

- 1) 平岡和夫・間宮正光「山崎塚群」山崎遺跡調査団・江戸崎町教育委員会 2004年10月
- 2) 山中正夫「農民の生活と信仰」『阿見町史』阿見町 1983年3月
- 3) 井上雅孝「地鎮め具としての輪宝－輪宝・輪宝土版・輪宝墨書き器・輪宝墨書き石－」『標葉文化論究－小野田禮常先生頌寿記念論集－』小野田禮常先生頌寿記念論集刊行会 1996年5月

## 第5章 赤太郎遺跡

### 第1節 調査の概要

赤太郎遺跡は、阿見町の南部に位置し、桂川左岸の標高25mの台地上に立地している。吉原向遺跡から北に1.2kmほどの位置である。調査面積は3,565m<sup>2</sup>で、調査前の現況は山林である。

調査の結果、竪穴建物跡9棟（うち1棟は既報告の延長部）（古墳時代）、墓坑1基（江戸時代）、井戸跡4基（時期不明）、土坑55基（古墳1・時期不明54）、溝跡3条（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に26箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（壺・椀・壇・高壺・甕・瓶・ミニチュア土器）、須恵器（壺・高壺・蓋）、陶器（碗）、土製品（球状土錐）、石器・石製品（砥石・紡錘車・劍形品・勾玉・斧形品・未成品・滑石片）、鉄製品（刀子・鎌カ）、銅製品（銭貨）、木製品（板材・不明木製品）、自然遺物（炭化種子）などである。

### 第2節 基本層序

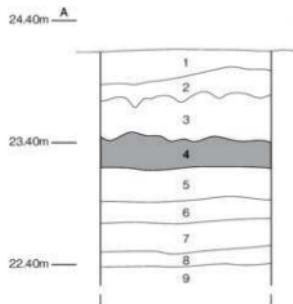
平成22年度の調査で、E 617区にテストピットを設定し、基本土層（第142図）の観察を行った。既報告のため転載する（櫻井完介「赤太郎遺跡 阿見吉原東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財團文化財調査報告』第377集 2013年3月）。

第1層は、暗褐色を呈する耕作土である。粘性・締まりともに弱く、層厚は15～27cmである。

第2層は、暗褐色を呈するソフトローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は11～24cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は20～39cmである。

第4層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は20～30cmである。第Ⅱ黒色帯と考えられる。



第142図 基本土層図

第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は24～29cmである。

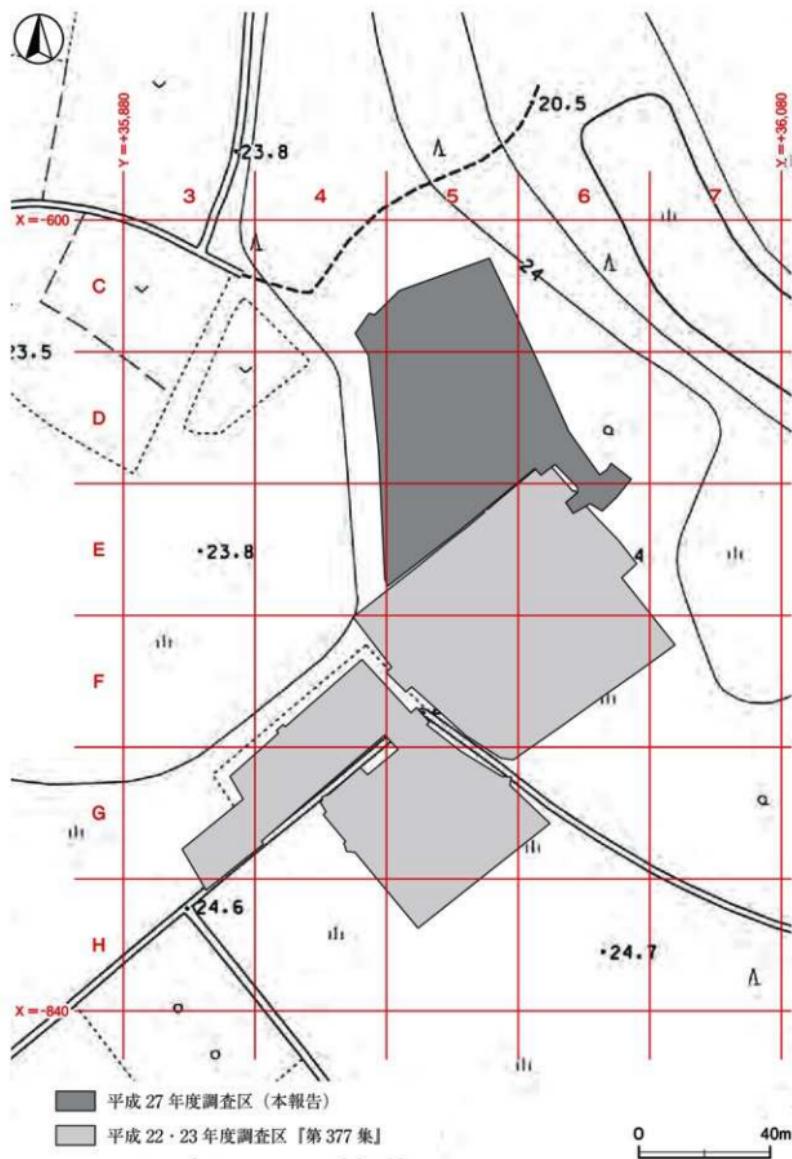
第6層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は15～19cmである。

第7層は、褐色を呈するハードローム層である。鉄分を中量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は24～25cmである。

第8層は、褐色を呈するハードローム層である。鉄分を多量に含み、粘性・締まりともに強く、層厚は11～14cmである。

第9層は、褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりともに強い。下部は未掘のため、層厚は不明である。

遺構は、第2層上面で確認した。



第 143 図 赤太郎遺跡調査区設定図（阿見町都市計画図 1,500 分の 1）

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡9棟、土坑1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

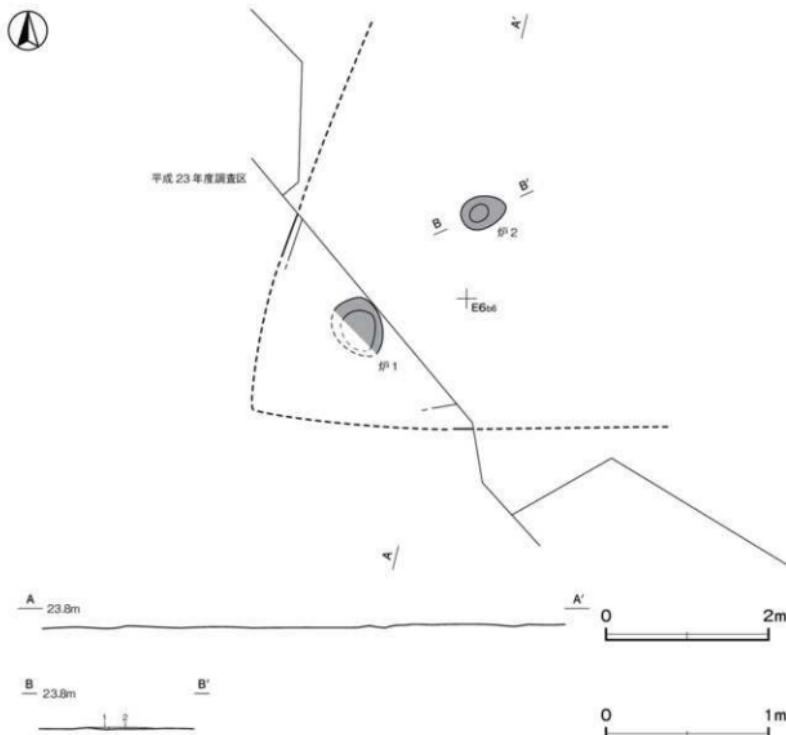
##### (1) 竪穴建物跡

###### 第18号竪穴建物跡（第144図）

位置 調査区南部のE 6a5区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 前回の調査で、南西コーナー部と炉1基が確認されていた竪穴建物跡の北東部である。削平を受けしており、精査した結果、露出した状態の炉1基を確認した。

規模と形状 明確な掘り込みは確認できなかったが、前回の調査状況と今回確認できた炉をもとに推定すると、1辺5m以上の方形もしくは長方形と考えられる。



第144図 第18号竪穴建物跡実測図

**床** 硬化面は確認できなかった。

**炉** 前回の調査で確認した炉1の北東15mに位置している。長径56cm、短径38cmの楕円形で、地床炉と考えられる。炉床面の被熱状況は弱く、使用された痕跡が乏しい。

**炉2土層解説**

1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

**覆土** 削平を受けていたため、確認できなかった。

**遺物出土状況** 今回の調査では、遺物が出土していない。以前の調査では、土師器片5点（高杯1、壺4）が出土している。

**所見** 削平により不明な部分が多いが、2基の炉を有し、炉1が主に使用されたと考えられる。時期は、出土土器から5世紀中葉と報告されている。今回の調査では遺物が出土していないため、時期を明確にすることはできなかった。

**第19号竪穴建物跡（第145～148図 PL30）**

**位置** 調査区北部のC5g7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 一辺7.05mの方形で、主軸方向はN-27°-Wである。壁は高さ30～52cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦で、南東・南西コーナー部を除いて踏み固められている。北東壁からP1に向かって、長さ175cm、幅27cm、深さ4cmの間仕切り溝が延び、上面で炭化材が出土している。床面からは少量の炭化材が出土し、いずれも東西方向である。

**炉** 2か所。炉1は北壁寄りに位置している。長径76cm、短径67cmの不整円形で、深さ10cmの地床炉である。

炉床面は火熱を受け赤変硬化している。炉2は東壁寄りに位置している。長径86cm、短径60cmの楕円形で、深さ8cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けているが炉1より弱く、主に使用されたのは炉1と考えられる。

**炉1土層解説**

1 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量

3 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量

2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

**炉2土層解説**

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

3 暗褐色 焼土ブロック多量

2 暗赤褐色 烧土粒子少量

4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

**ピット** 5か所。P1～P4は径26～33cm、深さ31～46cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は径35cm、深さ33cmで、位置と形状から、出入り口施設に関わるピットである。

**ピット土層解説（P1～P5共通）**

1 暗褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量

**貯藏穴** 南西コーナー部に位置している。長径80cm、短径69cmの不整楕円形で、深さは55cmである。壁は外傾し、底面はやや凹凸である。

**貯藏穴土層解説**

1 暗褐色 ローム粒子少量

3 黒褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子微量

4 暗褐色 ロームブロック少量

**覆土** 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

**土層解説**

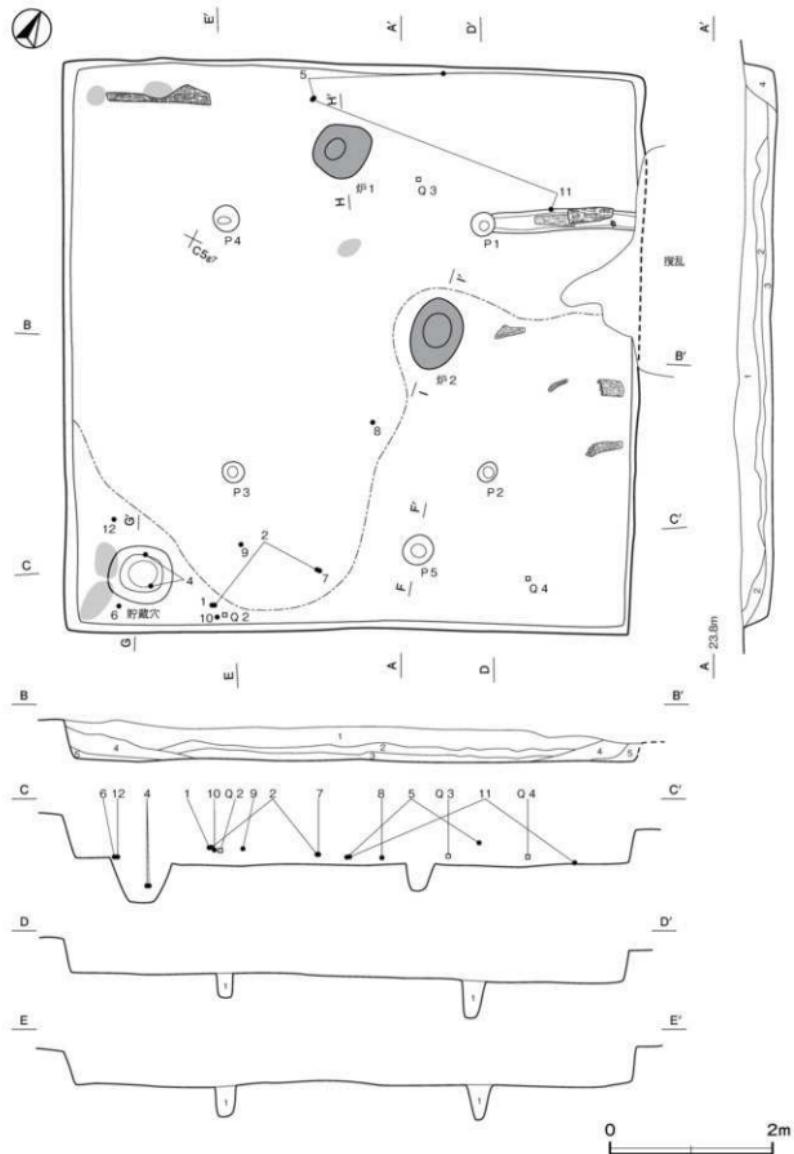
1 黒褐色 ローム粒子微量

4 黒褐色 ローム粒子中量

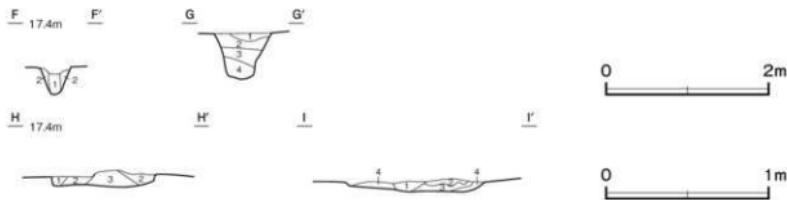
2 黒褐色 ローム粒子少量

5 暗褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ローム粒子少量



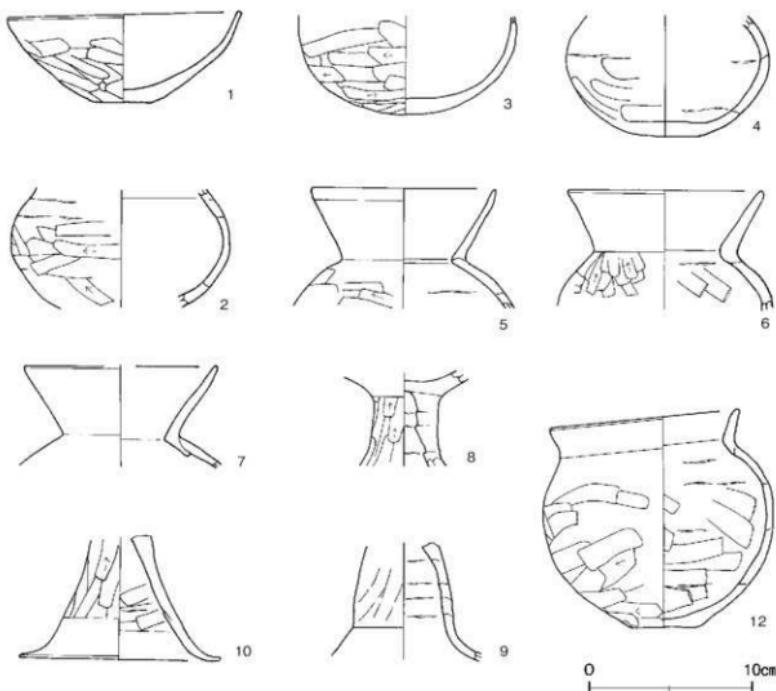
第145図 第19号竪穴建物跡実測図(1)



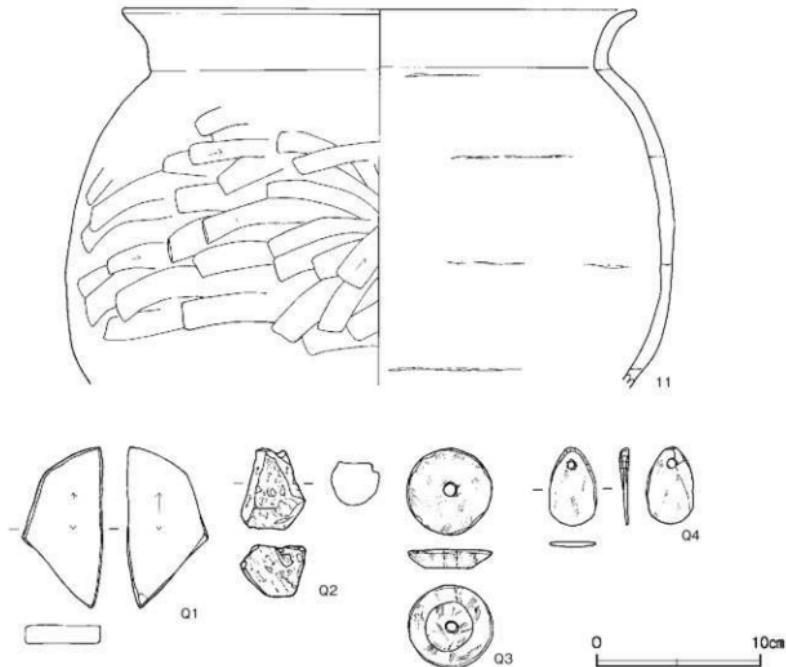
第146図 第19号竪穴建物跡実測図（2）

遺物出土状況 土師器片 727点（坏2、甌24、壺47、高坏1、壺583）、石器・石製品4点（砥石2、紡錘車1、斧形品1）、木製品1点（不明木製品）のほか、縄文土器片3点（深鉢）が出土している。4は貯蔵穴の中層から、6・12は貯蔵穴付近の床面から出土している。いずれも破片であることから、廃棄されたと考えられる。この他の遺物は、覆土下層から中層にかけて出土し、遺存状態の悪いことから、流れ込みと考えられる。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。床面から炭化材が出土していることから、焼失建物である。



第147図 第19号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第148図 第19号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第19号竪穴建物跡出土遺物観察表(第147・148図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	杯	14.4	57	33	長石・石英	にい(青)	普通	口縁部外・内面ナデ 修復外面ナデ	覆土下層	70% PL25 外・内面被熱
2	土師器	桶	-	(7.2)	-	長石・石英	にい(赤褐色)	普通	体部外面横位土全体のヘラ削り	覆土下層	20%
3	土師器	桶	-	(6.0)	-	長石・石英・ 赤色粒子・細纖	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土上層	40% 内面被熱
4	土師器	桶	-	(7.4)	4.4	長石・石英	橙	普通	体部外面ナデ	竪穴中層	30%
5	土師器	壺	11.4	(7.3)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土下層	40%
6	土師器	壺	11.9	(7.3)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ヘラ削り 内面 ハラナデ	床面	40%
7	土師器	壺	[11.8]	(6.3)	-	長石・石英	にい(青)	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土下層	30%
8	土師器	高杯	-	(5.8)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	脚部外側面位のヘラ削り 中空の脚部上面に环 状凹部を複合	覆土下層	10% 环状凹部を複合
9	土師器	高杯	-	(7.3)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	脚部外面ナデ	覆土下層	20%
10	土師器	高杯	-	(7.6)	12.3	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	脚部外側面位のヘラ削り 内面横位のナデ	覆土下層	40%
11	土師器	甕	31.5	(23.0)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ヘラ削り後 ナデ	床面・ 覆土下層	30% PL37
12	土師器	甕	11.6	13.4	4.1	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ヘラ削り 内面機位のヘラナデ	床面	50%

番号	器種	長さ・ 径	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	(99)	(49)	11	(72.46)	砂岩	砥面2面	覆土下層	
Q 2	砥石	(96)	40	31	(15.63)	軽石	砥面4面	覆土下層	PL28

番号	器種	長さ・ 幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	鋸鋸車	52	-	0.8	41.08	滑石 全面に擦痕 孔径0.8cm	覆土下層	PL38
Q4	斧形	47	29	0.6	7.83	雲母片岩 全面研磨 孔1か所 孔径0.5cm	覆土下層	PL38

### 第20号竪穴建物跡(第149~151図)

位置 調査区中央部のD5c7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第248号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸9.05m、短軸8.65mの方形で、主軸方向はN-54°-Eである。壁は高さ58~87cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、東部と南・西コーナー部を除いて踏み固められている。壁下には、幅6~22cm、深さ8~12cmの壁溝が北隅部と南北壁下を除いて巡っている。南北壁際には、貯蔵穴とP5を囲むE字状の高まりが設けられている。

炉 北西壁寄りに位置している。長径65cm、短径56cmの不整梢円形で、深さ9cmの地床炉である。炉床は皿状に掘り窪め、第3層を埋土して構築している。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

- |       |              |          |                    |
|-------|--------------|----------|--------------------|
| 1 短褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 2 短褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |          |                    |

ピット 5か所。P1~P4は径30~49cm、深さ121~126cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は径41cm、深さ28cmで、位置と形状から、出入り口施設に関わるピットである。P1は上面から土器片19が出土していることから、柱が抜き取られたと考えられる。

#### ピット土層解説(P1~P5共通)

- |       |         |       |           |
|-------|---------|-------|-----------|
| 1 短褐色 | ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量   |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 短褐色 | ローム粒子中量 |       |           |

貯蔵穴 南東壁際のやや南寄りに位置している。径87cmの不整円形で、深さは94cmである。壁は外傾し、底面は平坦である。

#### 貯蔵穴土層解説

- |       |           |       |         |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 短褐色 | ローム粒子少量   | 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 短褐色 | ロームブロック少量 |       |         |

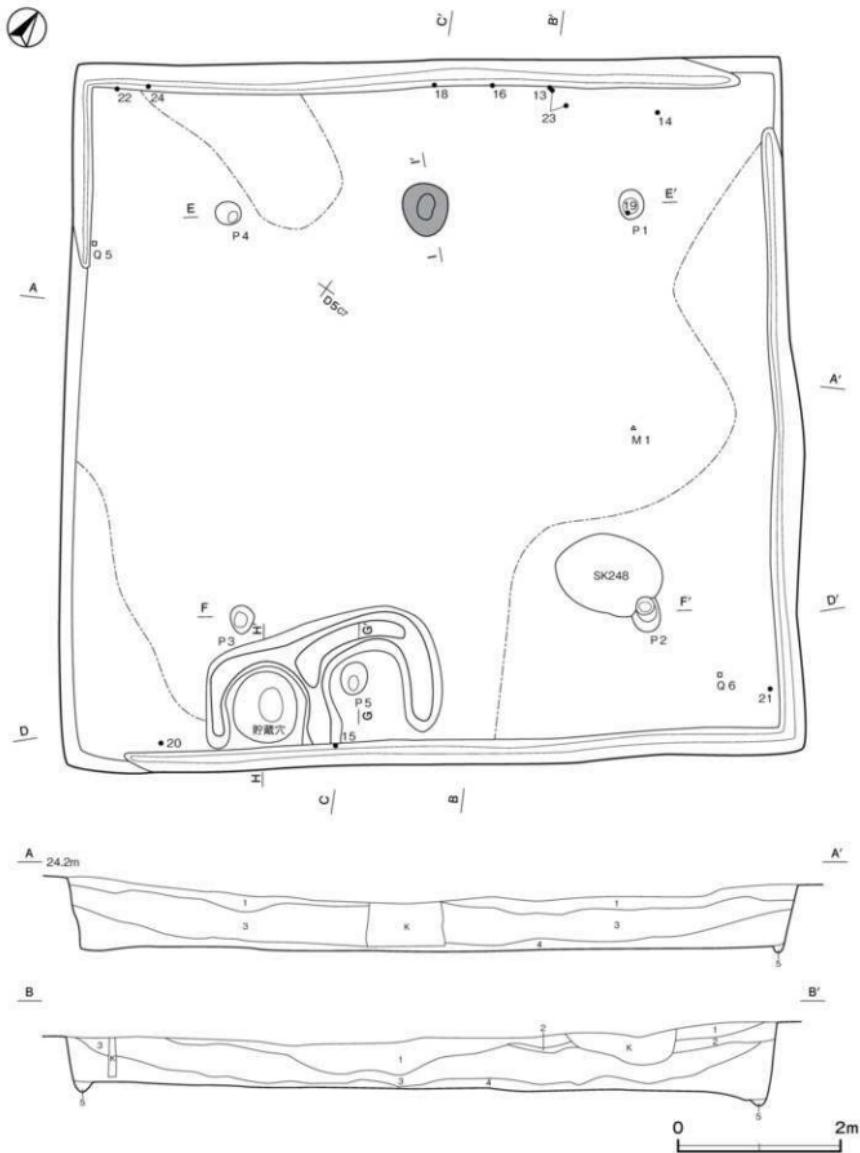
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

#### 土層解説

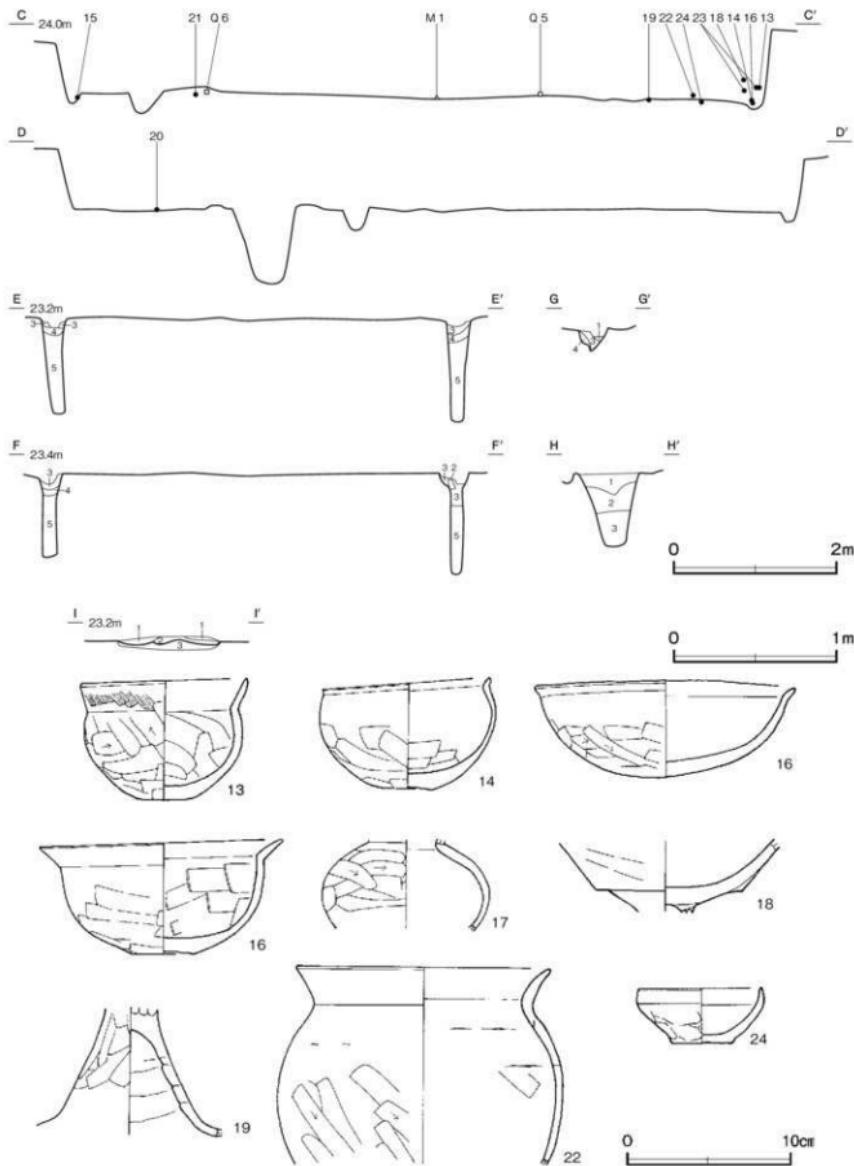
- |       |           |       |              |
|-------|-----------|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量   | 4 黑褐色 | ローム粒子中量      |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 広褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 3 黒色  | ローム粒子微量   |       |              |

遺物出土状況 土師器片1,302点(楕228、壺64、高杯331、甕678、ミニチュア土器1)、石器・石製品14点(砥石1、剣形品2、未成品1、滑石片10)、鉄製品1点(刀子)のほか、繩文土器片4点(深鉢)、陶器1点(甕)が出土している。全体的に、中央部からの出土量は少ない。19はP1の上面から出土している。その他は、壁際付近から出土しており、建物の廃絶に伴って遺棄されたと考えられる。

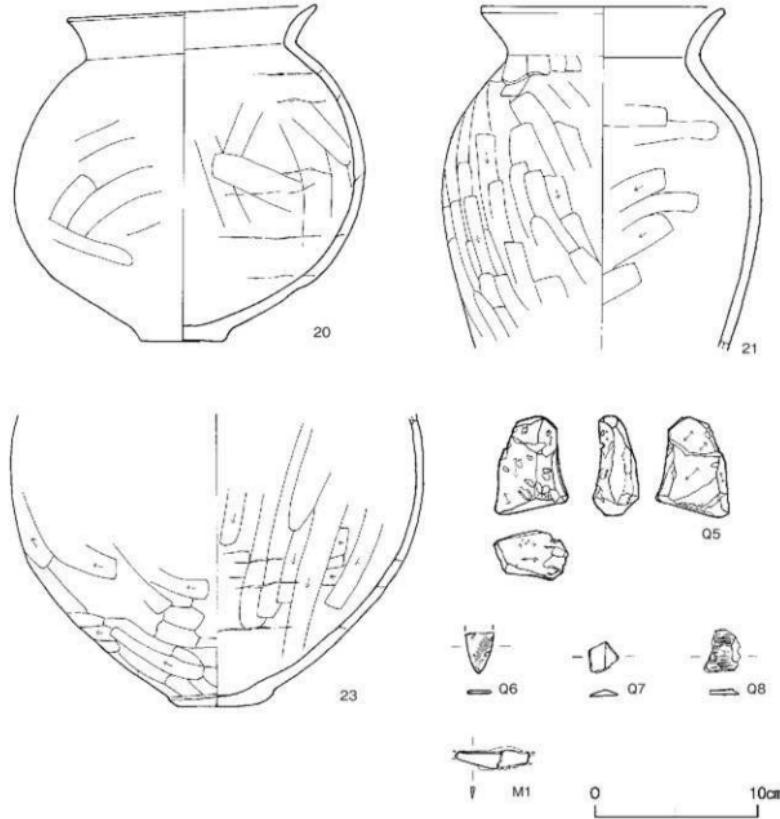
所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第149図 第20号竪穴建物跡実測図



第150図 第20号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第 151 図 第 20 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 20 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 150・151 図)

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の脊徴ほか	出土位置	備考
13	土師器	桶	102	76	37	長石・石英・赤色粒子	棕	普通 口縁部外側ハク目調査後、弱いナデ	体部外側 多方向へのヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	100% PL35
14	土師器	桶	102	69	30	長石・石英	棕	普通 ナデ	口縁部外・内面ナデ 体部外側ナデ 内面ヘラ	床面	80% PL35
15	土師器	桶	161	60	—	長石・石英	にぶい棕	普通 口縁部外・内面ナデ 体部外側ヘラ削り 内面 焼成により調整不明	内面	90% PL35 埋溝内 内面燒熱	
16	土師器	桶	149	72	37	長石・石英	棕	普通 口縁部外・内面ナデ	体部外・内面ヘラナデ	埋溝跡	70%
17	土師器	壺	—	(56)	—	長石・石英	にぶい棕	普通 体部外側ヘラ削り。わずかに赤彩遺存		覆土下層	40%
18	土師器	高环	—	(44)	—	長石・石英・雲母	にぶい棕	普通 内面ナデ		覆土下層	30%
19	土師器	高环	—	(78)	—	長石・石英	棕	普通 口縁部外・内面ナデ	ナデ	P 1 上面	30%
20	土師器	甕	152	207	50	長石・石英	棕	普通 口縁部外・内面ナデ	体部外・内面ナデ	床面	70% PL37
21	土師器	甕	150	(211)	—	長石・石英・細繊	棕	普通 口縁部外・内面ナデ 体部外側傾倒のヘラ削り 内面繊・斜削のヘラ削り後、上部ナデ		床面	40%
22	土師器	甕	156	(122)	—	長石・石英	棕	普通 ヘラナデ	体部外側ヘラ削り 内面	床面	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
23	土師器	甕	-	(18.0)	5.0	長石・石英・細鐵	にぶい赤褐色	普通 うすく うすく	体部外側へ張り後、一部ナデ 内面縮合のへ 張り底部外周未調整	覆土下層	40%
24	土師器	二重口付 土器	7.5	3.4	3.7	長石・石英	橙	普通 うすく	口部外、内面ナデ 体部外ナデ。指頭圧痕 内面ナデ	壁溝	90%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質			特徴	出土位置	備考
Q 5	砥石	(6.1)	4.6	2.9	(248)	軽石	砥面4面			床面	PL38
Q 6	側形品	(2.6)	(1.7)	0.2	(152)	滑石	全面研磨			床面	PL38
Q 7	側形品	(2.0)	(1.8)	0.45	(226)	滑石	片面鏡 全面弱い研磨			覆土下層	PL38
Q 8	未成品	(2.6)	(2.2)	0.3	(275)	滑石	両面研磨			覆土下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質			特徴	出土位置	備考
M 1	刀子	(47)	11	0.2	(473)	鉄	刃開両端欠損			床面	PL38

### 第21号竪穴建物跡（第152・153図 PL30）

位置 調査区北西部のC40区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸638m、短軸5.16mの長方形で、主軸方向はN-59°Wである。壁は高さ27~46cmで、やや外傾している。

床 平坦で、P1周辺と壁際を除いて踏み固められている。壁下には、一部搅乱を受けているが、幅12~15cm、深さ6~9cmの壁溝が全周している。

炉 2か所。炉1は西壁寄りに位置している。長径75cm、短径70cmの不整円形で、深さ9cmの地床炉である。炉床は皿状に掘り窪め、第5層を埋土して構築している。炉床面は火熱を受けて赤変化している。炉2は南壁寄りに位置している。長径71cm、短径51cmの不整梢円形で、深さ9cmの地床炉である。炉床は皿状に掘り窪め、第5層を埋土して構築している。炉床面は火熱を受けて赤変化している。

#### 炉土層解説（炉1・炉2共通）

- |          |                  |          |                    |
|----------|------------------|----------|--------------------|
| 1 暗褐色    | 燒土ブロック少量、ローム粒子微量 | 4 暗赤褐色   | 燒土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 2 暗赤褐色   | ロームブロック・燒土ブロック少量 | 5 にぶい赤褐色 | ロームブロック、燒土ブロック少量   |
| 3 にぶい赤褐色 | 燒土ブロック多量、ローム粒子少量 |          |                    |

ピット P1は径56cm、深さ28cmで、規模と位置から、出入り口施設に関わるピットである。

#### ピット土層解説

- |       |         |       |         |
|-------|---------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子少量 |
|-------|---------|-------|---------|

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。径67cmの円形で、深さは25cmである。壁は外傾し、底面は平坦である。

#### 貯蔵穴土層解説

- |       |                     |       |           |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・燒土粒子、炭化粒子少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量           |       |           |

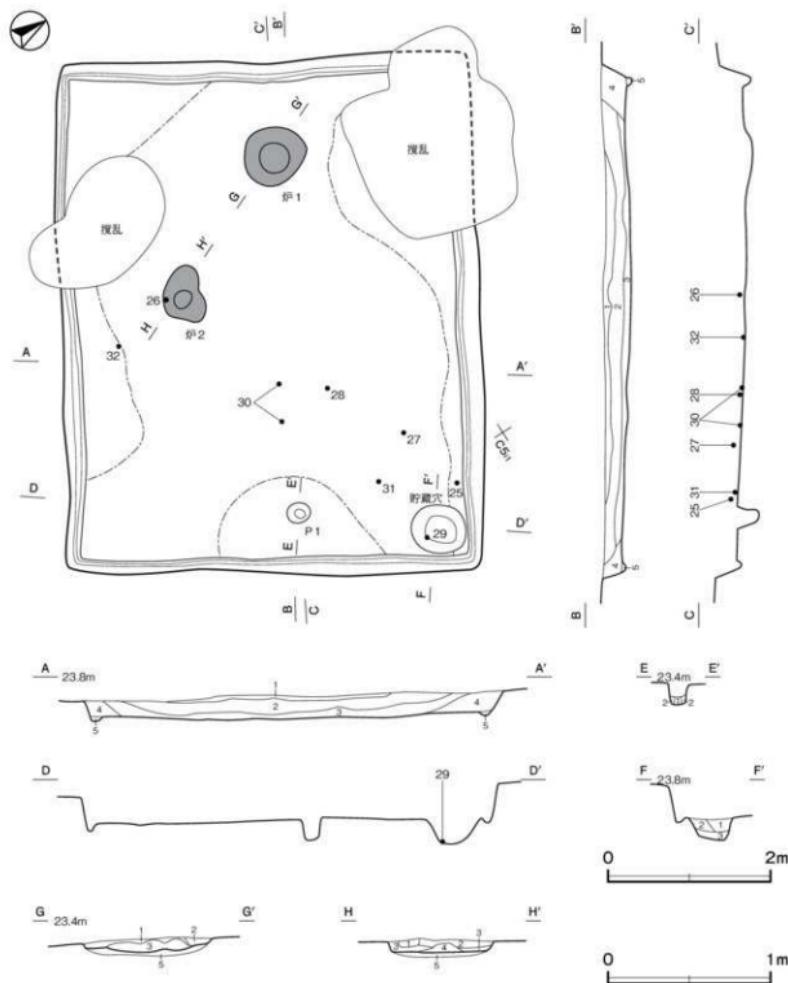
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

#### 土層解説

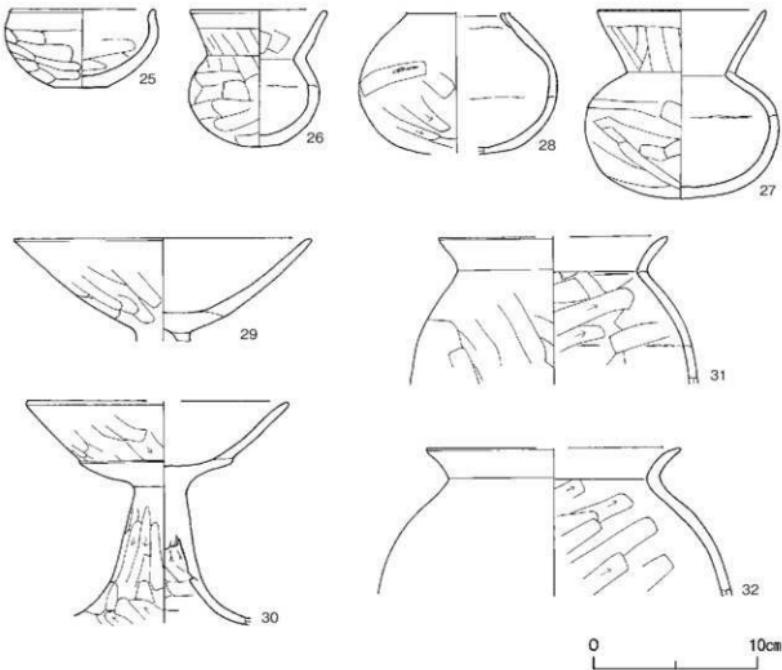
- |       |         |       |           |
|-------|---------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 黑褐色 | ローム粒子中量   |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 |       |           |

遺物出土状況 土師器片135点（楕1、堆19、高坏27、甕88）のほか、繩文土器片4点（深鉢）が出土している。26は炉の上面から出土し、火熱を受けた状況が弱いことから、炉の理没後に遺棄されたと考えられる。29は貯蔵穴の底面から出土している。完形に復元できないことから、廃棄されたと考えられる。25・27・28・30・31は、床面や、やや上位から出土しており、建物の廃絶に伴って遺棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。主柱穴をもたないため、簡易な構造の建物跡である。



第152図 第21号竪穴建物跡実測図



第 153 図 第 21 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 21 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 153 図）

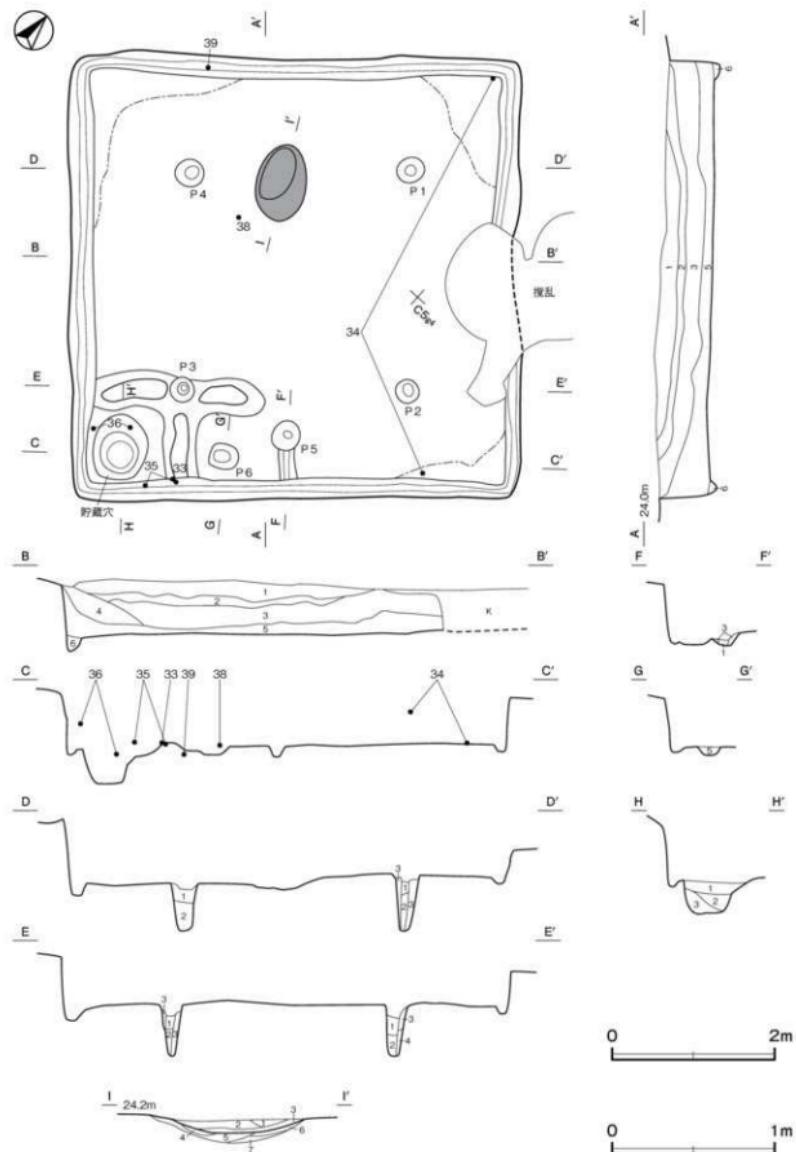
番号	種 別	器種	口径	厚 高	底 深	胎 土	色 調	焼 成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
25	土師器	輪	8.8	4.8	3.0	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外・内面ナデ	覆土下層	90% PL35
26	土師器	壺	8.3	8.4	-	長石・石英	棕	普通	口縁部外面ナデ 内面横位のヘラナデ 頭部外 面横位のヘラナデ 体部外・内面横位のナデ	仰上面 被熱洞	95% PL36
27	土師器	壺	10.3	11.6	-	長石・石英	ぶい赤褐	普通	口縁部外面横位のヘラ削り後、横位のナデ 体部 内面横・斜位のナデ	覆土下層	90% PL36
28	土師器	壺	-	(8.7)	-	長石・石英	棕	普通	口縁部外面斜位のヘラ削り 帯状の楕の一部に灰 化した木材付着	床面	30% 外・内 被熱洞
29	土師器	高环	18.2	[6.4]	-	長石・石英・細纖	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 环部外面ナデ	貯藏穴底面	50%
30	土師器	高环	[16.0]	[13.1]	-	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面ナデ 环部外面斜位のヘラ削り 脚部外面へ剥り 内面ナデ	床面	40% 环部 内面被熱
31	土師器	甕	[14.0]	(9.1)	-	長石・石英・細纖	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面斜位のナデ	床面	30% 外面埋付着
32	土師器	甕	[15.6]	(9.1)	-	長石・石英・細纖	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面摩滅のため調整 内面斜位のヘラ削り	床面	30%

第 22 号竪穴建物跡（第 154 ~ 156 図 PL31）

位置 調査区北部の C 5g3 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 5.54 m、短軸 5.36 m の方形で、主軸方向は N - 40° - W である。壁は高さ 34 ~ 60 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、コーナー部を除いて踏み固められている。壁下には、一部搅乱を受けているが、幅 12 ~ 21 cm、



第154図 第22号竪穴建物跡実測図

深さ 8 ~ 15cm の壇溝が全周していると考えられる。南東壁際から P 5 に向かって、長さ 45cm、幅 19cm、深さ 17cm の間仕切り溝が延びている。南コーナーに位置する貯蔵穴の周囲には、T 字状の高まりが設けられている。

**炉** 北西壁寄りに位置している。長径 94cm、短径 60cm の楕円形で、深さ 8cm の地床炉である。炉床は皿状に掘り窪め、第 4 ~ 7 層を埋土して構築している。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 噴褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	5 噴褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子微量
2 噴赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	6 噴赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子、炭化粒子少量
3 にぶ赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量	7 極褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
4 噴赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子微量		

**ピット** 6か所。P 1 ~ P 4 は径 29 ~ 36cm、深さ 48 ~ 65cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5 は径 38cm、深さ 14cm で、規模が小さく、間仕切り溝と接していることから、間仕切り溝と関連するピットと考えられる。

P 6 は径 36cm、深さ 12cm で、位置と形状から出入り口施設に関わるピットである。

#### ピット土層解説 (P 1 ~ P 6 共通)

1 極褐色	ローム粒子少量	4 黒褐色	ローム粒子多量
2 噴褐色	ローム粒子微量	5 噴褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 噴褐色	ロームブロック少量		

**貯蔵穴** 南コーナー部に位置している。長径 80cm、短径 66cm の不整楕円形で、深さは 40cm である。壁は外傾し、底面は中央部がわずかに高くなっている。

#### 貯蔵穴土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	3 噴褐色	ローム粒子少量
2 噴褐色	ロームブロック少量		

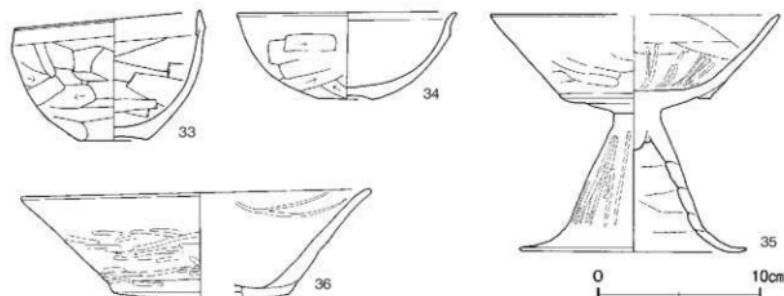
**覆土** 6 層に分層できる。第 3 ~ 5 層はロームブロックが含まれていることから埋め戻しで、上層は自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

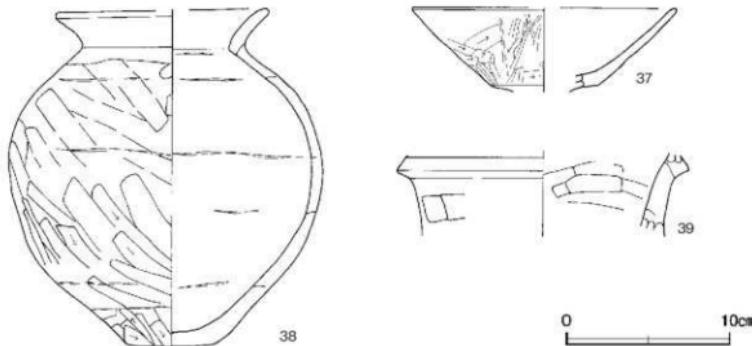
1 黒褐色	ローム粒子微量	4 噴褐色	ローム粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子微量	5 噴褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック少量	6 極褐色	ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片 532 点 (縹 19、塙 14、高坏 148、甕 351) が出土している。33 ~ 35 は、貯蔵穴の周囲に設けられた高まりの内側から出土している。比較的遺存状態が良く、遺棄されたと考えられる。36 は貯蔵穴の上層と、やや壁際の覆土中層から出土している。貯蔵穴の埋没後には堆積した埋土中に含まれていたと考えられる。38 は炉の南側から出土しており、完形に近いことから、遺棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀中葉と考えられる。



第 155 図 第 22 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 156 図 第 22 号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）

第 22 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 155・156 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
33	土器部	桶	11.6	8.0	4.2	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ ボラナダ	床面	95%
34	土器部	桶	13.4	5.4	3.2	長石・石英・細纖維	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面へラ削り	床面・ 覆土中層	80% PL35 内面被熱
35	土器部	高环	[17.7]	14.7	14.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ 下部をへラ削り	床面	70% PL36
36	土器部	高环	21.6	(6.9)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 壁外面へラ削り	野立て上層 壁外面被熱	50%
37	土器部	高环	[16.2]	(5.0)	-	長石・石英	橙	普通	内面へラ削り後、へラ削り 内面被熱により調 査不明	覆土中	30%
38	土器部	甕	[13.0]	20.7	5.5	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部から頭部外・内面ナデ 上部ナダ	床面	90% PL37
39	土器部	甕	-	(5.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ 輪構み外面に接	壁溝	10%

第 23 号竪穴建物跡（第 157～159 図 PL31・32）

位置 調査区東部の D 6d2 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号墓坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.08 m、短軸 5.00 m の方形で、主軸方向は N - 39° - E である。壁は高さ 52 ~ 78 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、南東・南西壁下を除いて踏み固められている。壁下には、幅 15 ~ 26 cm、深さ 5 ~ 11 cm の壁溝が全周している。南コーナー部に位置する貯蔵穴の周囲には、L 字状の高まりが設けられている。床面からは、柱間をつなぐ方向で炭化材が出土している。

炉 北西壁寄りに位置している。長径 106 cm、短径 58 cm の不整梢円形で、深さ 11 cm の地床炉である。炉床は皿状に掘り窪められ、第 6・7 層を埋土して構築している。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

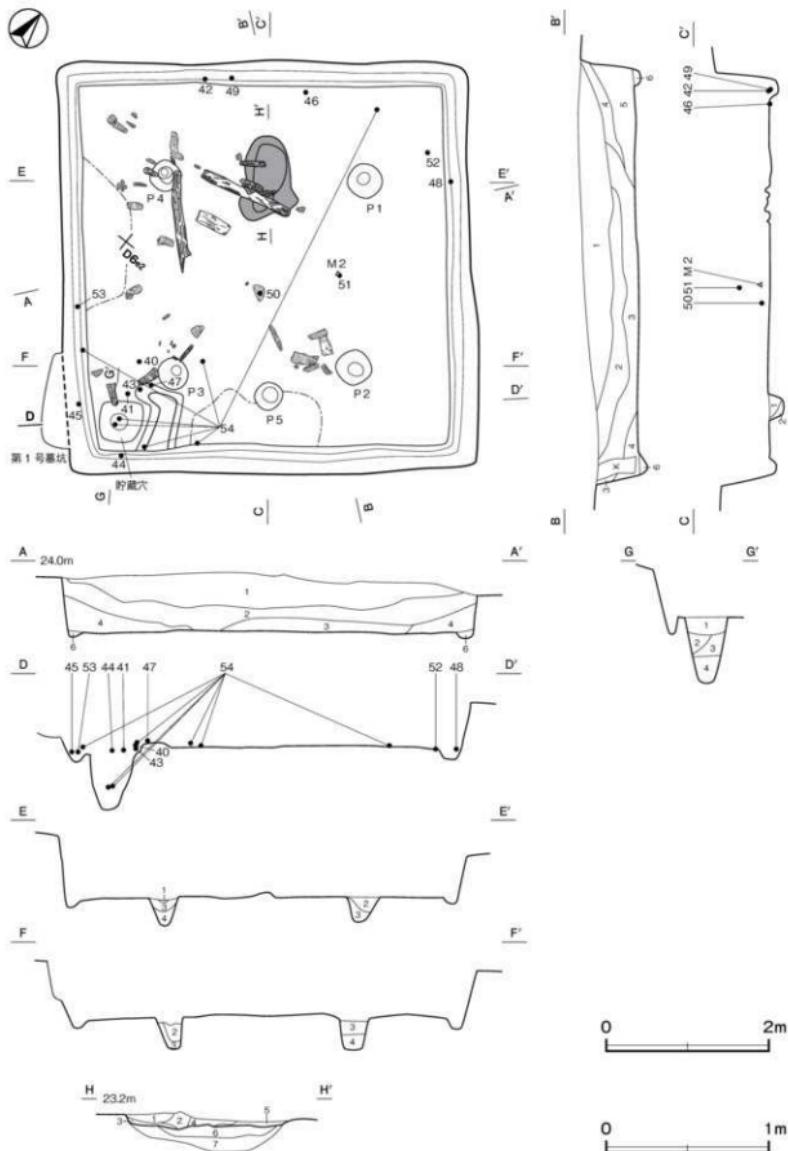
#### 炉土層解説

1	暗赤褐色	ローム粒子少量	5	黒褐色	炭化物・焼土粒子微量
2	暗赤褐色	ローム粒子微量	6	暗褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量
3	にぶい赤褐色	ローム粒子少量	7	褐色	ロームブロック中量
4	暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量			

ピット P 1 ~ P 4 は径 40 ~ 45 cm、深さ 37 ~ 51 cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5 は径 35 cm、深さ 21 cm で、位置と形状から出入り口施設に関わるピットである。

#### ピット土層解説 (P 1 ~ P 5 共通)

1	暗褐色	ロームブロック少量	3	褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ローム粒子少量	4	褐色	ローム粒子少量



第 157 図 第 23 号竪穴建物跡実測図

**貯藏穴** 南コーナー部に位置している。長径 80cm、短径 66cm の不整梢円形で、深さは 40cm である。壁は外傾し、底面は中央部がわずかに高くなっている。

貯藏穴土層解説

- |       |           |
|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 |

- |       |         |
|-------|---------|
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 |

**覆土** 6 層に分層できる。第 3・5 層はロームブロックが含まれていることから埋め戻しで、上層は自然堆積と考えられる。

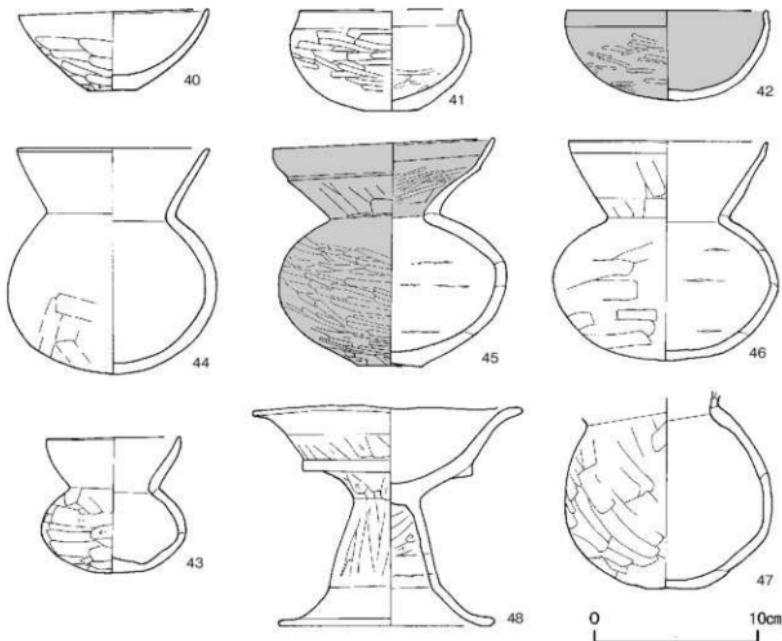
土層解説

- |       |           |
|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量   |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量   |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |

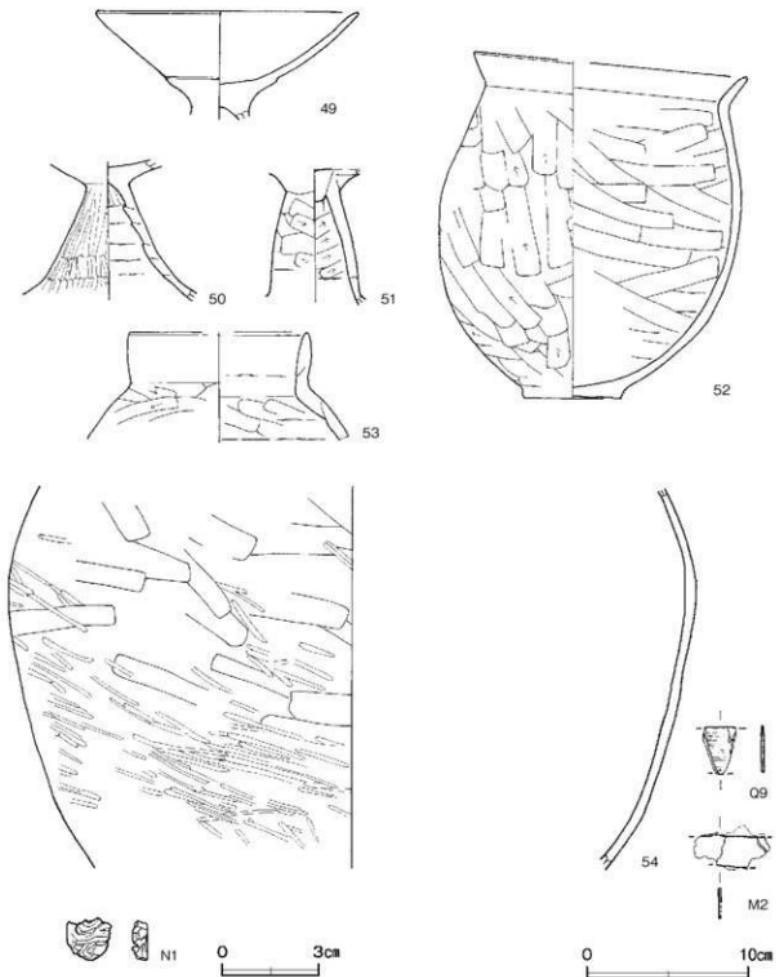
- |       |           |
|-------|-----------|
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量   |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量   |

**遺物出土状況** 土師器片 366 点（壺 1、碗 2、壙 5、高壺 176、甕 182）、石製品 10 点（剣形未成品 1、滑石片 9）、鉄製品 1 点（鎌）、炭化種子 1 点（桃）のほか、陶器片 2 点（碗）が出土している。床面からの出土量が多く、特に壁際や貯藏穴周辺から多く出土していることから、遺棄されたと考えられる。50・51・M2 は中央部の覆土中層から下層にかけて出土し、投棄されたと考えられる。床面からは炭化材が出土し、建物の焼失時に炭化した部材と考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀中葉と考えられる。床面から炭化材が出土していることから、焼失建物である。



第 158 図 第 23 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第159図 第23号堅穴建物跡出土遺物実測図(2)

第23号堅穴建物跡出土遺物観察表(第158・159図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴はか	出土位置	備考
40	土陶器	环	11.8	5.0	2.8	長石・石英	にじい赤褐色	普通 ナデ	口縁部外・内面ナデ 体部外面へラ削り後、ナ デ内面ナデ	床面	90%
41	土陶器	輪	[98]	6.2	3.2	長石・石英	にじい褐色	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外・内面へラ削き	床面	70% 内面焼熱
42	土陶器	輪	12.3	5.5	-	長石・石英	明赤褐色	普通 ナデ	口縁部外・内面ナデ 体部外面へラ削き、外・ 内面赤熱	壁構上部	80% PL.35 外・内面赤熱
43	土陶器	壺	8.1	8.5	3.3	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面へラ削り	床面	100% 外・内面被熱

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
44	土師器	壺	117	139	-	長石・石英	にぶい橙	普通	全体的に摩擦が顕著、外面一部ナデが残る	壁溝上面	95% PL36
45	土師器	壺	136	141	38	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外側ナデ 内面ヘラ削き 体部外側ヘラ削り後、ヘラ磨き 口縁部外・内面・各部外側赤	壁溝上面	90% PL36
46	土師器	壺	122	135	-	長石・石英・細纈	明赤褐	普通	口縁部外側ヘラ削り後、ナデ 内面ナデ 体部外側ナデ	床面	70% 外・内 横指面被熱
47	土師器	壺	-	(122)	31	長石・石英	橙	普通	体部外側ナデ	床面	60% 横指面被熱
48	土師器	高环	162	136	128	長石・石英・細纈	橙	普通	灰墨外側ヘラ削り後、口縁部付近ナデ 内面ナデ	壁溝上面	95% PL36
49	土師器	高环	162	(67)	-	長石・石英・細纈	橙	普通	腹墨部外側頭部のナデ 内面ヘラ削り後、一層ナデ	壁溝上面	55% 内面被熱
50	土師器	高环	-	(87)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ	壁溝上面	50% 嵌付着
51	土師器	高环	-	(84)	-	長石・石英	明赤褐	普通	脚部外側のヘラ削き	覆土下層	30% 内部内面被熱
52	土師器	甕	[17.0]	215	6.1	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体芯外側位のヘラ削り	床面	60%
53	土師器	甕	[11.0]	(68)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側ヘラ削り 内面ナデ	壁溝上面	10%
54	土師器	甕	-	(23.7)	-	長石・石英・細纈	にぶい橙	普通	体部外側ナデ後、横・斜位のヘラ削き 内面ナデ	床面・ 竹籠六	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 9	彫形未完成品	30	(20)	0.2	(2.58)	滑石	成形前 未穿孔 全面研磨	覆土下層	PL38
M 2	鍍金	(47)	(20)	0.1	(4.95)	鉄	両端部欠損	覆土下層	PL38
N 1	炭化植物	(13)	(14)	0.5	(0.33)	桃	上部欠損	覆土下層	

#### 第24号竪穴建物跡（第160・161図 PL32・33）

位置 調査区北部のC 5j3区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.84m、短軸5.69mの方形で、主軸方向はN-30°-Eである。壁は高さ14~34cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、北・西壁下を除いて踏み固められている。壁下には、幅9~13cm、深さ5~7cmの堀溝が全周している。北壁際からP 1に向かって、長さ107cm、幅15cm、深さ8cmの間仕切り溝が延びている。南東コーナー部には、貯蔵穴を埋む高まりが設けられ、北東部が棒状に突出している。床面からは少量の炭化材が、西壁際沿って出土している。

炉 3か所。炉1は西壁寄りに位置している。長径76cm、短径61cmの不整梢円形で、深さ5cmの地床炉である。炉床は皿状に掘り窪められ、第5層を埋土して構築している。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。炉2は中央北寄りに位置している。長径79cm、短径50cmの不整梢円形で、深さ7cmの地床炉である。炉床は皿状に掘り窪められ、第4・5層を埋土して構築している。炉床面は火熱を受けているが硬化は弱い。炉3は中央部に位置している。長径67cm、短径45cmの梢円形で、深さ4cmの地床炉である。炉床は皿状に掘り窪められ、第5層を埋土して構築している。炉床面は火熱を受けているが硬化は弱い。位置や硬化の状況から、炉1が主体的に使用されたと考えられる。

##### 炉土層解説（炉1～炉3共通）

- |          |                  |              |        |          |           |
|----------|------------------|--------------|--------|----------|-----------|
| 1 にぶい赤褐色 | 燒土ブロック少量         | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 緩赤褐色 | 燒土ブロック中量 | ロームブロック少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | ロームブロック・燒土粒子     | 炭化粒子微量       | 5 赤褐色  | 燒土ブロック微量 |           |
| 3 緩赤褐色   | ロームブロック・燒土ブロック少量 |              |        |          |           |

ピット 5か所。P 1～P 4は径23~30cm、深さ25~33cmで、規模と配置から主柱穴である。P 5は径35cm、深さ21cmで、位置と形状から出入り口施設に関わるピットである。

##### ピット土層解説（P 1～P 5共通）

- |       |         |
|-------|---------|
| 1 黄褐色 | ローム粒子少量 |
|-------|---------|

貯藏穴 南東コーナー部に位置している。長軸69cm、短軸52cmの隅丸長方形で、深さは46cmである。壁は外傾し、底面は皿状である。

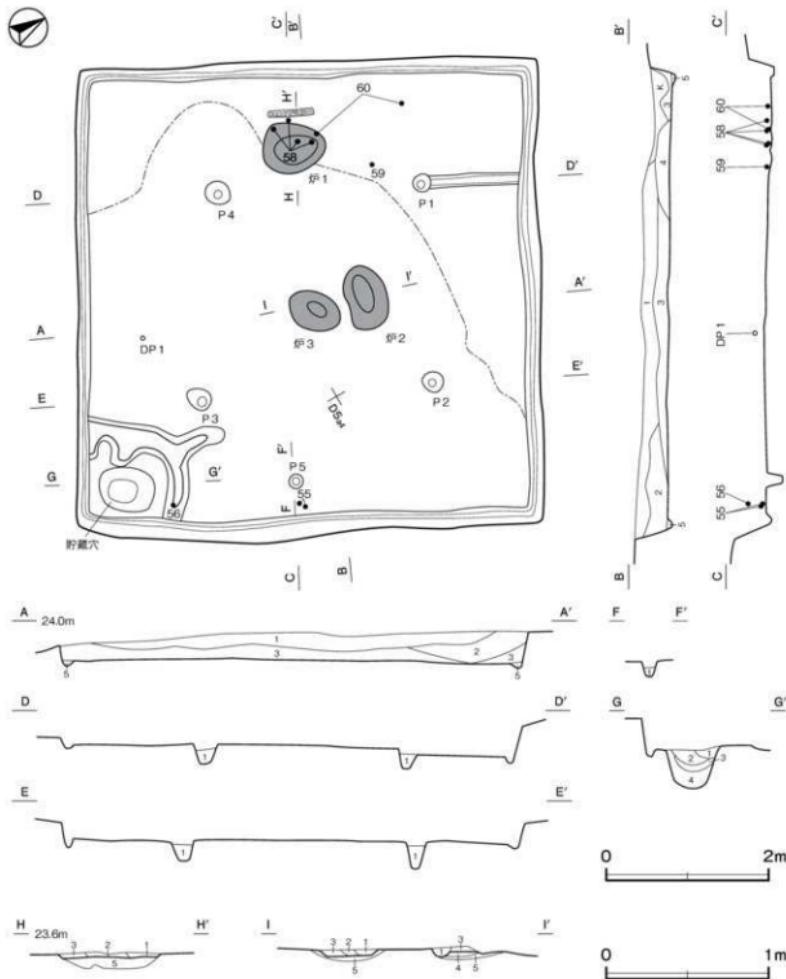
## 貯藏穴土層解説

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量    | 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック少量       |

覆土 5層に分層できる。ブロック状の堆積状況から、埋め戻されている。

## 土層解説

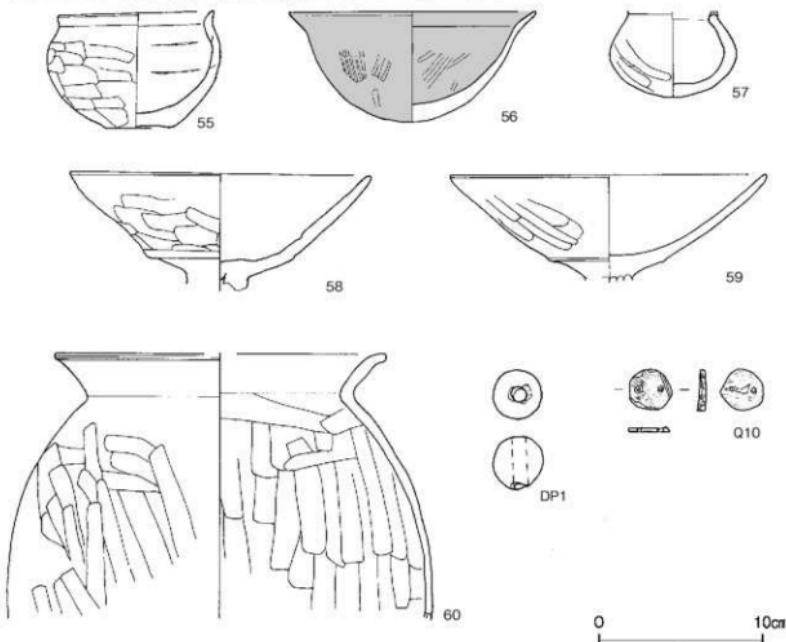
- |                        |                           |
|------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量          | 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量          | 5 褐色 ロームブロック少量            |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |                           |



第160図 第24号竖穴建物跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片 232 点（椀 3、壺 2、高坏 72、壺 155）、土製品 1 点（球状土錘）、石製品 1 点（有孔円板）が出土している。58 は炉から出土している破片が接合したことから、廃棄されたと考えられる。55・59・60 は床面から出土し、遺棄されたと考えられる。炉に近接した床面からは炭化材が出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀中葉と考えられる。炭化材が出土していることから、焼失建物の可能性が考えられるが、焼土が確認できず、炭化材が少量のため明確ではない。



第 161 図 第 24 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 24 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 161 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	燒成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
55	土師器	椀	9.5	7.3	4.0	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外表面横位のナデ	床面	80% 外面運付着
56	土師器	椀	15.1	6.7	—	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部全体的に摩滅が顕著 外・内面一部へラ撒きが残る 全面赤彩	覆土中層	70%
57	土師器	壺	—	(5.3)	—	長石・石英	にい・橙	普通	体部外表面ナデ	覆土中層	20%
58	土師器	高坏	18.3	(7.2)	—	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 环部外表面横位のナデ	炉	40% 内面被熱
59	土師器	高坏	19.2	(6.5)	—	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 环部外表面ナデ	床面	40% 内面被熱
60	土師器	甕	[20.2]	(16.3)	—	長石・石英・細纈	にい・赤	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外・内面へラ削り	床面	30%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 1	珪代土錘	3.1	3.3	1.0	26.75	長石・石英	橙	一方向から穿孔 孔端未調整	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 10	有孔円板	2.6	2.5	0.4	4.06	滑石	全面研磨 孔 2 か所 孔径 0.20mm	覆土下層	PL38

## 第25号竪穴建物跡（第162・163図 PL33）

**位置** 調査区北部のD 612区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 上面を第161号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 捣乱を受け、南東部が大きく壊されているため、北東・南西軸は3.98mで、北西・南東軸は2.86mしか確認できなかった。方形もしくは長方形で、北西・南東軸方向はN-39°-Wである。壁は高さ22~28cmで、やや外傾している。

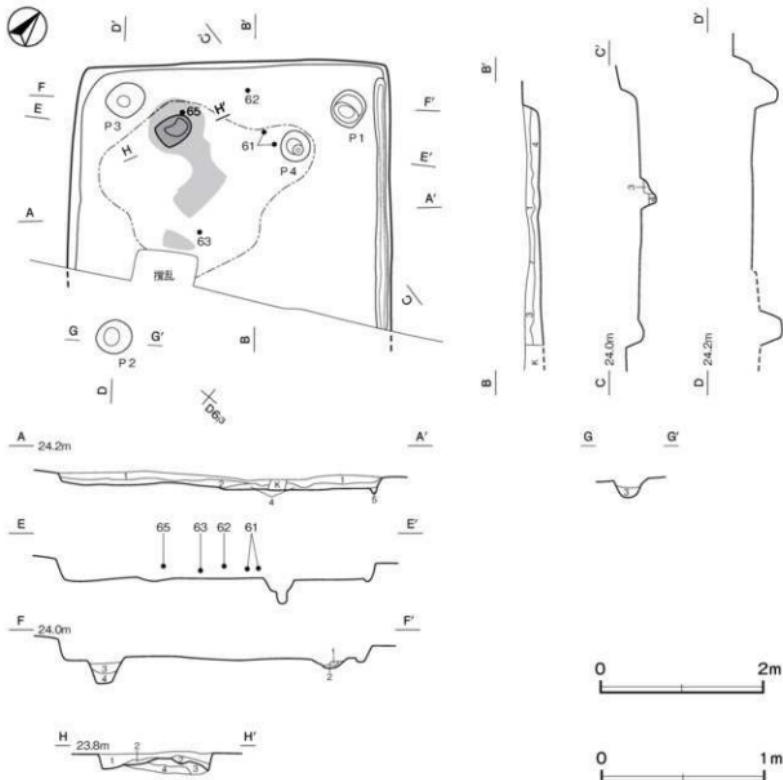
**床** 平坦で、西コーナー部寄りが踏み固められている。北東壁下には、幅6cm、深さ5cmの壁溝が延びている。炉周辺の床面では焼土を確認している。

**炉** 西コーナー部寄りに位置している。長径42cm、短径32cmの不整梢円形で、深さ8cmの地床炉である。炉床は北側のみ皿状に掘り窪め、第3・4層を埋土して構築している。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

## 焼土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
2 赤褐色 焼土粒子少、ローム粒子微量

- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少  
4 底褐色 ロームブロック少



第162図 第25号竪穴建物跡実測図

**ピット** 4か所。P 1～P 3は径42～48cm、深さ13～30cmで、配置から主柱穴である。P 4は径39cm、深さ30cmで、断面漏斗状である。形状から補助柱穴の可能性が考えられる。

**ピット土層解説（P 1～P 4共通）**

1	褐	色	ロームブロック少量
2	褐	色	ローム粒子少量

3	暗	褐	色	ローム粒子微量
4	暗	褐	色	ローム粒子少量

**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

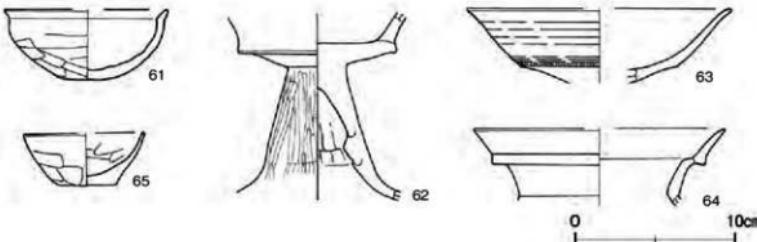
**土層解説**

1	暗	褐	色	ロームブロック・灰化粒子微量
2	褐	色	ロームブロック中量	
3	暗	褐	色	燒土ブロック・ローム粒子少量

4	暗	褐	色	ロームブロック・灰化粒子少量
5	黒	褐	色	ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片91点（碗2、壺1、高杯27、甕60、ミニチュア土器1）。須恵器片2点（高杯）が出土している。63は覆土下層から出土し、接合できないが、同一個体の破片が覆土中から出土している。埋め戻しの際に、61・62・65とともに、投棄されたと考えられる。また本跡から東に4mほど離れた位置にある第239号土坑から、63と同一個体の可能性が高い須恵器片が出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第163図 第25号竪穴建物跡出土遺物実測図

第25号竪穴建物跡出土遺物観察表（第163図）

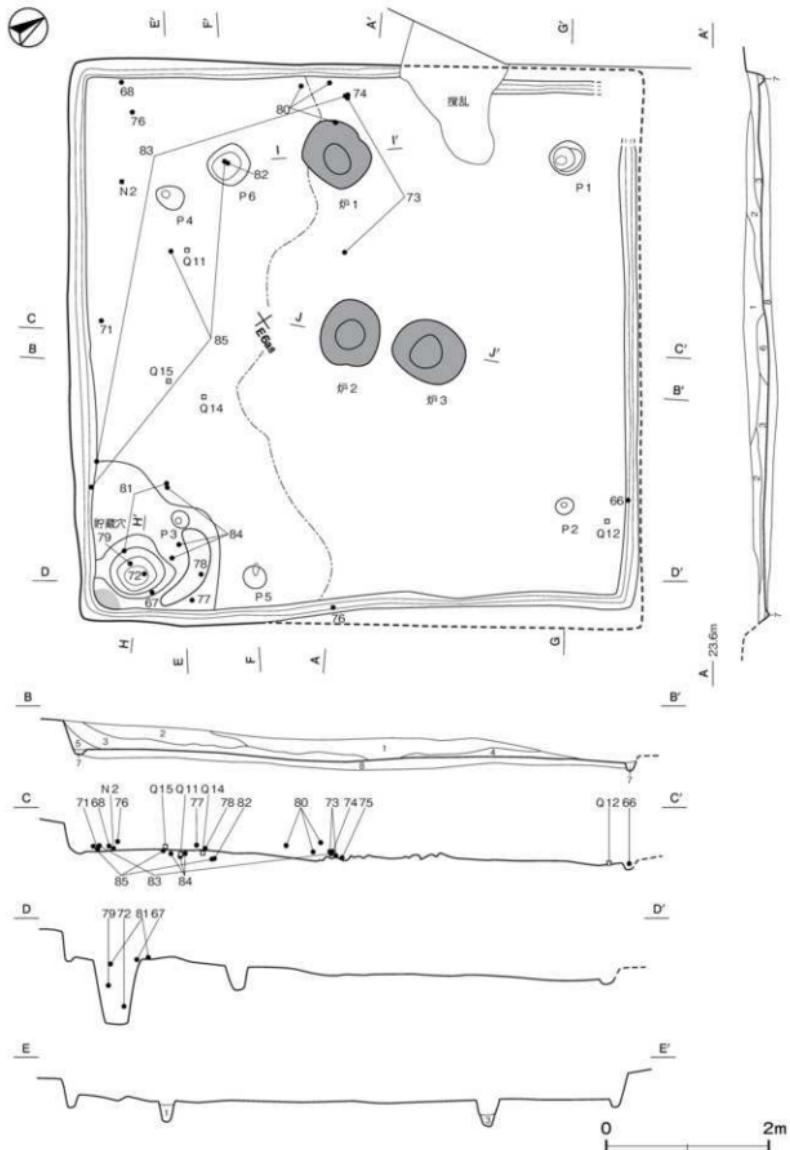
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
61	土師器	碗	[10.1]	4.4	3.5	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側へラ拭り	覆土下層	60%
62	土師器	高杯	—	[11.7]	—	長石・石英	にぶい褐	普通	脚部外側面ラ磨き	覆土下層	60%
63	須恵器	高杯	[16.6]	(4.7)	—	長石・石英	褐色	良好	外・内面クロナデ 外面側にキザミ	覆土下層	10% 露出産
64	土師器	甕	[15.6]	(4.9)	—	長石・石英	褐	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土下層	10%
65	土師器	甕	[15.4]	(7.5)	3.3	長石・石英	褐	普通	口縁部・体部外・内面ナデ	覆土下層	80% 90% 内面被熱

第26号竪穴建物跡（第164～168図 PL33・34）

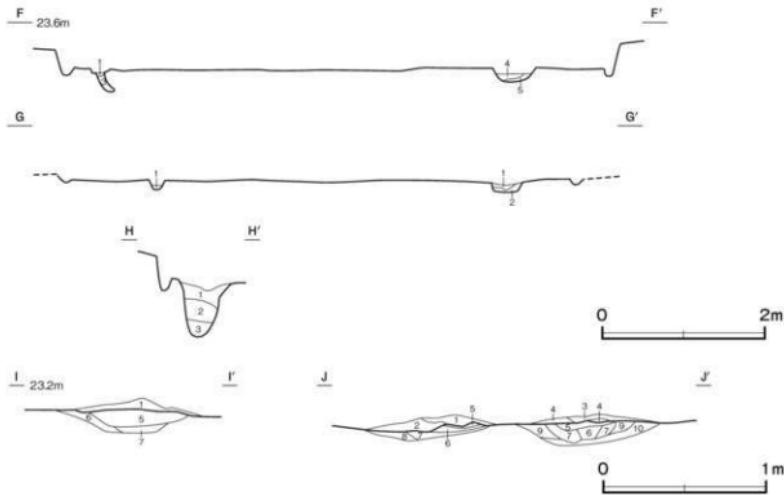
**位置** 調査区南東部のD 6 j8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 一辺7.00mほどの方形と考えられ、主軸方向はN-57°-Wである。壁は高さ20～32cmで、ほぼ直立している。

**床** 北に向かって傾斜し、やや凹凸のある貼床で、南西側が踏み固められている。壁下には、幅14cm、深さ5～10cmの壁溝が周囲に開けられている。南コーナー部に位置する貯蔵穴の周囲には高まりが設けられている。貼床はロームブロックを中量含むにぶい黄褐色土によって構築され、掘方は平坦である。



第164図 第26号竪穴建物跡実測図（1）



第165図 第26号竪穴建物跡実測図（2）

**炉** 3か所。炉1は北西壁寄りに位置している。長径85cm、短径71cmの不定形で、深さ7cmの地床炉である。炉床は皿状に掘り窪め、第5～7層を埋土して構築している。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。炉2は中央部に位置している。長径70cmほどの不整円形で、深さ8cmの地床炉である。炉床は皿状に掘り窪め、第5～8層を埋土して構築している。炉床面は火熱を受けているが硬化は弱い。炉3は中央北寄りに位置している。長径90cm、短径74cmの楕円形で、深さ4cmの地床炉である。炉床は皿状に掘り窪め、第5～10層を埋土して構築している。炉床面は火熱を受けているが硬化は弱い。位置や硬化の状況から、炉1が主体的に使用されたと考えられる。

**炉土層解説（炉1～炉3共通）**

1 暗赤褐色 焼土粒子微量	6 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗赤褐色 焼土ブロック少量	7 赤褐色 ロームブロック微量
3 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量	8 墓褐色 ローム粒子少量・焼土粒子微量
4 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量	9 明褐色 ローム粒子少量
5 赤褐色 焼土ブロック中量	10 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

**ピット** 6か所。P1～P4は径23～43cm、深さ13～41cmで、配置から主柱穴である。P5は径30cm、深さ30cmで、位置と形状から出入り口施設に関わるピットである。P6は径52cm、深さ20cmで、性格は不明である。

**ピット土層解説（P1～P5共通）**

1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	4 黄褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ローム粒子中量・焼土粒子微量	5 黄褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ロームブロック少量	

**貯蔵穴** 南コーナー部に位置している。長径65cm、短径55cmの楕円形で、深さは63cmである。壁はほぼ直立し、底面は平坦である。

**貯蔵穴土層解説**

1 暗褐色 ローム粒子微量	3 黒褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量	

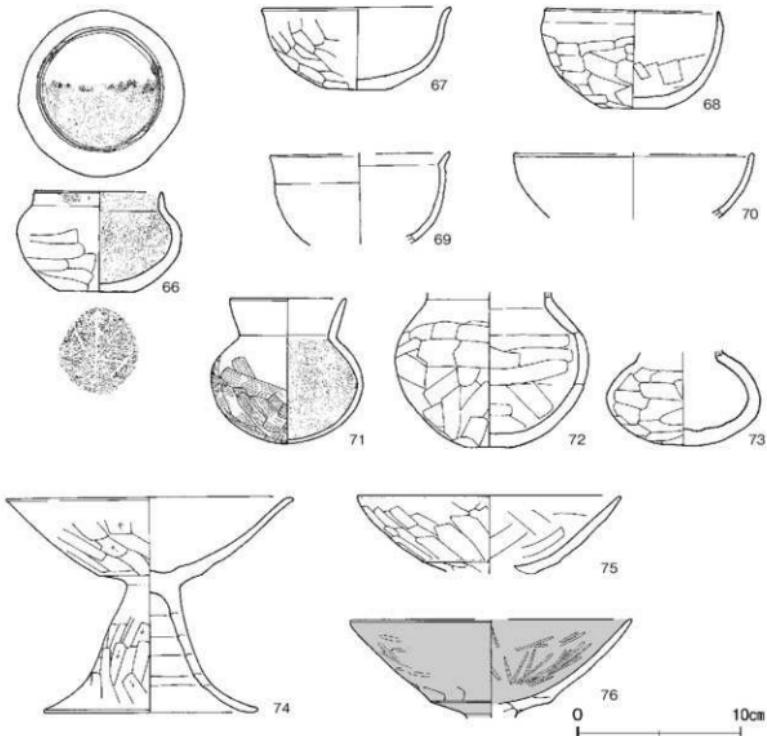
**覆土** 7層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第8層は貼床の構築土である。

**土層解説**

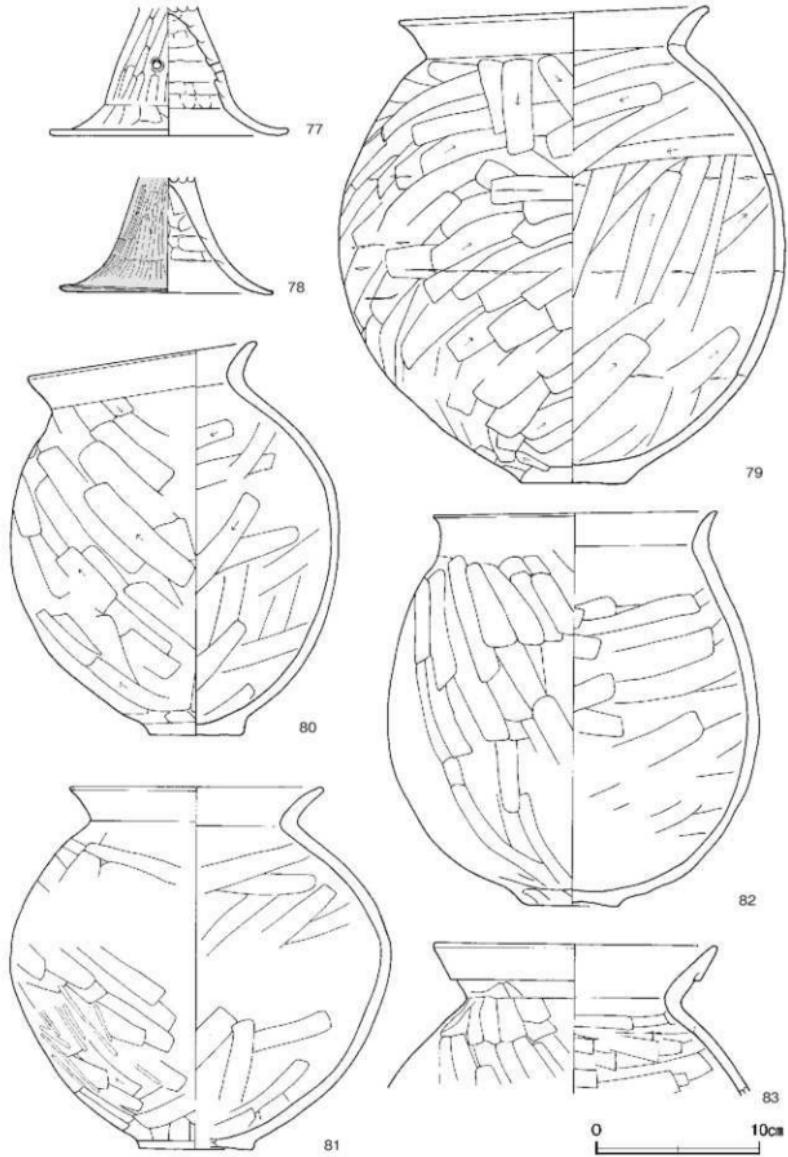
1 黒 暗 色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	5 暗 暗 色	ローム粒子少量
2 細 暗 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 黒 暗 色	ロームブロック少量
3 細 暗 色	ロームブロック中量	7 暗 暗 色	ローム粒子少量
4 黒 暗 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8 にぶい黄褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片 633点（碗 23, 増 49, 高坏 193, 瓶 367, 潢 1）。石器・石製品 19点（砥石 3, 勾玉 1, 有孔円盤 1, 滑石片 14）。炭化種子 2点（桃）のほか、縄文土器片 2点（深鉢）が出土している。出土位置は、硬化面の確認できた南西側に偏っており、生活面と関連が想定される。79は貯蔵穴の覆土中層から出土していることから、貯蔵穴が途中まで埋まっていた段階で遺棄されたと考えられる。図示した遺物は、床面や覆土下層から出土しており、特に壁際や貯蔵穴周辺に多い。建物の廃絶に伴って遺棄されたと考えられる。

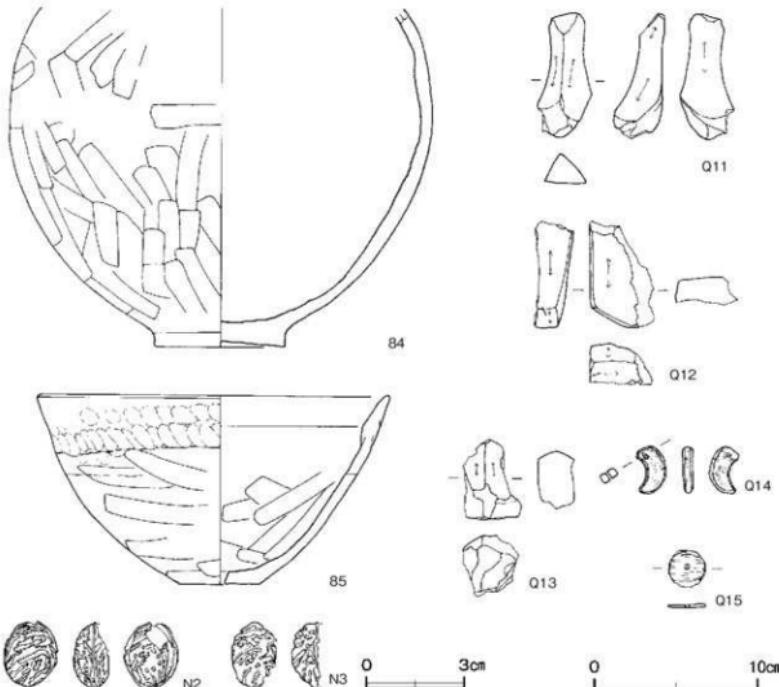
**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。66・71は、内面に漆が付着している。66は漆の上面が固化した状態で付着しており、口縁をやや下方向に傾けた状態で一定期間保管されたと考えられるため、板等により蓋をしたことが想定できる。



第166図 第26号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 167 図 第 26 号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）



第168図 第26号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第26号竪穴建物跡出土遺物観察表(第166~168図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
66	土師器	桶	7.8	6.2	4.5	長石・石英	橙	普通 底裏 口縁部外一面のみ	口縁部外・内面ナデ 体部外・内面ナデ 底部半分に漆付着	覆溝 覆土下層	95% PL35 漆付着
67	土師器	桶	11.6	5.2	4.2	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外表面ナデ	防窓穴上面 覆土層	100% PL35 漆付着
68	土師器	桶	10.7	6.1	3.6	長石・石英・細纖維	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外・内面ヘラナデ	床面	90%
69	土師器	桶	[109]	(5.5)	—	長石・石英	橙	普通	全体に火熱を受け調整不明	防窓穴 覆土	20% 9%・内面被熱
70	土師器	壺	[146]	(4.0)	—	長石・石英	黒褐色	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土下層	10%
71	土師器	壺	7.1	8.9	—	長石・石英	にふり橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外表面ハケ目調整 内面ナデ 頭部まで黒色(漆付着)	床面	80% PL36
72	土師器	壺	—	(9.6)	2.0	長石・石英	橙	普通	体部外表面ハケ目後、ナデ 内面ナデ	防窓穴下層	50%
73	土師器	壺	—	(5.3)	—	長石・石英	橙	普通	体部外表面ナデ	床面	50%
74	土師器	高壺	17.4	13.2	13.2	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外へラ削り 脚部外表面へラ削り 内面無	床面 防窓穴内面被熱	90% 40%
75	土師器	高壺	16.1	(4.8)	—	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 口縁部外表面へラ削り 内面無	覆溝	40%
76	土師器	高壺	[17.2]	(6.1)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ後、ハラ書き、赤彩	覆土下層	20%
77	土師器	高壺	—	(7.9)	14.8	長石・石英	橙	普通	脚部外表面へラ削り、孔打	覆土下層	50%
78	土師器	高壺	—	(7.1)	12.6	長石・石英	明赤褐	普通	脚部外表面へラ書き、赤彩 内面無	床面	30%
79	土師器	甕	19.0	28.9	6.6	長石・石英・細纖維	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外・内面ヘラ削り	防窓穴中層	95% PL37
80	土師器	甕	14.2	24.4	5.7	長石・石英	にふり橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外表面へラ削り 内面	覆土下層	70%
81	土師器	甕	15.4	22.4	[7.0]	長石・石英	明赤褐	普通 底裏	脚部外表面へラ削り 内面ナデ	床面 防窓穴上面	70%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴は	出土位置	備考
82	土師器	甕	17.5	24.4	5.4	長石・石英・細纖	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側へラ削り 内面 ハラナデ	P 6	60%
83	土師器	甕	17.3	(9.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外側へラ削り後、肩部品ナデ 内面横位のハラナデ	床面	80%
84	土師器	甕	-	(20.8)	8.0	長石・石英・細纖	明赤褐色	普通	体部外側へラ削り 内面火熱を受け調整不明	床面	40% 内面施熱
85	土師器	甕	21.4	11.6	5.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外側へラ削り 内面火熱を受け調整不明 体部外側へラ削り 内面火熱を受け調整不明 底部外側から穿孔	壁溝上面 - P 6 上面	70% PL37

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 11	砥石	7.6	3.3	3.0	50.24	礫灰岩	砥面 3 面	床面	PL38
Q 12	砥石	6.6	4.9	2.5	67.98	砂岩	砥面 3 面	床面	
Q 13	砥石	(4.9)	(3.6)	(3.7)	(52.39)	礫灰岩	砥面 2 面 火熱を受け破損	覆土下層	
Q 14	勾玉	2.9	1.8	0.7	5.07	滑石	全面研磨 1 小所に片側から 2 刻の穿孔 孔は途中で合流し V 字状 孔径 0.20cm	床面	PL38
Q 15	有孔圓盤	2.3	2.3	0.2	(2.55)	滑石	両面研磨 孔 1 所 孔径 0.15cm	床面	PL38

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
N 2	炭化稻穀	2.0	1.7	1.1	(1.32)	桃	小形 球形	床面	
N 3	炭化稻穀	(2.0)	(1.4)	(0.8)	(0.82)	桃	小形 やや細身	床面	

表 15 古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規格		埋深	標溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考	
				長軸	短軸			柱穴	出入口	ドア	印・量					
18	E6e5	-	[方型] 長方形	-	-	平田	-	-	-	印 2	-	-	-	5世紀	平成 22 年度調査 中葉の延長	
19	C5g7	N - 27° - W	方形	7.06 × 7.04	30 - 52	平田	-	4	1	-	印 2	1	自然	土師器、石製品	5世紀中葉	
20	D6c7	N - 54° - E	方形	9.05 × 8.65	58 - 87	平田	一部	4	1	-	印 1	自然	土師器、石製品	5世紀中葉	本跡 → SK248	
21	C4i10	N - 59° - W	長方形	6.38 × 5.16	27 - 46	平田	[全周]	-	1	-	印 2	1	自然	土師器	5世紀前葉	
22	C5g3	N - 40° - W	方形	5.54 × 5.36	34 - 60	平田	[全周]	4	1	1	印 1	自然	土師器	5世紀中葉		
23	D6d2	N - 39° - E	方形	5.08 × 5.00	52 - 78	平田	全周	4	1	-	印 1	人為	土師器、石製品、鐵製品、炭化稻穀	5世紀中葉	本跡 → 第 1 号墓坑	
24	C5j3	N - 30° - E	方形	5.84 × 5.69	14 - 34	平田	全周	4	1	-	印 3	1	人為	土師器、石製品	5世紀中葉	
25	D6i2	N - 39° - W	[方型]	3.98 × (2.86)	22 - 28	平田	一部	3	-	1	印 1	-	人為	土師器、須恵器	5世紀中葉	本跡 → SK161
26	D6j8	N - 57° - W	[方型]	(7.04) × 6.94	20 - 32	平田	[全周]	4	1	1	印 3	1	人為	土師器、石製品、炭化稻穀	5世紀中葉	

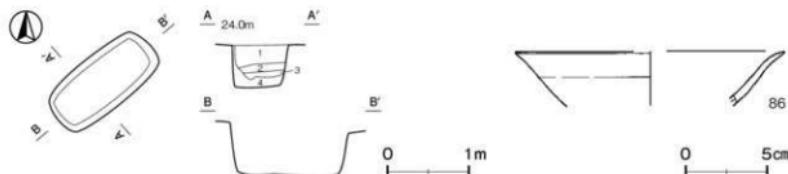
## (2) 土坑

### 第 239 号土坑 (第 169 図)

位置 調査区南部の D 614 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 1.45m、短軸 0.68m の長方形で、長軸方向は N - 53° - E である。深さは 56cm で、底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第 169 図 第 239 号土坑・出土遺物実測図

## 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量	3 暗褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック中量	4 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 須恵器片 1 点（高坏）が出土している。埋土中に混入していたと考えられる。同一個体の可能性が高い須恵器片が、第 25 号竪穴建物跡から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀後半と考えられる。

第 239 号土坑出土遺物観察表（第 169 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
86	須恵器	高坏	[166]	(34)	-	長石・石英	褐灰	良好	外・内面ロクロナデ	覆土中	10%

## 2 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、墓坑 1 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

### 墓坑

#### 第 1 号墓坑（第 170・171 図）

**位置** 調査区東部の D 6e2 区、標高 24 m ほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第 23 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

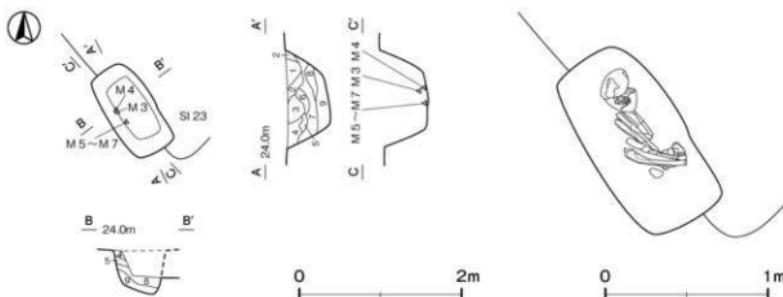
**規模と形状** 長軸 1.20m、短軸 0.61m の長方形で、長軸方向は N - 33° - W である。深さは 56cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

**覆土** 9 層に分層できる。ロームブロックが含まれ、埋葬された人骨が出土していることから埋め戻されている。

### 土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック少量	6 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック微量	7 暗褐色 ローム粒子中量
3 黒褐色 ロームブロック少量	8 極暗褐色 ローム粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子少量	9 褐色 ローム粒子中量
5 暗褐色 ロームブロック中量	

**埋葬の状況** 北西頭位の西面右側臥屈葬で、両腕は体の前面に曲げた状態である。



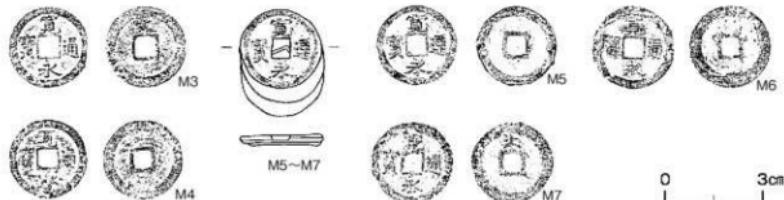
第 170 図 第 1 号墓坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 銅製品5点（銭貨）、木製品1点（板材）が出土している。M3～M7は骨と混在した状態で出土した副葬品である。M5～M7は3枚が融着した状態で出土している。板材は細片であるが木棺に入れて埋葬したと考えられる。

**性別と年齢** 男性 壮年以前

**遺骸の特徴** 頭蓋骨と脚部、腕は確認できたが、その他の骨は腐朽が進み、判別が困難である。歯は、上顎14本、下顎12本の計26本確認でき、上下合わせて3本の臼歯が萌出している。全体的に歯の摩耗は少ない。

**所見** 時期は、出土遺物から17世紀後半と考えられる。板材が出土していることから木棺の可能性が考えられる。



第171図 第1号墓坑出土遺物実測図

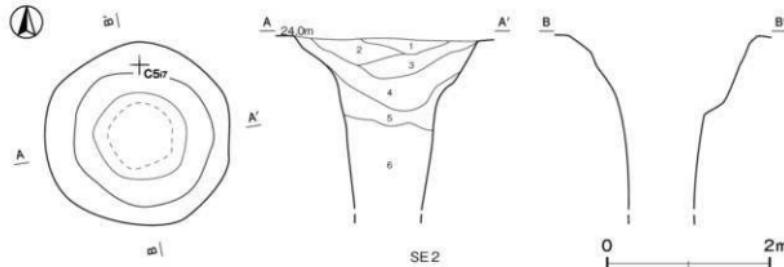
第1号墓坑出土遺物観察表（第171図）

番号	種別	銘名	径	孔径	重量	材質	初鉄年	等 階	出土位置	備考
M 3	銭貨	寛永通寶	2.40	0.61	2.82	銅	1668	新寛永 背文	覆土下層	
M 4	銭貨	寛永通寶	2.39	0.60	3.29	銅	1636	古寛永 背無し	覆土下層	
M 5	銭貨	寛永通寶	2.49	0.60	2.60	銅	1636	古寛永 背無し 表がM 6表と融着	覆土下層	
M 6	銭貨	寛永通寶	2.52	0.60	3.65	銅	1668	新寛永 背文 表がM 7表と融着	覆土下層	
M 7	銭貨	寛永通寶	2.50	0.60	3.71	銅	1668	新寛永 背文	覆土下層	

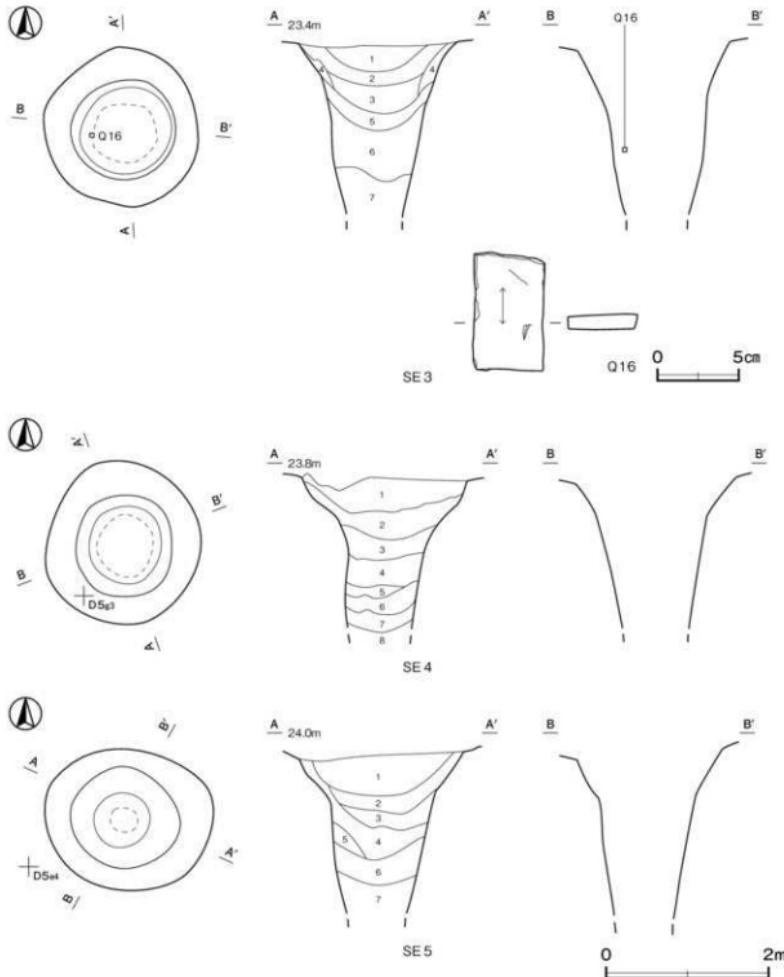
### 3 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期を明確にできなかった井戸跡4基、土坑54基、溝跡3条を確認した。いずれも、実測図、土層解説と遺物等を一覧表で掲載する。

(1) 井戸跡（第172・173図）



第172図 その他の井戸跡実測図



第173図 その他の井戸跡・出土遺物実測図

## 第2号井戸跡土層解説

- 1 短 間 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 短 間 色 ローム粒子微量
- 3 灰 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 4 短 褐 色 ロームブロック少量
- 5 褐 色 ロームブロック少量
- 6 褐 色 ローム粒子多量

## 第3号井戸跡土層解説

- 1 短 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 短 褐 色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 短 褐 色 ロームブロック中量
- 6 短 褐 色 ロームブロック中量
- 7 短 褐 色 ローム粒子中量

## 第4号井戸跡土層解説

- 1 短 褐 色 ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 2 短 褐 色 ロームブロック少量
- 3 短 褐 色 ローム粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 5 褐 色 ロームブロック多量
- 6 短 褐 色 ロームブロック中量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 8 黒 褐 色 ロームブロック少量

## 第5号井戸跡土層解説

- 1 短 褐 色 ローム粒子微量
- 2 短 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 短 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子中量
- 5 短 褐 色 ローム粒子多量
- 6 底 褐 色 ローム粒子多量
- 7 底 褐 色 ロームブロック少量

第3号井戸跡出土遺物観察表（第173図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 16	砥石	73	45	09	49.34	砂岩	砥面1面	覆土中	

表16 その他の井戸跡一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径 × 短径 (m)	深さ (cm)					
2	C5j7	—	円形	2.27 × 2.26	(212)	—	円錐状	人為	土師器	
3	D5j1	—	円形	1.97 × 1.88	(210)	—	円錐状	人為	石製品	
4	D5j3	—	円形	2.04 × 1.96	(175)	—	円錐状	人為	土師器、須恵器	
5	D5j4	N - 88° - E	椭円形	2.06 × 1.73	(202)	—	円錐状	人為	土師器	

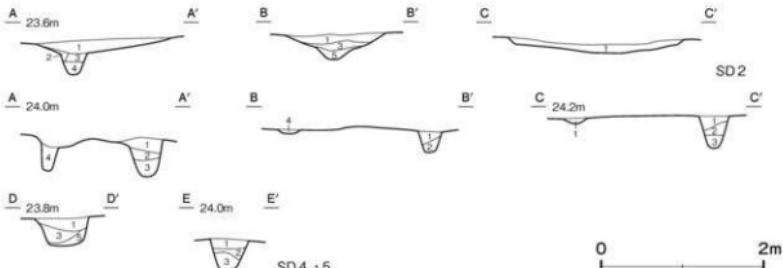
## (2) 土坑

表17 その他の土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径 × 短径 (m)	深さ (cm)					
196	C5j2	N - 19° - E	椭円形	2.08 × 1.28	18	平坦	外傾	人為	繩文土器	
197	C5j1	N - 29° - E	椭円形	3.22 × 2.54	134	平坦	ワラコ状	人為	繩文土器、土師器	
198	C5j2	N - 48° - E	椭円形	2.48 × 0.81	28	平坦	外傾	自然	土師器	
199	C5j6	N - 33° - E	椭円形	1.13 × 1.01	47	平坦	傾斜	人為	土師器	
200	C5j7	N - 7° - W	長方形	1.78 × 0.51	11	平坦	外傾	人為		
201	C5j2	N - 72° - E	椭円形	0.65 × 0.52	26	平坦	外傾	人為		
202	C5j5	—	円形	0.62 × 0.57	41	平坦	ほぼ直立	自然	土師器	
203	D4j0	—	円形	0.78 × 0.73	32	平坦	外傾	自然		
204	D5j1	N - 1° - E	椭円形	0.70 × 0.58	14	平坦	傾斜	自然		
205	D5j2	N - 75° - E	椭円形	0.68 × 0.44	24	平坦	外傾	人為		
206	C5j5	N - 70° - E	椭円形	2.05 × 0.77	20	平坦	傾斜	人為		
207	D4j0	N - 76° - E	不定形	1.32 × 0.88	40	平坦	傾斜	自然	土師器	
208	D5j1	N - 52° - W	不定形	2.30 × 1.00	24	平坦	傾斜	人為	土師器	
209	C5j5	N - 10° - W	椭円形	2.88 × 1.93	30	平坦	外傾	自然	土師器	
210	D5j1	N - 25° - W	椭円形	0.74 × 0.48	16	平坦	傾斜	人為	土師器	
211	D5j1	N - 34° - E	不定形	0.96 × 0.54	22	平坦	外傾	自然	土師器	
212	D5j4	N - 58° - W	椭円形	0.81 × 0.66	46	平坦	ほぼ直立	自然		
213	D5j4	N - 90° -	椭円形	0.74 × 0.61	38	平坦	外傾	自然		
214	D5j4	N - 79° - E	椭円形	1.20 × 0.96	30	平坦	外傾	自然		
215	D5j3	N - 69° - E	椭円形	0.87 × 0.66	30	平坦	外傾	人為		
216	C5j8	N - 18° - W	椭円形	0.97 × 0.70	24	V字状	傾斜	自然		
217	D5j8	N - 33° - W	椭円形	1.19 × 0.72	28	平坦	傾斜	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
218	D5f5	N - 82° - W	楕円形	1.82 × 1.44	35	平坦	外傾	人為		
219	D5g6	N - 7° - E	楕円形	1.25 × 0.92	17	平坦	傾斜	人為		
220	D5e2	N - 2° - W	楕円形	1.06 × 0.70	33	平坦	傾斜	人為	土師器	
221	D5d3	N - 89° - E	楕円形	0.97 × 0.68	24	平坦	傾斜	自然	鍍文土器、土師器	
222	D5d3	N - 67° - E	楕円形	0.76 × 0.66	32	圓状	傾斜	自然	土師器	
223	D5e6	-	円形	0.83 × 0.79	52	U字状	外傾	人為	須恵器	
224	D5f3	N - 23° - E	楕円形	1.66 × 1.24	38	平坦	傾斜	人為	土師器	
225	D5h2	N - 70° - W	不定形	2.22 × 1.18	132	U字状	ほぼ直立	人為		
226	D5i2	N - 63° - W	楕円形	0.78 × 0.60	73	漏斗状	ほぼ直立	人為		
227	D5i3	-	円形	1.16 × 1.08	8	平坦	傾斜	自然		
228	D5b5	N - 57° - E	楕円形	0.98 × 0.74	74	平坦	ほぼ直立	人為		
229	D5a5	N - 42° - E	楕円形	1.46 × 1.04	38	平坦	傾斜	人為		
230	D5j2	N - 38° - E	長方形	1.20 × 0.49	26	平坦	外傾	自然		
231	D5e9	N - 17° - W	楕円形	0.78 × 0.69	16	圓状	傾斜	自然	土師器	
232	D5e8	N - 52° - E	楕円形	2.17 × 0.88	8	圓状	傾斜	自然	土師器	
233	D5f9	N - 46° - E	楕円形	0.98 × 0.77	22	平坦	外傾	自然		
234	E5b2	-	円形	0.85 × 0.85	15	平坦	外傾	人為		
235	D5i4	N - 21° - W	楕円形	1.39 × 0.94	12	平坦	傾斜	自然		
237	D6j5	N - 60° - E	方形	0.94 × 0.87	9	平坦	傾斜	自然		
238	D6i4	N - 28° - W	椭円形	1.15 × 1.04	24	平坦	外傾	人為		
240	D5i5	N - 50° - E	椭円形	1.57 × 0.83	18	平坦	傾斜	人為	石器	
241	D5f0	N - 49° - E	楕円形	2.11 × 0.59	10	平坦	傾斜	自然	SK242と重複	
242	D5e0	N - 79° - W	楕円形	1.80 × 1.03	8	圓状	傾斜	人為	土師器	SK241と重複
243	D6j6	N - 23° - E	楕円形	1.22 × 0.88	28	圓状	傾斜	自然		
244	E6b6	-	円形	1.38 × 1.32	22	平坦	傾斜	人為		
245	D5j5	N - 29° - W	楕円形	2.20 × 0.75	16 ~ 60	平坦	外傾	自然		
246	D5j5	N - 7° - E	楕円形	0.56 × 0.50	12	平坦	外傾	人為		
248	D5c8	N - 61° - E	楕円形	1.34 × 0.96	37	平坦	ほぼ直立	人為	馬骨	SE20→本跡
249	D6j5	N - 65° - E	長方形	4.05 × 1.05	60	平坦	外傾	人為	土師器	
250	D6c1	N - 27° - W	楕円形	0.82 × 0.68	27	圓状	外傾	人為	土師器	
251	D5b0	N - 7° - W	楕円形	0.63 × 0.56	30	平坦	外傾	人為		
252	D6e2	N - 32° - W	【楕円形】	(1.42) × 0.57	50	平坦	外傾	人為	土師器	

(3) 溝跡(第174図 付図2)



第174図 その他の溝跡実測図

**第2号溝跡土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量  
 2 暗褐色 ローム粒子少量  
 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
 4 褐色 ロームブロック少量  
 5 明褐色 ロームブロック少量

**第4・5号溝跡土層解説（共通）**

- 1 暗褐色 ローム粒子微量  
 2 暗褐色 ローム粒子少量  
 3 褐色 ロームブロック中量  
 4 褐色 ローム粒子多量  
 5 黄褐色 ロームブロック少量

表18 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方 向	平面形	規 模		断面	横断面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)			
2	D4b0～D4b0	N-6°-W N-20°-E	L字状	(1396)	108~189	0.12~0.33	48	U字状 傾斜	人馬 土師器	近世以降の地塊築 SD 5との間に転化面無し
4	E4b0～D6g1	N-30°-E	直線状	71.76	0.24~0.78	0.12~0.40	16~40	U字状 ほぼ直立	人馬 土師器、鉄製品	
5	E5b1～D6l1	N-30°-E	直線状	(42.12)	0.20~0.36	0.08~0.12	4~30	U字状 傾斜	人馬 土師器	

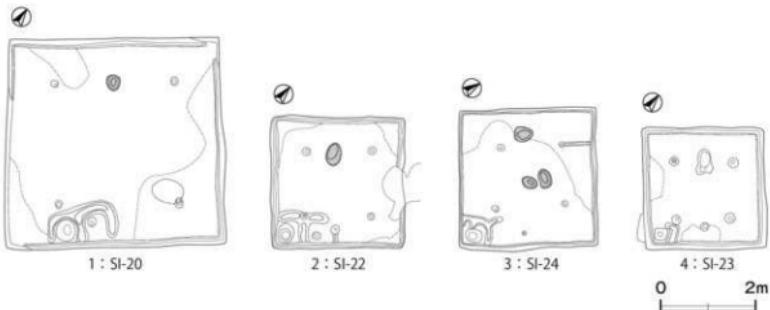
**第4節 ま と め****1はじめに**

今回の調査で、古墳時代の堅穴建物跡9棟や土坑1基のはか、江戸時代の墓坑などを確認した。古墳時代の堅穴建物跡の確認数は、前回の調査と合わせて22棟となった。当遺跡の立地する桂川流域は、区画整理事業などに伴って、考古学的な発掘調査が増加している。これらの調査によって、資料が蓄積され、なかでも古墳時代の集落の様相は注目される。そこで本節では、当遺跡で確認できた集落の様相について述べ、これを踏まえて周辺遺跡における集落の変遷について記述することで、まとめたい。

**2集落の様相と出土遺物**

当遺跡で確認している堅穴建物跡は、5世紀前葉が2棟、5世紀中葉が20棟であり、5世紀中葉に規模が拡大する短期間の集落であることが明らかになった。台地上の等高線に沿うように、南北方向に広がりをもって堅穴建物跡が分布している。建物の規模は、南部に位置する第8号堅穴建物跡と、北部に位置する第20号堅穴建物跡が一辺9mほどと大形であり、集落内においての中心的な建物であったと考えられる。2棟の間には堅穴建物跡が確認できず、空閑部となっている。この空閑部を中心として捉えると、その他の建物は、大形の建物の外側に分布している状況が見てとれるため、広場として機能していた可能性が想定できる。

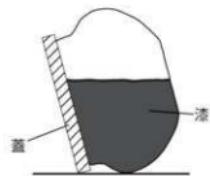
堅穴建物の構造は前回の報告にまとめられているように、貯蔵穴の周囲などに床の「高まり」が設けられていることが特徴である。櫻井完介氏は、この「高まり」を3種に分類している<sup>1)</sup>。Aは貯蔵穴・出入り口を意識したもの、Bは貯蔵穴のみを意識したもの、Cは出入り口のみを意識したものである。この分類をもとにして形状に着目すると、Aには、貯蔵穴と出入り口ピットをE字状に開むもの（第175図1）と、一部が伸びきらずT字状のもの（第175図2）に細分することができる。また、貯蔵穴と出入り口ピットが離れているものの、貯蔵穴を開む「高まり」がT字状に突出しているもの（第175図3）があり、Aが形態化したものと考えられる。Cは今回の調査では確認できなかった。



第175図 床の「高まり」

出土した遺物は、中心となる土師器のほか、石製模造品や少量の鉄製品などがある。土師器は、壺楌類、高壺、壺が主要な器種となっている。吉原向遺跡から出土している5世紀前葉のものと比較すると、高壺の形状は、エンタシス状の脚部で下部が屈折するものから、5世紀中葉になると脚部が緩やかに立ち上がるものに変化する。壺は、第3章第4節で示した分類による1類は減少している。底部の突出がなく、体部の下位に最大径をもつもの（3類）や、2類にあたると思われる大型化したものが前葉に比べ増加している。

第26号堅穴建物跡から出土している土器についてふれておきたい。資料は北東壁下の壁溝から出土した土師器楌で、内面の6割ほどに漆が付着している。前節で述べたように、漆の状態から、一定期間保管されていたと考えられることから板等によって蓋をしていたと想定できる（第176図）。古墳時代の漆は、皮革製品や鉄製品などに用いられるほか、祭祀に用いられた事例が確認されている<sup>2)</sup>。当遺跡の例は、漆関連の遺物は出土しておらず、用途不明ではあるが、同じく第26号堅穴建物跡から出土している壺の内面にも漆と思われるものが広く付着している。外面はハケ目調整が施され、極めて薄く精工に作られていることから、特殊な用途が推測される。古墳時代の漆貯蔵容器としては、貴重な遺物と考えられ、今後の資料の発見を待ちつつ検討していきたい。



第176図 漆の貯蔵想定模式図 (SI26 - 66)

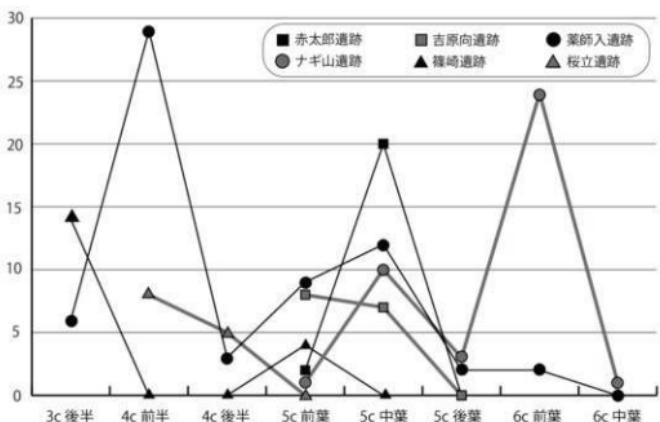
### 3 周辺遺跡における古墳時代の集落の様相

桂川流域では、古墳時代の集落跡が比較的多く確認されており、遺跡の性格を考えるうえで、周辺遺跡との関係性は把握しておく必要がある。ここでは、周辺の古墳時代集落の変遷を示し（第177図）、それについて概要を述べることとする<sup>3)</sup>。

古墳時代前期の集落は、桂川左岸の薬師入遺跡<sup>4)</sup>や桜立遺跡<sup>5)</sup>、篠崎遺跡<sup>6)</sup>で確認されている。このうち弥生時代から集落が継続しているのは薬師入遺跡のみである。この時期に特筆されるのは、4世紀前半に位置付けられる薬師入遺跡の鍛冶工房跡である。古墳時代前期の鍛冶工房は県内最古級であり、関東でも数例しか確認されていない。集落内で行われる小鍛冶と考えられ、600mほど東に所在する桜立遺跡では、4世紀前半頃の堅穴建物跡から鎌などの鉄製品が出土しており、早い段階から鉄器の使用によって開発がすすめられた。また、乙戸川流域に含まれる源臺遺跡<sup>7)</sup>では方形周溝墓5基などが確認されており、川を挟ん

で集落と墓域が区別されていた。

4世紀後半になると集落は一時衰退するが、5世紀に入ると再び増加し、吉原向遺跡、赤太郎遺跡、ナギ山遺跡<sup>8)</sup>で新たな集落が營まれ、4世紀前半に次ぐ第2の画期といえる。吉原向遺跡の鉄斧形土製品はこの時期にあたり、石製模造品の出土数も多い。5世紀中葉は最も堅穴建物跡の数が多い時期で、桂川左岸では、赤太郎遺跡で20棟、谷を挟んだ薬師入遺跡・ナギ山遺跡で22棟、右岸の吉原向遺跡と牛頭座遺跡で9棟で、それぞれが繁栄するが、赤太郎遺跡と吉原向遺跡の集落はこの時期で廃絶する。その他にも5世紀後葉になって集落が激減し、薬師入遺跡・ナギ山遺跡のみが継続している。規模は縮小するが、薬師入遺跡では初期須恵器が出土しており、他地域との交流が行われていた。



第177図 周辺の古墳時代集落と堅穴建物跡の時期別棟数

6世紀に入ると、集落はナギ山遺跡に集中し、5世紀から存続する集落はナギ山遺跡のほか薬師入遺跡のみで、北方を流れる清明川流域などに散在している。6世紀後半以降も大幅な増加は認められず、吉原向遺跡、蘇崎遺跡、花房遺跡<sup>9)</sup>、手接遺跡<sup>10)</sup>などで1・2棟程度の堅穴建物跡が確認されている。

#### 4 おわりに

赤太郎遺跡をはじめ、桂川流域の集落は古墳時代に増加する傾向がうかがえる。地域の開発は、河川との関わりが重要であり、特に、水を利用しやすい小規模河川を基点としていたことが推測できる。

今回は周辺地域に絞って集落の変遷を検討したが、霞ヶ浦沿岸地域として捉えるためには、より広域な遺跡の分析を加える必要があり。今後、土器や祭祀の様相を詳細に検討することで地域社会の様相が明らかになると考えられる。

#### 註

- 1) 櫻井完介「赤太郎遺跡 阿見吉原東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第377集 2013年3月
- 2) 四柳嘉章『漆の文化史』岩波書店 2009年12月
- 3) グラフの作成にあたっては、堅穴建物跡が10棟以上確認されている遺跡について、時期別に棟数を示した。
- 4) a 脇澤悦郎「薬師入遺跡 阿見吉原東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」「茨城県教育財团文化財調査報告」第239集 2005年3月  
b 織引美樹・小林悟「薬師入遺跡2 阿見吉原東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」「茨城県教育財团文化財調査報告」第296集 2008年3月
- 5) a 河野辰男・大竹房雄・高木國男『桜立遺跡発掘調査報告書』桜立遺跡発掘調査会 1982年12月  
b 高木國男・小泉美明『桜立遺跡(第三期)』茨城県阿見町教育委員会 桜立遺跡(第三期)発掘調査会 1988年9月
- 6) 寺内久永・岡崎美「蘇崎遺跡 阿見吉原東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第347集 2011年3月
- 7) 谷島三郎・外山泰久『常陸源臺遺跡』牛久市教育委員会 源臺遺跡発掘調査会 1989年10月
- 8) a 石川義信・後藤孝行「ナギ山遺跡 柏峰B遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第233集 2005年3月  
b 岩田功「ナギ山遺跡2 (仮称) 阿見東IC ランプB区画整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第277集 2007年3月
- 9) 織引美樹・後藤孝行「谷ノ沢遺跡 手接遺跡 花房遺跡 大日遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」「茨城県教育財团文化財調査報告」第212集 2004年3月
- 10) 註9) と同じ

# 付 章

## 稻敷郡阿見町吉原向遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

茨城県稲敷郡阿見町大字吉原に所在する吉原向遺跡は、桂川右岸の台地上に位置する。これまでの発掘調査で、縄文時代～江戸時代の遺構遺物が検出されている複合遺跡である。

本分析調査では、古墳時代中期の各住居跡から出土した、建築部材の可能性がある炭化材を対象に、材同定および放射性炭素年代測定を実施し、住居の年代および建築材に利用された樹種について検討する。また、旧石器時代の層序から出土した黒曜石製石器および薄片について蛍光X線分析を実施し、産地推定を実施する。加えて、本遺跡では江戸時代後期の土坑墓から人骨が出土している。土坑墓からは製金具が出土しており、発掘調査所見では、寺院関係の人物が埋葬されたと考えられている。これらについて骨同定を実施し、性別、年齢等、埋葬された人物についての情報を得る。

### 1. 放射性炭素年代測定

#### 1. 試料

試料は、堅穴住居跡（SI-10）から出土した炭化材1点（取上№79）である。炭化材は、ミカン割状あるいは柾目板状に割れている。いずれも樹皮は認められない。残存する中での最外年輪を含む4-5年分を測定試料とする。

#### 2. 分析方法

測定試料に土壤や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをビンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。その後、HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C（30分）850°C（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにてCO<sub>2</sub>を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO<sub>2</sub>と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定も行うため、この値を用いてδ<sup>13</sup>Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma; 68%）に相当する年代である。曆年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.10 (Copyright 1986-2015 M Stuiver and

PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

曆年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C 濃度の変動、及び半減期の違い(<sup>14</sup>C の半減期 5,730 ± 40 年)を較正することである。曆年較正是、CALIB 7.1.0 のマニュアルに従い、1 年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

曆年較正結果は  $\sigma \cdot 2\sigma$  ( $\sigma$  は統計的に真の値が 68.2% の確率で存在する範囲、 $2\sigma$  は真の値が 95.4% の確率で存在する範囲) の値を示す。また、表中の相対比は、 $\sigma \cdot 2\sigma$  の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

### 3. 結果

放射性炭素年代測定および曆年較正結果を表 1、図 1 に示す。同位体効果の補正を行った測定結果（補正年代）は、 $1,710 \pm 20$ BP を示す。また、補正年代に基づく例年較正結果 ( $2\sigma$ ) は、calAD255-394 である。

表 1. 放射性炭素年代測定結果

地区 遺構	種類	処理 方法	測定年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (曆年較正用 BP)	曆年較正結果				Code No.
						誤差	cal BC/AD	cal BP	相対比	
SI-10 No. 79	炭化材	AAA	$1,760 \pm 20$	$-27.89 \pm 0.24$	$-27.89 \pm 0.24$ ( $1,710 \pm 22$ )	$\sigma$	cal AD 263 - cal AD 275	cal BP 1,687 - 1,675	0.183	IAMA- 152832
						$2\sigma$	cal AD 329 - cal AD 382	cal BP 1,621 - 1,568	0.817	
					$-27.89 \pm 0.24$ ( $1,710 \pm 22$ )	cal AD 255 - cal AD 301	cal BP 1,695 - 1,649	0.288		
						cal AD 316 - cal AD 394	cal BP 1,634 - 1,556	0.712		

- 1) 処理方法の AAA は、酸処理一アルカリ処理一酸処理を示す。
- 2) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用した。
- 3) BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
- 4) 付記した誤差は、測定誤差  $\sigma$  (測定値の 68% が入る範囲) を年代値に換算した値。
- 5) 曆年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0 (Copyright 1986-2015 M Stuiver and PJ Reimer) を使用した。
- 6) 曆年の計算には、補正年代に () で曆年較正用年代として示した。1 術目を丸める前の値を使用している。
- 7) 年代値は、1 術目を丸めるのが慣例だが、曆年較正曲線や曆年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、曆年較正用年代値は 1 術目を丸めていない。
- 8) 統計的に真の値が入る確率は  $\sigma$  は 68.3%、 $2\sigma$  は 95.4% である。
- 9) 相対比は、 $\sigma$ 、 $2\sigma$  のそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

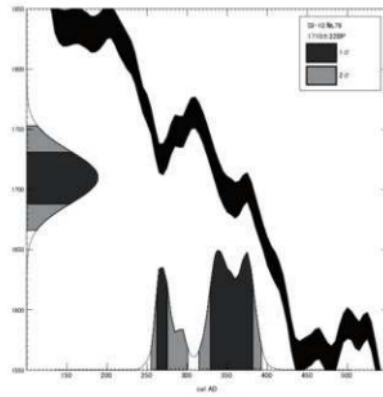


図 1. 曆年較正結果

### 4. 考察

堅穴住居跡 SI-10 は、出土遺物から古墳時代中期（5 世紀前半）と考えられている。炭化材の年代測定結果は、補正年代が  $1,710 \pm 20$ BP で、曆年較正結果は calAD255-394 であった。この結果は、遺物から

推定される年代よりも若干古い。炭化材は、残存している中での最外年輪を測定試料としているが、樹皮が残っていないため、伐採年代を示す最外年輪が失われており、古木効果によって若干古い値となっている可能性がある。

## II. 樹種同定

### 1. 試料

試料は、5軒の竪穴住居跡（SI-8, SI-10, SI-12, SI-15, SI-18）から出土した炭化材7点である。このうち、SI-10 No.79は、年代測定と同じ破片を用いる。

### 2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）や Wheeler 他（1998）を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

### 3. 結果

炭化材は、全て広葉樹のコナラ属コナラ亜属クヌギ節に同定された（表2）。解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*） ブナ科

環孔材で、孔圈部は1-3列、孔圈外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、導管は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1-20細胞のものと複合放射組織がある。

表2. 樹種同定結果

地区	遺構	No.	形状	種類	備考
C 区	SI-8	No.26	破片	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
D 区	SI-10	No.79	ミカン割状	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	AMS
D 区	SI-10	No.89	柾目状	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
C 区	SI-12	No.42	破片	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
C 区	SI-12	No.45	破片	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
D 区	SI-15	No.65	柾目状	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
D 区	SI-18	No.17	破片	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	

### 4. 考察

5軒の住居跡から出土した炭化材は、ミカン割状や柾目状などの形状を残すものもあるが、いずれも破片となっており、元の形状・木取りは不明である。これらの炭化材は、全て広葉樹のクヌギ節に同定された。日本のクヌギ節には、クヌギとアベマキの2種がある。クヌギが関東地方の平野部に広く分布するのに対し、アベマキは西日本を中心に分布し、関東地方には分布していないことから、今回のクヌギ節はクヌギの可能性が高い。クヌギは、コナラと共に二次林を構成するほか、エノキ等と共に河畔林を構成することもある落葉高木で、木材は重硬で強度が高い。

調査した全点がクヌギ節に同定された結果から、高い頻度でクヌギ節が利用されていた状況が推定される。クヌギ節の利用は、周辺で入手できる木材の中から強度が高い種類を選択した結果と考えられる。この結果から、川沿いなどを中心にクヌギが生育し、木材の入手は容易であったと考えられる。本遺跡に近い薬師入遺跡や星合遺跡などでも5世紀末～6世紀代の住居跡から出土した炭化材が全てクヌギ節に同定

されており（野村, 2008; 伊東・山田, 2012），既存の調査例とも調和的である。

### III. 骨同定

#### 1. 試料

試料は、江戸時代後期の墓坑7基（第1～7号墓坑）から出土した人骨である。部位ごとに取り上げられており、遺構別にみると、第1号墓坑が27試料（No.1～26・試料名なし）、第2号墓坑が38試料（No.1～32, 34～39）、第3号墓坑が69試料（No.1～69）、第4号墓坑が17試料（No.1～17）、第5号墓坑が29試料（No.1～29）、第6号墓坑が11試料、第7号墓坑が25試料（No.1～25）であり、総計216試料である。試料の中には、1試料1点の他、複数片の骨が含まれる場合もあり、また骨に砂・シルト分が付着する。なお、試料の詳細は、結果とともに表示する。

#### 2. 分析方法

乾いた筆・竹串等を用いて骨に付着した砂・泥分を除去する。1試料内で複数の破片が認められる場合は、一般工作用接着剤を用いて可能な限り修復・復元を試みる。自然乾燥後、試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行い、必要に応じて馬場（1991）や藤田（1949）などを基づきデジタルノギス等を用いて計測する。

年齢に関しては、幼児が1～5歳程度、小児が6～15歳程度、成人が16歳程度以上、成年が16～20歳程度、壮年が20～39歳程度、熟年が40～59歳程度、老年が60歳以上を表す。また、人体骨格各部位の名称を図2に示す。

#### 3. 結果及び考察

同定結果を表3、歯式を表4、頭蓋計測値を表5、歯牙計測値を表6に示す。以下、遺構別、部位別に記す。

##### <第1号墓坑>

###### ・頭蓋

前頭～顎面頭蓋、左側頭骨、脳頭蓋片、下頬骨、頭蓋片が確認される。上顎および下顎には植立する歯牙がみられる。ただし、下頬骨の左下頬第3大臼歯、右下頬第1・2小白歯、右下頬第2大臼歯部では歯牙が脱落し、歯槽が吸収する。また、左上顎第1小白歯の近位側歯頭部、右下顎第1大臼歯の近位側・遠位側の歯頭部に鈍歯がみられる。なお、左上顎第1切歯～右上顎第2切歯、右下顎第1・2切歯は、咬耗が強くみられる。

###### ・体幹

第1頸椎、肋骨片、胸骨体がみられる。

###### ・上肢

左肩甲骨、左右鎖骨、左上腕骨、左右桡骨、左右尺骨、尺骨片、手根骨（左右舟状骨・左右月状骨・右三角骨・左右大菱形骨・左右小菱形骨・左右有頭骨・左有鉤骨・手根骨片）、左右第1中手骨、左右第2中手骨、左右第3中手骨、左右第4中手骨、左第5中手骨、指骨（第1基節骨・基節骨・中節骨・第1末節骨・末節骨）が確認される。なお、左肩甲骨は、関節窩長39.33mm、関節窩幅24.60mmを計る。また桡骨は、下端幅を計測することができ、左側が33.78mm、右側が35.28mmを計る。

###### ・下肢

左右大腿骨、左脛骨、左右腓骨、腓骨片、右踵骨、左右距骨、足根骨（舟状骨片・左外側楔状骨・足根骨

? ) が確認される。なお、右大腿骨はNo 2・8でみられるが、接合関係にあり、これらは同一骨である。腓骨は遠位端が検出され、左側は下端幅(横径)が18.85mm、下端矢状径が24.40mm、右側は下端幅(横径)が16.78mm、下端矢状径が22.96mmを計る。

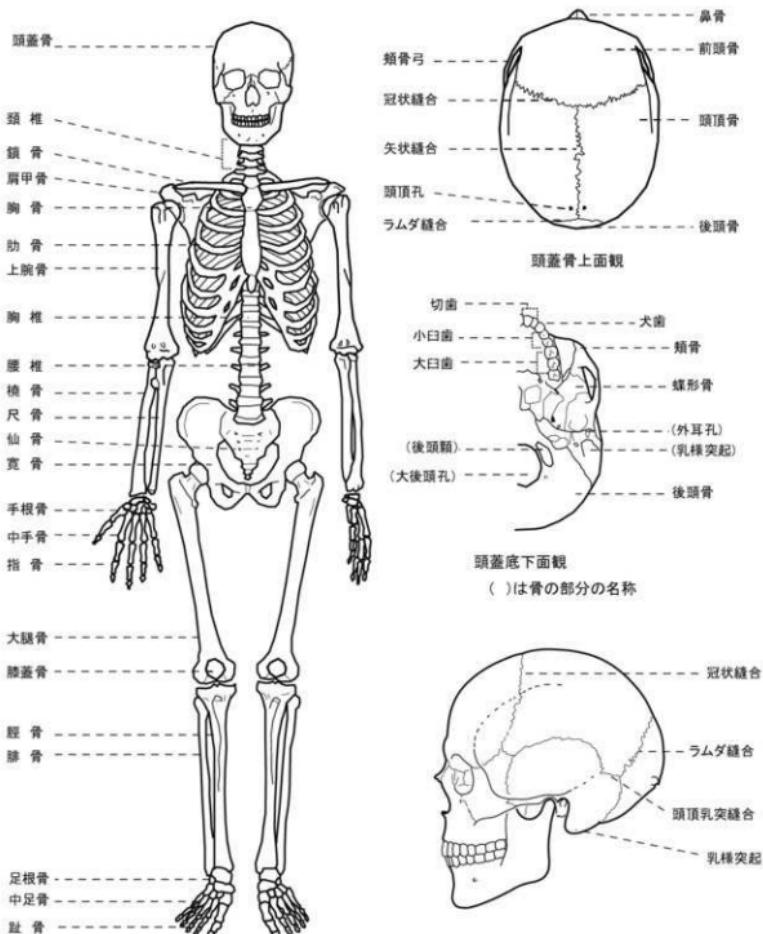


図2. 人体骨格各部の名称

・上肢 / 下肢等

上腕骨や脛骨の可能性がある四肢骨片、四肢骨片、部位不明破片などがみられる。

・性別年齢等

歯牙のサイズは権田（1959）の調査例と比較すると男性的である。しかし、眉上隆起が発達しないこと、また前頭隆起の状態から女性と判断される。冠状縫合が本来存在する付近において縫合が内側および外側に確認できないことから縫合が閉じていると考えられ、これより年齢は熟年後半以降と考えられる。なお、上顎の左第1切歯～右第2切歯、下顎の右第1・2切歯は、咬耗が顎著に進んでいるが、これは右側歯牙を多用するなど生活習慣に由来するものとみられる。

・骨以外

金属遺物（製金具）がみられる。

<第2号墓坑>

・頭蓋

前頭骨・左頭頂骨、左頸骨、左右上顎骨、左下顎骨片、遊離歯牙が確認される。上顎および下顎には植立した歯牙がみられる。

・体幹

右第1肋骨がみられる。

・上肢

左右上腕骨、左右桡骨、左右尺骨が確認される。なお、左尺骨は、骨体上矢状径が2253mmを計る。

・下肢

左寛骨、左右大腿骨、左右脛骨、左右腓骨、腓骨、左右踵骨、左踵骨？、左右距骨、足根骨（左右舟状骨・左内側楔状骨・右中間楔状骨）、左第1中足骨が確認される。なお、No.35左大腿骨とNo.25左大腿骨遠位端、No.23右大腿骨とNo.35に含まれる右大腿骨遠位端は接合関係にあり同一骨である。また、No.26左脛骨とNo.37左脛骨遠位端、No.29右脛骨とNo.30右脛骨遠位端は、未化骨の骨端であり、それぞれ同一骨である。

・上肢 / 下肢等

中手骨 / 中足骨片、指趾骨（基節骨・中節骨）、部位不明破片などがみられる。

・性別年齢等

前頭隆起や眉上隆起の状態、および寛骨大坐骨切痕の形状から女性と判断される。歯牙サイズも権田（1959）の調査例と比較して女性的である。年齢は、第3大臼歯が萌出途中であり、さらに大腿骨の両端・脛骨の遠位端・腓骨の近位端・中足骨の近位端が未化骨の状態であることから16～20歳以下であると考えられる。したがって、本人骨は、成年後半～壮年前半程度と推定される。

・骨以外

木材片がみられる。

<第3号墓坑>

・頭蓋

脳頭蓋片、下顎骨、頭蓋片、遊離歯牙が確認される。上顎および下顎には植立した歯牙がみられる。また、右下顎第1小白歯の遠位側歯頭部、左下顎第2大臼歯の近位側歯頭部に齶歯がみられ、特に左上顎第1小白歯は齶歯により歯冠が欠損する。さらに、歯石の沈着が多くみられ、特に下顎切歯の舌側で顎著である。

・体幹

第1～7頸椎、第1～12胸椎、腰椎、仙骨、椎骨、左右第1肋骨、左右肋骨、肋骨、肋骨？が確認される。

なお、第3～5頸椎には、加齢に伴う楔状の骨増殖（表中ではリッピングと表記）が形成される。

・上肢

左肩甲骨、左右鎖骨、左右上腕骨、左右桡骨、右尺骨、手根骨（左舟状骨・左右月状骨・左大菱形骨）、左第1中手骨、右第5中手骨、指骨（基節骨・中節骨）が確認される。

・下肢

左寛骨、寛骨片、左右大腿骨、左右脛骨、左腓骨、右第1中足骨？が確認される。

・上肢／下肢等

肋骨／四肢骨片、中手骨／中足骨片、指趾骨（基節骨／中節骨／末節骨）、部位不明破片などがみられる。

・性別年齢等

眉上隆起・外後頭骨隆起・乳様突起が発達しておらず、前頭骨の形状から女性と判断される。歯牙サイズも權田（1959）の調査例と比較して女性的である。年齢は、頭蓋の主要3縫合の内側が閉じ、外側も一部閉じかけていることから熟年後半以降と推定され、頸椎に加齢に伴うと思われる骨増殖がみられることから老齢に達していた可能性もある。

＜第4号墓坑＞

・頭蓋

頭頸蓋片、前頭骨、左頭頂骨、左右側頭骨、後頭骨、左右顎骨、左右上顎骨片、下顎骨、頭蓋片、遊離歯牙が確認される。下顎骨では、左第2小白歯～第2大臼歯、右第2小白歯～第1大臼歯が植立するが、他の歯牙は脱落し、歯槽が吸収する。なお、左下顎第1大臼歯では遠心側歯頸部に齶歯がみられる。

・体幹

第1頸椎、頸椎？、肋骨片がみられる。

・上肢

右上腕骨、右尺骨、手根骨（右小菱形骨）、中手骨片が確認される。

・下肢

寛骨片、左右大腿骨、左右脛骨、右腓骨、右踵骨、右距骨+踵骨、足根骨（右中間楔状骨）、右足根骨片、足根骨片、右第2中足骨、中足骨片、右第1趾骨（基節骨）が確認される。

・上肢／下肢等

指趾骨（基節骨・中節骨・基節骨／中節骨）、四肢骨片、肋骨／四肢骨片、部位不明破片などがみられる。

・性別年齢等

眉上隆起および外後頭骨隆起が発達しないこと、および前頭隆起の状態から女性と判断される。歯牙サイズも權田（1959）の調査例と比較して女性的である。年齢は、第2大臼歯の咬耗が進み象牙質が全面露出すること、脱落した歯牙があり、歯槽が吸収していることから、熟年後半以降と考えられ、老齢に達していた可能性もある。

＜第5号墓坑＞

・頭蓋

遊離歯牙が確認される。

・上肢骨／下肢骨等

部位不明破片が僅かにみられる。

・性別年齢等

遊離歯牙は、乳歯、永久歯が検出される。乳歯では、犬歯、第1乳臼歯、第2乳臼歯がみられる。永

久歯では、第1切歯～第2大臼歯までがみられるが、いずれも歯根が未形成である。特に、第2大臼歯は歯冠が形成されている途中段階にある。これらのことから、本人骨は4～5歳程度の幼児後半と推定される。性別は不明である。

＜第6号墓坑＞

・頭蓋

右下顎骨片、頭蓋片、遊離歯牙が確認される。右下顎骨では、第1小白歯～第3大臼歯部の歯槽が吸収しかけている。

・下肢

大腿骨の可能性がある破片が検出される。なお、No.5～7は接合関係にあり、同一骨である。

・上肢／下肢等

四肢骨片、部位不明破片などがみられる。

・性別年齢等

性別は、検出部位も少なく、僅かに検出される歯冠サイズを権田（1959）の調査例と比較すると女性的であるものの、保存状態も悪いため詳細不明である。年齢は、左下顎第1大臼歯の咬耗が弱いが、右下顎骨において第1小白歯～第3大臼歯が脱落し、歯槽が吸収することから熟年以降の可能性がある。

＜第7号墓坑＞

・頭蓋

前頭骨、左右頭頂骨、左右側頭骨、左砧骨、後頭骨、左右頸骨、左上頸骨、左右下顎骨片、脳頭蓋骨、頭蓋骨、遊離歯牙が確認される。歯牙では、右上顎第2小白歯において、遠心側歯頭部に火口状に穿った齶触がみられる。

・体幹

椎骨や肋骨の破片がみられる。

・上肢

右上腕骨、左右橈骨、左右尺骨、手根骨（左舟状骨・左大菱形骨・左小菱形骨）、左第1中手骨、左第2中手骨が確認される。

・下肢

右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨、右踵骨、左右距骨が確認される。

・上肢／下肢等

四肢骨片、部位不明破片などがみられる。

・性別年齢等

歯牙サイズは権田（1959）の調査例と比較して男性的である。ただし、眉上隆起の隆起も弱く顕著に発達していないこと、外後頭骨隆起の隆起も弱い。さらに、破損しているため詳細不明であるが、寛骨の大座骨切痕もやや鈍角的のように見える。以上のことから、本人骨は女性の可能性がある。年齢は、矢状縫合において内側および外側も閉じかけており、右下顎第2大臼歯の咬耗が顕著で象牙質が全面的に露出することから、熟年後半以降と判断される。また、脳頭蓋の内側には、特徴的な炎症性変化の可能性がある状況を確認することができ、何らかの疾病を患っていた可能性がある。

・骨以外

土器・陶器片、木材片がみられる。

表3. 骨同定結果(1)

区	造構	No.	種類	部位	左	右	部分	数量	備考
B区	第1号墓坑	1	ヒト	上腕骨		左	近位端破片	1	
B区	第1号墓坑	2	ヒト	大脛骨		右	末端欠	1 +	No. 8と接合
B区	第1号墓坑	3	ヒト	鎖骨		右	末端欠	1 +	
B区	第1号墓坑	4	ヒト	四肢骨			破片	35 +	脛骨?
B区	第1号墓坑	5	ヒト	四肢骨		右	遠位端	1	
B区	第1号墓坑	6	ヒト	尺骨		右	破片	1	
B区	第1号墓坑	7	ヒト	尺骨		右	破片	1	
B区	第1号墓坑	7	ヒト	四肢骨		右	破片	1	上腕骨?
B区	第1号墓坑	7	ヒト	不明			破片	222.8	
B区	第1号墓坑	8	ヒト	大脛骨		右	近位端破片	1 +	No. 2と接合
B区	第1号墓坑	9	ヒト	足根骨?			破片	2 +	
B区	第1号墓坑	10	ヒト	手根骨(舟状骨)	左	左	(ほぼ)完存	1	
					右	右	(ほぼ)完存	1	
				手根骨(月状骨)	左	左	(ほぼ)完存	1	
					右	右	(ほぼ)完存	1	
				手根骨(大菱形骨)	左	左	(ほぼ)完存	1	
					右	右	(ほぼ)完存	1	
				手根骨(小菱形骨)	左	左	(ほぼ)完存	1	
					右	右	(ほぼ)完存	1	
				手根骨(有頭骨)	左	左	(ほぼ)完存	1	
					右	右	(ほぼ)完存	1	
				手根骨(有鉤骨)	左	左	(ほぼ)完存	1	
				手根骨(三角骨)	右	右	(ほぼ)完存	1	
				手根骨			破片	1	
				第1中手骨	左	左	(ほぼ)完存	1	
					右	右	(ほぼ)完存	1	
				第2中手骨	左	左	(ほぼ)完存	1	
					右	右	(ほぼ)完存	1	
				第3中手骨	左	左	(ほぼ)完存	1	
					右	右	(ほぼ)完存	1	
				第4中手骨	左	左	(ほぼ)完存	1	
					右	右	(ほぼ)完存	1	
				第5中手骨	左		遠位端欠	1	
				指骨(第1基節骨)			(ほぼ)完存	2	
				指骨(基節骨)			(ほぼ)完存	2	
				指骨(中節骨)			(ほぼ)完存	3	
				指骨(末節骨)			(ほぼ)完存	3	
				第4中手骨	右	右	(ほぼ)完存	1	
				距骨	左		破片	1	
					右	右	(ほぼ)完存	1	
				蹠骨	右		破片	1	
				不明			7.33 g		
				地骨			右	近位端欠	1
				鎖骨	左		破片	1	
				不明			破片	1	
B区	第1号墓坑	13	ヒト	四肢骨			右	近位端欠	7.33 g
B区	第1号墓坑	14	ヒト	鎖骨			左	破片	1
B区	第1号墓坑	15	ヒト	不明			破片	1	
B区	第1号墓坑	16	ヒト	不明			破片	6.52 g	
B区	第1号墓坑	17	ヒト	脛骨			破片	4.74 g	
B区	第1号墓坑	18	ヒト	腓骨	左		破片	1 +	
					右?	近位端欠	1 +		
				不明			破片	1.32 g	
				尺骨	左		遠位端	1	
				四肢骨			破片	1	
				不明			破片	0.19 g	
				地骨			破片	1	
B区	第1号墓坑	20	ヒト	肩甲骨	左		破片	1	
B区	第1号墓坑	21	ヒト	橈骨	左		近位端欠	1	
B区	第1号墓坑	22	ヒト	大脛骨	左		兩端欠	1 +	
				腓骨	左		遠位端	1	
				足根骨(舟状骨)	左		破片	1	
				足根骨(外側楔状骨)	左		破片	1	
				不明			破片	3.72 g	
				指骨(基節骨)			(ほぼ)完存	3	
				指骨(中節骨)			(ほぼ)完存	2	
				指骨(第1未節骨)			(ほぼ)完存	1	
				不明			破片	0.09 g	
B区	第1号墓坑	23	ヒト	肋骨			破片	15	
				不明			破片	1.68 g	
B区	第1号墓坑	24	ヒト	腕骨			破片	1	
				不明			破片	6.25 g	
B区	第1号墓坑	25	ヒト	腕骨体			破片	1 +	
B区	第1号墓坑	26	ヒト	不明			破片	1 +	
B区	第1号墓坑	記載なし	ヒト	前頭一顎面頭蓋	左		破片	1 +	
				側頭骨			破片	1 +	
				脛頭蓋			破片	1 +	
				下顎骨			破片	1	
				頭蓋			破片	5	1 + 土塊状
				第1頸椎			破片	1	
				不明			破片	24.61 g	
			金属遺物	製鍊工具			破片	2 +	

表3. 骨同定結果(2)

区	遺構	No.	種類	部位	左	右	部分	数量	備考
B区	第2号墓坑	1	ヒト	上顎第3大臼歯	左		破片	1	
B区	第2号墓坑	2	ヒト	下顎第1大臼歯		右	破片	1+	
B区	第2号墓坑	3	ヒト	上顎第1大臼歯		右	破片	1+	
B区	第2号墓坑	4	ヒト	下顎骨	左		破片	1	
B区	第2号墓坑	5	ヒト	上顎第2大臼歯		右	破片	1	
B区	第2号墓坑	6	ヒト	下顎犬齒	左		ほぼ完存	1	
B区	第2号墓坑	7	ヒト	頸骨	左		破片	1	
				第1肋骨	右		破片	1	
B区	第2号墓坑	8	ヒト	上腕骨	左	右	破片	1+	
B区	第2号墓坑	9	ヒト	上顎第2小臼歯		右	破片	1	
B区	第2号墓坑	10	ヒト	下顎第2切歎	左		ほぼ完存	1	
B区	第2号墓坑	11	ヒト	下顎第2小臼歯	左		ほぼ完存	1	
B区	第2号墓坑	12	ヒト	下顎第1小臼歯	左		破片	1+	
B区	第2号墓坑	13	ヒト	前頭骨 - 左頭頂骨			破片	1+	
B区	第2号墓坑	14	ヒト	上腕骨		右	両端欠	1	
B区	第2号墓坑	15	ヒト	第1中足骨	左		遠位端欠	1	近位端未化骨
B区	第2号墓坑	16	ヒト	足根骨(内側楔状骨)	左		ほぼ完存	1	
				不明				0.13 g	
B区	第2号墓坑	17	ヒト	上腕骨	左		両端欠	1+	
B区	第2号墓坑	18	ヒト	中手骨 / 中足骨 指趾骨(基節骨)			両端欠	1	
				不明			両端欠	1	
							破片	0.38 g	
B区	第2号墓坑	19	ヒト	椎骨	右		両端欠	1	
B区	第2号墓坑	20	ヒト	肩骨	左	右	破片	1	隅骨部
B区	第2号墓坑	21	ヒト	尺骨	右		両端欠	1	
B区	第2号墓坑	22	ヒト	中手骨 / 中足骨 指趾骨(中距骨)			遠位端欠	1	近位端未化骨外れ
				不明			両端欠	4	
							ほぼ完存	1	
							破片	0.34 g	
B区	第2号墓坑	23	ヒト	大顎骨	右		破片	1*	両端未化骨
B区	第2号墓坑	24	ヒト	不明				1.43 g	
B区	第2号墓坑	25	ヒト	大顎骨	左		遠位端	1	No.35と接合
B区	第2号墓坑	26	ヒト	股骨	左		両端欠	1+	No.37と接合
B区	第2号墓坑	27	ヒト	尺骨	左		遠位端欠	1+	近位端破損
B区	第2号墓坑	28	ヒト	換骨	左		両端欠	1+	
B区	第2号墓坑	29	ヒト	股骨	右		両端欠	1+	遠位端未化骨外れ, No.30と接合
B区	第2号墓坑	30	ヒト	胫骨	右		遠位端	1	未化骨骨端, No.29と接合
				距骨			破損	1	
				踵骨?	左		未化骨骨端	1	
B区	第2号墓坑	31	ヒト	沿管	右		破片	1	
				踵骨	右		破片	1	
B区	第2号墓坑	32	ヒト	膝骨	右		遠位端欠	1+	近位端未化骨外れ
B区	第2号墓坑	34	ヒト	膝骨	左		両端欠	1+	
B区	第2号墓坑	35	ヒト	大顎骨	左		遠位端欠	1+	近位端未化骨 No.23と接合
B区	第2号墓坑	36	ヒト	寛骨	左		破片	1+	坐骨部
B区	第2号墓坑	37	ヒト	前脛骨 踵骨 足根骨(舟状骨) 不明	左		遠位端	1	未化骨骨端, No.26と接合
							破損	1	
							破片	1	
							破片	1	
							0.39 g		
B区	第2号墓坑	38	ヒト	下顎第1切歎	左		ほぼ完存	1	
			木材				破片	1+	
B区	第2号墓坑	39	ヒト	腓骨			破片	1	
			足根骨(舟状骨)	右		破片	1		
			足根骨(中間楔状骨)	右		破片	1		
			中手骨 / 中足骨 指趾骨(基節骨)	左		両端欠	1		
			不明	右		両端欠	1		
						破片	6.99 g		
B区	第3号墓坑	1	ヒト	脛頭蓋			ほぼ完存	1+	
				下顎骨	左	右	破片	19	
				頭蓋					
B区	第3号墓坑	2	ヒト	上顎第1切歎		右	ほぼ完存	1	
B区	第3号墓坑	3	ヒト	頭蓋			両端欠	1	
B区	第3号墓坑	4	ヒト	上腕骨			両端欠	1	
B区	第3号墓坑	5	ヒト	尺骨			両端欠	1	
				不明			破片	0.19 g	
B区	第3号墓坑	6	ヒト	椎骨			ほぼ完存	1	
B区	第3号墓坑	7	ヒト	助骨?			破片	2	
			手根骨(月状骨)	右		ほぼ完存	1		
B区	第3号墓坑	8	ヒト	頸骨	左		ほぼ完存	1	
B区	第3号墓坑	9	ヒト	肩甲骨	左		破片	1	
			上腕骨	左		近位端破片	1		
						両端欠	1		

表3. 骨同定結果(3)

区	造構	No.	種類	部位	左	右	部分	数量	備考
B区	第3号墓坑	10	ヒト	椎骨		左	両端欠	1	
B区	第3号墓坑	11	ヒト	肋骨 / 四肢骨			破片	1+	
B区	第3号墓坑	12	ヒト	第1中足骨?		右	破片	1	
B区	第3号墓坑	13	ヒト	中手骨 / 中足骨			両端欠	2	
B区	第3号墓坑	14	ヒト	指趾骨 (英節骨 / 中節骨)			両端欠	1	
B区	第3号墓坑	15	ヒト	第1中手骨	左		近位端欠	1	
B区	第3号墓坑	16	ヒト	指骨 (中節骨)			ほほ完存	1	
B区	第3号墓坑	17	ヒト	中手骨 / 中足骨			両端欠	2	
B区	第3号墓坑	18	ヒト	肋骨			破片	8	
B区	第3号墓坑	19	ヒト	椎骨		右	ほほ完存	1	近位端破損
B区	第3号墓坑	20	ヒト	脛骨			ほほ完存	1	
B区	第3号墓坑	21	ヒト	不明		右	退位端破片	1	
B区	第3号墓坑	22	ヒト	第1頸椎			破片	2.78 g	
B区	第3号墓坑	23	ヒト	第2頸椎			破片	1	
B区	第3号墓坑	24	ヒト	第3頸椎			破片	1	
B区	第3号墓坑	25	ヒト	第4頸椎			破片	1	リッピング
B区	第3号墓坑	26	ヒト	第5頸椎			破片	1+	リッピング
B区	第3号墓坑	27	ヒト	第6頸椎			破片	1	リッピング
B区	第3号墓坑	28	ヒト	第7頸椎			ほほ完存	1	
B区	第3号墓坑	29	ヒト	第8胸椎			破片	1	
B区	第3号墓坑	30	ヒト	第9胸椎			破片	1	
B区	第3号墓坑	31	ヒト	第10胸椎			破片	1+	
B区	第3号墓坑	32	ヒト	第11胸椎			破片	1+	
B区	第3号墓坑	33	ヒト	第12胸椎			破片	1	
B区	第3号墓坑	34	ヒト	肋骨			破片	1	
B区	第3号墓坑	35	ヒト	肩甲骨			破片	1	
B区	第3号墓坑	36	ヒト	肋骨		右	破片	1+	
B区	第3号墓坑	37	ヒト	肋骨		右	破片	1+	
B区	第3号墓坑	38	ヒト	肋骨		右	破片	1+	
B区	第3号墓坑	39	ヒト	肋骨		右	破片	1+	
B区	第3号墓坑	40	ヒト	肋骨		右	破片	1+	
B区	第3号墓坑	41	ヒト	肋骨		右	破片	1+	
B区	第3号墓坑	42	ヒト	肋骨		右	破片	1	
B区	第3号墓坑	43	ヒト	第1肋骨		右	破片	1	
B区	第3号墓坑	44	ヒト	肩甲骨	左		破片	1+	
B区	第3号墓坑	45	ヒト	肩甲骨	左		破片	1	
B区	第3号墓坑	46	ヒト	第1肋骨	左		破片	1	
B区	第3号墓坑	47	ヒト	手根骨 (角状骨)	左		ほほ完存	1	
B区	第3号墓坑	48	ヒト	肋骨	左		破片	1	
B区	第3号墓坑	49	ヒト	肋骨	左		破片	1+	
B区	第3号墓坑	50	ヒト	肋骨	左		破片	1+	
B区	第3号墓坑	51	ヒト	肋骨	左		破片	1+	
B区	第3号墓坑	52	ヒト	肋骨	左		破片	1+	
B区	第3号墓坑	53	ヒト	肋骨	左		破片	1+	
B区	第3号墓坑	54	ヒト	肋骨	左		破片	1+	
B区	第3号墓坑	55	ヒト	肋骨	左		破片	1+	
B区	第3号墓坑	56	ヒト	肋骨	左		破片	1+	
B区	第3号墓坑	57	ヒト	腰椎			破片	1	
B区	第3号墓坑	58	ヒト	大臓骨		右	破片	1+	
B区	第3号墓坑	59	ヒト	大臓骨	左		両端欠	1+	
B区	第3号墓坑	60	ヒト	腕骨		右	破片	1+	
B区	第3号墓坑	61	ヒト	大臓骨		右	破片	1+	
B区	第3号墓坑	62	ヒト	膝骨	左		破片	1+	
B区	第3号墓坑	63	ヒト	胫骨	左		両端欠	1+	
B区	第3号墓坑	64	ヒト	脛骨	左		破片	5	
B区	第3号墓坑	65	ヒト	指趾骨 (未節骨)			ほほ完存	1	
B区	第3号墓坑	66	ヒト	不明			破片	9.74 g	
B区	第3号墓坑	67	ヒト	中手骨 / 中足骨			両端欠	1+	
B区	第3号墓坑	68	ヒト	上腕第2切歯	右		ほほ完存	1	
B区	第3号墓坑	69	ヒト	仙骨			破片	1	
B区	第3号墓坑			不明			破片	9.16 g	
B区	第3号墓坑			不規則骨			破片	5.73 g	
B区	第3号墓坑			肋骨			破片	2	
B区	第3号墓坑			手根骨 (角状骨)	左		破片	1	
B区	第3号墓坑			手根骨 (大菱形骨)	左		ほほ完存	1	
B区	第3号墓坑			指趾骨 (基節骨 / 中節骨)			退位端破片	1	
B区	第3号墓坑						両端欠	1	

表3. 骨同定結果(4)

区	遺構	No.	種類	部位	左	右	部分	数量	備考
B 区	第3号墓坑	69	ヒト	指趾骨(未節骨)			近位端欠	1	
B 区	第4号墓坑	1	ヒト	不明			破片	3.82 g	
B 区	第4号墓坑	2	ヒト	上腕骨			右	1	
B 区	第4号墓坑	3	ヒト	脛距萎			面端友		
B 区	第4号墓坑	4	ヒト	肋骨 四肢骨			破片	3	
B 区	第4号墓坑	4	ヒト	前腕骨			破片	10+	
				頭頂骨	左		破片	1	
				後頭骨			破片	1	
				側頭骨	左		破片	1	
				脳頭蓋			右	1	
				頸骨	左		舞体部	1	
					右		破片	16	
					左		破片	1	
					右		破片	1	
				頭蓋			破片	18	
				不明			破片	27.69 g	土塊状
B 区	第4号墓坑	5	ヒト	大腿骨	左		面端友	1+	
B 区	第4号墓坑	6	ヒト	肋骨			破片	3	
				不明			破片	0.49 g	
B 区	第4号墓坑	7	ヒト	脛骨	左		破片	1+	
B 区	第4号墓坑	8	ヒト	尺骨	右		破片	1+	
B 区	第4号墓坑	8	ヒト	不明			破片	9.24 g	
B 区	第4号墓坑	9	ヒト	大腿骨	右		面端友	1+	
B 区	第4号墓坑	10	ヒト	食管			破片	1	
				不明			破片	37.41 g	
B 区	第4号墓坑	11	ヒト	手根骨(小菱形骨)	右		(ほぼ)完存	1	
				中手骨			破片	2	
				指趾骨(基節骨)			面端友	3	
				指趾骨(中節骨)			面端友	1	
				指趾骨(基節骨/中節骨)			面端友	1	
				不明			破片	5.72 g	
B 区	第4号墓坑	12	ヒト	肺骨	右		破片	1+	
				第1趾骨(基節骨)	右		近位端欠	1	
				不明			破片	3.67 g	
B 区	第4号墓坑	13	ヒト	腔骨	右		近位端欠	1	遠位端破損
				蹠骨	右		破片	1	
				距第2+蹠骨	右		破片	1	
				足根骨	右		破片	1	
				足根骨(中間楔状骨)	右		破片	1	
				不明			破片	1.39 g	
B 区	第4号墓坑	14	ヒト	足根骨	右		破片	1	
				第2中足骨	右		遠位端友	1	
				中足骨			破片	2	
				不明			破片	2.79 g	
B 区	第4号墓坑	15	ヒト	四肢骨			破片	2	
				不明			破片	6.72 g	
B 区	第4号墓坑	16	ヒト	上腕骨	左	右	破片	1	
				上腕第1切歯	左		(ほぼ)完存	1	
				上腕第2切歯	左		(ほぼ)完存	1	
				上腕第1切歎	右		(ほぼ)完存	1	
				上腕大歯	右		(ほぼ)完存	1	
				下顎骨	左	右	破損	1	
				頭蓋			破片	6	
				第1頸椎			前結節	1	
				不明			関節窓	1	
				頭蓋?			破片	4.94 g	
				不明			破片	2	
				頭蓋?			破片	1	
				不明?			破片	30.61 g	含土壤状
B 区	第5号墓坑	1	ヒト	上頬第2乳臼歯	右		(ほぼ)完存	1	
B 区	第5号墓坑	2	ヒト	下頬第1大臼歯	右		(ほぼ)完存	1	歯根未形成
B 区	第5号墓坑	3	ヒト	上頬第1大臼歯	右		(ほぼ)完存	1	歯根未形成
B 区	第5号墓坑	4	ヒト	上頬第1小臼歯	左		(ほぼ)完存	1	歯根未形成
B 区	第5号墓坑	5	ヒト	上頬第1乳臼歯	右		(ほぼ)完存	1	
B 区	第5号墓坑	6	ヒト	上頬第2小臼歯	右		(ほぼ)完存	1	歯根未形成
B 区	第5号墓坑	7	ヒト	不明			破片	0.07 g	
B 区	第5号墓坑	8	ヒト	不明			破片	0.11 g	
B 区	第5号墓坑	9	ヒト	上頬第2大臼歯?	左		破片	1	
B 区	第5号墓坑	10	ヒト	上頬第2切歯	左		(ほぼ)完存	1	歯根未形成
B 区	第5号墓坑	11	ヒト	上頬大歯	左		(ほぼ)完存	1	歯根未形成
B 区	第5号墓坑	12	ヒト	下頬第2乳臼歯	左		(ほぼ)完存	1	
B 区	第5号墓坑	13	ヒト	上頬第2切歎	右		(ほぼ)完存	1	歯根未形成
B 区	第5号墓坑	14	ヒト	上頬乳大歯	左		(ほぼ)完存	1	
B 区	第5号墓坑	15	ヒト	下頬大歯	左		(ほぼ)完存	1	歯根未形成
B 区	第5号墓坑	16	ヒト	下頬第1大臼歯	左		(ほぼ)完存	1	歯根未形成
B 区	第5号墓坑	17	ヒト	上頬第2乳臼歯	左		(ほぼ)完存	1	歯根未形成

表3. 骨同定結果(5)

区	遺構	No.	種類	部位	左	右	部分	数量	備考
B区	第5号墓坑	18	ヒト	下顎第1乳臼齒	左	右	ほぼ完存	1	
B区	第5号墓坑	19	ヒト	上顎第1大臼齒	左	右	ほぼ完存	1	歯根未形成
B区	第5号墓坑	20	ヒト	上顎第2切歯	左	右	ほぼ完存	1	歯根未形成
B区	第5号墓坑	21	ヒト	上顎第2大臼齒	左	右	ほぼ完存	1	歯根未形成
B区	第5号墓坑	22	ヒト	上顎第2切歯	右	左	ほぼ完存	1	歯根未形成
B区	第5号墓坑	23	ヒト	上顎第2小臼齒	左	右	ほぼ完存	1	歯根未形成
B区	第5号墓坑	24	ヒト	下顎第1大臼齒	右	左	ほぼ完存	1	
B区	第5号墓坑	25	ヒト	上顎第1乳臼齒	左	右	ほぼ完存	1	
B区	第5号墓坑	26	ヒト	上顎第1大臼齒	右	左	ほぼ完存	1	
B区	第5号墓坑	27	ヒト	上顎第1切歯	左	右	ほぼ完存	1	歯根未形成
B区	第5号墓坑	28	ヒト	上顎大臼齒	右	左	ほぼ完存	1	歯根未形成
B区	第5号墓坑	29	ヒト	上顎第1小臼齒	右	左	ほぼ完存	1	歯根未形成
B区	第6号墓坑	1	ヒト	頭蓋	左	右	破片	1	
B区	第6号墓坑	2	ヒト	下顎第2小臼齒	左	右	ほぼ完存	1	
B区	第6号墓坑	3	ヒト	下顎第1大臼齒	左	右	ほぼ完存	1	
B区	第6号墓坑	4	ヒト	下顎骨	右	左	破片	1	
B区	第6号墓坑	4	ヒト	不明	右	左	破片	4.04 g	塊状
B区	第6号墓坑	5	ヒト	大歯骨?	右	左	破片	1	No. 6・7と接合
B区	第6号墓坑	6	ヒト	大歯骨?	右	左	破片	1 +	No. 5と接合
B区	第6号墓坑	7	ヒト	大歯骨?	右	左	破片	1	No. 5と接合
B区	第6号墓坑	8	ヒト	四枝骨	右	左	破片	5	
B区	第6号墓坑	9	ヒト	四枝骨	右	左	破片	3.77 g	
B区	第6号墓坑	10	ヒト	不明	右	左	破片	1	
B区	第6号墓坑	11	ヒト	不明	右	左	破片	0.66 g	
B区	第7号墓坑	1	ヒト	尺骨	左	右	近位端破片	1	
B区	第7号墓坑	2	ヒト	四枝骨	左	右	端片	1	
B区	第7号墓坑	3	ヒト	脛骨	左	右	兩端欠	1 +	
B区	第7号墓坑	4	ヒト	四枝骨	左	右	端片	1	
B区	第7号墓坑	5	ヒト	前頭骨 - 左右頭頂骨 後頭骨 側頭骨	左	右	破片 破片 破片	1 1 1	
B区	第7号墓坑	6	ヒト	大歯骨	右	左	破片	1	
B区	第7号墓坑	7	ヒト	下顎第2大臼齒	右	左	ほぼ完存	1	
B区	第7号墓坑	8	ヒト	上顎第1切歯	左	右	ほぼ完存	1	
B区				上顎第2切歯	右	左	ほぼ完存	1	
B区				上顎大臼齒	右	左	ほぼ完存	1	
B区				上顎第1小臼齒	右	左	ほぼ完存	1	
B区				上顎第2小臼齒	右	左	ほぼ完存	1	
B区				上顎第2大臼齒	右	左	ほぼ完存	1	
B区				下顎第1切歯	右	左	ほぼ完存	1	
B区				下顎第2切歯	左	右	ほぼ完存	1	
B区				下顎大臼齒	左	右	ほぼ完存	1	
B区				下顎第1小臼齒	左	右	ほぼ完存	1	
B区	第7号墓坑	9	ヒト	下顎骨	左	右	破片	1	
B区	第7号墓坑	9	ヒト	頭蓋	左	右	破片	1	
B区	第7号墓坑	9	ヒト	不明	左	右	破片	0.74 g	
B区	第7号墓坑	10	ヒト	上顎骨	左	右	破片	1	
B区	第7号墓坑	11	ヒト	下顎骨	左	右	破片	1	
B区	第7号墓坑	12	ヒト	恥骨	左	右	遠位端破片	1	
B区	第7号墓坑	13	ヒト	恥骨	左	右	近位端	1	
B区	第7号墓坑	14	ヒト	恥骨	右	左	近位端欠	1	
B区	第7号墓坑	15	ヒト	蹠骨	右	左	破片	1	
B区				距骨	右	左	破片	1 +	
B区				肋骨	右	左	破片	4	
B区				上胸骨	右	左	街端欠	1	
B区				尺骨	右	左	街端欠	1	
B区				貢骨	左	右	端片	1 +	
B区				大歯骨	左	右	近位端	1	
B区	第7号墓坑	20	ヒト	手根骨(舟状骨)	左	右	ほぼ完存	1	
B区	第7号墓坑	20	ヒト	手根骨(大菱形骨)	左	右	ほぼ完存	1	
B区	第7号墓坑	20	ヒト	手根骨(小菱形骨)	左	右	ほぼ完存	1	
B区	第7号墓坑	21	ヒト	第1中手骨	左	右	遠位端欠	1	
B区	第7号墓坑	21	ヒト	第2中手骨	左	右	遠位端欠	1	
B区	第7号墓坑	21	ヒト	四枝骨	右	左	破片	1	

表3. 骨同定結果(6)

区	遺構	No.	種類	部位	左	右	部分	数量	備考
B区	第7号墓坑	22	ヒト	脛骨		右	破片	1+	
B区	第7号墓坑	23	ヒト	大趾骨	左		両端欠	1	
B区	第7号墓坑	24	ヒト	距骨	左		破片	1	
B区	第7号墓坑	25	ヒト	砧骨	左		ほぼ完存	1	
				椎骨			破片	1	
				肋骨			破片	3	
				不明			破片	21.23 g	
			土器・ 陶器				破片	2	
			木材				破片	2	

表4. 歯式

第1号墓坑		右										左									
		M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	M <sup>3</sup>	P <sup>2</sup>	P <sup>1</sup>	C	I <sup>2</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>2</sup>	C	P <sup>1</sup>	P <sup>2</sup>	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	M <sup>3</sup>				
上顎	永久歯				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	—	—	—	—
下顎	永久歯	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>1</sub>	C	I <sub>2</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>2</sub>	C	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>				
第2号墓坑		右										左									
上顎	永久歯	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	M <sup>3</sup>	P <sup>2</sup>	P <sup>1</sup>	C	I <sup>2</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>2</sup>	C	P <sup>1</sup>	P <sup>2</sup>	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	M <sup>3</sup>				
		○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○
下顎	永久歯	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>1</sub>	C	I <sub>2</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>2</sub>	C	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>				
		○										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第3号墓坑		右										左									
上顎	永久歯	M <sup>2</sup>	M <sup>3</sup>	M <sup>1</sup>	P <sup>2</sup>	P <sup>1</sup>	C	I <sup>2</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>2</sup>	C	P <sup>1</sup>	P <sup>2</sup>	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	M <sup>3</sup>				
		—	—	◎	◎	◆	◎	◎	○	○	○	◆	◎	◎	—	◎	—	—	—	—	—
下顎	永久歯	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>	M <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>1</sub>	C	I <sub>2</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>2</sub>	C	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>				
		—	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	—	—	—	—	—
第4号墓坑		右										左									
上顎	永久歯	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	M <sup>3</sup>	P <sup>2</sup>	P <sup>1</sup>	C	I <sup>2</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>2</sup>	C	P <sup>1</sup>	P <sup>2</sup>	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	M <sup>3</sup>				
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
下顎	永久歯	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>1</sub>	C	I <sub>2</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>2</sub>	C	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>				
		—	—	—	◎	◎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第5号墓坑		右										左									
上顎	永久歯	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	M <sup>3</sup>	P <sup>2</sup>	P <sup>1</sup>	C	I <sup>2</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>2</sup>	C	P <sup>1</sup>	P <sup>2</sup>	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	M <sup>3</sup>				
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	?
	乳歯	X X X X X X X X X X										dm <sup>2</sup>	dm <sup>1</sup>	dc	di <sup>2</sup>	di <sup>1</sup>	dc	dm <sup>1</sup>	dm <sup>2</sup>	X X X X X X X X X X	
下顎	乳歯	X X X X X X X X X X										dm <sup>2</sup>	dm <sup>1</sup>	dc	di <sup>2</sup>	di <sup>1</sup>	dc	dm <sup>1</sup>	dm <sup>2</sup>	X X X X X X X X X X	
	永久歯	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>1</sub>	C	I <sub>2</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>2</sub>	C	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>				
		—	—	○								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第6号墓坑		右										左									
上顎	永久歯	M <sup>2</sup>	M <sup>3</sup>	M <sup>1</sup>	P <sup>2</sup>	P <sup>1</sup>	C	I <sup>2</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>2</sup>	C	P <sup>1</sup>	P <sup>2</sup>	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	M <sup>3</sup>				
下顎	永久歯	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>	M <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>1</sub>	C	I <sub>2</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>2</sub>	C	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>				
		—	—	—	—	—	—								○	○	○	○	○	○	○
第7号墓坑		右										左									
上顎	永久歯	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	M <sup>3</sup>	P <sup>2</sup>	P <sup>1</sup>	C	I <sup>2</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>1</sup>	I <sup>2</sup>	C	P <sup>1</sup>	P <sup>2</sup>	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	M <sup>3</sup>				
下顎	永久歯	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>1</sub>	C	I <sub>2</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>1</sub>	I <sub>2</sub>	C	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>				

凡例) ◎:植立 ○:遊離 - :歯槽吸収 ◆:歯槽開放

表 5. 頭蓋計測値 (1)

Martin No	計測項目	第1号基坑		第2号基坑		第3号基坑		第4号基坑		第5号基坑		第6号基坑		第7号基坑	
		左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右
頭蓋	1 脳頭蓋最大長	g-op	-	-	-	187	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	グラベラ・イニオン高	g-i	-	-	-	179	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	グラベラ・ラムダ長	g-l	-	-	-	169	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	頭蓋進長	n-ba	-	-	-	94	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	大後頭孔長	ba-op	-	-	-	38.08	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	脳頭蓋最大幅	euro	-	-	-	144	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	最小前額幅	ft-ft	96.±	-	-	94.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	最大前額幅	co-co	-	-	-	119.61	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	頭蓋最小幅	it-it	-	-	-	81.66	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	大後頸孔幅	-	-	-	-	29.71	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	バジオン・ブレグマ高	ba-b	-	-	-	123	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	脳頭蓋最高	-	-	-	-	151	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	耳・ブレグマ高	po-b	-	-	-	105.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-
31	全耳高	-	-	-	-	107.84	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	横顎長	po-b-po	-	-	-	31.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25	正中矢状顎長	n-o	-	-	-	37.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26	正中前顎顎長	n-b	-	-	-	119	124	-	-	-	-	-	-	-	-
27	正中雄顎長	b-i	-	-	-	131	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27	(2) 前頭顎長	-	-	-	107	-	110 112	-	-	-	-	-	-	-	-
28	正中後頭顎長	I-o	-	-	-	119	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29	正中前頭顎長	n-b	-	-	-	105.5	107.53	-	-	-	-	-	-	-	-
30	正中雄頭顎長	b-i	-	-	-	-	118.24	-	-	-	-	-	-	-	-
30	(2) 前頭顎長	-	-	-	96.27	-	90.35 96.38	-	-	-	-	-	-	-	-
31	正中後頭顎長	I-o	-	-	-	-	102.41	-	-	-	-	-	-	-	-
40	顎長	ba-pr	-	-	-	-	90.15	-	-	-	-	-	-	-	-
41	側顎長	ek-po	-	-	-	-	-	70.05	-	-	-	-	-	-	-
42	下顎長	ba-gn	-	-	-	-	-	102.84	-	-	-	-	-	-	-
43	上顎幅・外脛窓顎幅	front-front	102.67	-	-	-	-	103.35	-	-	-	-	-	-	-
44	面脣窓幅	ek-ek	100.71	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
45	蝶骨弓幅	zy-zy	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
46	中顎幅・上顎幅	zm-zm	-	-	-	-	-	95.69	-	-	-	-	-	-	-
47	顎高	n-gn	-	-	-	-	-	110.88	-	-	-	-	-	-	-
48	上顎高	n-pr	66.99	-	-	-	-	66.03	-	-	-	-	-	-	-
50	前脣窓闊幅	mf-mf	26.72	-	-	-	-	23.81	-	-	-	-	-	-	-
51	喉窓幅	mf-ek	38.25 38.55	-	-	-	-	38.25	-	-	-	-	-	-	-
52	喉窓高	31.38 33.36	-	-	-	-	-	34.82	-	-	-	-	-	-	-
54	鼻幅	-	24.84	-	-	-	-	23.44	-	-	-	-	-	-	-
55	鼻高	-	25.7	-	-	-	-	31.36	-	-	-	-	-	-	-
56	鼻骨長	n-nhi	23.64	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
57	鼻骨最小幅	-	3.63	6.77	-	7.16	-	7.61	-	-	-	-	-	-	-
57	(1) 鼻骨最大幅	-	9.94	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
57	(2) 鼻骨上幅	-	6.63	10.51	-	8.16	10.27	-	-	-	-	-	-	-	-
57	(3) 鼻骨下幅	-	12.92	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表 5. 頭蓋計測値 (2)

表 6. 編列計數法

时期	项目	第1季度			第2季度			第3季度			第4季度			全年			
		期初余额	本期增加	本期减少	期初余额	本期增加	本期减少	期初余额	本期增加	本期减少	期初余额	本期增加	本期减少	期初余额	本期增加	本期减少	
资产	流动资产																
	货币资金	C	77,012,43,93,100	0,00	0,00		8,116,0,01,00				438,83,00,00				9,936,0,01,00		
	银行存款	C	77,012,43,93,100	0,00	0,00		8,116,0,01,00				438,83,00,00				9,936,0,01,00		
	应收账款	C	1,237,0,00,00	0,00	0,00		1,237,0,00,00				1,237,0,00,00				1,237,0,00,00		
	预付账款	C	1,237,0,00,00	0,00	0,00		1,237,0,00,00				1,237,0,00,00				1,237,0,00,00		
	其他应收款	C	6,432,0,00,00	0,00	0,00		6,432,0,00,00				6,432,0,00,00				6,432,0,00,00		
	存货	C	10,396,0,00,00	0,00	0,00		10,396,0,00,00				10,396,0,00,00				10,396,0,00,00		
	待摊费用	C	1,517,0,00,00	0,00	0,00		1,517,0,00,00				1,517,0,00,00				1,517,0,00,00		
	预收账款	C	0,00	0,00	0,00		0,00				0,00				0,00		
	预付货款	C	0,00	0,00	0,00		0,00				0,00				0,00		
负债	流动负债																
	短期借款	L	4,945,0,00,00	0,00	0,00		4,945,0,00,00				4,945,0,00,00				4,945,0,00,00		
	应付账款	C	1,237,0,00,00	0,00	0,00		1,237,0,00,00				1,237,0,00,00				1,237,0,00,00		
	预收账款	C	0,00	0,00	0,00		0,00				0,00				0,00		
	应付工资	P	6,432,0,00,00	0,00	0,00		6,432,0,00,00				6,432,0,00,00				6,432,0,00,00		
	应付福利费	P	1,237,0,00,00	0,00	0,00		1,237,0,00,00				1,237,0,00,00				1,237,0,00,00		
	应付股利	P	1,237,0,00,00	0,00	0,00		1,237,0,00,00				1,237,0,00,00				1,237,0,00,00		
	应交税金	P	11,339,00,00,00	0,00	0,00		11,339,00,00,00				11,339,00,00,00				11,339,00,00,00		
	应付利润	P	10,396,0,00,00	0,00	0,00		10,396,0,00,00				10,396,0,00,00				10,396,0,00,00		
	预提费用	C	0,00	0,00	0,00		0,00				0,00				0,00		
所有者权益	实收资本	C	1,237,0,00,00	0,00	0,00		1,237,0,00,00				1,237,0,00,00				1,237,0,00,00		
	盈余公积	C	1,237,0,00,00	0,00	0,00		1,237,0,00,00				1,237,0,00,00				1,237,0,00,00		
	未分配利润	C	1,237,0,00,00	0,00	0,00		1,237,0,00,00				1,237,0,00,00				1,237,0,00,00		
	资本公积	C	0,00	0,00	0,00		0,00				0,00				0,00		
	盈余公积	C	0,00	0,00	0,00		0,00				0,00				0,00		
	未分配利润	C	0,00	0,00	0,00		0,00				0,00				0,00		
	长期股权投资	C	0,00	0,00	0,00		0,00				0,00				0,00		
	长期债权投资	C	0,00	0,00	0,00		0,00				0,00				0,00		
	长期待摊费用	C	0,00	0,00	0,00		0,00				0,00				0,00		
	长期借款	C	0,00	0,00	0,00		0,00				0,00				0,00		
负债和所有者权益	流动负债																
	短期借款	L	4,945,0,00,00	0,00	0,00		4,945,0,00,00				4,945,0,00,00				4,945,0,00,00		
	应付账款	C	1,237,0,00,00	0,00	0,00		1,237,0,00,00				1,237,0,00,00				1,237,0,00,00		
	预收账款	C	0,00	0,00	0,00		0,00				0,00				0,00		
	应付工资	P	6,432,0,00,00	0,00	0,00		6,432,0,00,00				6,432,0,00,00				6,432,0,00,00		
	应付福利费	P	1,237,0,00,00	0,00	0,00		1,237,0,00,00				1,237,0,00,00				1,237,0,00,00		
	应付股利	P	1,237,0,00,00	0,00	0,00		1,237,0,00,00				1,237,0,00,00				1,237,0,00,00		
	应交税金	P	11,339,00,00,00	0,00	0,00		11,339,00,00,00				11,339,00,00,00				11,339,00,00,00		
	应付利润	P	10,396,0,00,00	0,00	0,00		10,396,0,00,00				10,396,0,00,00				10,396,0,00,00		
	预提费用	C	0,00	0,00	0,00		0,00				0,00				0,00		

第11页

#### 4.まとめ

以上、7基の墓坑から出土した人骨の調査を行った。その結果、第1号墓坑出土人骨が熟年後半以降の女性、第2号墓坑が成年後半～壮年前半程度の女性、第3号墓坑が熟年後半以降の女性、第4号墓坑も熟年後半以降の女性、第5号墓坑が4～5歳程度の幼児後半、第6号墓坑が熟年以降の女性の可能性、第7号墓坑が熟年後半以降で女性の可能性があることが明らかにされた。特に第3号墓坑・第4号墓坑は老齢に達していた可能性もある。

すなわち、性別でみると、女性が4体、女性？が2体、不明1体となる。年齢別にみると、幼児後半1体、成年後半～壮年前半が1体、熟年以降が5体となる。また、第1号墓坑出土人骨は右側歯牙を多用するなど生活習慣があり、第7号墓坑出土人骨は疾病を患っていた可能性がある。

### IV. 黒曜石の分析

#### 1. 試料

分析に供された試料は、吉原向遺跡より出土した旧石器時代の遺物とされる黒曜石製石器4点（B区SK-81 X Q37, B区SI-44 [ベルト] X Q36, D区HD X Q32, D区HD X Q34）である。

#### 2. 分析方法

##### (1) エネルギー分散型蛍光X線分析装置(EDX)による測定

本分析の特徴は、試料の非破壊による測定が可能であり、かつ多元素を同時に分析できることが利点として挙げられる。一方、非破壊分析である以上、測定は試料表面のみが対象となることから、表面が汚れた試料や風化してしまっている試料については試料の洗浄あるいは測定面の選択が必要となる。本分析では試料が貴重な遺物であることから、汚れが少なく、風化が進んでいない面を選択して測定を行っている。ただし、表面の風化、汚れが目立つ場合は、メラミンスponジを用いて洗浄したあと分析を実施している。

本分析で使用した装置は、セイコーインスツルメンツ製エネルギー分散型蛍光X線分析装置(SEA2120L)であり、X線管球はロジウム(Rh)、検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、励起電圧50kV、管電流自動設定( $\mu$ A)、測定時間300秒、コリメータ(照射径)φ10.0mm、フィルターなし、測定室雰囲気は真空である。測定元素は、Al(アルミニウム)、Si(ケイ素)、K(カリウム)、Ca(カルシウム)、Ti(チタン)、Mn(マンガン)、Fe(鉄)、Rb(ルビジウム)、Sr(ストロンチウム)、Y(イットリウム)、Zr(ジルコニウム)の11元素であり、測定試料全てにおいてマイラー膜(PE25  $\mu$ m:ケンブレックス製Cat No 107)を介して元素X線強度(cps)を測定した。

##### (2) 産地推定方法

産地推定は、望月(2004)などによる方法に従い、測定結果(元素X線強度(cps))から、5つの判別指標値を求める。5つの判別指標値は、 $Rb\text{分率} | Rb \times 100 / (Rb + Sr + Y + Zr) |$ 、 $Sr\text{分率} | Sr \times 100 / (Rb + Sr + Y + Zr) |$ 、 $Zr\text{分率} | Zr \times 100 / (Rb + Sr + Y + Zr) |$ 、 $Mn \times 100 / Fe$ 、 $\log(Fe/K)$ である。

一方、産地推定に必要な原産地の資料に関しては、望月(2004)で用いられている原産地試料の分析データーを使い、原産地判定用資料を作成する。産地推定に用いた黒曜石原産地を図3に示す。

原産地試料の各分析データーを、 $Rb\text{分率}$ と  $Mn \times 100 / Fe$ 、 $Sr\text{分率} - \log(Fe/K)$ についてグラフ化する。グラフの座状ならびに二次元正規分布密度関数の結果から、原産地を元にした判別群を設定する。その名

称ならびに判別群と原産地との関係を表7に示す。

各判別群について、二次元正規分布密度関数から計算した、重心より  $2\sigma$  (約 95%) の範囲を示す枠内を上記のグラフに記入した図を図4.5に示す（原産地試料の各分析データーは図が煩雑になるため割愛）。

表7. 黒曜石原産地試料一覧

大分類	中分類	判別群	記号	該当する原産地
東北	深浦	深浦	深浦	岡崎浜、深浦公園、日和見、六角沢、八森山
東北	岩木山	出来島	出来島	出来島
東北	男鹿	男鹿1群	男鹿1	金ヶ崎、臨本
東北	男鹿	男鹿2群	男鹿2	臨本
東北	月山	月山1群	月山1	西川町志津、朝日町田代沢など
東北	月山	月山2群	月山2	鶴岡市今野川、鶴岡市大網川
東北	北上	北上1群	北上1	水沢折屋、花泉日形田ノ沢、寒石小赤沢
東北	北上	北上2群	北上2	水沢折屋、花泉日形田ノ沢、寒石小赤沢
東北	北上	北上3群	北上3	水沢折屋
東北	湯ノ倉	湯ノ倉	湯ノ倉	湯ノ倉
東北	秋保	秋保1群	秋保1	秋保土蔵
東北	秋保	秋保2群	秋保2	秋保土蔵
東北	色麻	色麻	色麻	色麻町根岸
東北	塙南	塙南港群	塙南	塙南市塙南漁港
東北	小泊	小泊	小泊	青森小泊村折隈内
関東	天城	柏崎1群、2群	柏崎1、柏崎2	天城柏崎
関東	箱根	烟宿	烟宿	箱根烟宿
関東	箱根	鍛冶屋	鍛冶屋	箱根鍛冶屋
関東	箱根	黒岩橋	黒岩橋	箱根黒岩橋
関東	箱根	上多賀	上多賀	箱根上多賀
関東	箱根	芦ノ湯	芦ノ湯	箱根芦ノ湯
関東	神津島	恩馳島	恩馳島	恩馳島、長浜
関東	神津島	砂糖崎	砂糖崎	砂糖崎、長浜
関東	高原山	高原1群	高原1	甘湯沢、桜沢
関東	高原山	高原2群	高原2	七尋沢
信州	露ヶ峰	男女倉1群	男女1	ぶどう沢、牧ヶ沢、高松沢、本沢下
信州	露ヶ峰	男女倉2群	男女2	ぶどう沢、牧ヶ沢
信州	露ヶ峰	男女倉3群	男女3	ぶどう沢、牧ヶ沢、高松沢、本沢下
信州	露ヶ峰	鹿糸山	鹿糸山	星糸峰、鹿糸山
信州	露ヶ峰	西霧ヶ峰系	星ヶ塔	星ヶ塔、星ヶ台
信州	露ヶ峰	和田岬1群	和田1	古峰、土屋橋北
信州	露ヶ峰	和田岬2群	和田2	丁子御領、美霧バーライト、鶯ヶ峰 小深沢、美霧バーライト、新和田トンネル、土屋橋北、土屋橋東、 18地点、24地点、26地点、丁子御領、鶯ヶ峰
信州	露ヶ峰	和田岬3群	和田3	小深沢、美霧バーライト、新和田トンネル、土屋橋北、土屋橋西、 土屋橋東、18地点、24地点、26地点、丁子御領、鶯ヶ峰
信州	露ヶ峰	和田岬4群	和田4	24地点、25地点、26地点、小深沢
信州	露ヶ峰	和田岬5群	和田5	小深沢、美霧バーライト、24地点、25地点、26地点、土屋橋西、 土屋橋東
信州	露ヶ峰	和田岬6群	和田6	東鉢屋、芙蓉バーライト、古峰、丁子御領、鶯ヶ峰、土屋橋北
信州	露ヶ峰	和田岬7群	和田7	25地点、26地点、土屋橋東
信州	露ヶ峰	和田岬8群	和田8	横岳系双子池
信州	北八ヶ岳	横岳系双子池	双子池	双子池
信州	北八ヶ岳	横岳系龟甲池	龟甲池	龟甲池、鑿鉢池
信州	北八ヶ岳	冷山・麦草系	麦草系	冷山、麦草峠、双子池、洪ノ湯、八ヶ岳7、八ヶ岳9、長門美しの森
信州	北八ヶ岳	中ツ原	中ツ原	中ツ原（遺跡試料）
東海・北陸	新潟	新発田	新発田	新発田板山
東海・北陸	新潟	新津	新津	新津金津
東海・北陸	新潟	佐渡1群、2群	佐渡1、佐渡2	真光寺、金井二ツ坂
東海・北陸	富山	魚津	魚津	草月上野
東海・北陸	富山	高岡	高岡	二上山
東海・北陸	岐阜	下呂市	下呂	湯ヶ峰
中国・四国	隱岐	久見	久見	久見
中国・四国	隱岐	岬地区	岬地区	隱岐岬
中国・四国	隠岐	箕浦系	箕浦系	箕浦、加茂赤土、岸浜

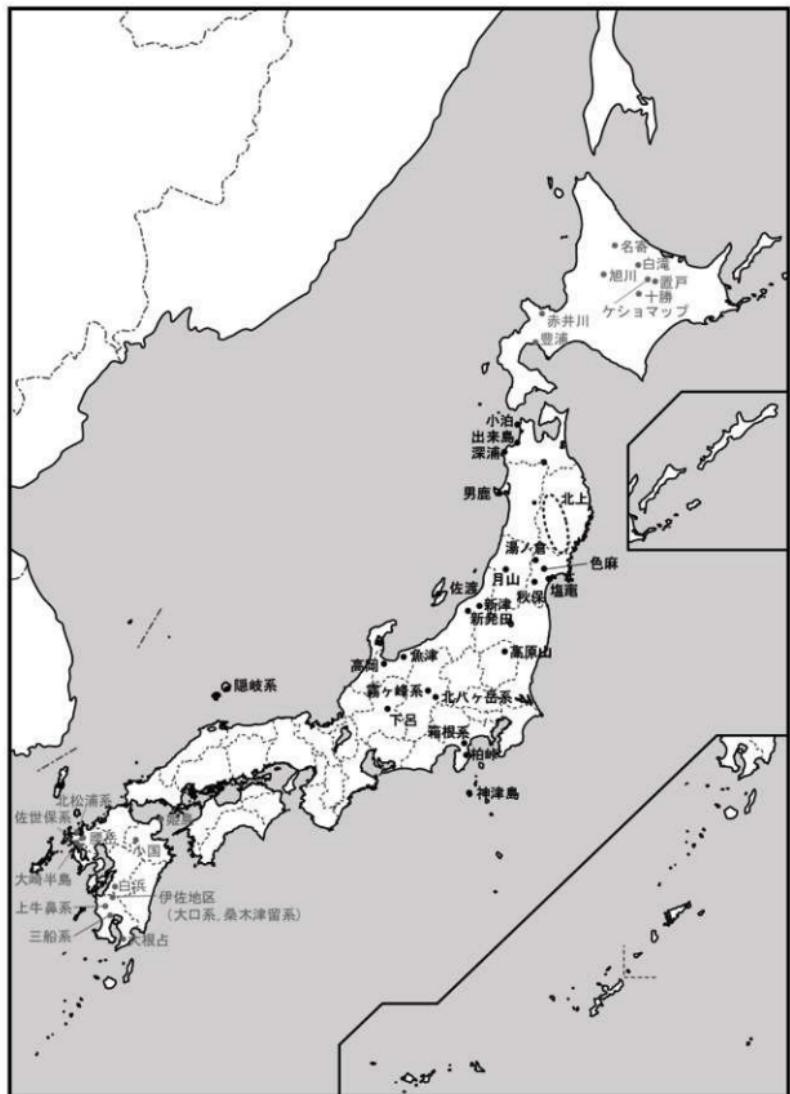


図3. 黒曜石产地一覧

(薄字は今回判定対象としていない産地を示す)

する)。これに、遺跡出土試料の分析結果を重ね合わせると、各判別群の範囲枠内に収まるかどうかが視覚的にわかるため、産地推定の指標の一つとなる。

一方、各判別群の5つの判別指標値について、基本統計量(平均値や分散、共分散など)を求め、各判別群の重心を求める。さらに、各判別群と遺跡出土試料とのマハラノビス平方距離を計算する。マハラノビス平方距離による判別は、先に述べた5つの判別指標値を使う方法(望月, 2004など)と、基本的にZr分率を除くグラフに使った4つの判別指標値を使うが、群間の判別が難しい場合にZr分率を加える方法(明治大学古文化財研究所, 2009など)がある。今回は、4成分、5成分双方の結果を掲載するが、判別には前述したグラフとの親和性などから、後者の方法を用いる。測定試料と各判別群全てについて、4成分、5成分のマハラノビス平方距離を求め、測定試料に近いものから3判別群を表9に示す。これらについてカイ二乗検定を行い、99.5%の範囲に入った場合を「True」、入らなかつた場合を「False」とする。

### 3. 結果および考察

各試料の元素X線強度(cps)および判別指標値を表8に示す。また、Rb分率とMn × 100/Fe, Sr分率 - Log(Fe/K)について、原産地試料の重心から $2\sigma$ (95%)の範囲を記したグラフに、各試料の結果を重ね合わせた図を、図4, 5に記す。表9には、測定試料に近いものから3原産地分のマハラノビス平方距離を示し、これらについてカイ二乗検定を行なった産地判定結果を示す。この結果、Q37が和田3-鷹山-和田7、Q36が神津島恩馳島、Q32が和田3にあたるが、和田1~8群は判別指標値によって分類されるもので、表7に示すようにかならずもしも産地とは一致しない。そこで、Q37が和田岬-鷹山系、Q36が神津島恩馳島、Q32が和田岬系にそれぞれ由来すると考えた方が自然である。Q34は、 $\chi^2$ 乗検定でいずれもFalseであるが、先にも述べたように、非破壊での蛍光X線分析では、表面部分のみで測定するため風化や付着物、表面の形状などの影響を受けやすく、値のばらつきが大きくなること、マハラノビス距離において第二候補以下と大きくかけ離れていることから、第一候補である神津島恩馳島とみて問題ないと思われる。

表8. スペクトル強度と判別指標値

測定 No.	試料名	強度(cps)												判別指標				
		Al	Si	K	Ca	Ti	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Rb分率	Sr分率	Zr分率	Mn×100/ Fe	log (Fe/K)	
1 B区 SK-81 X Q37	52.66	433.72	612.7	16.00	1.65	9.71	74.34	26.14	0.40	11.36	12.28	52.06	0.80	24.46	13.07	0.08		
	B区 Si-4 X Q36	46.63	393.18	39.13	18.25	3.48	7.05	82.15	6.15	8.57	8.12	13.47	17.92	24.99	39.27	8.58	0.32	
2 D区 HD X Q32	57.54	481.37	65.77	16.07	2.14	10.71	86.34	28.61	1.21	12.21	12.97	50.21	2.29	24.47	12.41	0.12		
	D区 HD X Q34	53.40	450.78	46.94	18.76	4.05	7.43	91.32	6.40	8.20	4.72	12.76	19.96	25.55	39.79	8.14	0.29	

表9. 黒曜石産地判定結果

試料名	4成分						5成分											
	第1候補		第2候補		第3候補		第1候補		第2候補		第3候補							
	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定	原産地	距離	判定						
B区 SK-81 X Q37	和田7	5.6	T	鷹山	8.0	T	和田3	11.4	T	和田7	5.6	T	鷹山	8.0	T	和田3	12.4	T
B区 Si-4 X Q36	恩馳島	14.0	T	砂錐崎	92.2	F	男女1	197.6	F	恩馳島	17.0	F	砂錐崎	93.7	F	男女1	222.4	F
D区 HD X Q32	和田3	5.2	T	和田7	15.6	F	鷹山	39.0	F	和田3	9.1	T	和田7	17.4	F	鷹山	40.7	F
D区 HD X Q34	恩馳島	24.9	F	砂錐崎	56.8	F	男女1	137.6	F	恩馳島	25.3	F	砂錐崎	63.9	F	男女1	159.4	F

距離: マハラノビス平方距離 判定:  $\chi^2$ 乗検定の結果 T (TRUE), F (FALSE)

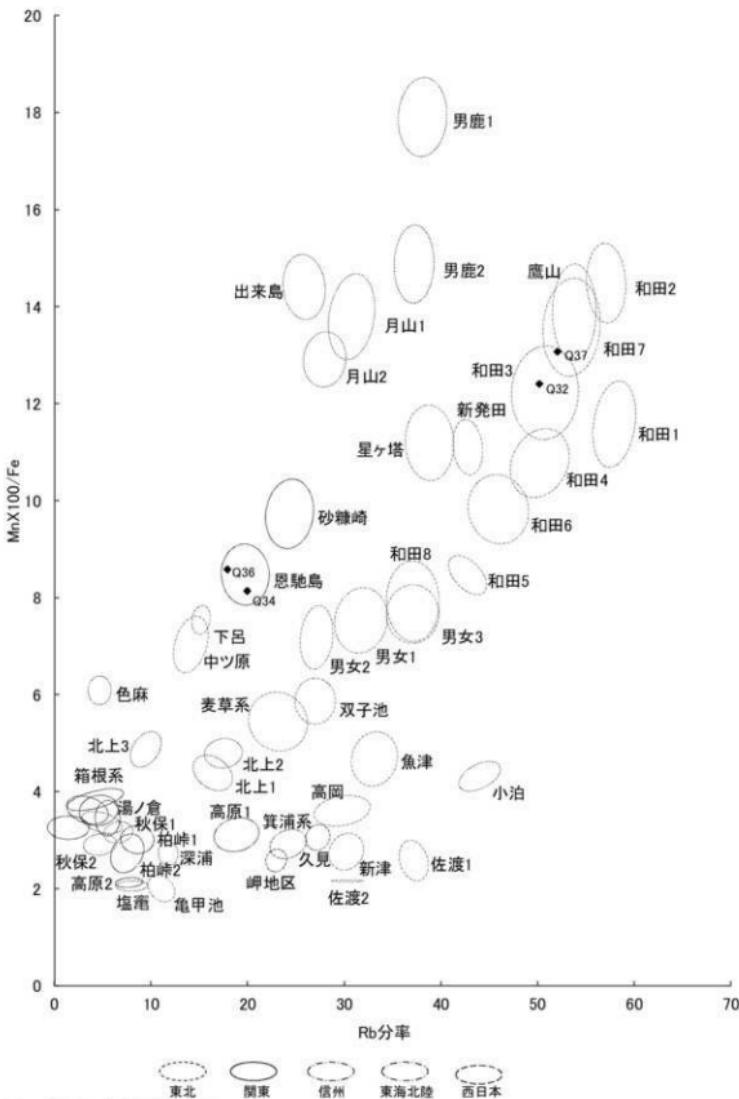


図4. 黒曜石产地推定結果(1)

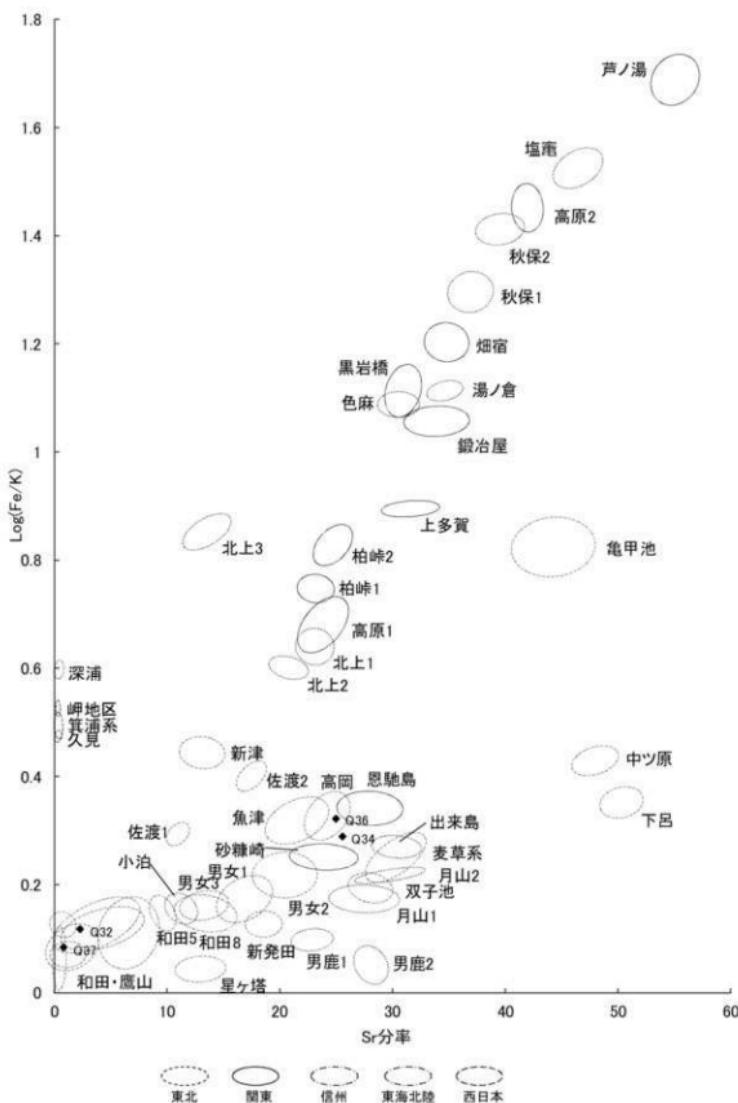
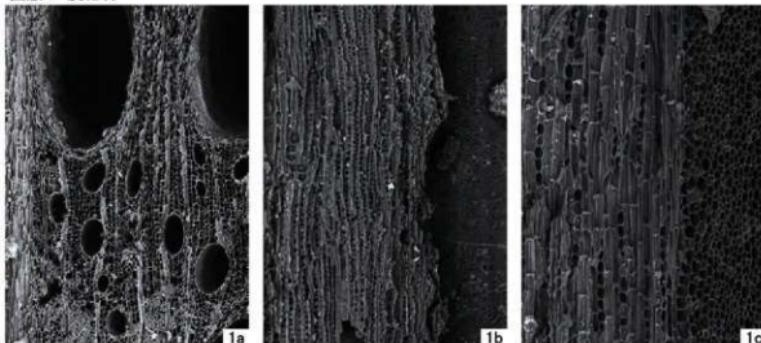


図5. 黒曜石产地推定結果(2)

#### 引用文献

- 馬場悠男,1991. 人骨計測法. 人類学講座別巻1 人体計測法 II 人骨計測法. 人類学講座編纂委員会編,雄山閣出版株式会社,359p.
- 藤田恒太郎,1949. 歯の計測基準について. 人類学雑誌,61:27-32.
- 林 昭三,1991. 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995. 日本産広葉樹材の解剖学的記載 I . 木材研究・資料,31. 京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996. 日本産広葉樹材の解剖学的記載II . 木材研究・資料,32. 京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997. 日本産広葉樹材の解剖学的記載III . 木材研究・資料,33. 京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998. 日本産広葉樹材の解剖学的記載IV . 木材研究・資料,34. 京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999. 日本産広葉樹材の解剖学的記載V . 木材研究・資料,35. 京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編),2012. 木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社,449p.
- 権田和良,1959. 歯の大きさの性差について. 人類学雑誌,67:151-163.
- 明治大学古文化財研究所,2009. 蛍光X線分析装置による黒曜石製造物の原産地推定 -基礎データ集 1-. 明治大学古文化財研究所,294p.
- 望月明彦,2004. 第5節 和野I遺跡出土黒曜石製石器の石材原産地分析. 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書452集 和野I遺跡発掘調査報告書,A76-480.
- 野村敏江,2008. 薬師入遺跡出土炭化材の樹種同定. 「薬師入遺跡2 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書III 下巻」. 茨城県教育財團文化財調査報告第296集,茨城県竜ヶ崎市木事務所・財團法人茨城県教育財團,327-328.
- 島地 謙・伊東 隆夫,1982. 図説木材組織. 地球社,176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998. 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修). 海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

図版1 炭化材

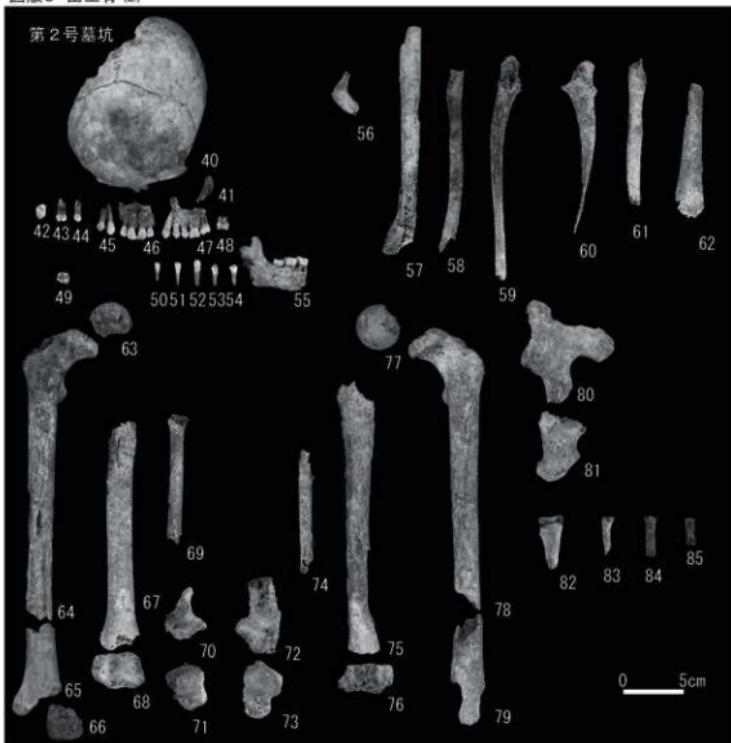


图版2 出土骨(1)



1. 人骨前颈 - 额面头盖骨 (B区 第1号墓坑)  
 2. 人骨左侧头骨 (B区 第1号墓坑)  
 3. 人骨下领骨 (B区 第1号墓坑)  
 4. 人骨第1颈椎 (B区 第1号墓坑)  
 5. 人骨右锁骨 (B区 第1号墓坑; 3)  
 6. 人骨胸骨体 (B区 第1号墓坑; 25)  
 7. 人骨左锁骨 (B区 第1号墓坑; 14)  
 8. 人骨左肩胛骨 (B区 第1号墓坑; 6)  
 9. 人骨右桡骨 (B区 第1号墓坑; 13)  
 10. 人骨右尺骨 (B区 第1号墓坑; 6)  
 11. 人骨尺骨 (B区 第1号墓坑; 7)  
 12. 人骨左尺骨 (B区 第1号墓坑; 19)  
 13. 人骨左挠骨 (B区 第1号墓坑; 21)  
 14. 人骨左上腕骨 (B区 第1号墓坑; 1)  
 15. 人骨右第4中手骨 (B区 第1号墓坑; 11)  
 16. 人骨右第3中手骨 (B区 第1号墓坑; 10)  
 17. 人骨右第2中手骨 (B区 第1号墓坑; 10)  
 18. 人骨右第1中手骨 (B区 第1号墓坑; 10)  
 19. 人骨左第1中手骨 (B区 第1号墓坑; 10)  
 20. 人骨左第2中手骨 (B区 第1号墓坑; 10)  
 21. 人骨左第3中手骨 (B区 第1号墓坑; 10)  
 22. 人骨左第4中手骨 (B区 第1号墓坑; 10)  
 23. 人骨左第5中手骨 (B区 第1号墓坑; 10)  
 24. 人骨指骨 (第1基节骨) (B区 第1号墓坑; 10)  
 25. 人骨指骨 (第1未端骨) (B区 第1号墓坑; 23)  
 26. 人骨指骨 (基节骨) (B区 第1号墓坑; 23)  
 27. 人骨指骨 (中节骨) (B区 第1号墓坑; 23)  
 28. 人骨指骨 (末节骨) (B区 第1号墓坑; 10)  
 29. 人骨右大腿骨 (B区 第1号墓坑; 8)  
 30. 人骨右大腿骨 (B区 第1号墓坑; 2)  
 31. 人骨右? 腿骨 (B区 第1号墓坑; 18)  
 32. 人骨右膝骨 (B区 第1号墓坑; 5)  
 33. 人骨左膝骨 (B区 第1号墓坑; 22)  
 34. 人骨左胫骨 (B区 第1号墓坑; 17)  
 35. 人骨左胫骨 (B区 第1号墓坑; 17)  
 36. 人骨左大腿骨 (B区 第1号墓坑; 22)  
 37. 人骨右踵骨 (B区 第1号墓坑; 12)  
 38. 人骨右距骨 (B区 第1号墓坑; 12)  
 39. 人骨左距骨 (B区 第1号墓坑; 12)

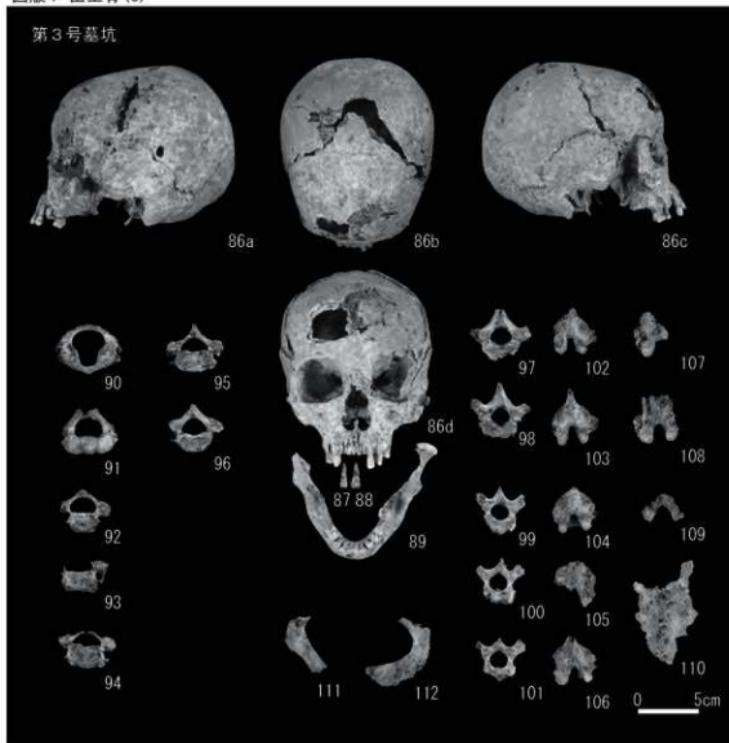
图版3 出土骨(2)



40. 乙卜前頸骨 - 左頭頂骨 (B区 第2号墓坑 : 13)  
 41. 乙左頰骨 (B区 第2号墓坑 : 7)  
 42. 乙卜右上頤第1大臼齒 (B区 第2号墓坑 : 5)  
 43. 乙卜右上頤第1大臼齒 (B区 第2号墓坑 : 3)  
 44. 乙卜右上頤第2小臼齒 (B区 第2号墓坑 : 9)  
 45. 乙左上頤骨 (B区 第2号墓坑 : 8)  
 46. 乙卜左右上頤骨 (B区 第2号墓坑 : 8)  
 47. 乙卜左上頤第3大臼齒 (B区 第2号墓坑 : 1)  
 48. 乙卜左下頤第1切齒 (B区 第2号墓坑 : 38)  
 49. 乙卜左下頤第1小臼齒 (B区 第2号墓坑 : 2)  
 50. 乙卜左下頤第1切齒 (B区 第2号墓坑 : 10)  
 51. 乙卜左下頤第1小臼齒 (B区 第2号墓坑 : 12)  
 52. 乙卜左下頤犬齒 (B区 第2号墓坑 : 6)  
 53. 乙卜左下頤第2小臼齒 (B区 第2号墓坑 : 11)  
 54. 乙卜左下頤第2小臼齒 (B区 第2号墓坑 : 11)  
 55. 乙卜右第1肋骨 (B区 第2号墓坑 : 7)  
 56. 乙卜右第1肋骨 (B区 第2号墓坑 : 7)  
 57. 乙卜右上腕骨 (B区 第2号墓坑 : 14)  
 58. 乙卜右桡骨 (B区 第2号墓坑 : 19)  
 59. 乙卜右尺骨 (B区 第2号墓坑 : 21)  
 60. 乙卜左尺骨 (B区 第2号墓坑 : 27)  
 61. 乙卜左桡骨 (B区 第2号墓坑 : 28)  
 62. 乙卜左上腕骨 (B区 第2号墓坑 : 17)  
 63. 乙卜右大腿骨 (B区 第2号墓坑 : 23)  
 64. 乙卜右大腿骨 (B区 第2号墓坑 : 23)  
 65. 乙卜右大腿骨 (B区 第2号墓坑 : 35)  
 66. 乙卜右大脛骨 (B区 第2号墓坑 : 23)  
 67. 乙卜右脣骨 (B区 第2号墓坑 : 29)  
 68. 乙卜右脣骨 (B区 第2号墓坑 : 30)  
 69. 乙卜右脣骨 (B区 第2号墓坑 : 32)  
 70. 乙卜右蹠骨 (B区 第2号墓坑 : 31)  
 71. 乙卜右距骨 (B区 第2号墓坑 : 31)  
 72. 乙卜左蹠骨 (B区 第2号墓坑 : 37)  
 73. 乙卜左距骨 (B区 第2号墓坑 : 30)  
 74. 乙卜左腓骨 (B区 第2号墓坑 : 34)  
 75. 乙卜左脣骨 (B区 第2号墓坑 : 26)  
 76. 乙卜左脣骨 (B区 第2号墓坑 : 37)  
 77. 乙卜左大腿骨 (B区 第2号墓坑 : 35)  
 78. 乙卜左大脛骨 (B区 第2号墓坑 : 35)  
 79. 乙卜左大脛骨 (B区 第2号墓坑 : 25)  
 80. 乙卜左寬骨 (B区 第2号墓坑 : 20)  
 81. 乙卜左寬骨 (B区 第2号墓坑 : 36)  
 82. 乙卜左第1中足骨 (B区 第2号墓坑 : 15)  
 83. 乙卜中手骨 / 中足骨 (B区 第2号墓坑 : 22)  
 84. 乙卜指趾骨 (基節骨) (B区 第2号墓坑 : 18)  
 85. 乙卜指趾骨 (中節骨) (B区 第2号墓坑 : 22)

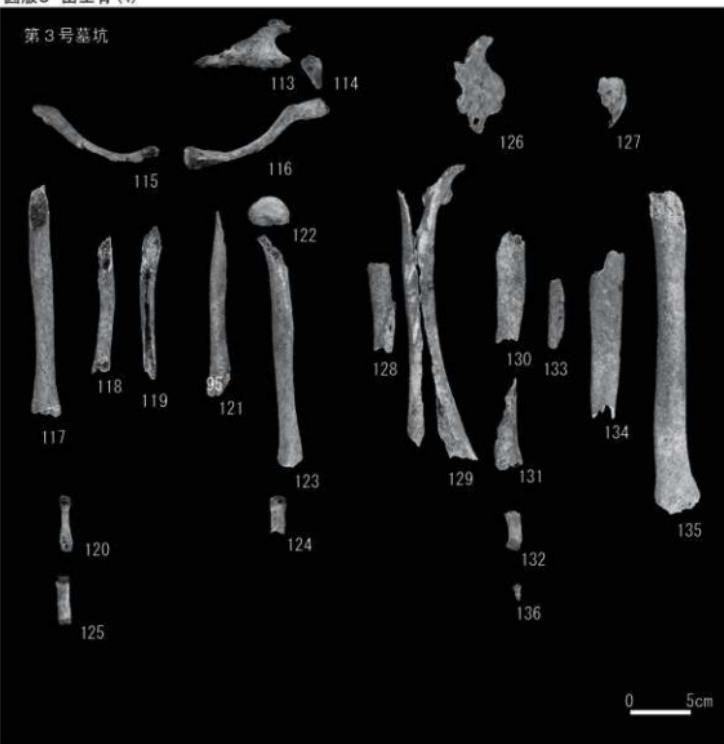
图版4 出土骨(3)

第3号墓坑



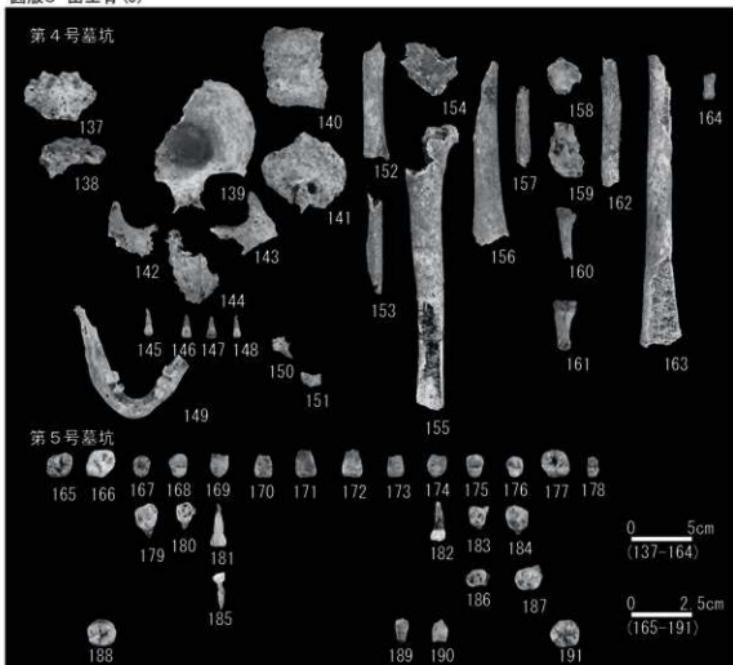
- |                              |                               |
|------------------------------|-------------------------------|
| 86. 人卜腦頭蓋骨 (B区 第3号墓坑 : 1)    | 87. 人卜右上頤第2切齒 (B区 第3号墓坑 : 66) |
| 88. 人卜右上頤第1切齒 (B区 第3号墓坑 : 2) | 89. 人卜左右下頷骨 (B区 第3号墓坑 : 1)    |
| 90. 人卜第1頸椎 (B区 第3号墓坑 : 17)   | 91. 人卜第2頸椎 (B区 第3号墓坑 : 18)    |
| 92. 人卜第3頸椎 (B区 第3号墓坑 : 19)   | 93. 人卜第4頸椎 (B区 第3号墓坑 : 20)    |
| 94. 人卜第5頸椎 (B区 第3号墓坑 : 21)   | 95. 人卜第6頸椎 (B区 第3号墓坑 : 22)    |
| 96. 人卜第7頸椎 (B区 第3号墓坑 : 23)   | 97. 人卜第1胸椎 (B区 第3号墓坑 : 24)    |
| 98. 人卜第2胸椎 (B区 第3号墓坑 : 25)   | 99. 人卜第3胸椎 (B区 第3号墓坑 : 26)    |
| 100. 人卜第4胸椎 (B区 第3号墓坑 : 27)  | 101. 人卜第5胸椎 (B区 第3号墓坑 : 28)   |
| 102. 人卜第6胸椎 (B区 第3号墓坑 : 29)  | 103. 人卜第7胸椎 (B区 第3号墓坑 : 30)   |
| 104. 人卜第8胸椎 (B区 第3号墓坑 : 31)  | 105. 人卜第9胸椎 (B区 第3号墓坑 : 32)   |
| 106. 人卜第10胸椎 (B区 第3号墓坑 : 33) | 107. 人卜第11胸椎 (B区 第3号墓坑 : 34)  |
| 108. 人卜第12胸椎 (B区 第3号墓坑 : 35) | 109. 人卜腰椎 (B区 第3号墓坑 : 57)     |
| 110. 人卜仙骨 (B区 第3号墓坑 : 67)    |                               |
| 112. 人卜左第1肋骨 (B区 第3号墓坑 : 46) | 111. 人卜右第1肋骨 (B区 第3号墓坑 : 43)  |

图版5 出土骨(4)



- 第3号墓坑
- |                              |                               |
|------------------------------|-------------------------------|
| 113. 匕卜左肩胛骨(B区 第3号墓坑: 44)    | 114. 匕卜左肩甲骨(B区 第3号墓坑: 9)      |
| 115. 匕卜右锁骨(B区 第3号墓坑: 3)      | 116. 匕卜左锁骨(B区 第3号墓坑: 8)       |
| 117. 匕卜右上腕骨(B区 第3号墓坑: 4)     | 118. 匕卜右桡骨(B区 第3号墓坑: 6)       |
| 119. 匕卜右尺骨(B区 第3号墓坑: 5)      | 120. 匕卜右第5中手骨(B区 第3号墓坑: 14)   |
| 121. 匕卜左桡骨(B区 第3号墓坑: 10)     | 122. 匕卜左上腕骨(B区 第3号墓坑: 9)      |
| 123. 匕卜左上腕骨(B区 第3号墓坑: 9)     | 124. 匕卜左第1中手骨(B区 第3号墓坑: 13)   |
| 125. 匕卜指骨(基节骨)(B区 第3号墓坑: 14) | 126. 匕卜宽骨(B区 第3号墓坑: 67)       |
| 127. 匕卜左宽骨(B区 第3号墓坑: 64)     | 128. 匕卜右大腿骨(B区 第3号墓坑: 61)     |
| 129. 匕卜右大腿骨(B区 第3号墓坑: 58)    | 130. 匕卜右胫骨(B区 第3号墓坑: 60)      |
| 131. 匕卜右胫骨(B区 第3号墓坑: 15)     | 132. 匕卜右第1中足骨?(B区 第3号墓坑: 12)  |
| 133. 匕卜左腓骨(B区 第3号墓坑: 62)     | 134. 匕卜左胫骨(B区 第3号墓坑: 63)      |
| 135. 匕卜左大腿骨(B区 第3号墓坑: 59)    | 136. 匕卜指趾骨(未节骨)(B区 第3号墓坑: 64) |

图版6 出土骨(5)



137. 乙卜后领骨(B区 第4号墓坑: 4)  
 138. 乙卜右侧领骨(B区 第4号墓坑: 4)  
 139. 乙卜前领骨(B区 第4号墓坑: 4)  
 140. 乙卜左领骨(B区 第4号墓坑: 4)  
 141. 乙卜左侧领骨(B区 第4号墓坑: 4)  
 142. 乙卜右侧领骨(B区 第4号墓坑: 4)  
 143. 乙卜左颈骨(B区 第4号墓坑: 4)  
 144. 乙卜左右上领骨(B区 第4号墓坑: 16)  
 145. 乙卜右上领犬齿(B区 第4号墓坑: 16)  
 146. 乙卜左上领第1切齒(B区 第4号墓坑: 16)  
 147. 乙卜左上领第2切齒(B区 第4号墓坑: 16)  
 148. 乙卜左下领第1切齒(B区 第4号墓坑: 16)  
 149. 乙卜右下领第1切齒(B区 第4号墓坑: 16)  
 150. 乙卜第1颈椎(B区 第4号墓坑: 16)  
 151. 乙卜右上领第1颈椎(B区 第4号墓坑: 16)  
 152. 乙卜右上腕骨(B区 第4号墓坑: 1)  
 153. 乙卜右尺骨(B区 第4号墓坑: 8)  
 154. 乙卜右腕骨(B区 第4号墓坑: 10)  
 155. 乙卜右大腿骨(B区 第4号墓坑: 9)  
 156. 乙卜右胫骨(B区 第4号墓坑: 13)  
 157. 乙卜右腓骨(B区 第4号墓坑: 12)  
 158. 乙卜右距骨+跟骨(B区 第4号墓坑: 13)  
 159. 乙卜右足骨(基節骨)(B区 第4号墓坑: 12)  
 160. 乙卜右第2中足骨(B区 第4号墓坑: 14)  
 161. 乙卜右第1趾骨(基節骨)(B区 第4号墓坑: 12)  
 162. 乙卜左腰骨(B区 第4号墓坑: 5)  
 163. 乙卜左大腿骨(B区 第4号墓坑: 5)  
 164. 乙卜指趾骨(基節骨/中節骨)(B区 第4号墓坑: 11)  
 165. 乙卜右上领第2大臼齒(B区 第5号墓坑: 21)  
 166. 乙卜右上领第1大臼齒(B区 第5号墓坑: 3)  
 167. 乙卜右上领第2小白齒(B区 第5号墓坑: 6)  
 168. 乙卜右上领第1小白齒(B区 第5号墓坑: 29)  
 169. 乙卜右上领犬齒(B区 第5号墓坑: 28)  
 170. 乙卜右上领第2切齒(B区 第5号墓坑: 13)  
 171. 乙卜右上领第1切齒(B区 第5号墓坑: 22)  
 172. 乙卜左上领第1切齒(B区 第5号墓坑: 27)  
 173. 乙卜左上领第2切齒(B区 第5号墓坑: 20)  
 174. 乙卜左上领犬齒(B区 第5号墓坑: 11)  
 175. 乙卜左上领第1小白齒(B区 第5号墓坑: 4)  
 176. 乙卜左上领第2小白齒(B区 第5号墓坑: 23)  
 177. 乙卜左上领第1大臼齒(B区 第5号墓坑: 19)  
 178. 乙卜左上领第2大臼齒(B区 第5号墓坑: 9)  
 179. 乙卜右上领第2乳臼齒(B区 第5号墓坑: 1)  
 180. 乙卜右上领第1乳臼齒(B区 第5号墓坑: 5)  
 181. 乙卜右上领乳犬齒(B区 第5号墓坑: 26)  
 182. 乙卜左上领犬齒(B区 第5号墓坑: 14)  
 183. 乙卜左上领第1乳臼齒(B区 第5号墓坑: 25)  
 184. 乙卜左上领第2乳臼齒(B区 第5号墓坑: 17)  
 185. 乙卜右下领乳犬齒(B区 第5号墓坑: 24)  
 186. 乙卜左下领第1乳臼齒(B区 第5号墓坑: 18)  
 187. 乙卜左下领第2乳臼齒(B区 第5号墓坑: 12)  
 188. 乙卜右下领第1大臼齒(B区 第5号墓坑: 2)  
 189. 乙卜左下领第2切齒(B区 第5号墓坑: 10)  
 190. 乙卜左下领犬齒(B区 第5号墓坑: 15)  
 191. 乙卜左下领第1大臼齒(B区 第5号墓坑: 16)

图版7 出土骨(6)



192. 人右上颌骨(B区 第6号墓坑: 1)      193. 人右下颌骨(B区 第6号墓坑: 4)  
 194. 人左下颌第2小臼齿(B区 第6号墓坑: 2)      195. 人左下颌第1大臼齿(B区 第6号墓坑: 3)  
 196. 人右大腿骨(B区 第6号墓坑: 6)      197. 人右大腿骨?(B区 第6号墓坑: 5)  
 198. 人右大腿骨?(B区 第6号墓坑: 7)      199. 人后头骨(B区 第7号墓坑: 5)  
 200. 人右侧头骨(B区 第7号墓坑: 5)      201. 人前头骨 - 左右顶骨(B区 第7号墓坑: 5)  
 202. 人右脑膜骨(B区 第7号墓坑: 5)      203. 人左侧头骨(B区 第7号墓坑: 5)  
 204. 人右砧骨(B区 第7号墓坑: 25)      205. 人左砧骨(B区 第7号墓坑: 5)  
 206. 人右锁骨(B区 第7号墓坑: 5)      207. 人左锁骨(B区 第7号墓坑: 5)  
 208. 人左上领骨(B区 第7号墓坑: 10)      209. 人右上领第2小臼齿(B区 第7号墓坑: 8)  
 210. 人右上领第1小臼齿(B区 第7号墓坑: 8)      211. 人右上领犬齿(B区 第7号墓坑: 8)  
 212. 人右上领第2切齒(B区 第7号墓坑: 8)      213. 人右上领第1切齒(B区 第7号墓坑: 8)  
 214. 人左上领第1切齒(B区 第7号墓坑: 8)      215. 人左上领第2大臼齿(B区 第7号墓坑: 8)  
 216. 人右下领第2大臼齿(B区 第7号墓坑: 7)      217. 人右下领第1小臼齿(B区 第7号墓坑: 8)  
 218. 人右下领犬齿(B区 第7号墓坑: 8)      219. 人右下领第2切齒(B区 第7号墓坑: 8)  
 220. 人右下领第1切齒(B区 第7号墓坑: 8)      221. 人左下领第2切齒(B区 第7号墓坑: 8)  
 222. 人左下领犬齿(B区 第7号墓坑: 8)      223. 人左下领第1小臼齿(B区 第7号墓坑: 8)  
 224. 人右下领骨(B区 第7号墓坑: 11)      225. 人左下领骨(B区 第7号墓坑: 9)  
 226. 人右上腕骨(B区 第7号墓坑: 17)      227. 人右桡骨(B区 第7号墓坑: 14)  
 228. 人右尺骨(B区 第7号墓坑: 18)      229. 人左尺骨(B区 第7号墓坑: 1)  
 230. 人左桡骨(B区 第7号墓坑: 13)      231. 人左桡骨(B区 第7号墓坑: 12)  
 232. 人左第1中手骨(B区 第7号墓坑: 20)      233. 人左第2中手骨(B区 第7号墓坑: 21)  
 234. 人右大腿骨(B区 第7号墓坑: 6)      235. 人右胫骨(B区 第7号墓坑: 22)  
 236. 人右踵骨(B区 第7号墓坑: 15)      237. 人右距骨(B区 第7号墓坑: 15)  
 238. 人左胫骨(B区 第7号墓坑: 3)      239. 人左距骨(B区 第7号墓坑: 24)  
 240. 人左宽骨(B区 第7号墓坑: 19)      241. 人左大腿骨(B区 第7号墓坑: 19)  
 242. 人左大腿骨(B区 第7号墓坑: 23)

# 写 真 図 版

吉 向 遺 跡  
牛 頭 座 遺 跡  
赤 太 郎 遺 跡

PL1



遺跡遠景（東から）



B区全景

PL2



C区全景



D区全景

PL3



第16号竪穴建物跡

第13号竪穴建物跡



第4号竪穴建物跡

遺物出土状況①



第4号竪穴建物跡

遺物出土状況②

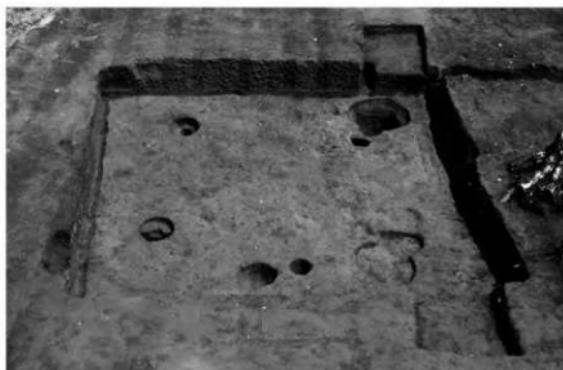
PL4



第8号竪穴建物跡



第9号竪穴建物跡  
遺物出土状況



第9号竪穴建物跡

PL5

第10号竪穴建物跡  
遺物出土状況①



第10号竪穴建物跡  
遺物出土状況②



第10号竪穴建物跡



PL6



第11号竪穴建物跡



第12号竪穴建物跡  
遺物出土状況①



第12号竪穴建物跡  
遺物出土状況②

PL7



第12号竪穴建物跡



第13号竪穴建物跡  
遺物出土状況①



第13号竪穴建物跡  
遺物出土状況②

PL8



第13号竪穴建物跡



第14号竪穴建物跡  
遺物出土状況①



第14号竪穴建物跡  
遺物出土状況②

PL9



第14号竪穴建物跡



第15号竪穴建物跡  
遺物出土状況①



第15号竪穴建物跡  
遺物出土状況②

PL10



第15号竪穴建物跡

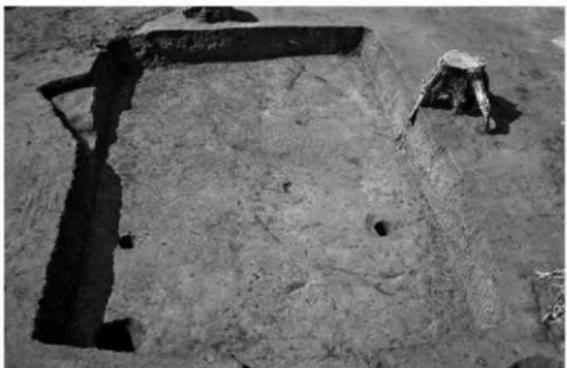


第18号竪穴建物跡



第19号竪穴建物跡  
遺物出土状況

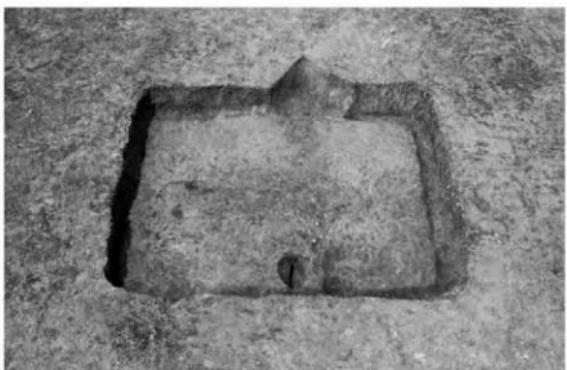
PL11



第19号竪穴建物跡



第20号竪穴建物跡  
遺物出土状況



第5号竪穴建物跡

PL12



第6号竪穴建物跡



第1号掘立柱建物跡  
確 認 状 況



第1号掘立柱建物跡

PL13

第 1 号 墓 坑  
遺 物 出 土 状 況 ①



第 1 号 墓 坑  
遺 物 出 土 状 況 ②



第 2 号 墓 坑  
遺 物 出 土 状 況



PL14



第 3 号 墓 坑  
遺 物 出 土 狀 況 ①



第 3 号 墓 坑  
遺 物 出 土 狀 況 ②



第 81 号 土 坑

PL15



第2・8・9・15・17・18・20号竪穴建物跡出土土器



SI 19-177



SI 20-188



SI 15-149



SI 19-178



SI 12-112



SI 12-113



SI 3-34



SI 14-134

PL17



SI 20-189



SI 20-192



SI 10-88



SI 20-196



SI 10-87



SI 20-193



SI 20-190



SI 20-191

第10・20号竪穴建物跡出土土器

PL18



第10·13号竖穴建物跡出土土器

PL19



第4・14号竪穴建物跡出土土器

PL20



第3·4·10·15号竖穴建物跡，第118号土坑出土土器

PL21



第9・10・12・14・15・19号竪穴建物跡出土遺物



## 第2・3・4・9・11・12・14・15・20号竪穴建物跡出土遺物

PL23



第6・7号竪穴建物跡、第2号井戸跡、第27・98号土坑出土土器



第4号墓坑-M30



第2号墓坑-M20



第7号墓坑-M43



第1号墓坑-M13

SK14-M49



第1号墓坑-M14



第1号墓坑-M15



第1号墓坑-M16



第1号墓坑-M17



第1号墓坑-M18



第1号墓坑-M19



第3号墓坑-M23



第3号墓坑-M24



第3号墓坑-M25



第3号墓坑-M26



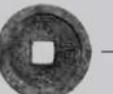
第3号墓坑-M27



第3号墓坑-M28



第4号墓坑-M31



第4号墓坑-M32



第4号墓坑-M33



第4号墓坑-M34



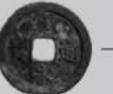
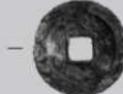
第4号墓坑-M35



第4号墓坑-M36



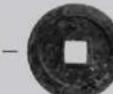
第7号墓坑-M44



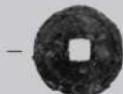
第7号墓坑-M45



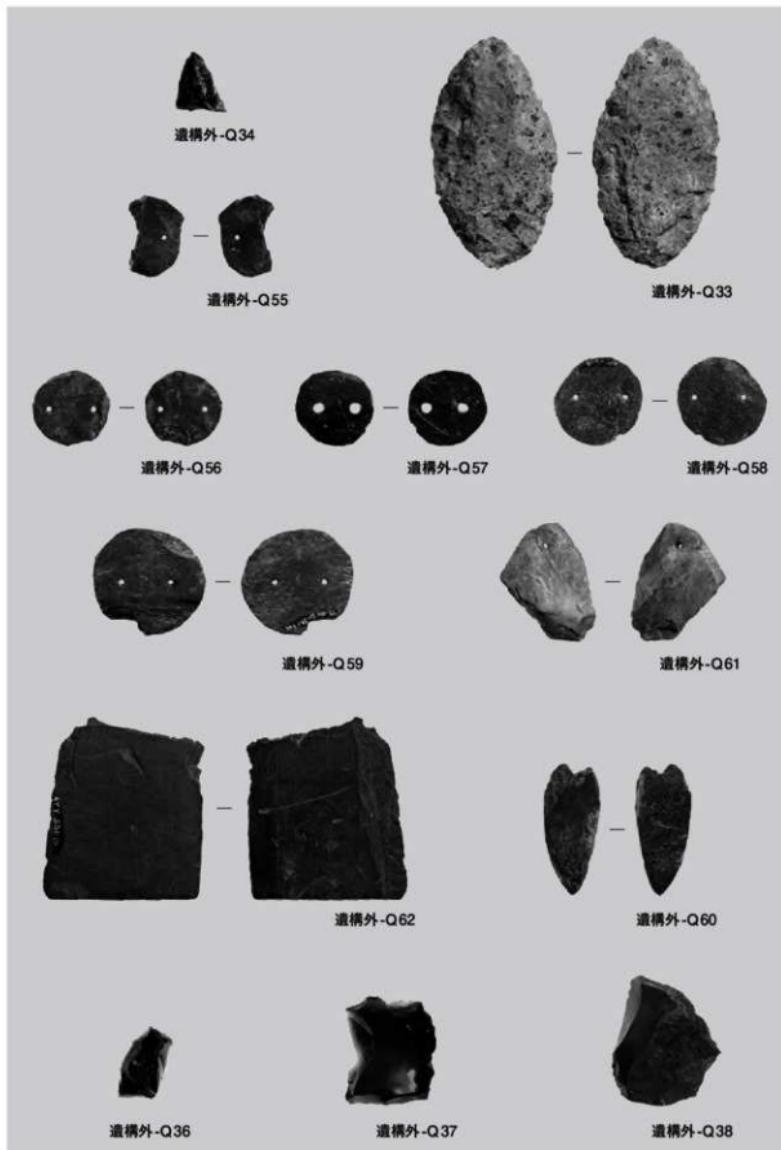
第7号墓坑-M46



第7号墓坑-M47



第7号墓坑-M48



遺構外出土遺物

PL27



遺構外出土遺物



第1号竪穴建物跡

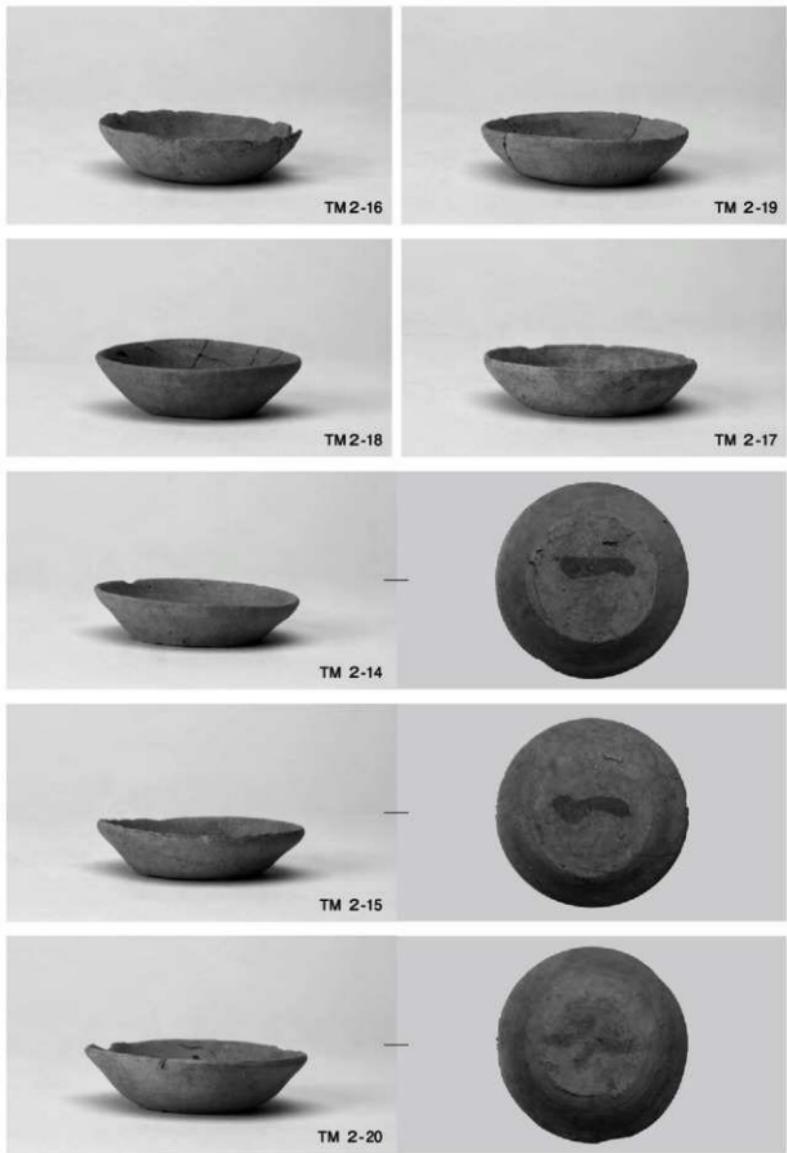


第2号竪穴建物跡



第5号塚  
遺物出土状況

PL29



第2号塚出土土器

PL30



遺跡全景  
(北西から)



第19号竪穴建物跡



第21号竪穴建物跡

PL31



第22号竪穴建物跡



第23号竪穴建物跡

遺物出土状況①



第23号竪穴建物跡

遺物出土状況②

PL32



第23号竪穴建物跡  
貯藏穴遺物出土状況



第23号竪穴建物跡



第24号竪穴建物跡  
遺物出土状況

PL33

第24号竪穴建物跡



第25号竪穴建物跡



第26号竪穴建物跡  
遺物出土状況



PL34



第26号竖穴建物跡

P 6 遺物出土状況



第26号竖穴建物跡

貯藏穴遺物出土状況



第26号竖穴建物跡

PL35



第19・20・21・22・23・26号竪穴建物跡出土土器



第21·22·23·26号竖穴建物跡出土土器

PL37



第19・20・22・26号竪穴建物跡出土土器



第19·20·23·24·26号竖穴建物跡出土遺物

## 抄 錄

ふりがな	よしわらむかいいせき	ごとうざいせき	あかたろういせき2					
書名	吉原向遺跡 牛頭座遺跡 赤太郎遺跡2							
副書名	阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書IV							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第433集							
著者名	皆川貴之 盛野浩一							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2	TEL 029-225-6587						
発行日	2018(平成30)年3月16日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
吉原向遺跡	茨城県稲敷郡阿見町大字吉原字牛頭座2850番地ほか	08443 - 085	35度 58分 57秒	140度 13分 50秒	18 ~ 26m	20110901 20110930 20131101 ~ 20140131 20150501 ~ 20151031	476 m <sup>2</sup>  119 m <sup>2</sup>  8,062 m <sup>2</sup>	阿見吉原土地区画整理事業に伴う事前調査
牛頭座遺跡	茨城県稲敷郡阿見町大字吉原字牛頭座3532番地ほか	08443 - 086	35度 58分 41秒	140度 13分 46秒	18 ~ 26m	20131101 ~ 20140131	1,525 m <sup>2</sup>	
赤太郎遺跡	茨城県稲敷郡阿見町大字吉原字山中1279番地ほか	08443 - 115	35度 59分 32秒	140度 13分 54秒	24 ~ 26m	20160101 ~ 20160331	3,565 m <sup>2</sup>	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
吉原向遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡 陥し穴 遺物包含層	1棟 1基 1か所	縄文土器(深鉢・壺), 石器(磨石, 敲石), 刺片	古墳時代中期の第10号竪穴建物跡から、県内に類例のない「鉄斧形土製品」が出土した。		
		古墳	竪穴建物跡 土坑	16棟 1基	土師器(坏・挽・堆・高坏・鉢・壺・甕・瓶・手捏土器・ミニチュア土器)、須恵器(蓋)、土製品(球状土錘・管玉・鉄斧形土製品・不明土製品)、石器・石製品(砥石・劍形・勾玉・有孔円板)、鉄製品(刀子・鎌・釘・不明鉄製品)			
		平安	竪穴建物跡 炉跡	3棟 1基	土師器(坏・高台付坏・甕)、須恵器(坏・甕)、土製品(支脚)			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉原向遺跡	塚 墓 城	江 戸	掘立柱建物跡 塚 井戸跡 墓 坑 土 坑 溝 跡	1棟 1基 2基 7基 31基 2条	土師質土器（小皿・焰烙・火鉢・甕）。陶器（碗・小碗・猪口・蓋・灯明受皿・稜皿・香炉・鍋・鉢・擂鉢・瓶）、磁器（瓶）、土製品（泥面子・龜材）、石製品（板碑・石仏・石塔）、鐵製品（小刀・釘・火打金）、銅製品（錢貨・煙管・輪宝・小鉗）、木製品（櫛・數珠玉・板材）
			その他	時期不明	炭焼窯跡 土 垚 土 坑 溝 跡 ピット群
牛頭座遺跡	集落跡	古 墳	堅穴建物跡	2棟	土師器（坏・椀・壇・高坏・甕）、土製品（球状土錘・管状土錘）
	塚	江 戸	塚	5基	土師質土器（小皿）、石製品（石塔）、銅製品（輪宝）
	その他	時期不明	土 坑	6基	繩文土器（深鉢）、須恵器（坏・甕）、土製品（耳飾）、石製品（刺形）
赤太郎遺跡	集落跡	古 墳	堅穴建物跡 土 坑	9棟 1基	土師器（坏・椀・壇・高坏・甕・ミニチュア土器）、須恵器（高坏）、土製品（球状土錘）、石器・石製品（砥石・研錐車・刺形・勾玉・斧形・未成品・滑石片）、鐵製品（刀子・鎌カ）、木製品（不明木製品）、自然遺物（炭化種子）
	墓 城	江 戸	墓 坑	1基	銅製品（錢貨）、木製品（板材）
	その他	時期不明	井戸跡 土 坑 溝 跡	4基 54基 3条	石器（砥石）
要 約	吉原向遺跡は、縄文時代から江戸時代にかけての複合遺跡である。主体となるのは、古墳時代中期の集落跡で、多数の土器や土製・石製の模造品が出土している。鉄斧形土製品は、5世紀前葉の堅穴建物跡から出土し、一般的な土製模造品祭祀の盛行時期より早い段階である点が注目される。				
	牛頭座遺跡は、古墳時代中期の堅穴建物跡2棟と、江戸時代の塚5基が確認できた。塚は古墳群と考えられていたが、調査によって江戸時代の塚であることが判明した。				
	赤太郎遺跡は、古墳時代中期の集落跡が主体となる遺跡である。5世紀前葉に出現し、中葉に急増することが明らかになった。漆を貯蔵した土師器が出土し、古墳時代の漆を検討するうえで貴重な資料である。				

## 印 刷 仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 7  
Profession ServicePack1  
編集 Adobe InDesign CS4  
図版作成 Adobe Illustrator CS4  
写真調整 Adobe Photoshop CS4  
Scanning 6 × 7 film EPSON GT-X980  
国面額 RICOH image MP W4001  
使用Font OpenType リュウミンPro・L, 太ゴB10IPro  
写 真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上  
印 刷 印刷所へは、Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第433集

### 吉 原 向 遺 跡 牛 頭 座 遺 跡 赤 太 郎 遺 跡 2

阿見吉原地区画整理事業地内  
埋 藏 文 化 財 調 査 報 告 書 IV

平成30（2018）年 3月15日 印刷

平成30（2018）年 3月16日 発行

発行 公益財團法人茨城県教育財團

〒310-0911 水戸市見和1丁H356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587  
H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社高野高速印刷

〒310-0853 水戸市平須町1822-122  
TEL 029-305-5588